

師に就きて教學其他の學を修む同四十五年四月誠照寺  
派管長となる家族は尙三男輝廣(大、一、生)五男輝隆  
(同、一、四、九、生)弟源通(明三、一、九、生)誠照寺遠枝、甥  
昭實(大、三、五、生)弟源通長男あり姉隆子(明一、〇、六、  
生)は京都府土族田中俊清に嫁し弟喜久磨(同、一、九、三、  
生)は大坂府人亡堀井榮一郎に同籍(同、二、一、生)は  
奈良縣人西尾小五郎に各養子となれり(福井縣今立郡  
鯖江町誠照寺電一三六)

參照 伯爵大谷光勳、西尾小五郎、堀井喜久磨、公  
爵九條道秀、伯爵正親町公和、小田久太郎、  
大谷勝眞、大谷登亮、森平藏、和田久左衛門  
の項

二條 弼基

當家は藤原鎌足七世法性寺關白忠通四世の孫從一位  
關白道家の次男福光院關白良實の裔なり良實京都二條  
押小路に邸居し姓を二條と稱す夫より二十四世を経て  
基弘に至り明治十七年公爵を授けり先代厚基其後を  
承く君は男爵二條豊基の弟にして男爵四條隆英、光院  
利敬の男なり明治四十四年六月を以て生れ先代從厚  
基の後を承け家督を相續し昭和五年男爵位を仰付家族は  
先代厚基妻泰子(明三、二、二、生)男爵島津忠九、鹿  
兒島第二女女出(姉)養康(同、三、一、一、生)從兄隆元(同  
四、一、九、生)同建基(同、四、一、一、生)從弟基基(同、四  
四、六、八、生)同敏基(大、二、六、生)同正基(同、四、一、〇、生)同  
成基(同、八、三、生)同倫基(同、九、一、二、生)あり從弟敬子  
(明三、三、八、生)は男爵島直明長男直高に同籍(同  
三、九、三、生)は三重縣人小津茂右衛門二男茂郎に同承  
子(同、四、〇、五、生)は福井縣人平光同長男光壽に嫁し從  
兄邦基(同、一、九、一、生)應義義大學理財科出身(同、  
和子(同、三、二、一、生)石川、士、横山章長女)は共に分  
家せりA一三六(東京市目黒區上目黒五ノ二四二三電  
高輪一九〇三)

參照 男爵四條隆英、男爵島津忠九、男爵二條豊基、  
男爵島直明小津茂右衛門、慶光院利敬、三  
井高修、横山芳松の項

二條 豐基

從五位、男爵  
二條公爵家分家

二宮 孝順

新瀧縣多額納稅者、農業  
新瀧縣土族  
妻 ハナ 明一九、九、生、新瀧、岡井伴之丞  
長女  
男 孝 正 明四二、二、生、慶大出身  
孝 顯 明四四、六、生、慶大在學  
女 フミ 大二、三、生、新潟市立高女出身  
トミ 大八、一、生、新潟市立高女出身  
女 あい 大八、一、生、新潟市立高女在學  
當家は元加賀より出て中世越後に移り祖先九兵衛聖龍  
村に居をとして専ら農業に従事し代々勤儉貯蓄を以て  
漸次産を興せり君は先代孝順の長男にして明治十九年  
四月十五日を以て生れ大正六年家督相續と共に號名し  
前名孝徳を改む氏に慶應義塾に學び縣下の大地主にし  
て多額納稅者として知られ直接國稅一萬六千二百八十  
二圓を納む公共事業に盡し義に耕種褒章を賜はる家族  
は尙三男孝弘(大、一、二、四、生)四男孝安(同、一、一、生)  
五男孝榮(同、一、五、一、二、生)六男孝夫(同、四、一、一、生)あり  
長女順(同、四、〇、一、二、生)新潟高女出身(新瀧縣人山  
竹謙治長男太郎に姉イタ(同、一、七、一、二、生)は同縣人山  
崎半造に姉ヨシ(同、二、一、七、生)は同縣人白勢正衛父友  
彌に同籍(同、二、六、一、一、生)は東京府人淺田吉太郎長男  
玄太郎に同籍(同、二、四、一、一、生)は同府人京極高敏に同  
籍(同、二、八、七、生)は新潟縣人山田辰治長男隆治に同  
籍(同、三、〇、九、生)は同縣人平田豊次郎三男富彌に同  
籍(同、三、四、七、生)は北海道人相馬哲平養子武夫に嫁  
し弟孝誠(同、二、七、三、生)は同妻チヨ(同、三、六、一、一、生)、  
新潟、吉田吉右衛門(妹)と共に分家し妹イト(同、三、三、  
五、生)も亦分家せり(新潟縣北蒲原郡聖籠村電新發田三  
四五)

二宮 傳右衛門

新瀧縣多額納稅者、柏崎瓦斯機社  
長、柏崎銀行常務取締役、新潟  
貯蓄銀行、新潟信託各取締役、新潟  
果農商、新潟縣在籍  
妻 ツネ 明七、一〇、生、新潟、牧口義矩姉  
男 信 芳 明二四、五、生

當家は二條公爵家の別家にして公爵家は藤原鎌足十七  
世關白忠通四世の孫關白良實の後なり世々五攝家の一  
として二十一世を経て齊敬に至る先代正磨は齊敬の四  
男にして明治三十五年分れて一家を創立し特旨を以て  
華族に列し男爵を授けられ貴族院議員に選ばる君は其  
二男にして男爵四條隆英、光院利敬の男なり明治四十  
二年三月を以て生れ昭和四年家督を相續し男爵位を仰  
付(明四、三、六、生)は公爵二條厚基の死跡を相續し姉  
康子(同、三、六、一、生)は前記公爵二條厚基先々代基弘の  
養子となり養康と改名す(東京市淀橋區戸塚町二ノ五  
四電牛込二四六〇)

二瓶 正藏

退職檢事  
東京府在籍  
妻 カネ 明四、一、生、東京、中西清一姉  
男 治 夫 明二七、五、生  
女 富 士 明三五、一、生、長男治夫妻、埼玉  
男 都 三 夫 明三〇、一、五、生  
女 昭 照 明四〇、二、生、三男都三男妻、福  
島、養五郎長女  
君は福島縣人二瓶喜四郎の二男にして文久三年十一月  
を以て生れ兄貞貞方より分れて一家を創立す第一高等  
學校を経て明治二十四年東大獨法科を卒業し司法省に  
入り大審院檢事任に就き後退職し永く神戸にて公證  
人の職務に従事せしが昭和九年退職し家族は尙孫照夫  
(大、一、一、〇、生)長男治夫長男(同、治、一、一、四、四、  
生)同二女同康子(明三、四、三、生)同豐男(同、四、  
四、生)同三女三夫長女(明二、九、一、一、生)は  
東京府人中西堅造家を再興し長女光枝(同、三、三、一、二、  
生)は三重縣人山岡金助に二女慶子(同、三、五、一、二、生)は  
高知縣人毛利千代次二男次に三女道子(同、四、三、一、二、  
生)は日本毛織會社員飯田義雄に嫁し妹ツウ(同、三、一、  
〇、生)は東京府土族島保の繼母たりA四一九(兵庫縣武  
庫郡良元村寶塚樂莊一六號)

二宮 治重

從三位勳二等功四級、陸軍中將  
東京府在籍  
妻 貞 女 明一八、七、生、原田與三郎長女  
君は岡山縣人二宮萬三の三男にして明治十二年二月を  
以て生れ同四十五年兄英方より分れて一家を創立す  
同三十四年陸軍歩兵少尉に任じ累進して昭和五年陸軍  
中將に陞り同九年豫備役被仰付其間近衛歩兵第三聯隊  
長英國大使館附武官歩兵第二旅團長參謀本部第三聯隊  
參謀本部總務部長參謀次長第五師團長等に歴補す義に  
宮内省御用掛資源審議會委員に推さる(東京市淀橋區  
西大久保一ノ三九二電四谷二一四四)

二宮 保孝

正五位勳六等、秋田鐵山専門學校  
教授、長野縣在籍  
父 三治郎 文久三、六、生、現戶主  
母 竹 明三、九、生、長野、士、加藤澤太  
妻 順 明三〇、一、生、東京、平岡信次郎  
長女  
男 治 孝 大九、一、生  
女 敏 子 大七、一、生  
君は長野縣人二宮三治郎の長男にして明治二十三年六

二宮 類治

東京株式取引所取引員  
東京府在籍  
妻 庶子 謙 三 明四五、三、生、生母、東京、田中  
君は愛媛縣人二宮一郎治の兄にして明治三年九月を以  
て生れ同四十三年分れて一家を創立す現時東京株式取  
引所一般取引員にして義に中央證券會社監査役に擧げ  
らる養子いよ(明三、六、一、二、生)東京、高田正民姉)は  
愛媛縣人奥山孝康二男新一に嫁せりA二四二B五四四  
(東京市麻布區斧町一電青山三〇八五)

二宮 光三

大阪府在籍  
妻 タミ 明四〇、九、生、養兄喜助妹  
君は大坂府人渡邊又三郎の四男にして明治三十八年四  
月を以て生れ同府人二宮喜助の養子となり昭和六年  
兄喜助方より分れて一家を創立す家主たり家族は尙長  
女明子(明三、九、生)ありA八七七(大阪府東區東雲町  
三ノ二三〇電東五四四六)

二本杉 欣一

醫學博士、日本赤十字社大阪支部  
病院長、耳鼻喉科部長、醫師  
三重縣在籍  
妻 幾久子 高女出身  
君は三重縣人にして明治二十年八月十四日を以て生る  
大正二年京都帝國大學醫學科大學を卒業し同助手に任ぜ  
られ耳鼻喉科教室に勤務す翌年北日本赤十字社大阪支部病  
院耳鼻喉科部長となり同十二年日本赤十字社大阪支部病  
院耳鼻喉科部長に就任し現在に至る同年醫學博士の  
學位を授けらる家族は尙長女紫都子(大九、六、生)清  
水谷高女在學)あり(大阪府東區南本町二ノ五電船場四  
一七七)

二宮 新

淺野物産常務取締役、日本鋪道  
監査役、東京府在籍  
妻 通 子 明二八、二、生、大阪、中島彦六姉  
男 義 郎 大九、一、生、高師附屬中學在學  
君は廣島縣土族二宮精一の三男にして明治十七年三月  
を以て生れ昭和五年兄方より分れて一家を創立す明  
治三十七年明治法律學校を卒業後實業に志し現に前記  
各會社の重役たり義に米國に在りて海外貿易に従事し  
シヤトル商業會議所議員たりし事あり家族は尙二男新  
次郎(大、一、五、二、生)長女一子(明四、四、生)ありA五五  
八(東京市淀橋區下落合一ノ四二二電大塚三九五四)

二宮 重親

北海道拓殖銀行檢査役、檢査課  
長、愛媛縣在籍  
妻 香枝子 明二三、一〇、生  
男 重 文 大、一、三、生  
女 淑 子 大、四、七、生、東京女學館出身  
君は愛媛縣人二宮喜一の長男にして明治十六年九月を  
以て生る第一高等學校を経て同四十三年東京帝國大學  
法科大學法律科を卒業し直ちに北海道拓殖銀行に入り  
爾來同檢査課長檢査課長川各支店支店長等を経て  
現時同行檢査役にして檢査課長たり寫眞演劇スキーを  
趣味とす家族は尙三女和子(大八、一、一、生)四女尙子

二宮 要也

野口食堂、料理業  
東京府在籍  
妻 フク 養子 大九、九、生  
君は愛媛縣人二宮佐吉の二男にして明治二十六年一月  
を以て生れ後兄平一方より分れて一家を創立す料理業  
を營み野口食堂と稱す家族は尙二男源治(大、一、一、四、  
生)ありA一五六五B五一六(東京市港區淺草公園六  
區二電淺草一九三〇)

二宮 類治

東京株式取引所取引員  
東京府在籍  
妻 庶子 謙 三 明四五、三、生、生母、東京、田中  
君は愛媛縣人二宮一郎治の兄にして明治三年九月を以  
て生れ同四十三年分れて一家を創立す現時東京株式取  
引所一般取引員にして義に中央證券會社監査役に擧げ  
らる養子いよ(明三、六、一、二、生)東京、高田正民姉)は  
愛媛縣人奥山孝康二男新一に嫁せりA二四二B五四四  
(東京市麻布區斧町一電青山三〇八五)

二宮 光三

大阪府在籍  
妻 タミ 明四〇、九、生、養兄喜助妹  
君は大坂府人渡邊又三郎の四男にして明治三十八年四  
月を以て生れ同府人二宮喜助の養子となり昭和六年  
兄喜助方より分れて一家を創立す家主たり家族は尙長  
女明子(明三、九、生)ありA八七七(大阪府東區東雲町  
三ノ二三〇電東五四四六)







君は佐賀縣土族新宮清朗の長男にして明治三十六年七月を以て生れ大正十三年家督を相続す同年第三等學校を中途退學し昭和三年歐米に遊學す爾來家郷にあり地主たり家族は尙弟清彦(明三九、六生)東京美術學校洋畫科出身あり姉那智は佐賀縣人江副民也に同美華は同縣人山下義雄に妹須和は東京府人杉木威夫に嫁せりA七五〇(佐賀縣津浦郡多良村電線局)

參照 木下文次の項

新宮 涼國

醫學博士、東京女子高等師範學校講師、三井物産會社事務局長、醫師、東京府士族

妻 マスエ 萬延元、二生、京都、新宮涼民長

女 春子 明二五、七生、東京、新宮涼國三女、府立第一高女出身

女 敏子 大元、八生、府立第二高女出身

女 敏子 大六、二生、御茶の水高女出身

新宮家は京都の關西新宮涼國の後裔なり君は金谷宗次郎の二男にして明治十二年十月を以て生れ新宮涼國の養子となり昭和九年家督を相続す明治四十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し三井物産會社事務局長として獨逸の大學に入り大正三年歸朝爾來三井物産會社事務局長として東京女子高等師範學校講師たり同九年醫學博士の學位を授けらる典範集考古學に興味を有すA四三九(東京市小石川區水道町八電小石川一七六一)

參照 須吉國彦二の項

新山 實太郎

東京果糖、堺化學工業各務取締役、茨城縣在籍

妻 ヤス 明二七、四生、栃木、瀬下平作二女

女 壽子 大八、三三

君は茨城縣人新山春吉の長男にして明治二十三年一月を以て生れ同三十一年家督を相続す現時前記會社の重役たり家族は尙二女女子(大九、七生)二男修二(昭四四、四生)あり(千葉縣東葛飾郡市川町眞岡七六電市川一二八)

參照 須吉國彦二の項

新山 敏介

藤田鐵業、原昌鐵業各務取締役、陸軍工兵少尉、山口縣在籍

新山 良幸

正五位勳三等功五級、海軍少將、馬公要港部司令官

君は明治十八年七月一日を以て生れる同三十七年海軍兵學校を卒業し翌三十八年八月海軍少尉に任じ後海軍大學校を卒業す大正十三年十二月同大佐に昭和五年十二月海軍少將に累進佐世保鎮守府參謀長を経て馬公要港部司令官に補せられ現在に及び家族は二男茂三男榮長女暎子あり(澎湖島馬公要港部宿舍内)

參照 小川敬次郎、菅野尚一、安川清三郎、木村介次の項

新納 薰

正五位勳四等、檢事、廣須賀區裁判所檢事、鹿兒島縣士族

妻 久武 明一九、二生、徳島、西澤輝行姉

女 久武 大四、一生

贊田 政雄

小川商店、靴並雜貨商、東京府在籍

妻 けい 明六、八生、埼玉、桑島忠太郎長女

女 光子 明三八、二生、長男榮一妻、東京、樋口俊雄長女

女 敏子 明四二、一一生

君は東京府人贊田政則の三男にして明治八年十月を以て生れ同二十七年家督を相続す小川商店と稱し靴並雜貨商を營む家族は尙孫英一(昭五、九生、長男榮一妻、男)同ひる子(同七、三三、同二女)あり二女千枝子(明三七、二生)は東京府人杉本銀藏養子正智に三女美代子(同四〇、一生)は群馬縣人堀口兼太郎長男清に嫁せりA四三〇(東京市日本橋區久松町二六電濱花六二七)

西 勇雄

正四位勳二等、海軍、醫中將、東京醫學專門學校教授、醫師、東京府士族

妻 カヨ 明一三、六生、故海軍中將養義太郎姉

女 久米雄 明三七、四生、滿洲電話電信會社員、慶大出身

女 大二郎 大二、四生、東京醫專在學

君は熊本縣士族西勇七の二男にして明治二年二月を以て生れ其家督を相続す夙に醫學を修め海軍醫少尉に任じ累進して海軍醫中將に任ぜらる其間海軍醫學校校長兼教育佐世保海軍病院院長兼同鎮守府軍醫長海軍醫學校校長等に歴任し大正十二年豫備役に編入せらる

西 勝男

正四位勳六等、子爵、陸軍歩兵少佐、近衛歩兵第二聯隊附、東京府華族

妻 ミキ 安政五、〇生、東京、土、川内伊三郎長女

女 知雅子 明三五、一生、男爵徳川好敏養女

女 恭子 昭八、八生

當家は先代寛二郎より顯る寛二郎は舊鹿兒島藩士にして戊辰の役東北の野に戦ひ勇名あり明治四年陸軍少尉に任じ累進して陸軍大將に昇り其間古屋東京各鎮臺參謀長參謀本部陸軍第一局長歩兵第十一團第二各旅團長海軍省領事官司令官第二師團長滿洲駐屯軍司令官教育總監等に歴補す日清戰役の功に依り功三級に叙し男爵を授けられ日露戰役の功に依り功一級金鵄勳章を賜ひ子爵に陞る君は其六男にして明治二十七年十二月を以て生れ大正四年先代兄勝男の後を承け獲得被仰付同三年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に被任昭和九年同少佐に累進す現時近衛歩兵第二聯隊附たり家族は尙二女喜久子(大一一、一一生)兄勝男(明一七、一〇生、從五位、陸軍歩兵中尉)同妻女子(同二二、一二生、東京、鈴木明治妹)及其一男一女あり兄勝夫(同二三、八生)は分家し姉アキ(同六一、五生)は豫備陸軍少將佐治喜一に同ひる(同二〇、一一生)は兵庫縣人小島長一に同ハル(同二〇、六生)は實業家若尾謙之助に嫁せり(東京市赤坂區青山高樹町一二電青山八二九)

參照 男爵徳川好敏、小島長一、若尾謙之助の項

西 勝男

王子製紙參事、十條工場長、長崎縣士族

妻 すみ 明一九、二生、宮城、土、庄司直明四女

女 初子 明四四、八生

女 安子 大七、六生

女 末子 大二、七生

君は長崎縣士族西美波の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正十年家督を相続す明治三十九年東京高等工業學校機械科を卒業し同年海軍工廠造船部に勤務し後王子製紙會社に入り同社工場長代理兼十條工場長心得等を經て大正十一年十條工場長に昇任し翌年歐米に出張同十四年歸朝し現時同社參事兼工場長たり昭和四年再び歐米に遊ぶ家族は尙四女春子(大一一、一〇生)五女則子(同一一、一〇生)ありA五九一(東京市王子區下十條町四三七電小石川三〇一)

西 霜一郎

鳥賀島糖業取締役、東京支店長、鳥賀島糖業取締役、大阪府在籍

妻 ひさ 明二八、一〇生、長野、佐野才吉妹

女 侃一郎 大三、五生

女 崇子 大五、一〇生

君は岡山縣人木下新太郎の二男にして明治十九年三月七日を以て生れ大正二年先代京の入夫となり家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男謙次(大

西 正次郎

正四位勳二等、文學博士、廣島文理大學教授、廣島高等師範學校教授、國民精神文化研究所員、鳥取縣士族

妻 ひさ 明一八、九生、鳥取、田中專三郎長女

女 信藏 明四四、一生

女 順藏 明四〇、七生

女 清子 大六、一一生

君は鳥取縣士族西正次郎の長男にして明治六年三月を以て生れ同十四年家督を相続す同三十二年東京帝國大學文學科大學哲學科を卒業し大學院に入り大正九年文學博士の學位を受く夙に廣島高等師範學校教授に任ぜられ昭和四年廣島文理大學教授に任じ同七年各國に文化研究所員を兼任著書數種あり同五年歐米各國に出張せり長女マツ(明三六、一〇生)は山梨縣人松野憲治に嫁し弟恒次郎(同二二、一〇生)同妻きよ子(同二九、一〇生、鳥取、佐々木半市二女)は其子女を伴ひ分家せり(廣島市鐵道町七五)

西 成甫

從四位勳三等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學新勳務、東京府士族

妻 むめ 文久二、一〇生、東京、福地言一郎伯母

西 勘右衛門

大阪木材相互市場取締役、兵庫縣在籍

妻 とら 慶應元、三生、大阪、大懸勘兵衛四女

二之部 西

妻 明三、八生、長野、士、片山芳
男 眞補 大五、八生
女 眞補 大五、八生
君は静岡縣土族西成の一の二男にして明治十八年一月を以て生れ同三十七年家督を相続す同四十四年東京帝國大學醫學部卒業し同大學助手となり同四十四年解剖學研究の爲獨逸各國に留學す大正四年東京帝國大學教授及び同大學醫學部教授に任ぜられ同年醫學博士の學位を受く同十一年東京帝國大學教授に任ぜられ現に其任に在り家族は尙叔父成伍(明一六、一生)同妻フミ(同二五、九生、廣島、田坂宜隆三女)及其子女ありA一五八(東京市淀橋區下落合四ノ一六四二電落合長崎三五)

西 竹一

正五位、男爵、陸軍騎兵大尉、陸軍騎兵學校教官兼研究部員
東京府華族
妻 武 昭二、七生
男 泰 昭二、七生
當家は先代徳二郎より家名を揚ぐ徳二郎は舊鹿兒島藩士にして戊辰役奥羽の野に轉戦し後露國に留學し法政學を修む太政官權大書記官駐露特命全權公使外務大臣駐露特命全權公使樞密顧問官等に歴任し明治二十九華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治三十三年七月を以て生れ同四十五年襲爵被仰付陸軍士官學校を卒業し大正十三年陸軍騎兵少尉に任じ昭和九年同大尉に陞る同五年馬事研究の爲歐米に出張し歸朝後騎兵第一聯隊附となり次で陸軍騎兵學校教官兼研究部員に補せらる君又馬術の名手にして昭和七年露國に開催の第十四世界オリンピック競技大會馬術競技に出場し大歐世界選手権を獲得せり一家族は尙長女淑子(大一四、一生)二女敏子(昭五、一生)あり姉フク(明三一、一四、一生)二女敏子(昭五、一生)あり姉フク(明三一、一四、一生)は退役陸軍少將田坂虎之助長男勇雄に嫁せりA一五二(東京市麻布區弁町二電青山五九三九)
參照 伯爵川村鐵太郎の項

西 健

正五位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務
茨城縣士族

(※印は姻族關係)

妻 明二八、六生、群馬、丸岡萬太郎
男 隆 雄 大二、九生、成蹊高校在學
女 秋子 科在學
君は埼玉縣土族方嶺の長男にして明治二十年十二月を以て生れ先代秋雄の養子となり同四十三年家督を相続す同四十五年東京帝國大學工學部電氣工學科を卒業し同大學助教授となり大正八年英米獨各國に留學し同十一年歸朝後同大學教授に任じ現に工學部勤務たり大正十三年工學博士の學位を授けらる家族は尙二男龍次(大五、九生)三男慎三(同六、一生)四男富夫(同二一、一生)五男正夫(同二四、一生)六男六郎(昭二、六生)四女由紀子(同五、一生)あり長女庸子(明四四、六生、實踐女學校出身)は千葉縣人選信省電氣試験所員鈴木重夫に嫁せり(東京市小石川區久堅町七四電小石川四二六〇)

西 酉乙

正五位男爵
東京府華族
妻 三保子 明四〇、一生、群馬、士、高久壽
女 明四〇、一生、群馬、士、高久壽
當家は先々代より顯る周は舊石州津和野藩士にして後幕臣に列し文久二年和蘭に留學し歸朝後開成所教授陸軍學校頭取等を経て元老院議員官賞院議員等に歴任し明治三十年時旨を以て華族に列し男爵を授けらる先代神六郎其後を承く神六郎は舊幕臣林洞海の六男伯爵林雅之助の叔父にして先々代周の養子となり夙に軍籍に入り海軍中將に累進し其間米國公使館附武官侍從武官馬公要港部司令官有栖川宮宮務監督官中顧問官等に歴任し貴族院議員に擧げらるること三回に及ぶ君實は男爵赤松一(弟)にして明治三十年五月を以て生れ同三十二年先代神六郎の養子となり昭和八年家督を相続し襲爵被仰付大正十一年京都帝國大學經濟學部經濟學科を卒業して實業界に入り現時第一銀行に勤務す家族は尙長女映子(昭四四、六生)二女亮子(同五、一生)三女牧子(同九、一生)あり(東京市大森區山王一ノ二七二四電大森九)
參照 赤松一※赤松小寅※佐藤亨の項

西 直忠

正五位勳三等功四級、陸軍一等軍醫正、長崎縣士族
妻 梅古 明六、四生
君は長崎縣土族西直方の長男にして明治五年三月を以て生れ同二十九年家督を相続す同三十七年東京帝國大學醫學部卒業し翌年陸軍二等軍醫に任じ累進して大正十二年一等軍醫に陞る其間久留米衛戍病院長獨立第十八師團第二野戰病院長等に歴補し朝鮮總督府遺送醫院院長に轉じ海州光州各州各惠濟醫院長となり日露戰役の功により功五級に叙し大正三四年日露戰役には青島に出征し殊勳により功四級金鵄勳章を賜ふ後朝鮮總督府立醫院醫官に任じ晉州衛戍長たりしが之を辭し現時間地にあり(京都市船岡町二七)

西 春彦

從五位勳四等、外務書記官、歐米局長第一課長、鹿兒島縣在籍
妻 富貴子 明三二、一生、岐阜、野村洋三長女、雙葉高女、米國ミス、マスタイスクール出身
男 輝彦 大一〇年生
君は鹿兒島縣八多市西門の五男にして明治二十六年四月を以て生る大正七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直に外務屬となり同年文官高等試験に合格爾米領事館補香港紐育在勤公使館三等書記官支那在勤領事長春在勤大使館三等書記官同二等書記官ソグイエツト聯邦勤務等に歴任し昭和三年外務書記官に任じ通商局第一課長となり商工書記官を兼任す現時駐米局長第一課長たり家族は尙長女喜代子(大一一、一生)二女美代子(昭五、一生)二男克彦(昭六、一生)あり(東京市牛込區市谷砂土原町三ノ一九電牛込四〇八)
參照 野村洋三の項

西 久光

從四位勳三等、理學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務
石川縣在籍
妻 君子 明三一、四生、岐阜、宮田範二五女 治子 大六、三生
君は石川縣人西登吉郎の三男にして明治十九年六月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し同年大學院に入學大正三年第五高等學校教授に任ぜられ同八年九

西 政太郎

三菱倉庫營業部長
東京府在籍
妻 慶三、五生、祖父伊七長女
妻 明三一、七生、東京、河野義夫婦
男 謙 一 大九、二生
君は東京府人西金次郎の長男にして明治二十三年十月を以て生れ昭和七年家督を相続す明治四十五年東京高等商業學校を卒業し三菱倉庫會社に入り本店庶務係主任營業部勤務を経て現時同部長たり家族は尙長女幸子(大一、九生)二男清三(同四、一生)二女俊子(昭三、一〇生)妹福子(明三九、五生)あり弟正次郎(同二七、一生)は其妻子を伴ひ分家し同泰三(同三一、九生)も亦分家せりA三三〇(東京市芝區三田綱町九電三田一七九八)
參照 西正次郎※橋本喜造の項

西 雄一

電氣化學工業大車田工場長、熊本縣士族
妻 ノチ 安政六、七生、熊本、士、筑紫珍次二女
妻 愛女 明二〇、八生、熊本、士、糸川直明長女
男 正 修 大六、六生
男 ミホ 大三、六生、東京實踐女學校出身
君は熊本縣土族西小三郎の長男にして明治十一年七月を以て生れ同二十六年家督を相続す同三十五年第五高等學校工學部機械科を卒業す三井鐵山株式會社に入り機械技師として勤務すること滿二十五年に及ぶ大正五年現職に轉じ現在に至る家族は尙二男正記(大六、六生)及四女ヤス(大一、九生)あり長女民子(明四〇、八生、實踐女學校出身)は海軍少佐高馬正義に二女田鶴(同四四、一生、出身校同上)は電氣化學工業會社員工學士高橋三郎に嫁せり諸曲及墨繪に興味を有す(大卒田市賣坂町)

西 義一

從三位勳一等、陸軍中將、東京警備司令官、福島縣士族
妻 元治元、四生、福島、岡崎長兵衛長女
女 貞子 大八、五生、成女高女在學
女 忠子 大六、五生、成女高女在學
女 義子 大八、五生、成女高女在學
君は福島縣土族西義一の長男にして明治十一年一月を以て生れ昭和四年家督を相続す明治三十二年陸軍砲兵少尉に任じ昭和三年陸軍中將に累進す其間侍從武官砲兵重砲兵第三旅團長陸軍技術本部長陸軍野戰砲兵學校長第八師團長に歴任し昭和九年東京警備司令官に補せらる家族は尙弟義顯(明三一、九生、滿鐵社員)同妻百合子(同三三、九生、京都、大野清直二女)あり長女信子(大四、二生、弘崎高女出身)は檢事井本大吉に妹蘭子(同三四、一〇生)も亦他家に嫁せり(東京市牛込區市谷河田町一九電牛込三三〇六)
參照 西義川昌二の項

西 井助一

養産家
大阪府在籍
妻 清子 明三七、三生、大阪、中村作太郎長女
君は大阪府人西井久吉の二男にして明治三十四年三月を以て生れ昭和七年家督を相続す養産家にして養に小西商事會社取締役たり家族は尙長女久江(大一五、一〇生)二女小春(昭四、三三)三女晴美(同七、九生)ありA七九九(大阪府西區高砂町二ノ九電西一〇二七)

西 井彌兵衛

あわや、實業、家主
大阪府在籍
妻 ナラエ 慶應二、六生、大阪、富永アル養
妻 きく 明一六、一生、先代彌兵衛二女
妻 義一 明三四、五生、長女たね江夫、大坂、田中喜三郎弟
女 義子 一 阪、田中喜三郎弟
女 たね江 明四〇、一〇生、養子義一妻
君は大阪府人一瀬爲三郎の二男にして明治十四年三月三日を以て生れ同三十二年同府人西井彌兵衛の養子となり同四十四年家督を相続し前名小三郎を改め義名す

西 五辻光伸

從五位、男爵
妻 文 枝 安政六、一生、從二位勳四等
妻 邦光 大五、九生
當家は先代文仲の樹つる所なり文仲は宇多源氏左大臣源雅信の後胤正二位五辻高仲の二男にして初め春日社新司たりしが後實家に復歸被仰付慶應四年勅命に依り新築御取建西五辻と稱し堂上の列に加へられ華族に列し家祿として二百五十四石一斗を賜ふ明治四年家祿の内二百石を陸海軍御更張費に奉還同十七年男爵を授けられ同六年宮内省出仕となり爾來宮中祇儀青山御所勤務御會講頭同發聲等被仰付宮内省の諸役に奉仕すること實に五十五年間同二十三年以來貴族院議員に當選す事三回に及ぶ君は文仲の男にして明治二十二年十月を以て生れ父退隱の後を承け昭和八年家督を相続し襲爵被仰付家族は尙二女淑子(大一、八生)三女淳子(同二五、一生)兄朱仲(明一九、一生)あり長女満子(大二、一生)は大阪府人濱田正夫長男正明に妹桃子(明二五、二生)は東京府人濱田正助に同清子(同二六、一生)は佐賀縣人原正年に同留子(同三一、六生)は高知縣人石本備太郎長男一に嫁し兄敬伸(同二一、五生)は滋賀縣人西村長治郎長女静枝の婿養子となり姉正子(同二一、四生)は男爵山口正男の母たりA六三五(東京市澁谷區代々木山谷町二八電四谷六八六七)
參照 男爵山口正男、説田彦助の項

西 海朋三

雜貨卸商、大阪府在籍
妻 せつ 慶應三、三生、兵庫、大田繁吉妹
妻 つるゑ 明二七、二生、養父作郎治養子
男 三郎 大一一、三生
君は兵庫縣人西海善助の三男にして明治二十四年二月を以て生れ昭和六年西海作治郎の養子となるステッキ商を營む家族は尙長女きく(大一四、二生)四男四郎(昭

二之部 西(井、五、海)

(※印は姻族關係)

二、三生(二女綾子、同六、五生)ありA一六八二(大阪市東區南久寶寺町四ノ九電船場一九二〇)

西浦久五郎

君は大阪府人三好長兵衛の三男にして明治二十二年六月を以て生れ同四十二年同府人西浦サトウの養子となり家督を相続す家主たり家族は尙三男修三(大七、一生)ありA一三四〇(大阪府天王寺區逢坂上之町七一電天王寺五〇八)

妻 久信 明四五、三生  
男 勝 大二、二生

西浦綱一

醫學博士、西浦病院主、醫師

父 新右衛門 嘉永元、三生  
妻 菊 明二五、一生、京都、森谷徳太

男 佐多夫 大五、六生  
女 和子 大四、六生  
女 歌子 大八、三生

西浦友三郎

自轉車商

妻 郁 明三一、〇生、養父清兵衛長女  
男 郁三 明三三、五生  
女 千鶴 大二、四生  
女 花枝 大八、八生

西浦又兵衛

家主

君は愛知縣人武田勘三郎の二男にして明治六年八月を以て生れ西浦清兵衛の養子となり同三十四年分れて一家を創立す自轉車商を營むA五八六B二五六(名古屋西區御幸本町通三ノ一六電本局一三九七)

妻 久、長女 明四二、一生、奈良、西田庄次郎  
君は大阪府人先代又兵衛の長男にして大正十年家督相続と共に前名改一郎を改め第四世又兵衛を襲名す代々節節商を營みしも現時之れを廢業し家主たり家族は尙二女妙子(昭八、二生)弟政次郎(明四五、五生)あり(大阪府東區住吉町三〇電東一四八三)

西江

君は大阪府人先代又兵衛の長男にして大正十年家督相続と共に前名改一郎を改め第四世又兵衛を襲名す代々節節商を營みしも現時之れを廢業し家主たり家族は尙二女妙子(昭八、二生)弟政次郎(明四五、五生)あり(大阪府東區住吉町三〇電東一四八三)

妻 政 世 明八、八生、岡山、土、室深三女  
母 源之介 次郎二女、松江高女出身  
女 佳 大七、一生、岡山高女在學

西尾喜太三

日本勸業銀行松江支店長

君は鳥取縣人西尾繁太郎の三男にして明治十九年三月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治四十四年早稲田大學商科を卒業し日本勸業銀行に入り高知長川上郡吹屋町電五

妻 保子 明二三、一生、鳥取、野坂金治郎  
男 辰雄 大五、一生

崎盛岡各支店長を経て現時同行松江支店長たり(松江市北堀町電七三六)

西尾小五郎

君は奈良縣人先代西尾小五郎の長男にして明治二十四年七月二十一日を以て生れ昭和七年家督を相続し前名一郎を改め襲名す大正四年慶應義塾理財科を卒業し大阪府に於て石炭問屋を経営す昭和七年御所銀行頭取に就任せるも同九年六月縣下銀行統一の爲合併し南都銀行成るや其取締役に選任せらるる家族は尙長女裕子(昭一、一生)二女泰子(昭一、四、三生)三女御代子(昭三、二生)四女園子(昭七、二生)あり姉さく(昭二、九、二生)は福井縣人二條藩邸を迎へ昭和七年分家せりA二〇四九(奈良縣高城郡所町電四六)

妻 かつ 門三女、櫻井高女出身  
母 三〇、六生、奈良、中本與左衛門

西尾サト

家主

君は大阪府人松島武右衛門の三女にして安政五年十月を以て生れ先代治三郎の養子となり大正五年家督を相続す家主たりA一八八〇(大阪府港區南安治川通一ノ二電西八七五)

妻 幸太郎 明一九、五生、京都、高田繁太郎  
母 長女 嘉永五、一生、鳥取、橋浦増五郎

西尾壽造

從四位勳二等功五級、陸軍中將、關東軍參謀長、鳥取縣士族

妻 よし子 明二二、一生、京都、土、山縣  
母 長女 嘉永五、一生、鳥取、橋浦増五郎

西尾常彦

正七位勳五等、米子市長、米子商工會議所顧問、鳥取縣在籍

妻 しけ 明一三、三生、鳥取、松本倉市長  
母 長女 明一三、三生、鳥取、松本倉市長

西尾長次郎

札幌商工會議所議員、九〇西尾商店、廣尾電氣各社長、合同酒造、野口知照相談役、酒造業、北海道在籍

妻 長平 明四〇、〇生  
母 道 藤田彌次郎二女

君は石川縣人西尾善兵衛の五男にして野口吉次郎の弟なり文久元年十一月を以て生れ先代善助の養子となり明治四十年家督を相続す酒造業九〇西尾商店社長の外前記各會社の重役に就き札幌商工會議所議員に擧げらるる義に北海道多額納税者たり家族は尙長女光(昭四、二生、長男長平長男)あり養母いそ(嘉永二、九生、石川、松田喜八長女)は弟秀松(明二八、六生)を伴ひ分家し三女ちよ(昭二、六、一生)は北海道人堀末治に四女おとき(昭一九、三生)は前記野口吉次郎三男吉三郎に嫁せり(札幌市北一條西一丁目電一六〇七)

西尾忠方

正四位勳四等、子爵、貴族院議員、帝國馬協同會頭、馬政調査會委員、東京府多額納税者、十五銀行、蓬萊殖産各監査役、舊房州花房藩

妻 美知子 明二八、三生、侯爵佐佐木行忠妹  
母 忠智 大六、七生

君は東京府人先代正左衛門の長男にして明治九年一月を以て生れ大正二年家督を相続と共に前名松五郎改め襲名す君が苦心に成る創製品總の子東子の實用新案登録を得之を市場に發賣するや世上に迎へらるる今やその本舖としてしるる家族は尙四男昇(大五、一生)五男本郎(昭七、九生)孫康太郎(昭七、五生、長男慶太郎長男)同松二郎(昭八、二生、同二男)あり二男正(明四〇、二生)は分家し二女千代(同四二、九生)は千葉縣人飯塚矢一郎に嫁せり庶子誠一郎(昭六、七生、生母、東京清、水まさ)は分家し弟與助(明一四、五生)同妻つみ(昭一九、四生、東京小貝秀次郎姉)は共に分家し弟朝(昭一九、四生)同妻糸(昭二七、一生、東京、崎山忠二女)も亦其子女を伴ひ分家し妹かね(昭一六、七生)は大分縣人藤所詳之助に同く(昭二一、一一生)は東京府人神谷彌七長男甚一郎に嫁せりA一七二八B四二五(東京市港區南平臺町四六電青山一六五〇)

西尾辰吉

正五位勳六等、内務技師、名古屋土木出張所勤務、廣島縣士族

妻 美知子 明二八、三生、侯爵佐佐木行忠妹  
母 忠智 大六、七生

君は東京府人先代正左衛門の長男にして明治九年一月を以て生れ大正二年家督を相続と共に前名松五郎改め襲名す君が苦心に成る創製品總の子東子の實用新案登録を得之を市場に發賣するや世上に迎へらるる今やその本舖としてしるる家族は尙四男昇(大五、一生)五男本郎(昭七、九生)孫康太郎(昭七、五生、長男慶太郎長男)同松二郎(昭八、二生、同二男)あり二男正(明四〇、二生)は分家し二女千代(同四二、九生)は千葉縣人飯塚矢一郎に嫁せり庶子誠一郎(昭六、七生、生母、東京清、水まさ)は分家し弟與助(明一四、五生)同妻つみ(昭一九、四生、東京小貝秀次郎姉)は共に分家し弟朝(昭一九、四生)同妻糸(昭二七、一生、東京、崎山忠二女)も亦其子女を伴ひ分家し妹かね(昭一六、七生)は大分縣人藤所詳之助に同く(昭二一、一一生)は東京府人神谷彌七長男甚一郎に嫁せりA一七二八B四二五(東京市港區南平臺町四六電青山一六五〇)

西尾惣助

乾海苔商、東京府在籍

妻 美知子 明二八、三生、侯爵佐佐木行忠妹  
母 忠智 大六、七生







西川勘兵衛

吳服商 京都府在籍
妻 明九、二生、京都、遠藤新兵衛長
男 孝太郎 明三〇、六生
男 静尾 明四〇、九生、長男孝太郎妻、京

西川五一郎

兵庫縣多額納稅者、地主
兵庫縣在籍
妻 明三、一、一、一、兵庫、昌保源右衛門二女

西川正治

正五位勳四等、理學博士、東京帝國大學教授、理學部、東京帝國大學研究所長、學術研究會、東京府在籍
妻 明二、七、九、出生、東京、綾井忠夫姉

西川甚三郎

近勳、練物請負業
京都府在籍
妻 富美 明三〇、七、七、出生、根來與助姉
女 幹子 大七、五、出生、根來與助姉

西川末次郎

河長商店、青物問屋業
愛知縣在籍
妻 勢津 明三〇、九、九、出生、京都、日下慶太郎

西川晴太郎

安田銀行(船場支店)
大阪府在籍
妻 信 明三三、七、七、出生、大阪、山口常次郎

西川武三郎

朝鮮瓦斯電氣各社取締役、農業
埼玉縣在籍
妻 久壽 明二一、一、一、出生、埼玉、新井恭明

西川竹松

金物商
大阪府在籍
妻 復藏 明二二、六、六、出生、大阪、櫻井彌兵衛

西川信三

西川名代表社員、賣藥製造販賣業
京都府在籍
妻 榮 明三、七、一、出生、栃木、鈴木許市長

西川武

從五位勳四等、判事、京都府在籍
妻 武 明二二、七、七、出生、兵庫、土、天津軍

西川甚五郎

勤三等、滋賀縣多額納稅者、滋賀銀行、近江帆布各社取締役、近江製紙製造工場主、墨表蚊帳蒲團和洋數物商、滋賀縣在籍
妻 明三、五、一〇、生、正八位、陸軍三等主計、早大商學部出身
男 清二郎 明四〇、九、生、二男清二郎妻、京都、田中一馬二女、甲南高女出身

西川忠幸

求林堂、印刷用インキ商
東京府在籍
妻 多保 明四四、一、一、出生、山梨、中川清長女

西川虎吉

從三位勳三等、工學博士、九州帝國大學名譽教授、福岡縣在籍
妻 武 明七、二、生、富山、神通清次郎姉

西川竹松

金物商
大阪府在籍
妻 復藏 明二二、六、六、出生、大阪、櫻井彌兵衛

西川信三

西川名代表社員、賣藥製造販賣業
京都府在籍
妻 榮 明三、七、一、出生、栃木、鈴木許市長

西川武

從五位勳四等、判事、京都府在籍
妻 武 明二二、七、七、出生、兵庫、土、天津軍

西川武三郎

朝鮮瓦斯電氣各社取締役、農業
埼玉縣在籍
妻 久壽 明二一、一、一、出生、埼玉、新井恭明

西川竹松

金物商
大阪府在籍
妻 復藏 明二二、六、六、出生、大阪、櫻井彌兵衛

西川信三

西川名代表社員、賣藥製造販賣業
京都府在籍
妻 榮 明三、七、一、出生、栃木、鈴木許市長

西川武

從五位勳四等、判事、京都府在籍
妻 武 明二二、七、七、出生、兵庫、土、天津軍

參照 藤生二郎、井口春久、御木本幸吉、井口常雄
※池田嘉吉、石塚三三、乙竹岩造、武藤稻太郎

西川寅三郎

西川寅三郎、西川寅三郎、西川寅三郎、西川寅三郎
西川寅三郎、西川寅三郎、西川寅三郎、西川寅三郎

西川虎次郎

西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎
西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎

西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎
西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎、西川虎次郎

西川直

西川直、西川直、西川直、西川直
西川直、西川直、西川直、西川直

西川直太郎

西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎
西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎

西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎
西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎、西川直太郎

西川順之

西川順之、西川順之、西川順之、西川順之
西川順之、西川順之、西川順之、西川順之

西川彦太郎

西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎
西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎

西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎
西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎、西川彦太郎

西川久

西川久、西川久、西川久、西川久
西川久、西川久、西川久、西川久

西川平藏

西川平藏、西川平藏、西川平藏、西川平藏
西川平藏、西川平藏、西川平藏、西川平藏

西川孫兵衛

西川孫兵衛、西川孫兵衛、西川孫兵衛、西川孫兵衛
西川孫兵衛、西川孫兵衛、西川孫兵衛、西川孫兵衛

西川政吉

西川政吉、西川政吉、西川政吉、西川政吉
西川政吉、西川政吉、西川政吉、西川政吉

西川政次郎

西川政次郎、西川政次郎、西川政次郎、西川政次郎
西川政次郎、西川政次郎、西川政次郎、西川政次郎

西川義方

西川義方、西川義方、西川義方、西川義方
西川義方、西川義方、西川義方、西川義方

西川義英

西川義英、西川義英、西川義英、西川義英
西川義英、西川義英、西川義英、西川義英

西河源治郎

西河源治郎、西河源治郎、西河源治郎、西河源治郎
西河源治郎、西河源治郎、西河源治郎、西河源治郎







立花寛正の項

西谷 一郎

正八位勳六等、陸軍工兵少尉、東京市議會議員、昭和土地建設

妻

明一五、六生、茨城、三輪尚姉

養子

明三、四生、養子保之助妻、實

西谷 保之助

君は舊前藩士阿部寅十郎の二男白取虎平の兄にして

西谷 龜之助

松江商工會議所議員、山陰松江住宅

西谷 壽朗

青森縣議員、尾上村長、尾上銀

西野 兵衛

西野製紙所、大演化学工業、東洋

西野 岩松

西野商店代表社員、漬物商

西野 菊之助

日出織物、西野製紙所

西野 嘉一郎

東京建設、田島精工各務取締役

西野 龜太郎

大阪府在籍

西野 菊之助

日出織物、西野製紙所

西野 慶次郎

西野製紙所、自動車附屬品商

西野 惠之助

帝國劇場取締役、日本製紙

西野 義文

熱帯産業、監査役、三井物産

西野 三郎

大阪府在籍

西野 義子

熱帯産業、監査役、三井物産

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 愛子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

西野 昌子

川合芳次郎二女、養子愛子、東京

二之部 西(野)

(※印は姻族關係)

三一

**養子** 正男 山崎一弟  
 君は東京府人安藤市兵衛の三男にして明治元年八月を以て生れ先代男次郎の養子となり明治十五年家督を相続す西野製作所と稱し自動車附屬品製造販賣を業とし家族は尚滿壽江(六一、七生、養子正男長女)あり二女光子(明三七、一〇生)は東京府人朝倉豊吉長男豊治に三女たけ子(同四〇、一一生)は佐賀縣人村岡久雄に嫁せりA三四〇B一九一(東京市京橋區木挽町六ノ四ノ一電燈座二七九)  
 參照||朝倉豊吉、安藤市兵衛の項

**西野 顯六** 煙草商  
 京都府在籍  
 父 六之助 慶應元、二生  
 母 タツ 明二、一一生、京都、佐竹昌綱二女  
 妻 タツ 明三七、七生、京都、和田治三郎二女  
 男 顯 六一五、五生  
 君は京都府人先代六之助の二男にして明治三十八年八月一日を以て生れ昭和三年家督を相続す煙草商を營む家族は尙二男顯次(昭三、八生)ありA五三〇(京都市左京區下鴨西林町二九ノ一)

**西野 元**  
 從四位勳一等、貴族院議員、錦鶏關取、十五銀行頭取、蘆原縣長、蘆原縣立第一高等學校校長、茨城縣士族會館長、東京、首藤三女  
 妻 さわ 明一八、六生、東京、首藤三女  
 君は茨城縣士族西野元準の長男にして明治八年十一月を以て生れ同二十八年家督を相続す同三十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏省書記官同省參事官臨時整理局書記官等を歴任し歐米各國に差遣せらる歸朝後主計局豫算課長に就き尋で横濱關長大藏省主計局長大藏次官等に歴任し大正十三年貴族院議員に勲選せられ研究會所理事同十四年錦鶏關取候補現に十五銀行頭取蘆原縣長に就き尋で長たり會計制度要論」並に「豫算概論」の兩著あり妹(同二七、二二生)は岡山縣士族小松原隆二に同久米(同二七、二二生)は東京府人醫學博士肥田野行に嫁せりA五三四三(東京市麻布區宮村町四二番番三三八)

**西野 奈良榮** 東京開成館館主  
 君は大阪府人三木佐助の養母にして明治四年九月十日を以て生れ同三十九年家督を相続す同三十八年商船學校機關科を卒業し日本郵船會社に入り同四二年機關科長の免狀を受け賀茂丸土佐丸松本丸より丸丸各機關長に就任す大正十二年選信局技師並に地方海員審判所審判官に任じ地方海員審判所理事官並に選信局技師に任ぜられ大阪地方海員審判所に勤務す昭和七年現官職に轉り家族は尙三女淑子(六一、二生)二男英次(同五一、一一生)あり長女愛子(明四三、八生)は和歌山縣人堀峯橋二男廣次に妹龜尾(同八一、一〇生)は高知縣人吉本久米次長男龍吉に嫁し弟虎喜(同二二、一一生)は同縣人徳弘梅左の家督を相続し同拓吉(同二七、四生)は分家せり(門司市海岸通熊本通信局海部)

**西野 忠次郎** 正五位勳四等、醫學博士、慶應義塾大學醫學部教授、同附屬病院院長、内閣恩給局常任顧問  
 山形縣在籍  
 養母 キタ 慶應三、五生、養祖父佐久長女  
 妻 サタ 明一七、四生、養父慎一長女  
 養子 重孝 明三六、一〇生、養父慎一長男、醫學士  
 婦 圭子 大二五、五生、養子重孝妻、佐賀成美高女出身  
 君は山形縣士族藤田茂八の二男にして明治十一年五月を以て生れ先代慎一の養子となり大正八年家督を相続す明治三十六年東京帝國大學醫學科大學を卒業し山形市立病院濟生館長山形市立醫院院長兼內科部長等に歴任し現に内閣恩給局常任顧問に任じ慶應義塾大學教授兼同附屬病院 副院長たり大正三年醫學博士の學位を受く家族は尙養弟重克(明三九、九生、阪神急行電鐵勤務、横濱高商出身)あり養妹ヒサ(同二二、一〇生)は山形縣士族華山侯一節に同三(同二六、六生)は千葉縣人久保木保壽に同四(同三〇、二二生)は福井縣人代議士添田敬一郎に同五(同三三、一〇生)は東京市四谷區東信濃町二八電四谷五三五九)

**西原 久壽英** 正五位勳四等、海軍豫備隊少佐  
 通信局技師兼地方海員審判所審判官、熊本通信局勤務、高知縣士族  
 安政三、八生、高知、士、津唯六長女  
 君は東京府人先代包章の長男にして明治十三年一月十日を以て生れ大正五年家督を相続す現三菱銀行參事本店營業部副長たり家族は尙弟純助(明一五、一一生)同妻カ(同二二、四生、廣島、楠三保吉妹)及其養子弟三(明二二、五生)同妻八重(同三〇、四生、秋田、川井敏妹)及其四子ありA四七二(東京市中野區小瀧町四八電中野三三三)

**西野 五兵衛** 家主  
 大阪府在籍  
 妻 ハル 明一四、三生、大阪、北村善太郎妹  
 養子 利夫 明四三、四生、弟種次郎二男  
 君は大阪府人先代五兵衛の長男にして明治十年九月を以て生れ大正七年家督を相続す同十一年に至り前名千太郎を改め五兵衛を襲名す家主たり家族は尙妹ヨネ(明二〇、一一生)あり弟種次郎(明一三、二生)同妻つるる(同一六、四生、兵庫、岩田伊之介二女)は其二子を伴ひ分家せりA一三一五(大阪市此花區江成町一〇一電土佐通六一六)  
 參照||※十石伊兵衛の項

**西野 守藏** 小田原急行鐵道取締役、石炭並飛行機材料商、兵庫縣在籍  
 妻 眞 明二二、三生、兵庫、藤井誠一姉  
 養子 治 大元、九生、東京帝大在學  
 君は兵庫縣人西野次平の三男にして明治十年五月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十四年中央大學を卒業し石炭並に飛行機材料商を營み傍ら小田原急行鐵道會社取締役たり家族は尙二女清子(六一、一〇生)ありA六一八(兵庫縣武庫郡御影町篠塚一三六六電御影五〇二六)

**西林 幹助** 三菱銀行參事、本店營業部副長  
 東京府在籍  
 妻 上 安政五、一一生、東京、山崎啓之助長女  
 母 明二〇、二生、群馬、屋代武記長女  
 養子 敬助 明四〇、一一生  
 妻 久美 大三、一一生、長男敬助妻、三重、柴山藏雄四女

**西原 清次郎** 家主  
 大阪府在籍  
 妻 臺 明二〇、四生、大阪、泉仁三郎妹  
 男 順次郎 明四四、四生  
 君は大阪府人先代清次郎の二男にして明治十五年十一月を以て生れ同二十六年家督を相続し現名して前名順藏を改む同三十七年大阪高等商業學校を卒業し爾來貸家業を營み今日に至る家族は尙三男恒三郎(大五、四生)四男慶(同六、四生)あり姉ツネ(明三三、二二生)は大阪府人田中平三郎に嫁し養姪喜代(大九、二生、亡妹ハル養子、大阪、田中定次郎三女)は京都府人松尾與三妻八重の養子となりA一三八三(大阪府西區江戶堀下通一ノ五六電土佐通一七三七)  
 參照||泉仁三郎、田中定次郎の項

**西原 利夫** 正五位勳四等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務  
 京都府在籍  
 君は京都府人にして明治二十七年三月二十一日を以て生れる大正七年京都帝國大學工學部機械工學科を卒業し同大學助教に任じ同十二年獨逸米瑞各國に留學し歸朝後京都帝國大學教授に任ぜられ現に工學部勤務たり兼に工學博士の學位を受く(京都市左京區下鴨宮崎町電上三三九九)

**西原 連三** 東京起業、第一火災保險各務取締役、蘆原縣在籍  
 妻 アイ 明二四、四生、貴族院議員太田清二女  
 男 宏 大一五、二生  
 君は福岡縣人西原東三の六男にして明治二十二年四月を以て生れ大正十年兄藤三郎方より分れて一家を創立す同四年京都帝國大學文科大學哲學科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女恭子(六一、二二生)ありA一三九二(東京市澁谷區松濤町八二電青山七七二四)

**西原 廉之助** 豊崎伸彌所務常務取締役  
 福岡縣在籍  
 妻 きみ 明一六、三生、静岡、士、岡本功妹  
 男 清 明三八、二生、工學士  
 婦 ミドリ 明四一、八生、長男清妻、福岡渡邊俊雄長女  
 男 直 明四五、四生、大藏省勤務、法學士  
 男 重 大三、一一生

**西原 茂太郎** 正四位勳二等功四級、陸軍中將  
 福岡縣士族  
 妻 道 明八、二生、東京、士、藤堂景三女  
 男 勇 明三一、六生  
 婦 惠 明三六、六生、長男勇妻、岡山、溝口定五郎二女  
 男 勝 明三七、一〇生  
 婦 タキ子 明四一、一一生、二男勝妻、江頭辰次二女  
 男 誠 明四三、七生  
 女 正 大三、九生  
 君は福岡縣士族西原廉一郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同十三年家督を相続す同二十六年陸軍士官學校を卒業し同二十七年陸軍工兵少尉に任じ果進して陸軍中將に陞る其間陸軍砲工學校教官工兵第七團第十七四團第十八大隊長陸軍士官學校教官陸軍電信隊長陸軍技術審査部議員對馬要塞司令官第十三師團司令部附等に歴補し現時豫備役編入被仰付家族は尙孫義(昭二、四生、長男勇長女)同明(同四、三生、同長男)あり長女秀(明三五、七生)は長野縣人金井滿に嫁し弟廉之助(同九、五生)は分家せり(福岡市谷邊池六四五電五八三七)  
 參照||西原廉之助、岡本功の項

**西原 秀次郎** 西原商店代表取締役、洋服商  
 愛媛縣在籍  
 妻 安江 明二二、八生、愛媛、宮崎増二妹  
 男 邦 明四三、三生  
 君は愛媛縣人先代喜作の長男にして明治十七年九月を以て生れ昭和三年家督を相続す洋服商を營み西原商店代表取締役たり家族は尙長女壽美子(六一、八生)二男昭三(昭三、九生)二女輝子(同五、五生)ありA一四六(大阪府東區内本町一ノ一洋服會館電二三五六)

**西原 廉之助** 豊崎伸彌所務常務取締役  
 福岡縣在籍  
 妻 きみ 明一六、三生、静岡、士、岡本功妹  
 男 清 明三八、二生、工學士  
 婦 ミドリ 明四一、八生、長男清妻、福岡渡邊俊雄長女  
 男 直 明四五、四生、大藏省勤務、法學士  
 男 重 大三、一一生

**西原 廉之助** 豊崎伸彌所務常務取締役  
 福岡縣在籍  
 妻 きみ 明一六、三生、静岡、士、岡本功妹  
 男 清 明三八、二生、工學士  
 婦 ミドリ 明四一、八生、長男清妻、福岡渡邊俊雄長女  
 男 直 明四五、四生、大藏省勤務、法學士  
 男 重 大三、一一生

**西原 雄次郎** 大日本製糖株式會社庶務課長  
 福岡縣在籍  
 妻 ミツヨ 明二五、二生、福岡、中川親太郎長女  
 君は福岡縣士族西原廉一郎の二男にして明治九年五月十八日を以て生れ同三十七年兄茂太郎方より分れて一家を創立す現に前記會社の重役たり三男法學士孝廉(明四一、四生)は他家の養子となりA二五二(兵庫縣武庫郡鳴尾村電西宮二五八四)  
 參照||岡本功、西原茂太郎の項

**西原 廉之助** 豊崎伸彌所務常務取締役  
 福岡縣在籍  
 妻 きみ 明一六、三生、静岡、士、岡本功妹  
 男 清 明三八、二生、工學士  
 婦 ミドリ 明四一、八生、長男清妻、福岡渡邊俊雄長女  
 男 直 明四五、四生、大藏省勤務、法學士  
 男 重 大三、一一生

**西原 廉之助** 豊崎伸彌所務常務取締役  
 福岡縣在籍  
 妻 きみ 明一六、三生、静岡、士、岡本功妹  
 男 清 明三八、二生、工學士  
 婦 ミドリ 明四一、八生、長男清妻、福岡渡邊俊雄長女  
 男 直 明四五、四生、大藏省勤務、法學士  
 男 重 大三、一一生

**西原 廉之助** 豊崎伸彌所務常務取締役  
 福岡縣在籍  
 妻 きみ 明一六、三生、静岡、士、岡本功妹  
 男 清 明三八、二生、工學士  
 婦 ミドリ 明四一、八生、長男清妻、福岡渡邊俊雄長女  
 男 直 明四五、四生、大藏省勤務、法學士  
 男 重 大三、一一生





西村伊亮

滋賀縣多額納税者、織物問屋兼
滋賀縣在籍
妻 多美野 明二〇、一生、滋賀、山口萬藏長
女 大三、二生、慶大豫科在學
男 明四、五、七生

西村伊藏

大阪府在籍
妻 クリエ 明九、一〇生、奈良、奥山勇二女
男 善司 明四三、三三
女 いさほ 明四四、三三、二男善司妻、奈良
中谷市治郎三女

西村伊之助

茶商
妻 カヤ 明一五、五生、京都、川村久右衛門長女
男 兵藏 明三三、一生
女 みか 明三八、一生、京都、吉井龜太郎長女

西村市之助

織物業
妻 慶應二、一〇生、京都、文字重兵衛長女

西村伊

君は滋賀縣西村伊助の二男にして明治七年二月十二日
を以て生れ同十五年家督を相続す夙に東京法學院に入
り法律學を學び大正四年近江米取引所理事長に就任同
九年衆議院議員に當選し昭和六年新報社社長に下賜せら
る現時綿布蚊帳等の卸問屋たり家族は尙二男(大五、
二生)ありA三六二(滋賀縣愛知郡八木莊村)

西村卯

君は鳥取縣土佐西村佐司衛の長男にして明治十六年六
月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十三年東京
帝國大學法科大學獨法科を卒業し大正元年檢察事に任
じ爾來東京區東區地方長野區東區地方伊那縣新設田區宇
都宮地方東區地方長野縣地方東區地方各裁判所檢察
東京名古屋各控訴院檢察事に歷補し現時山形地方裁判所
檢察正たり家族は尙三男三女(大六、一〇、九生)五女(大
二、一〇、一四、一四、一四)六女(大七、一〇、一〇、一〇、
一〇)及其一女あり三女(大六、一〇、一〇)は外祖母金
田の養子となれり(山形市旅籠町電山形一〇四)

西村勝太郎

君は大阪府人西村伊三郎の長男にして明治十八年二月
を以て生れ大正五年家督を相続す夙に住友銀行に入り
爾來累進して同行立賣支店支店配人たりしが大正十五
年之を辭し歐米に留學昭和二年歸朝し野村銀行に入り
調査役となり同三年取締役同八年常務取締役に累進し
同九年其保生命保險の主權を野村合名會社に移るや其
事務取締役に擧げられ兼て野村取締役たり家族は
尙三男三女(大六、一〇、一〇)四男四女(同三、四、四、五
男五男(同五、六、六)六男(同五、九)三女(同三、四、五)

西村吉兵衛

東京商工會議所議員、昭和青果糖
社長、臺灣青果糖取締役、西吉商
店、果物商、東京府在籍
妻 ツル 元治元、八生、東京、鈴木清造妻
女 明二五、二生、茨城、各員恒一郎
弟 明三二、一生、養子諸妻、茨城、
岡野定吉長女

西村金三郎

同志社財測委員
妻 コウ 明一九、四生、京都、榎並治兵衛
長女、京都府立第一高女出身
女 初子 明三三、九生、長女初子夫、東京、
勤務、工學士
明四四、八生、養子勝妻、同志社
身 高女及京都府立第一高女政科出
身

西村圭太郎

藤田銀行、藤田製菓、神島人造肥
料、梅田製糖所、伊奈商會、豊
崎伸調所各監査役、藤田組監査
父 文久三、六生、現戸主
男 利夫 大一〇、二生

西村啓一

電氣化學工業會社員
妻 喜代 明一八、三三、齋藤十郎長女
母 明四四、一生、東京、加藤源男妹

西村敬三

從四位勳五等、男爵、陸軍歩兵大
佐、近衛師團司令部附、東京文理
大學兼東京高等師範學校服務
母 ナドリ 明二、二生、山口、士、福永得
三長女
妻 壽美子 明三九、八生、東京、士、莊清次
女 朝子 大五、五生
女 美喜子 大八、一一生

西村規矩藏

安田銀行上諏訪支店長
妻 千代 明三一、一生、東京、山口寛長女
女 大一一、二生

西村喜兵衛

君は滋賀縣人西村喜兵衛の二男にして明治十五年二月
十五日を以て生れ先代喜兵衛の養子となり同十八年家
督を相続し前記喜藏を改め姓名す折屋と稱し質商を營
む家族は尙二男(大七、一〇)三女(大七、一〇)三女(同
一五、一〇)ありA一三六B一三五(大阪府東區玉造
町四〇八電東三五八五)

西村吉右衛門

千吉商店社長
妻 麻江 明二三、一生、京都、森島清右衛門長女
女 大治郎 大七、一生、京都府立一中在學
男 智吉 大七、八生、京都府立高女出身

西村健

安田銀行藤前支店長
妻 つな 明三三、二生、埼玉、大河内平太郎妹
女 泰 明二五、二生

西村小次郎

釜石鐵山、三井鐵山各常務取締
役、日本製鐵監査役
妻 格也 明一八、三三、福井、仙石亮二女
女 小佐尾 大二、一一生

二之部 西(村)

(※印は姻族關係)

女 多崎子 大田、六生
君は福岡縣人西村吉六の長男にして明治七年九月を以て生れ大正十年家督を相續す...

西村 五雲
從六位、帝國美術院會員、京都市立繪畫專門學校教授、西村善主、日本畫家、京都市在籍

西村 三治郎
西陣帶地商、京都市在籍
君は滋賀縣人先代三治郎の長男にして明治三十五年二月一日を以て生れ昭和三年家督を相續し...

西村 四郎
東京醸造廠取締役、上毛電氣鐵道監査役、東京府土族
君は京都市人西村源七の二男にして明治十年十一月を以て生れ先代ヤエの養子となり...

男 治雄 明四一、四生
君は舊姫路藩西村久次平の三男にして明治四年六月を以て生れ同四十二年家督を相續す...

西村 茂生
正五位、衆議院議員(山口縣選出)
君は山口縣人西村來助の長男にして明治十八年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す...

西村 潤藏
漢語タラシ自動車專務取締役
君は神奈川縣人西村喜三郎の弟にして明治十三年六月を以て生れ同十九年分れて一家を創立す...

西村 丹治郎
正五位勳二等、衆議院議員(岡山縣選出)
君は岡山縣人坂野友太郎の弟にして慶應二年十月を以て生れ西村鶴太郎の養子となり...

西村 眞次
文學博士、早稻田大學講師
君は三重縣人にして明治十二年三月三十日を以て生れる同三十八年早稻田大學國語漢文及漢文學科を卒業し...

西村 齊次郎
櫻商會代表取締役、大丸、木浦鐵山、東洋鐵山、東洋化學工業各取締役、日本書齋監査役
君は京都市人西村治兵衛の弟にして明治二十三年十二月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す...

西村 常吉
土木建築請負業
君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治九年三月十日を以て生れ先代留吉の養子となり...

西村總左衛門
京都府多額納稅者、千切屋、千總本店、友仙製造並吳服商
君は越前の儒にして勤王の志士として知られたる三國齋の三男にして安政二年五月を以て生れ先々代總右衛門の養子となり...

西村總太郎
西村貿易店社長、千總商店、織物貿易商、京都府在籍
君は京都市人西村勝三の長男にして明治二十一年十一月一日を以て生れ同四十四年西村總左衛門の養子となり...

西村太郎助
同志社大學高等商業部助教
君は大坂府人先代太郎助の長男にして明治三十二年十一月三十日を以て生れ昭和四年家督を相續し...

西村 直
陸軍砲兵中尉、西村同業社社長、日本皮革、品川煉瓦各取締役
君は東京府人西村勝三の長男にして明治二十一年十一月一日を以て生れ同四十年家督を相續す...

西村 猶吉
吳服商
君は大阪府人西村直七の二男にして明治十年一月二十日を以て生れ同三十九年兄猶三郎方より分れて一家を創立す...

西村 憲臣
共榮商會專務取締役、日東石鹼取締役、合同油脂專賣
君は大阪府人西村直七の二男にして明治十年一月二十日を以て生れ同三十九年兄猶三郎方より分れて一家を創立す...

二之部 西(村)

(※印は姻族關係)

西村 常吉
土木建築請負業
君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治九年三月十日を以て生れ先代留吉の養子となり...

西村 常吉
土木建築請負業
君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治九年三月十日を以て生れ先代留吉の養子となり...

西村 常吉
土木建築請負業
君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治九年三月十日を以て生れ先代留吉の養子となり...

西村 常吉
土木建築請負業
君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治九年三月十日を以て生れ先代留吉の養子となり...

西村 常吉
土木建築請負業
君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治九年三月十日を以て生れ先代留吉の養子となり...

君は京都府人西村彦四郎の長男にして明治十二年十月を以て生れ同三十八年家督を相続す同三十九年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し一時司法官たりしが退官後北海道拓殖銀行に入り更に同四十二年京都電燈會社に轉じ同社會計營業各課長及支配人となり尋で大正五年日本グリーン工業會社の創立に當りや支配人兼營業部長として入社し専ら同社經營の衝に當る同十二年同業會社の併合統一に當り努力し合同油脂グリセリン會社を創立し推されて常務取締役に就任昭和二年以來取締役兼營業部長として社會的發展向上に盡す同六年同社取締役を辭任し參與として今日に及ぶ其の間大阪レコード石鹼會社を創立して其社長となり東京硬脂會社東京レコード石鹼會社重役たりし事あり又大正九年日東石鹼會社を創立し現時其取締役たる外前記諸會社の重役を兼ね讀書撞球各種運動競技に趣味を有す家族は尙正己二男(大六、一、生、大阪商大豫科在學)あり父彦四郎(天保九、一〇生)母たけ(嘉永四、六一生)同妻おき(同新三、一〇生)高七次郎長女)及其二男を伴ひ分家し長女俊子(同四〇、一〇生)金蘭會高女出身)は香川縣人阪神急行電氣會社運輸課主任慶大出身中西豊に二女敦子(同四二、一、生)金蘭會高女出身)は愛媛縣人京都帝國大學大學院在學醫學士矢野寛一に嫁せりA三五〇(西宮市荒成町電一三六)

**西村彦兵衛** 象彦漆器店代表社員  
京都府在籍  
父 彦太郎 元治元、一、生  
妻 ハナ子 明二三、三、生、長崎、志波鷹治養

君は京都府人先代彦兵衛の長男にして明治二十年三月を以て生れ大正十三年家督を相続し前名亮造を改め號名十象彦と稱し漆器商を營み其代表社員たり其に京都漆器同業組合長京都工藝品聯合會長の職に在り家族は尙二女慶子(大二三、一、生)弟辰造(明二八、二、生)同妻フク(同三四、八、生)京都、八代三太郎二女)及其子女弟仙之助(同三四、六、生)同妻藏(同三七、七、生)あり(京都府左京區岡崎町疏水二條上ル電上三三三四)

**西村久之** 長崎縣議員、長崎縣多額納稅者  
長崎縣土族  
妻 母トメ 明一〇、一、生、長崎、西村岩之助  
男 力 大六、四、生  
女 マサ子 大六、一、生

君は長崎縣土族幸田久誠の二男にして明治二十六年九月を以て生れ先代力之助の養子となり大正九年家督を相続す漁業を營み西村漁業會社代表社員にして縣下の多額納稅者に列し長崎縣會議員たる事三期現に其職にあり長崎縣參事會に推され五島汽船運輸會社社長崎縣農工銀行各重役たりし事あり家族は尙二男(大九、一、生)二女愛子(同一一、四、生)あり養姉チエ(明二二、六、生)長崎、貞方幸次郎長女)は長崎縣人木場徳三に嫁し養妹シツエ(同三一、六、生)長崎、西村正輔三女)同夫良民同二九、八、生、長崎、荒木良平二男)は其一子を伴ひ分家せりA二五〇〇(長崎市上筑後町一九電四一六三〇)

**西村博隆** 不動貯金銀行監査部長  
京都府在籍  
妻 キヤ 明二五、一、生、長崎、入江謙一  
男 公成 昭五、三、生

**西村福治** 鐵管鋼管商  
大阪府在籍  
妻 岩子 明二八、一、二、生、兵庫、大西益造  
男 祐一 大一一、八、生

君は兵庫縣人西村福五郎の三男にして明治二十四年七月十一日を以て生れ大正七年兄伸次郎方より分れて一家を創立す鐵管鋼管商として知らる家族は尙長女澄(大一一、六、生)二男英二(同一一、八、生)三男謙(昭三、三、生)四男隆之(同四四、一〇、生)ありA一〇三七八五九(大正市西區新町南通五〇、一六電四四七五七八・二)

**西村福松** 文具卸商  
大阪府在籍  
妻 きぬ 明二四、一、二、生、愛知、不破久兵衛  
男 見太郎 大元、九、生  
養子 善松 明三九、一、生、長女あき夫、愛知近藤左衛門二男  
女 あき 明四〇、一、一、生、養子善松妻  
女 君子 大三、九、生

君は愛知縣人西村嘉市の二男にして明治十五年八月十七日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す文具卸商を營む家族は尙三女静子(大九、一、生)四男徳三郎(同二五、一、生)孫武一(昭三、五、生)養子善松長男)同敏子(同七、二、生)同長女ありA一五〇B一〇一〇(大阪府東區南久寶寺町一ノ八電四四三二七)

**西村平三郎** 河幸分店、黄金屬小問物商  
大阪府在籍  
妻 しん 明二四、一、一、生、東京、鮫島新造  
男 信藏 明四三、一、一、生  
男 富次郎 大二、二、生

君は大阪府人西村平藏の二男にして明治十三年七月十四日を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す河幸分店と稱し黄金屬小問物商を營む家族は尙三男泰助(大五、六、生)四男平太郎(同七、一、生)ありA六四七(大阪府南區笠屋町二三ノ甲電四四二五六)

**西村甫太郎** 正五位勳五等、判事、熊本地方裁判所部長、宮崎縣在籍  
父 文 萬延元、一〇、生、現戸主  
母 ユウ 元治元、一〇、生、宮崎、渡邊喜次  
妻 充 明二六、九、生、宮崎、河野勢藏二  
男 法 大一一、三、三、生  
女 美妙 大四、三、三、生

君は宮崎縣人西村文の長男にして明治十四年七月を以て生れる同四十年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し陸軍省理事補同理事を経て大正三年判事に任じ爾來熊本區同地方山鹿區同區同地方吉井區各裁判所判事

那覇地方裁判所部長延岡區裁判所判事兼宮崎地方延岡支部判事佐賀地方宮崎地方各裁判所部長に歴補し現に熊本地方裁判所部長たり家族は尙弟美樹(明二二、二、生)同妻富榮(同二四、二、生)京都、森村廣太郎長女)及其子女の外妹命(大五、一〇、生)同妻(同八、二、生)あり(熊本市熊本地方裁判所内)

**西村道彦** 朝鮮興業監査役  
東京府在籍  
男 英彦 明四三、三、生  
婦 代子 大二、一、生、東京、堀部治三郎長

君は奈良縣人深井高義の二男にして明治六年七月を以て生れる京に東京帝國大學法科大學法科を卒業し先代しなの入夫となり明治三十三年家督を相続す第一銀行取締役に就任し現時朝鮮興業監査役たり家族は尙孫松彦(昭八、一、生)三男英彦長男)あり長女仁子(明三三、九、生)は福岡縣人榮茂三郎四男正人に嫁し二女愛子(明三六、一、一、生)は絶家中山氏再興の爲分家し四男朝彦(大五、一〇、生)は東京府人田村忠之助の養子となれりA七九六(東京府小石川區江戸町一五電小石川二四六三)

**西村宗直** 關興業  
大阪府在籍  
妻 はる 明三三、一、生、東京、錦木鐘太郎  
男 清 大一一、四、生

君は東京府人西村金藏の長男にして明治二十七年十月二十八日を以て生れ大正十三年家督を相続す關興業を營む家族は尙二男晴夫(一四、九、生)三男芳雄(昭四、八、生)弟治國(明三五、一、一、生)ありA五〇五(東京府品川區大井庚塚町四七八六電大森二七三〇)

**西村彌三郎** 京都府在籍  
妻 ハツ 明二五、七、生、京都、柴田鶴吉長  
男 圭一 大一一、八、生  
女 一榮 大元、一、一、生、京都府立第一高女出身  
女 ミネ子 大三、一、二、生、京都府立第一高女出身

君は京都府人先代彌左衛門の長男にして明治十七年十月二十日を以て生れ同三十八年家督を相続す家主たり家族は尙六女トミ子(昭三、一、二、生)兄金次郎(安政四、四、生)姉こう(文久二、一、一、生)あり五女ヨシ(大一一、四、生)は京都府人小野吉太郎に嫁せりA四八七(京都府上京區宮町通鞍馬口下ル電本局一六四)

**西村保吉** 伊達侯爵家顧問、維新史料編纂會委員、東京府土族  
妻 タメ 慶應三三、生、愛媛、増田尚平長女  
君は愛媛縣土族先代西村景信の長男にして慶應元年六月二十一日を以て生れ明治十七年家督を相続す現時伊達家顧問に列し維新史料編纂會委員たり長女惠美(明二五、二、生)は北海道土族農學博士高橋榮治郎に三女喜美(同三七、二、生)は長野縣人永井喜太郎二男影一に嫁せりA三四九(東京府品川區宮下町二二電青山六六二八)参照||高橋榮治の項

**西村與兵衛** 日本絹織、内外紡績各取締役、八日市鐵道監査役、西村代表社員、滋賀縣在籍  
妻 みち 衛門妹  
女 たみ 明四五、四、生、實踐女學校出身  
女 ふさ 大三、九、生、山陽高女出身  
君は滋賀縣人先代與兵衛の二男にして明治十七年一月八日を以て生れ大正六年家督を相続し前名淺治郎を改め號名す現時前記會社の重役に列して西村商店社長たり家族は尙三女みよ(大一一、〇、九、生)山陽高女在學)あり妹ふじ(明三二、一、二、生)は滋賀縣人小杉佐右衛門養子文五郎に同(同二七、六、生)は同縣人西山喜太郎に同定(同三〇、一、一、生)は同縣人西村健次郎に嫁し弟與助(同二四、四、一、一、生)は分家せり(東京府品川區信濃町二八電四四三三八)参照||小杉佐右衛門の項

**西村芳次郎** 大海上町聯合販賣店、近江絹織紡績各取締役、毎日新聞鋪監査役、滋賀縣土族  
妻 ミヨ 明八、九、生、滋賀、野崎徳松養女

君は滋賀縣人西村軍八の二男にして明治元年十二月を以て生れ同五年先代士族西村銀次郎の養子となり家督を相続す現時大毎聯合販賣店及前記會社の重役たりA六八八(大阪府東區片江町二〇五電天王寺四二二三)

**西村來藏** 南洋物産社社長、大日本石油、松島遊園各取締役、内外投資監査役、宮崎縣土族  
妻 こまつ 明一八、三、生、宮崎、永野勇吉二女  
男 孝一 明四五、五、生、獨逸協會中學出身  
男 幸雄 明四〇、三、生、滋谷醫院醫員、日本大學醫學科出身  
男 喜男 明四四、四、生、三井生命會社員、經商士  
女 信子 大三一、一、生、成女高女出身  
君は宮崎縣土族三瓶勇佐の弟にして明治九年四月二十八日を以て生れ同三十四年絶家西村氏を再興す南洋物産會社長外前記會社の重役を兼ね義に國際興業朝鮮船渠工業演習メント等の重役たりし事あり(東京府品川區幡ヶ谷笹塚町一〇五三)参照||三瓶勇佐の項

**西村理兵衛** 西村理兵衛商店代表社員、莫大小雜貨卸商、大阪府在籍  
妻 千太郎 明三六、四、生  
男 賢次郎 明四一、二、生  
男 千枝 明四三、九、生、清水谷高女出身  
女 一枝 大二三、四、生  
西村家は天保年間京都より大阪に移りたるに始まり累代吳服雜貨商を營めり君は先代理兵衛の長男にして明治四年十月を以て生れ同三十一年家督を相続し共に號名して前名善次郎を改む父祖の遺業を承けて莫大小雜貨卸商を營み西村理兵衛商店代表社員にして義に大阪府多額納稅者に列す家族は尙五男和郎(大一一、一、生)弟嘉三郎(明二一、五、生)あり妹うた(同八、三、生)同夫元吉(同八、二、生)大阪、村田孫兵衛長男)は共に分家し二女はな(同三三、九、生)樟蔭高女專攻科出身)は東京府人鈴木光愛二男光敬に三女りき(同三九、一、生)出身

身校同上)は大阪府人永井兵之助に嫁せりA一五三〇(大阪市東區本町一ノ八電本町一五五)

西村 力藏

妻 忠一 明二、二生、養父忠助四女  
男 正一 明二、二生、養父忠助四女  
女 正子 大四、九生  
君は滋賀縣人岸川藤吉の二男にして明治二十年五月十七日を以て生れ同十五年先代忠助の養子となり大正六年家督を相続す其地商を營むA四六一B二三〇(東京市日本橋區富澤町七ノ四電漢花四二九)

西村 和平

妻 ちよ 慶應元、八生、滋賀、野上平兵衛  
男 誠介 明二〇、八生、大阪高商出身  
男 正 明二五、一五、二男誠介妻、滋賀  
男 辨造 明二六、七生  
男 千恵 明三三、三女  
君は滋賀縣人西村清の長男にして文久二年七月二日を以て生れ明治十年家督を相続す現時大阪港土地會社取締役大阪製鐵會社監査役に任じて大日電線別府土地各會社の重役たり家族は尙孫登之亮(大四、一〇生、二男誠介二男)同康(同六、三生、同長女)同通(同九、一〇生、同二女)同晴子(同二〇、一〇生、同三女)同淑子(同三三、三三、同四女)同昭子(昭二、七生、同五女)同卓三(同五、五生、同三男)同和代(大一一、五生、四男辨造長女)同章一(同三一、一〇生、同長男)あり三男憲信(明二二、四生)三女しす(同三二、一〇生)は各分家し四女みよ(同三四、一〇生)は大坂府土族金山辰藏に五女まき(同三七、九生)は滋賀縣人山本治に嫁し孫啓子(大九、一〇生、三男憲信長女)は同縣人奥野孝三郎に同享(同二五、一〇生、四男辨造二男)は東京府人鈴木千吉に各養子となれりA一七四七(大阪市住吉區晴明通二ノ五電天下茶屋三三四九)參照||金山辰藏、北村清一郎の項

西邑 清

養母 せつ 嘉永五、九生、京都、奥村正藏二女  
妻 弘子 明一七、一〇生、先々代虎四郎長女  
女 敦子 明四四、七生  
女 弘子 大二、五生  
當家は先華族の出にして代々醫を業とせしが先々代虎四郎に至りて東京に移り三井銀行の創設に携り故中上川彦次郎等と共に同行の柱と稱せられたり君は子爵北小路三郎の兄にして明治十三年一月二十五日を以て生れ同三十九年先代仲の入夫となり家督を相続す同四十年東京帝國大學法科大學法科を卒業し日本興業銀行に勤務せしが後官内省に入り皇宮主事兼式部官を経て皇太后宮事務官兼式部官に任じ會計課長を命ぜられ昭和六年皇太后宮會計課長を免じ皇太后宮職務課長を命ぜられ今日に至る長女恒子(明四〇、一〇生)は侯爵松平康昌に嫁し養弟孝信(同二八、一〇生、東京、萬里小路信三弟)は分家せり(東京市澁谷區松濤町七四電青山五一八四)參照||侯爵松平康昌、子爵北小路三郎の項

西邑 末吉

妻 昌一 大九、九生  
女 千鶴 大六、一〇生  
君は兵庫縣人西邑岩三郎の三男にして明治十三年三月を以て生れ同三十年二分れて一家を創立す現時嘉納合名會社輸出及東部販賣主事たり義に昭酒造會社取締役たりしことあり二女田鶴(明四三、五生)は兵庫縣人野呂辰夫に嫁せりA五一六(兵庫縣式部郡御影町柳八五一電御影四二九〇)參照||横田小人大の項

西邨 知一

妻 良 明三六、八生、岡山、恩徳後完養  
正五位勳五等、通信書記官、郵務局長、兼通信博物館長、大阪府在籍

西本 健次郎

妻 健三 明三三、二生、西本組常務理事、和歌山縣多額納稅者、西本組社長、和歌山銀行、湯崎温泉、和歌山縣在籍、請負業  
男 健三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
男 正三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
君は岐阜縣人松永健次郎の弟にして慶應二年八月を以て生れ明治二十六年先代せきの入夫となり家督を相続す

西本 計三

妻 健三 明三三、二生、西本組常務理事、和歌山縣多額納稅者、西本組社長、和歌山銀行、湯崎温泉、和歌山縣在籍、請負業  
男 健三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
男 正三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
君は香川縣人にして明治二十九年七月十日を以て生る大正九年文官高等試験に合格翌年帝國大學法學部法科を卒業し朝鮮總督府財務局事務官兼向北海道地方課長内務局事務官兼賣場業務課長に任補し昭和八年歐米各國へ出張を命ぜられ現時朝鮮總督府殖産水産局課長たり家族は尙妻かね長男健三長女裕子あり(京城府西小門官舎電光化門九三二)參照||東茂七の項

西本 健次郎

妻 健三 明三三、二生、西本組常務理事、和歌山縣多額納稅者、西本組社長、和歌山銀行、湯崎温泉、和歌山縣在籍、請負業  
男 健三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
男 正三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
君は岡山縣人西森清治の長男にして明治十四年六月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治十四年三月東京帝國大學法科大學法科を卒業し大正四年以來司稅官稅務監督局事務官に任じ其間島取龜戸神田橋各稅務署長仙臺東京各稅務監督局直轄課長たり次て大藏事務官東京稅務監督局稅務監督官直轄課長等を経て昭和五年札幌稅務監督局長に任ぜられ後仙臺稅務監督局長古屋稅務監督局長に轉じ同七年官を退き現時前掲銀行會社の重役たり家族は尙二女晶子(大一一、一〇生)三女芳子(同二四、八生)三男常雄(昭五、四生)四男宜慶(昭八、五生)あり(札幌市南三條西一〇ノ一〇〇三電一七九)

西本 健次郎

妻 健三 明三三、二生、西本組常務理事、和歌山縣多額納稅者、西本組社長、和歌山銀行、湯崎温泉、和歌山縣在籍、請負業  
男 健三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
男 正三 明四一、一〇生、大阪、西本用助十男  
君は岡山縣人西森清治の長男にして明治十四年六月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治十四年三月東京帝國大學法科大學法科を卒業し大正四年以來司稅官稅務監督局事務官に任じ其間島取龜戸神田橋各稅務署長仙臺東京各稅務監督局直轄課長たり次て大藏事務官東京稅務監督局稅務監督官直轄課長等を経て昭和五年札幌稅務監督局長に任ぜられ後仙臺稅務監督局長古屋稅務監督局長に轉じ同七年官を退き現時前掲銀行會社の重役たり家族は尙二女晶子(大一一、一〇生)三女芳子(同二四、八生)三男常雄(昭五、四生)四男宜慶(昭八、五生)あり(札幌市南三條西一〇ノ一〇〇三電一七九)

西山 榮藏

妻 よし 明二四、一〇生、東京、岩崎彌三郎四女  
君は東京府人西山榮藏の長男にして明治十四年二月六日を以て生れ二十年家督を相続し前名信之助を改め養子す資産家として知らるA六九四(東京市麻布區飯倉町二ノ六電飯坂六七〇)

西山 左内

妻 俊夫 明二五、一〇生、養父吾吾長女  
女 加枝子 大七、五生  
君は群馬縣人狩野清八の四男にして明治十五年三月十日を以て生れ先代省吾の養子となり大正七年家督を相続す明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試験に合格大正二年司稅官となり稅關事務官同參事官に任じ關東廳財務局長兼關東廳事務官に任ぜられ昭和八年滿洲電信電話會社監査役となり監事に擧げらるる家族は尙二男幹夫(大一一、八

西本 清吉

妻 ヒサヨ 明二四、五生、廣島、澤田甚之助二女、山中高女出身  
君は廣島縣先代清吉の長男にして明治十六年五月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清夫を改め養子す現時西本商店取締役の外前記會社の重役たり家族は尙養子美智子(大一一、一〇生、東京、西本淺男姓)弟清司(明三〇、三三)同妻綾子(同三八、三三、廣島、林森藏妹)あり弟清人(同二二、六生、同妻シヅメ(同二七、一〇生、廣島、熊谷孝兵衛長女)は其子女を伴ひ分家し弟清三(同二四、一〇生)は東京府人西本淺太郎の養子となり妹ミサヲ(同二七、八生、縣立廣島高女出身)は廣島縣人農學博士横田小人大の項

西本 辰之助

妻 初枝 明二五、一〇生、和歌山、山田常太郎二女、和歌山高女出身  
君は和歌山縣人西本虎之助の長男にして明治十七年二月二十一日を以て生れ後家督を相続す同四十年慶應義塾大學法律學科を卒業し翌年同大學部豫科教員となり同四十四年より大正二年に至る間獨逸に留學す歸朝後同大學部法律學科教授に進み同九年法學部教授となり現時經濟學部高等部各教授を兼ね法學部長たり大正十五年「株式會社發起人論」株式引受の性質を提出して法學博士の學位を受く著書に「商法總論」「會社法」あり同書に興味を有す家族は尙二女文男(大四年生、慶應義塾普通部在學)ありA二五一(東京市品川區東大崎三ノ一八二電高輪七四一)

西森 飲太郎

從四位勳四等、北海道拓殖銀行監査役、旭川電氣軌道、北海道土地各縣監査役、岡山縣在籍

西本 次郎

妻 照夫 明四〇、一〇生、兵庫、立花和三三男  
君は兵庫縣人立花庄三郎の三男にして明治九年三月十七日を以て生れ同三十三年先代淺右衛門の養子となり同三十八年家督を相続す現時神戸土地會社監査役たりA六二〇(神戸市林田區宮川二ノ三〇電漢川一三四〇)

生)あり養妹トモ(明二六、一二生)は兵庫縣人山本厚藏に嫁せり(大連市神町六二電二二八〇六)

西山 茂

正四位勳四等、北海道廳部長、内務部長、福岡縣在籍  
妻 明一八、一一生、福岡、土、田尻  
男 彰 大五、八生  
女 常子 明四二、一一生

君は福岡縣人西山其作の長男にして明治十二年七月三十一日を以て生れ大正九年家督を相続す明治四十三年文官高等試験に合格翌年京都帝國大學法科大學選科を修了し高等學校卒業學力檢定試験に合格京都帝國大學法科大學に入り次で同大學を卒業す爾來關東都府廳同警視廳事務官旅順民政署長關東廳警視廳事務官兼奉天警察署長等に任補し昭和二年歐米各國に出張し歸朝後警務局長兼警務官練習所主任旅順民政署長を経て昭和五年北海道廳部長に任じ土木部長となり轉じて内務部長となり現時に及ぶ家族は尙二男鐵哉(大一一〇、七生)あり(札幌市北二條西四丁目官舎電八八)

西山 實彌

大洲銀行取締役、愛媛鐵道監査役、製糖業、愛媛縣在籍  
妻 安政五、七生  
男 明一四、二生、愛媛、上田誠一郎  
女 美 明三二、八生、長女梅子夫、愛媛  
梅子 上田謙吉五男、伊豫電氣鐵道會社員、經濟學士  
明三四、一一生、養子美年妻、大洲  
梅子 高女出身

君は愛媛縣人梅田長五郎の三男にして慶應三年二月二十三日を以て生れ先代キタの養子となり明治二十八年家督を相続す製糖業を営み傍ら前記銀行會社の重役を兼ねて白濁製糖會社代表社員たり家族は尙四女一男(昭六、五生)五男安彦(同九、五生)孫友枝(大一一、四生)、養子美年妻(昭四、六生、同三女)あり(愛媛縣喜多郡大洲町)  
參照上田謙吉の項

西山庄太郎

東京市淺草區會議員、越後屋、乾物商、東京府在籍  
母 喜代 大九、九生  
女 久 大四、九生

西山 信一

肥前電氣、平戸電燈製米各務社長、九州送電、早榮土地、九州鐵道、九州送電、早榮土地各務取締役、福岡縣在籍  
妻 信太郎 明二七、四生、佐賀、原田久八五女  
男 富美子 大五、三生、早大在學  
女 大六、九生、福岡縣立筑紫高女出身

西山 翠璋

從五位勳六等、帝國美術展覽會委員、京都市立繪畫專門學校校長兼教授、京都市立美術工藝學校校長、青甲社主、京都府在籍  
妻 テキ 明一五、九生、京都、竹内龜次郎  
女 綾子 大六、一一生

君は京都府人西山政次郎の三男にして明治十二年四月二日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す夙に竹内栖鳳に師事し文展帝展に出品特選及三等賞を受くる

西脇 健治

西脇銀行、三光紡績、日本硫黃、太陽生命保險各務取締役、富山紡績總監査役、西脇代表社員、東京府在籍  
妻 淑子 明二三、一一生、伯爵酒井忠良長女  
男 昌治 大四、一一生、學習院高等科在學

西脇 源二

東京府在籍  
妻 てい 明一六、四生、古右衛門養子、東  
男 龍雄 明四二、五生

君は東京府人渡邊由太郎の二男にして明治十六年二月を以て生れ同十四年分れて入夫家督を相続す菊屋と稱し洋服製紗商を営む家族は尙二女美恵子(大九、六生)あり長女敏子(大元、九生)は東京府人宮嶋とらの養子となれりA五六三B二三〇(東京市神田區岩本町七電源花二七〇)

西脇 濟三郎

新瀉縣多額納稅者、西脇銀行、生氣製糖、土石炭、太陽生命保險各務取締役、日本製糖、警備電氣、日本石油各務取締役、三光紡績、日興證券各務取締役、西脇代表社員、農業、新瀉縣在籍  
妻 久子 明一三、七生、新潟、燕木八郎右衛門長女  
男 孝三郎 明四五、四生  
女 菊子 大四、一一生

西山 太郎吉

兵庫縣在籍  
妻 はる 明三三、二生  
男 孝太郎 明三三、二生  
女 シツエ 明四〇、六生、長男孝太郎妻、大  
たね 明二七、七生、福本仁兵衛二女

西山 勉

高知縣在籍  
父 秀二 文久二、一一生、現戶主  
母 茂猪 明四、四生、高知、土、吉村嘉久  
妻 澄 明三三、一〇生、山形、土、寺島  
成信二女、三輪田高女出身

君は高知縣人西山秀二の長男にして明治十八年四月を以て生れる同四〇年東京高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り香港支店長廣東出張所主任爲替課長同行大連神戸各支店支配人等を経て現時銀行支店支配人たり家族は尙長女道子(大九、一一生)二女美子(同二〇、三三)弟昇(明二八、一〇生)同妻キキ(同三九、七生、香川、多田武妹)及其三子あり妹綾子(同三八、六生)は東京府人並木剛夫に嫁せりA一二四〇(紐育ブロードウェイ街一二〇)横濱正金銀行支店(留守宅)神戸市神戶區中山手通六ノ八一電元町八四四)  
參照上田謙吉の項

西山 祐造

東京市蒲田區會議員、地主  
父 庄太郎 文久二、九生

西脇 庄五郎

東京府在籍  
妻 まさ 明二六、一一生、新潟、小林甚太  
女 明四一、九生、新潟、島山平治二

西脇 新次郎

西脇商店専務取締役、越後札紙中野醸造各務取締役、新潟縣在籍  
妻 眞澄 明三〇、一一生、長男亮三郎妻、  
男 洋三郎 明四一、四生  
女 知 大二、八生

西脇 新次郎

西脇商店専務取締役、越後札紙中野醸造各務取締役、新潟縣在籍  
妻 眞澄 明三〇、一一生、長男亮三郎妻、  
男 洋三郎 明四一、四生  
女 知 大二、八生

西四辻 公堯

從三位勳三等、子爵、陸軍少將、貴族院議員、舊公卿家  
妻 數子 明一七、九生、東京、土、蘭廣齋  
男 公利 明四〇、七生、從五位  
女 美枝子 明四三、二生、長男公利妻、伯爵  
酒井忠良長女

當家は藤原鎌足の支裔權大納言四辻公亨の男左近衛權中將公碩の後なり公碩別一家を立て西四辻と稱す夫れより二代を経て先々代公業に至り王事に勤勞し明治十七年子爵を授けらる君實は子爵小倉義季の叔父にして明治十一年八月九日を以て生れ先代公照の養子となり同十四年家督を相続し勳爵に任じ同少將に累進し昭和四年豫備役に編入せらる其間本郷警備隊司令官歩兵第六十聯隊同第七十六聯隊の各大隊長朝鮮軍司令部付等に歴補し昭和七年貴族院議員に當選す家族は尙三男公敬(大五、七生)四男公裕(同八、四生)五男公敏(同二一、一一生)六男公雄(同二四、七生)孫美智子(昭八、一〇生)は熊本縣人川本邦雄に二女彌榮子(同四四、一〇生)は長野縣人工學博士陸軍中將武田三郎長男久米彦に嫁せり(京都市左京區下鴨中川原町九一電上四二四四)

參照伯爵酒井忠良、子爵小倉義季、武田三郎公爵一條實孝男爵北大路實信の項

西脇 健治

西脇銀行、三光紡績、日本硫黃、太陽生命保險各務取締役、富山紡績總監査役、西脇代表社員、東京府在籍  
妻 淑子 明二三、一一生、伯爵酒井忠良長女  
男 昌治 大四、一一生、學習院高等科在學

西脇 源二

東京府在籍  
妻 てい 明一六、四生、古右衛門養子、東  
男 龍雄 明四二、五生

君は東京府人渡邊由太郎の二男にして明治十六年二月を以て生れ同十四年分れて入夫家督を相続す菊屋と稱し洋服製紗商を営む家族は尙二女美恵子(大九、六生)あり長女敏子(大元、九生)は東京府人宮嶋とらの養子となれりA五六三B二三〇(東京市神田區岩本町七電源花二七〇)

西脇 濟三郎

新瀉縣多額納稅者、西脇銀行、生氣製糖、土石炭、太陽生命保險各務取締役、日本製糖、警備電氣、日本石油各務取締役、三光紡績、日興證券各務取締役、西脇代表社員、農業、新瀉縣在籍  
妻 久子 明一三、七生、新潟、燕木八郎右衛門長女  
男 孝三郎 明四五、四生  
女 菊子 大四、一一生

二之部 西(臨)錦、蠶、若

(※印は姻族關係)

君は新潟縣人先代新次郎の長男にして明治二年七月二十九日を以て生れ同十二年家督を相続し前名文三郎を改め現時前記會社の重役たりし事あり家族千谷銀行太陽生命保險會社の重役たりし事あり家族は向孫基三郎(六一三、一三二生、長男亮三郎長男)同祐之助(昭五、二生、同二男)叔母タイ(文久三、六生)あり長女頼(明三三、六生)は東京府人吉澤源治郎に二女(同三九、一〇生、三輪田高女出身)は新潟縣人御歌所寄人外山且正長男勝郎に妹ナミ(同一、一生)は同縣人清水門吉に嫁せり叔母キサ(慶應元、六生)は同縣人西脇修太郎の母にして二男得三郎(明三一、六生)は東京府人横部エツの死跡を相続し弟勝三郎(同三、一〇生)は新潟縣人井口三郎の養子となりA一七五B二八(新潟縣北魚沼郡小千谷町) 参照||井口勝三郎の項

西脇由兵衛

愛知縣多額納税者、三川屋、羅紗商、愛知縣在籍 文久元、一一生、愛知、士、瀧本 妻 久次郎姉、一一生、愛知、士、瀧本 母 しつ 文久元、一一生、愛知、士、瀧本 父 久次郎 弟 明二、四生、愛知、安藤永次郎 男 博吉 明四、九生 女 精一 明四、九生

君は愛知縣人先代西脇由兵衛の長男にして明治二十一年八月二十九日を以て生れ同三十八年家督を相続し前名由太郎を改め現時三川屋と稱し羅紗商を営み愛知縣多額納税者に列す家族は向三男芳美(六一〇、二生)四男圭之助(同一五、一〇生)弟安次郎(明二八、九生)弟三郎(同三一、三三)あり同榮三(同三三、九生)は愛知縣人大島喬三養子綾子の婿養子となり姉しやう(同一五、四生)同夫安三(同一三、一〇生)愛知、瀧尾武四郎二男は分家せりA二四八B四四〇(名古屋市中區末廣町二ノ七電中六五二)

西脇義雄

岐阜縣在籍 前日本製粉會社事務取締役 妻 綾子 明五、二生、岐阜、坪井重雄叔母 妻 綾子 明二九、一一生、先々代拾次郎長女 男 國雄 大六、一生

君は岐阜縣人國枝徳造の五男にして明治二十七年四月九日を以て生れ先代綾子の入夫となり大正五年家督を相続す現時日本製粉名古屋製粉各會社の重役たりし事ありA一一五五(東京市牛込區市谷砂土原町三ノ八電牛込五七九)

錦織保親

正五位、子爵 養祖父文、子 萬延元、三生、子爵兼實業家 當家は卜部家支流萩原氏從の二男從久の後より從久後別れて一家を創立し錦織と稱す夫れより五世を経て先代教久に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に選ばれる實は侯爵中山輔親子爵今城定政の弟にして明治三十九年四月四日を以て生れ先代榮久の選定相続人となり大正五年子爵被仰付昭和六年東北帝國大學經濟學部を卒業す(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町由井ヶ濱一二六四中山郡内郷鎌倉一〇五) 参照||侯爵中山輔親、子爵今城定政、子爵兼實業家 子爵島居忠一※男爵渡邊修二の項

錦小路頼孝

從四位、子爵 妻 吳子 明三八、一一生、伯爵油小路隆成 當家は後漢靈帝の後胤志學直の後なり數世を経て頼庸に至り姓を丹波福和と賜ふ世々典藥頭を拜命し二十世を経て刑部卿盛直に至り嗣なく絶家すること殆ど二百年小森頼季の男頼康之を再興し錦小路と改稱す後五代頼徳は長州藩七郎の一人在明唐橋より入り明治十七年子爵を授けられ先代在明唐橋より入り明治十七年九月日を以て生れ同四十五年叔父在明の家督を相続し前名在孝を改め現時仰付ける學習院高等科を経て昭和二年東京帝國大學文學部國文學科を卒業す家族は向長女達子(昭五、八生)あり(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇一) 参照||伯爵油小路隆成、子爵唐橋在知※子爵石井隆 巨※子爵清岡長吉※子爵八條隆正※阿部金次郎※池坊專啓の項

蠶川龍夫

從四位勳四等、富山高等學校長 從四位勳四等、富山高等學校長 富山縣在籍

蠶川行道

正五位勳四等、仙臺商工會議所顧問、仙臺商業學校校長、仙臺高等實務學校校長、富山縣在籍 妻 ねい 明一七、三生、大阪、坂田佐吉養子 男 稟群 明四、七生、富山、富山市立高女出身 女 カヲル 明四、七生、富山、富山市立高女出身

若王子文健

正三位勳三等、男爵、精根土地家取役、奉仕會副會長、舊公卿家 妻 錠子 明一四、八生、東京、吉田重五郎

當家は權大納言山科音知の二男遠文の立つるところなり遠文初め得度して雄巖と稱し若王寺住職となり大僧正に任ぜられ明治元年勳命に依り復舊し同二年堂上之列に加へられ同十年男爵を授けられ其長男にして明治十六年十月十四日を以て生れ同三十一年男爵す同三十三年東京帝國大學法政學科を卒業し貴族院議員に當選すること三回又會て有隣生命保險會社監査役に擧げられ現時前記會社の重役にして教化團體奉仕會副會長たり家族は向三男廣文(大五、一〇生)四男文哉(同一〇、三生)五女宣子(同一四、四生)六女治子(昭二、二生)あり二女幸子(昭四三、九生)は千葉縣人藤崎信助に嫁し四女文江(大八、一生)は東京府人石川順の養子となり(東京市澁谷區千駄ヶ谷二ノ三八五電青山三四六) 参照||石川順の項

乳井龍雄

三井礦山總務課長 妻 龍一 明二、八生 男 龍二 大五、三生 女 キヨ 大五、三生

庭田重行

從三位、伯爵、陸軍歩兵少尉、掌典、大宮御所祇候、舊公卿家 妻 公 子 明三〇、九生、子爵松平義為妹

君は青森縣士族乳井文三郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正十年家督を相続す先是明治三十七年慶應義塾理財科を卒業し後三井銀行に入り同會社常務次長を経て同行文書課長となる現時三井礦山會社常務監査役たり家族は向三男雄三郎(大六、一〇生)四男省四郎(同九、二生)弟春雄(明三九、二生)あり同春芳(同三五、二生)は分家せり(東京市品川區上大崎一ノ四七一電高輪四一八八) 参照||加藤武男の項

當家は左大臣源雅信十世の孫權中納言經資の後なり經資初め庭田と稱し家職として神樂を掌る夫より二十二世重直に至り明治十七年伯爵を授けられ先代重直の長男にして明治二十四年八月十五日を以て生れ同三十二年男爵す學習院を経て慶應義塾大學に學び大正四年以來歌會講頭仰付けられ大正十三年學典に任ぜられ今日に至る弟茂俊(昭二九、八生)は子爵綾小路家を相続せるも後退隱分家し從姉子(同一八、一一生)は男爵九條良政に嫁せり(東京市四谷區荒木町二七) 参照||子爵綾小路謙、子爵松平義為、男爵九條良政 ※子爵唐橋在正※男爵金子有道※羽田如雲の項

任競淳

東一銀行庶務課長 君は京城府の出身にして明治二十八年を以て生る風に復且公學校を経て大正七年神戸高等商業學校を卒業し後朝鮮銀行所立係主任となり普城專門學校講師を兼ね湖南銀行支配人慶一銀行支配人等を経て株式會社第一銀行支配人庶務課長を命ぜられ東一銀行と改稱するや勤職して今日に及ぶ趣味にゴルフ等あり(京城府壽松洞六八ノ一電國光化門一〇四五)

二之部 乳、庭、任

(※印は姻族關係)

又之部

糠澤

惟助 正五位勳五等、警備管財局技師、神戸出張所土木掛長、福島縣在籍

額田

晉 醫學博士、理學博士、帝國女子醫科病院長、岡山縣在籍

額田

妙恵 無量寺衞術業、大阪府在籍

又之部

養子

惣太郎 明二三、三生、養子理恵夫、奈良黒松藤太郎弟

額田

豐 醫學博士、額田病院長、醫師

拔山

大三 從五位勳六等、東京帝國大學助教、航空研究所員、東京府在籍

又之部

拔山

平一 正五位勳四等、工學博士、東北帝國大學教授、工學部長

布井

良助 家主、大阪府在籍

布浦

彌三郎 大津家、旅館業、京都府在籍

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部

糠澤

額田

拔山

布井

布浦

又之部





(大10、八生)七女小夜子(昭二、五生)あり二男正次(明四五、三生)は大坂府人成瀬赤次郎に二女美彌同(三八、一〇生)は同府人井野豊一に各養子となり長女利(同三七、一〇生)は奈良縣人米田吉長男正一に嫁せりA一四(大阪府浪速区西濱通三ノ九七電標川一四二八四)東京宅東京市赤坂區新坂町八二電青山一四五五沼田久兵衛 兵庫縣多額納税者、白米商

妻 美重子 明三三、三三、岡田弘吉長女

君は兵庫縣人沼田久兵衛の長男にして明治二十七年三月を以て生れ大正十一年家督を相続し前名久男を改め襲名す白米商を營み直接國稅三千四百六圓を納め兵庫縣多額納税者に列す弟勇(明三六、六生)は兵庫縣人沼田ハナの養子となりA二九六三(神戸市神戶區山本通三ノ一〇六電四四五六)

時復興建築助成會社社長たり益我音樂等に趣味を有す二女葉子(明三六、八生、東京女學館出身)は日本興業銀行員高平隆雄に三女直子(同三八、五生、出身校同上)は第一銀行員小島傳三に四女幸枝(同三九、九生、出身校同上)は東京府人高田喜之助二男實に嫁せりA二三〇〇(東京市澁谷區原宿二ノ一〇電青山七四六)参照II※赤木正雄の項

沼田 種泰 茶商 東京府在籍

母 とく 長女

君は東京府人沼田隆義の長男にして大正五年一月を以て生れ昭和六年家督を相続す茶商たり家族は尙妹年惠(大九、一〇生)同晴惠(同一一、五生)同弘子(同一一、一〇生)ありA三三〇七〇(東京市深川區東元町一電本所四七九二)

妻 はな 明一六、八生、東京、伊東輔一郎

男 敏一 明三九、四生

君は東京府人永山敬三の長男にして明治九年五月を以て生れ先代イトの養子となり同四十五年家督を相続す東京株式取引所一般短期實物取引員にして前記諸會社の重役たりA一一三二九B一一三七(東京市麹町區中六番町四六電九段三二八)營業所日本橋區江戸橋一ノ一五電日本橋二八三〇

沼田國次郎 東京府在籍

男 國雄 大二、八生

女 妙子 大五、一〇生

君は東京府人沼田國五郎の三男にして明治二十五年八月を以て生れ同三十三年家督を相続す家主たり父國五郎は繼母うら(安政六、三生、酒井寅右衛門二女)と共に分家し長女はつ(大四、二生)は同人に養子せりA八八〇(東京市深川區猿江町一ノ二三電本所五三三七)

沼田虎之助 映畫常設川崎會館經營 神奈川縣在籍

母 なか 安政二、四生

妻 みよ 明九、五生、東京、森井兼吉女

男 要 明三七、四生、聖徳學校出身

女 福惠 明四〇、五生、戶板裁縫女學校出身

女 幸子 明四四、一〇生、東京高女出身

女 トミエ 大三、四生、鶴見高女及共立女子專門學校出身

君は神奈川縣人沼田勝五郎の二男にして明治七年一月を以て生れ分れて一家を創立し本家經營の酒造業を承けしが經營に當りしも映畫事業の前途有望なるに著目し常設會館經營を策して大正二年八月活動寫眞館川崎會館を創設し今日に及ぶ興行方針堅實新新にして川崎ニユースを擡影し之を上映する等同業者の全く企及し得ざるところあり園藝を趣味とす家族は尙二男昇(大五、一〇生)ありA三三〇〇B一一五〇(川崎市東二丁目電二六四三三八)

根岸 吉松 釘萬、金物商 東京府在籍

妻 梅 明一九、九生、東京、山彦安藏養母

男 重光 明三八、二生

女 エン 明四一、八生、長男重光妻、東京山本茂三郎長女

男 和一 明四四、六生、横濱高商出身

女 當子 大八、五生、九段精華高女在學

根岸家は武田家の臣根岸肥前守に始まる主家没落後歸農して代々府下八王子在千人町に住し先々代萬吉に至る萬吉祖業を廢して金物商を營むに及び漸次發展して産を積み當家今日の礎を築く君は先代吉松の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同四十年家督を相続と共に襲名して前名萬吉を改む祖業を繼承して金物商を營み釘萬と稱す家族は尙五女貴美子(大10、三三)三男清治(同一一、五生)あり長女貴美(明四一、四生)は森田五三郎長男員一に二女香羽(大二、一〇生、千代田高女出身)は東京府人鈴木喜兵衛二男壽郎に姉むめ(明八一)は東京府人小川市太郎に同ゆか(同10、三三)は同府人田中仁兵衛に同ま(同11、三三)は分家し叔父新三郎(同二、五生)同妻泰(同九、一〇生、東京、士、吉田せい孫)も亦其二男三女を伴ひ分家せりA三六四三B六三五(東京市四谷區鹽町二ノ一七電四谷三八三三)参照II小川市太郎、森田五三郎、山本茂三郎の項

ネ之部

根井久吾

正五位勳四等、陸軍歩兵中尉、臺北第二師範學校長、宮城縣在籍

妻 アイ 長八、八生、宮城、士、平島直養長女

男 寛 明三二、五生

女 艶子 明三八、九生、長男寛養妻、茨城久米元一妹

男 靖 明三六、四生

男 明 明四〇、一〇生

男 直 明四二、七生

女 ミチ 明四五、一〇生

君は宮城縣士族伊東亨の三男にして明治八年十月十日を以て生れ先代見益の養子となり同四十四年家督を相続す先是同三十五年東京帝國大學文學部哲學科を卒業し高知縣立第四中學校校長宮崎縣立中學校校長各教諭官崎縣立延岡中學校校長兼教諭愛媛縣立松山中學校校長埼玉縣立熊谷縣立徳島縣立靜岡縣立各中學校校長兼教諭等を經て現時前記の職に在り大正十年支那に出張を命ぜらるるに軍籍に入り陸軍歩兵中尉に任じ日露戰役に出征す家族は尙孫節子(大11、一〇生、長男寛養長女)同康雄(昭四、一〇生、同長男あり)臺北市龍口町三ノ四

ありA一五六〇(東京市芝區白金三光町四五〇電高輪三七三三)

根尾宗四郎 勳七等、富山縣多額納税者、中越銀行頭取、富山縣在籍

妻 マツ 明一二、一〇生、富山、中山ミツ妹

男 行雄 大二、八生

女 漢子 明三九、五生、養子連雄妻

女 田美子 大五、九生

君は石川縣人岩井重兵衛の長男にして明治七年三月を以て生れ富山縣人先代宗四郎の養子となり同二十五年家督を相続し前名嘉十郎を改め襲名す現時中越銀行頭取たる外前記諸會社の重役を兼ね直接國稅二千三十四圓を納め富山縣多額納税者に列す北陸工業鐵道及び若鷗酒造各會社の重役たりし事あり又自治功勞の廉を以て勳七等に叙せらるる養子清子(明二三、一〇生、石川、根尾達吉二女)は石川縣人岩井嘉一に二女梅子(同四四、二生)は福井縣人熊谷三太郎長男福井市會議長經濟學士太三郎に各嫁せり(富山縣東礪波郡下村電出町四)

根上 善造 酒田商工會議所常議員、酒田運送會社取締役、海運並倉庫業 山形縣在籍

妻 なか 明一六、一〇生、山形、荒木彦助姉

男 善一郎 明三八、七生

女 もと子 明四一、二生、長男善一郎妻、山形、上林治輔長女

男 善之助 明四〇、一〇生

君は山形縣人根上善吉の長男にして明治十三年十月を以て生れ同二十九年祖父善兵衛方より分れて一家を創立す海運並倉庫業を營み現時酒田運送會社事務取締役にして推されて酒田商工會議所常議員たり家族は尙妹せん(明一六、一〇生)あり養子たみ(同二八、三三)、山形、佐藤善吉庶子)は山形縣人内山庄太郎に嫁せり(酒田市本町六丁目電三三三三)参照II荒木彦助、荒木幸吉の項

根尾 克巳 三井物産會社會計課次長 廣島縣士族

妻 ミツ 慶應元、六生、廣島、富永權助長女

女 幸子 大七、四生

君は廣島縣士族根尾半之丞の長男にして明治十五年六月を以て生れ同三十一年家督を相続す同三十八年東京高等商業學校を卒業し三井物産會社に入り現時同社會計課次長たり家族は尙二女登美(大10、八生)三女嘉代子(昭二、八生)弟謙兒(明一九、一〇生)同妻キク(同三一、一〇生、廣島、富永富士太郎五女)及其四女

根岸 正一 正五位勳五等、高松高等商業學校教授、岡山縣士族

妻 千 明治二八、二生、片山金治長女、山陽高女出身

男 正史 大六、八生、姫路高女在學

君は岡山縣人にして明治二十二年一月を以て生れ同四十四年神戸高等商業學校を卒業し高岡敬卓實小樽各商業學校教諭を経て大正九年小樽高等商業學校教授に任ぜられ同十三年高松高等商業學校教授に轉じて現在に至る(英米伊各國へ留學す高松市四番丁二八)

根岸 正一 正五位勳五等、高松高等商業學校教授、岡山縣士族

妻 千 明治二八、二生、片山金治長女、山陽高女出身

男 正史 大六、八生、姫路高女在學

君は岡山縣人にして明治二十二年一月を以て生れ同四十四年神戸高等商業學校を卒業し高岡敬卓實小樽各商業學校教諭を経て大正九年小樽高等商業學校教授に任ぜられ同十三年高松高等商業學校教授に轉じて現在に至る(英米伊各國へ留學す高松市四番丁二八)

系之部 根(岸、來、津)

(捺印は姻族關係)

本二

根岸 榎太郎 群馬縣多額納稅者、前橋織物株式...

根岸 信

君は群馬縣人根岸彌平の長男にして明治十六年十一月...

根岸 政一

君は群馬縣人根岸政徳の長男にして横山政二の兄に...

同三十三年東京帝國大學工學科大學機械工學科を卒業し...

根岸 保吉

君は明治二十二年一月四日を以て生れる同四十二年京都...

根岸 鍊次郎

君は明治二十二年一月四日を以て生れる同四十二年京都...

君は東京府士族根岸勝平の二男にして安政三年七月を...

根來 與助

君は大阪府人先代與助の長男にして明治二十一年十二...

根津 嘉一郎

君は舊會津藩士根津傳吾の二男にして明治十六年一月...

秩父鐵道、西武鐵道、金福鐵路公...

根津 啓吉

君は山梨縣人根津藤右衛門の二男にして根津啓吉の養...

根津 啓吉

君は山梨縣人内藤恩温の四男にして同章の叔父根津嘉...

社を卒業し農を業とし現時前記各會社の重役にして直...

根津 甚平

君は新潟縣人根津安一郎の長男にして明治三十年十月...

根津 理森

君は山梨縣人根津茂周の五男平野幸吉の弟にして明治...

系之部 根(津、橋、元、本)

(捺印は姻族關係)

本三

根本 勘吾

君は東京府人平岩金藏の二男にして明治二十二年六月...

根橋 禎一

大連商工會議所特別議員、滿洲技...

不之部 根(本)

(※印は姻族關係)

君は福島縣人根本勘介の二男にして明治二十三年十二月を以て生れ大正四年家督を相続す大正三年高砂生命...

根本莊太郎

從五位勳四等、陸軍法務官、第九師團法務部長、秋田縣士族...

君は秋田縣士族根本實三の長男にして明治十五年一月十五日を以て生れ大正八年家督を相続す明治三十九年...

根本清左衛門

小濱町長、福島縣多額納稅者、小濱實業銀行頭取、安達電氣社長...

君は福島縣人先代清左衛門の長男にして明治六年一月を以て生れ同四十年家督を相続し前名清吉を改め...

根本松男

正六位、判事、東京地方裁判所部長、東京府在籍...

君は東京府人先代根本松美の長男にして明治二十九年三月を以て生れ昭和八年家督を相続す先是大正十年...

根本瑞男

能代商工會々頭、秋田木村、秋田運輸倉庫各役、秋田縣士族...

君は秋田縣士族根本誠之進の長男にして明治三年三月を以て生れ同二十三年家督を相続す現時秋田木村會々頭...

根本祐太郎

福島縣多額納稅者、九伊吳服店、郡土地建物各役、植田水...

議員同參事會營業稅審查委員たりしことあり家族は尚二男清次(昭三、一一生)あり(福島縣安達郡小濱町電一)

根本仙三郎

正四位勳四等、辯護士、東京府士族、宮城縣立高女出身...

君は福井縣士族前野菊城の三男にして明治十一年十月を以て生れ先代忠清の養子となり大正五年家督を相続す...

根本仙太郎

從五位勳六等、東京鐵道局囑託、茨城縣在籍、關直女...

君は福島縣人根本庄次郎の長男にして明治四年三月を以て生れ後家督を相続す現時九伊吳服店郡土地建物...

福宜吉兵衛

地主、大阪府在籍、大阪、蒲田政吉、養子、富美子...

田四町一五三三田八九〇(※印は姻族關係)

根本保

三菱重工業會社總務部部長、長野縣士族、明元、四生、長野、士、故實木則...

君は長野縣士族根本靜の二男にして明治二十四年二月を以て生れ昭和四年家督を相続す先是大正四年東京高等商業學校を卒業し直に三菱合資會社に入り三菱航空...

根本東次

家主、東京府在籍、明一七、二生、東京、宇田川龍五...

君は千葉縣人根本兵右衛門の長男にして明治八年三月を以て生れ養兄根本昇司方より分れて一家を創立す...

根本成道

正五位勳五等、朝鮮總督府判事、高等法院判事、愛媛縣士族...

不之部 根(本) 福

(※印は姻族關係)

ノ之部

乃木

元智 勳六等、陸軍騎兵中尉
乃木家は故伯爵陸軍大将乃木希典に依て家名を揚ぐ希典は舊長府藩士にして維新の際國事に奔走して功あり明治四年陸軍少佐に任じ果して同三十七年陸軍大将に陞る其間歩兵第十一第二各旅團長第二第十一各師團長臺灣總督等に補任せられ後軍事參議官となり學習院長を兼任す西南役の功に依り勳四等に叙し日清の役第一旅團長として出征して功あり勳三軍司令官として旅順攻陥の偉功を奏し勳一等功に叙し同四十年伯爵に陞る大正元年九月十三日明治天皇御大葬當日静子夫人と共に自刃して殉死す君は故子乃木元敏の二男にして子乃木元雄の弟乃木原邦樹の兄なり明治十三年一月を以て生れ大正四年九月乃木氏を稱へて一家を創立し特旨を以て伯爵を授けらる一年志願兵となり同二年陸軍騎兵中尉に任ぜらる昭和九年九月爵位の返上を動許せらる家族は尙二男正彦(大一〇、一生)二女郁子(同一五、九生)三女洋子(昭六、二生)あり(神戸市須磨區潮見臺町五ノ二〇電話五五六二)

野一色 義壽 野一色電氣研究所長、電氣醫療器商、鳥取縣士族
母 かつ 安政六、二生、鳥取、野一色壽太郎長女
庶子 義明 明三五、六生、生母、鳥根、伏谷竹生

庶子 義恭 明四四、一生、生母、鳥根、伏谷竹生
庶子 義美 南方小しげ
君は鳥取縣士族野一色千賀造の長男にして明治十二年六月を以て生れ大正十年先代祖父壽太郎の後を承け家督を相続す現に野一色電氣研究所を經營し電氣醫療器商を營む家族は尙孫國(大一一、七生、庶子義明庶子生母、和歌山、南方みさえ)ありA四六〇B二二〇〇(東京市麹町區三番町七二電九段三九〇)

野方

次郎 衆議院議員(神奈川縣選出)、神奈川縣學校醫會副會長、横濱市學校醫會會長、本牧中學校、貿易學校各理事長、横濱市入學校理事、野方病院長、醫師、靜岡縣在籍
妻 さめ 明二九、六生、秋田、新目俊文養子
君は靜岡縣人青木農齋の二男にして明治九年二月を以て生れ野方家の養子となり大正九年分れて一家を創立す東京醫學專門學校出身にして野方病院を主宰し今日に至る義に横濱日日新聞社長神奈川縣會議員同參事會員等に擧げられ現時前記の職に在り昭和五年推されて衆議院議員に當選し同七年再選立憲政友會に屬す讀書を趣味とすA五一六(横濱市保土ヶ谷區天王町四一四電長者町六三〇)

野方

寅吉 從五位勳五等、朝鮮總督府技師兼同府道技師、内務局清津土木出張所長、佐賀縣在籍
妻 ユウ 明二六、三生、佐賀、三上良輔四女
君は佐賀縣士族野方房次の五男にして明治十八年二月を以て生れ分れて一家を創立す同四十四年熊本高等工業學校を卒業し朝鮮總督府技師を経て大正九年朝鮮總督府技師に任じ昭和六年同府道技師を兼任し現時前記の職に在り跡に趣味を有す長女美枝子(大三、三生、清津高女出身)は東洋拓殖會社員農學士川崎佳連

に嫁せり(朝鮮清津府新岩洞總督府官舎電五一二)

野上

正平 吳服商
妻 ヤス 明一八、四生、神奈川、池谷房次郎長女
君は神奈川縣人八木勘兵衛の四男にして明治十七年十月を以て生れ先代初藏の養子となり大正九年家督を相続す吳服商を營む長女君枝(明四二、五生)は分家し二女幾重(同四四、一一生)は神奈川縣人中村玉二に嫁せりA三三二B八九(横濱市中區羽衣町二ノ四七電長者町一三八七)

野上

俊夫 正四位勳三等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部長
父 知哲 安政五、二生
母 ケン 安政六、七生、新潟、須田牧長女
妻 ケイ 明一六、一一生、新潟、小泉慎思郎二女
女 一威 大三、一生
女 あや 明四四、一生
女 みえ子 大六、五生
君は京都府人野上知哲の長男にして明治十五年五月を以て生れ昭和四年家督を相続す明治三十九年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大學院に入り同四十四年京都帝國大學文科大學助教授に任じ大正六年教授に進み昭和九年文學部長となり今日に至る義に心理學研究の爲獨佛英米に留學し同七年文學博士の學位を授けらる家族は尙二男崇之(大九、一生)三男重之(同一一、一生)四男洋(昭二、五生)あり妹ヒデ(明一九、六生、御茶の水高女出身)は新潟縣人田中定三に嫁せり(京都市左京區下鴨膳部町八八電上一〇八)

野川

弘 正五位勳四等、陸軍一等軍醫、朝鮮道立醫院醫官、京畿道立開城醫院長、岐阜縣在籍
母 よし 慶應元、二生、東京、士、矢澤金兵衛二女
妻 よね 明二三、一二生、岐阜、久納成三妹

野(口)

野口榮三郎 東洋商工部社長
野口信二 日本勧業證券監査役
野口新兵衛 東京市麹町區議員
野口清治郎 新築土地建物監査役

野口喜太郎 永野自動車營業所主
野口定吉 福佐興業取締役
野口佐吉 東京府在籍
野口諭太郎 從四位勳二等功四級

野口三郎 鴻池ビルヂング取締役
野口忠兵衛 大阪府在籍
野口泰次 從七位勳六等

野口榮三郎 東洋商工部社長
野口信二 日本勧業證券監査役
野口新兵衛 東京市麹町區議員
野口清治郎 新築土地建物監査役

野口喜太郎 永野自動車營業所主
野口定吉 福佐興業取締役
野口佐吉 東京府在籍
野口諭太郎 從四位勳二等功四級

野口三郎 鴻池ビルヂング取締役
野口忠兵衛 大阪府在籍
野口泰次 從七位勳六等

之部 野(口)

野口敬子 大二、一一生
野口信二 日本勧業證券監査役
野口新兵衛 東京市麹町區議員
野口清治郎 新築土地建物監査役

野口喜太郎 永野自動車營業所主
野口定吉 福佐興業取締役
野口佐吉 東京府在籍
野口諭太郎 從四位勳二等功四級

野口三郎 鴻池ビルヂング取締役
野口忠兵衛 大阪府在籍
野口泰次 從七位勳六等

之部 野(口)

野口喜太郎 永野自動車營業所主
野口定吉 福佐興業取締役
野口佐吉 東京府在籍

野口三郎 鴻池ビルヂング取締役
野口忠兵衛 大阪府在籍
野口泰次 從七位勳六等

野口喜太郎 永野自動車營業所主
野口定吉 福佐興業取締役
野口佐吉 東京府在籍

野口三郎 鴻池ビルヂング取締役
野口忠兵衛 大阪府在籍
野口泰次 從七位勳六等

之部 野(口)

野口喜太郎 永野自動車營業所主
野口定吉 福佐興業取締役
野口佐吉 東京府在籍

野口三郎 鴻池ビルヂング取締役
野口忠兵衛 大阪府在籍
野口泰次 從七位勳六等



野坂竹太郎 正五位勳六等、住友生命保險研...

野坂康二 正五位勳四等、ゼオライト工業...

野崎榮藏 淺井保財取締役、野崎榮藏商...

野崎誠一 大正式織機、金城興業各社取締役...

野崎善助 東京市議會區會議員、地主...

野崎清 正六位、岐阜高等農林學校教授...

野崎熊次郎 全國製絲業聯合會評議員、同特別...

野崎小三郎 北海道多額納税者、酒造業...

野崎貞三郎 澁商業銀行事務取締役...

野崎 正五位勳五等、日本製鐵技術師...

野崎貞義 正四位勳六等、男爵、陸軍騎兵中...

野崎 正五位勳三等、陸軍少將...

野崎 正六位、岐阜高等農林學校教授...

野崎 正六位、岐阜高等農林學校教授...

野崎 正六位、岐阜高等農林學校教授...

野崎 正六位、岐阜高等農林學校教授...

野崎 正六位、岐阜高等農林學校教授...

野崎 正六位、岐阜高等農林學校教授...



野崎藤七郎 表産家 東京府在籍 父喜之助 明一六、七生、東京、清水梅吉妹

野崎俊英 野崎内科醫院、醫師 父明一七、三三、愛知、館重左衛門 母正徳 大元、一一生

野崎丹斐太郎 岡山縣多額納稅者、農業 妻 春子 明三五、三三、子爵板倉勝朝妹 男 迪郎 大一四、九生

野澤幸三郎 大邱製絲總取締會長、野澤幸三郎商店、日本石綿製造、昭和七、八、九、各事務取締役、神戸生絲、肥後製絲各務取締役、日本石綿製造、兵庫縣在籍 妻 しん 正直妹 男 卓一 明三七、一一生

野澤純明 三井信託事務 妻 てい 明一二、三三、三重、土、中村忠 男 徹明 明三六、一二、三井銀行横濱支店員、慶大經濟學部出身 男 百合子 明四五、一一生、東京女學館出身 男 清明 明四一、八生、阪神急行電鐵會社員、慶大高等部出身 男 あい 明四四、三三、三男清明妻、滋賀縣司延太郎長女、京都府立第一高女出身

野澤純明 三井信託事務 妻 てい 明一二、三三、三重、土、中村忠 男 徹明 明三六、一二、三井銀行横濱支店員、慶大經濟學部出身 男 百合子 明四五、一一生、東京女學館出身 男 清明 明四一、八生、阪神急行電鐵會社員、慶大高等部出身 男 あい 明四四、三三、三男清明妻、滋賀縣司延太郎長女、京都府立第一高女出身

野崎彦左衛門 靜岡商工會議所顧問、靜岡縣多額納稅者、靜岡銀行取締、靜岡土地產社長、靜岡縣在籍 妻 直子 明一六、八生、子爵九鬼隆治姉 男 實 明二七、七生 男 昌子 明四三、三三、三男 女 田鶴子 大二、一一生

野澤文彦 從四位勳三等、行政裁判所評定官 妻 ヤツ 明五、六生、佐久間利衛長女 男 保人 明四〇、七生、東高工藝出身 男 直人 明四五、一一生、東大法科在學 女 ミネ 大三、九生、三輪田高女出身

野島忠孝 從四位勳二等功四級、陸軍中將 妻 セト 明一七、八生、島根、布野虎之助 女 敬止 明三二、四生、島根、野島清弟 君は島根縣人野島忠の二男にして文久三年七月を以て生れ明治四十一年分れて一家を創立す凡に陸軍士官學校を卒業し同十九年陸軍歩兵少尉に任じ大正三年陸軍中將に昇進す其間陸軍大學校を卒業し步兵第七聯隊附大本營第一兵站監督各副官陸軍士官學校教官歩兵第四十一聯隊同第五聯隊近衛步兵第三聯隊各大隊長臺灣混成第一旅團第十師團第六師團各參謀第五師團參謀長歩兵第五聯隊長臺灣第一守備隊司令官歩兵第十旅團長等に歴任し現時退役たり(島根縣那賀郡濱田町電三四三)

野島茂兵衛 竹茂、竹商 妻 トク 明治一二、一一生、京都、鈴木末 男 清次郎 明四四、九生、關西大學在學 君は大阪府人藤原富五郎の三男にして明治三年一月を以て生れ先代茂兵衛の養子となり同三十年家督相続と共に前名貞吉を改めて名を竹茂と稱し竹商を営む家族は尙五男茂八(大五、六生、同志社高商在學)ありA六三五B四三(京都市下京區西洞院通五條下電下二三三A) 野島康三 野々宮寫眞館主 妻 いね 明三四、一一生、神奈川、小宮敬 男 初子 大六、一一生、養弟寛泰長女 君は東京府人野島泰次郎の長男にして明治二十二年二月十二日を以て生れ大正十三年家督を相続す野々宮寫眞館を経営す家族は尙養子初子(明三三、八生、東京、星大中孫)あり妹千代(明二九、八生)同夫寛泰(明二三、八生、福島、田村久三郎弟)は共に分家せりA五一二B一一四(東京市麹町區一番町三九九九段二九九〇) 野尻竹次郎 甲府商工會議所常議員、山梨縣多額納稅者、砂糖並小麦粉商 妻 くに 明四、六生、山梨、高野孫右衛門 男 親太郎 明二三、八生 男 恵以 明二七、四生、長男親太郎妻、山梨、南宮源兵衛長女 男 鶴子 明四四、八生 男 七郎 明四七、七生、長男親太郎長女 君は山梨縣人原田貞太郎の四男にして明治四年三月を以て生れ先代をの養子となり同二十一年家督を相続す砂糖及小麦粉商を営み推されて甲府商工會議所常議員たり同縣多額納稅者に列し直接國稅四百五十七圓を納む家族は尙孫卓(大六、七生、長男親太郎長男)同(同九、三三、同二男)同博(同二〇、一〇生、同三男)

野崎廣太 南米拓殖取締役、鐵道紡績、昭和產業各務取締役、岡山縣在籍 妻 泰 明三二、一一生、慶大出身 男 精一 明二六、二生 男 喜美 大六、一一生、生母、東京、富谷敬子、成城學園女學部出身 孫 八重 大七、八生、長男精一長女、成城學園女學部出身

野澤源次郎 東京府多額納稅者、野澤組、貿易 妻 なか 明一五、一一生、靜岡、桑原爲十郎長女 男 三喜三 明二四、九生 男 しけ 明二八、九生、長男三喜三妻、愛知、近藤友右衛門長女 男 喜八郎 明三八、一一生

野澤源次郎 東京府多額納稅者、野澤組、貿易 妻 なか 明一五、一一生、靜岡、桑原爲十郎長女 男 三喜三 明二四、九生 男 しけ 明二八、九生、長男三喜三妻、愛知、近藤友右衛門長女 男 喜八郎 明三八、一一生

野澤源次郎 東京府多額納稅者、野澤組、貿易 妻 なか 明一五、一一生、靜岡、桑原爲十郎長女 男 三喜三 明二四、九生 男 しけ 明二八、九生、長男三喜三妻、愛知、近藤友右衛門長女 男 喜八郎 明三八、一一生

同(同一三、四生、同四男)あり二男(明二七、八生)同妻(同一三、五、九生、山梨、小林康助)は共に其一男一女を伴ひ分家し二女(同一三、一〇生)は東京府人松山茂太郎に三女(同一三、一〇生)は山梨縣人大澤伊三郎長男貞貞に四女(同一四、二、四生)は同縣人若宮乙次郎二男竹治郎に嫁せり(甲府市柳町二〇〇二四七)

野尻傳之丈

東京府在籍

妻 慶應元、七生、杉木、渡邊良平四女  
 男 明一四、六生、茨城、菅谷義作長女  
 女 明三三、一〇生、二生

野瀬七郎平

江商取組役員

妻 明三三、一〇生、二生、滋賀、川上清七三女  
 男 明三三、一〇生、二生、滋賀、川上清七三女  
 女 明三三、一〇生、二生、滋賀、川上清七三女

野世溪閑了

東京府在籍

妻 慶應元、七生、杉木、渡邊良平四女  
 男 明一四、六生、茨城、菅谷義作長女  
 女 明三三、一〇生、二生

野瀬宇三郎

滋賀縣多額納税者

妻 慶應元、七生、杉木、渡邊良平四女  
 男 明一四、六生、茨城、菅谷義作長女  
 女 明三三、一〇生、二生

あり姉玉(明一〇、八生)は東京府士族本多芳に妹シジ(同一九、二生)は熊本縣士族山室宗文に嫁し弟鶴喜(同一三、九生)同大造(同一三、六生)は各分家せり(東京市淀橋區東大久保一ノ四〇二)  
 参照 山室宗文の項

野田寛治

日本自動車取締役

妻 喜見 明三〇、六生、大阪、加納由兵衛  
 男 好太郎 大八、四生

野田吉兵衛

天満織物、野田同族會各務社長

妻 喜見 明三〇、六生、大阪、加納由兵衛  
 男 好太郎 大八、四生

野田久右衛門

兵庫縣在籍

妻 喜見 明三〇、六生、大阪、加納由兵衛  
 男 好太郎 大八、四生

野田謙次

住友製鋼所社員

妻 喜見 明三〇、六生、大阪、加納由兵衛  
 男 好太郎 大八、四生

野田小太郎

大阪府在籍

妻 喜見 明三〇、六生、大阪、加納由兵衛  
 男 好太郎 大八、四生

あり姉玉(明一〇、八生)は東京府士族本多芳に妹シジ(同一九、二生)は熊本縣士族山室宗文に嫁し弟鶴喜(同一三、九生)同大造(同一三、六生)は各分家せり(東京市淀橋區東大久保一ノ四〇二)  
 参照 山室宗文の項

安政六、一一生、滋賀、塚原善藏  
 妻 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 女 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛

野瀬七郎平

江商取組役員

妻 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 男 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 女 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛

野副豊三郎

正五位勲五等

妻 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 男 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 女 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛

野瀬宇三郎

滋賀縣多額納税者

妻 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 男 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 女 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛

あり姉玉(明一〇、八生)は東京府士族本多芳に妹シジ(同一九、二生)は熊本縣士族山室宗文に嫁し弟鶴喜(同一三、九生)同大造(同一三、六生)は各分家せり(東京市淀橋區東大久保一ノ四〇二)  
 参照 山室宗文の項

野田久右衛門

兵庫縣在籍

妻 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 男 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 女 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛

野田謙次

住友製鋼所社員

妻 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 男 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 女 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛

野田小太郎

大阪府在籍

妻 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 男 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛  
 女 明三五、四生、滋賀、寺本仁兵衛

あり姉玉(明一〇、八生)は東京府士族本多芳に妹シジ(同一九、二生)は熊本縣士族山室宗文に嫁し弟鶴喜(同一三、九生)同大造(同一三、六生)は各分家せり(東京市淀橋區東大久保一ノ四〇二)  
 参照 山室宗文の項

あり姉玉(明一〇、八生)は東京府士族本多芳に妹シジ(同一九、二生)は熊本縣士族山室宗文に嫁し弟鶴喜(同一三、九生)同大造(同一三、六生)は各分家せり(東京市淀橋區東大久保一ノ四〇二)  
 参照 山室宗文の項

野田俊作

正五位、衆議院議員(福岡縣選出)
福岡縣在籍
明二八、一〇二生、男爵古市六三妹
御茶の水高女出身

野田平太郎

君は福岡縣人故野田平太郎の長男にして明治二十一年
五月を以て生る父野田平太郎を政界に投じ明治三十
一年以來衆議院議員に當選する事十回政友會副總裁に
擧げられ又選信大臣商工大臣に親任せらる君其後を承
け昭和二年家督を相続す大正二年東京帝國大學法科
大學經濟學科を卒業し南滿洲鐵道會社員内國通運會社取
締役たりしが後之を辭す大正十三年以來衆議院議員に
當選する事四回立憲政友會に屬し鐵道參事官に任
ぜられ又列國議會同盟會議に參列し歐米を視察す養子
ミネ(明四一、七生、福岡、大石繁雄長女)は兵庫縣人
山下寛三に姉タキ(同一三、八生)は熊本縣人松野鶴
平に妹トメ(同一三、一一生)は三重縣土族加藤虎之助
に嫁し弟秀助(同一三、一一生)同妻春子(同四五、三三)
福岡、安川清三郎三女、女子學習院出身)は其二子を
伴ひ分家せりA一六一二(東京市麻布區材木町二九電
青山八九)
參照II男爵古市六三、松野鶴平、安川清三郎三子爵
瀧脇宏光峯桂秀三瀧川昌世安川第五郎の
項

野田正一

君は東京府人野田正三の長男にして明治八年九月を以
て生れ後家督を相続す父正三は舊幕代官の手代にして
高島嘉右衛門に就き學校鐵道及瓦斯の經營に従ふ君は
明治三十六年嶺南商店を創立し諸機械販賣業を創め本
店を東京に支店出張所を大阪札幌小倉並に横濱賀に置

野田清一

君は兵庫縣人野田新右衛門の庶子にして明治七年七月
を以て生る現時酒類仲立業を營む家族は尙孫昌子(昭
四、一〇生、養子博長女)同恒弘(同六、一〇生、同長
男)同恭子(同八、七生、同二女)ありA八一七(西宮市
濱町六電四九)

野田虎七

君は福岡縣人にして明治十九年三月を以て生る大正四
年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し司法官試験を
經て同五年検事に任じ東京區裁判所檢察事に補せらる翌
年判事に轉じ松江米子各區各名古屋金澤各地方裁判所判
事に歴補し同十年五月退職の上司法省廳に於て瑞西
に於ける家産制度の調査方を命ぜらる同十三年瑞西伯
林大學を卒業し歐米各地に於て研鑽を遂げ昭和二年歸
朝す同年十二月東京區裁判所判事に補せられ現在に至
る家族は尙三女實紀子(昭三年生)四女實穂子(同六年
生)あり(東京市四谷區西信濃町一一)

野田虎三郎

君は奈良縣人小瀬孫作の弟にして野田清三の叔父野田
を經て昭和四年大阪府林局技師に轉じ同七年三月農林
技師に任じ同月退官後農林省廳に轉じ同九年退職し
現時同地にあり園藝玉突寫眞等を趣味とす家族は尙四
男重明(大四、三三)五男廣二(同九、一〇生)六男清光
(同一五、一一生)あり三男正三(同元、一一生)は岡山縣
人須藤政の養子となり養妹志津(明二七、八生、岡山、松
下秀雄妹)は同縣人守屋壽三郎に嫁せり(東京市杉並區
井荻町一〇一三一)

野田虎七

君は福岡縣人にして明治十九年三月を以て生る大正四
年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し司法官試験を
經て同五年検事に任じ東京區裁判所檢察事に補せらる翌
年判事に轉じ松江米子各區各名古屋金澤各地方裁判所判
事に歴補し同十年五月退職の上司法省廳に於て瑞西
に於ける家産制度の調査方を命ぜらる同十三年瑞西伯
林大學を卒業し歐米各地に於て研鑽を遂げ昭和二年歸
朝す同年十二月東京區裁判所判事に補せられ現在に至
る家族は尙三女實紀子(昭三年生)四女實穂子(同六年
生)あり(東京市四谷區西信濃町一一)

野田勢次郎

君は大阪府人野田直藏の三男にして同吉兵衛同廣三郎
の男なり明治三十三年五月を以て生る大正十五年京都
帝國大學工學部建築科を卒業し現時前記會社の重役た
り(大阪府東區高麗橋筋五ノ四七)
參照II野田吉兵衛、野田廣三郎三子山口竹治郎の項

野田鶴雄

君は和歌山縣人野田利七の長男にして明治十五年四月
を以て生れ同年家督を相続す同三十九年東京帝國大學
理科大學地質學科を卒業し農商務技師に任ぜられ鐵山
局地質調査所に勤務し後久原鐵業會社調査課長となり
東京帝國大學工學部講師を兼ねし現時前記各會社の
重役にして推されて飯塚商工會議所議員たり家族は尙
孫安一郎(昭八、八生、養子健三郎長男)あり姉(明一
二、七生)は和歌山縣人那須藤十郎に嫁せり(飯塚市立
岩町五七五電三六一)
參照II子爵加納久朗、藤生太賀吉次子爵阿野季忠次
子爵立花種忠藏生義之介次郎藤生太三郎三郎後
藤文夫次郎武田三郎三郎三郎野見山米吉の項

野田文一郎

君は廣島縣人野田登之助の長男にして明治五年三月を
以て生れ同二十四年家督を相続す同二十七年關西大學
法科を卒業し判事登用試験に合格司法官試験となり
同三十三年判事に任じ神戸區兼同地方裁判所判事大阪
控訴院判事に歴補し後之を辭し辯護士を開業す會社
戸辯護士會長大和信託會社長廣川局監査役たり舉げら
る兵庫縣より推されて衆議院議員に當選する事四回立
憲政黨所屬にして農工商參事官に任ぜらる家族は
尙孫文彦(昭八、一〇生、養子實治長男)あり妹カツコ
(明一〇、三三)は廣島縣人小田長市に同シケノ(同一
三、七生)は同縣人村上華一に同イマ(同一八、八生)
は岡山縣人藤原信吉長男利兵衛に嫁し弟利夫(同一七、
五生)從弟龜(同一二〇、五生)は各分家せり(東京市麻
布區霞町一電青山三五〇)
參照II中井豐三郎三子大津環の項

野田孫一

君は東京府人野田直藏の三男にして同吉兵衛同廣三郎
の男なり明治三十三年五月を以て生る大正十五年京都
帝國大學工學部建築科を卒業し現時前記會社の重役た
り(大阪府東區高麗橋筋五ノ四七)
參照II野田吉兵衛、野田廣三郎三子山口竹治郎の項

野田虎男

君は岡山縣人河中常臣の二男にして明治七年十月を以
て生れ先代精一の養子となり昭和三年家督を相続す明
治三十二年第三高等學校工學部土木工科を卒業し群馬
縣技師同技師京阪電氣鐵道會社員鳥取縣技師山林技師
等を經て大正十三年營林局技師に任じ熊本營林局勤務

野田友三

君は大阪府人野田小七の四男にして同三郎同六郎の兄
同小太郎の叔父に當り明治二十一年二月を以て生れ同
二十八年家督を相続す現時野田屋取締役たり家族は尙
長女壽子(大一一、四生)二女弘子(同一三、三三)あり
A七八三(大阪府東區伏見町二ノ五電東一五二)
參照II野田小太郎、野田三郎、野田六郎、武藤彌七
の項

野田虎男

君は岡山縣人河中常臣の二男にして明治七年十月を以
て生れ先代精一の養子となり昭和三年家督を相続す明
治三十二年第三高等學校工學部土木工科を卒業し群馬
縣技師同技師京阪電氣鐵道會社員鳥取縣技師山林技師
等を經て大正十三年營林局技師に任じ熊本營林局勤務

君は千葉縣人野田政吉の二男にして明治十八年二月を以て生れ大正三年十一月分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業し醫師たり推されて東京府會議員に擧げらるる家族は尙二男男(大一一、四生)ありA四五九(東京市淺草區馬道町五ノ二電淺草六六〇)

野田 實 野田銀行頭取、九州紙業監査役、福岡縣在籍

母 嘉永六、一、二生、福岡、塚本重四郎長女、野田銀行監査役、寺崎茂助姪

妻 浩子 明一、九生、福岡、寺崎茂助姪

養子 孝太郎 明三、五、九生、長女タキヨ夫、福

野田安次郎 長久堂監査役、夜間本店主、綿布商、京都府在籍

野田安重 大阪朝日新聞社社員、大阪府士族

野谷正次郎 地主、東京府在籍

母 喜知 安政元、一、一生、東京、落合儀助二女

妻 はな 明二、八、五生、東京、岩崎萬吉長女

男 通雄 大八、六生

女 泰子 大七、一生

野谷眞平 甲州屋、紙文房具煙草商、東京府在籍

妻 ひで 明六、二生、東京、野谷正次郎姉

妻 ふき 明一、九生、大阪、松浦一貫二女

男 新一 明四五、四生、現戶主

野田芳太郎 二葉屋、金物荒物商、兵庫縣在籍

妻 みつ 明一五、二生、兵庫、野田實吉長女

男 正義 明四二、二生

野田良治 正五位勳四等、大使館一等書記官、ブラジル國在籍、東京府士族

妻 三喜 明二〇、一、二生、高知、土居通彥四女

男 良之 大元、一〇生

女 里眞耶 明三六、八生

女 英枝 明三三、九生

野津重助 愛知縣多額納税者、八木重愛商店代表社員、足袋洋傘厚司卸商

妻 しん 安政四、一、二生、祖父五兵衛二女

女 茂登子 明四〇、一生

野津高次郎 從四位勳三等、東京稅務監督局長、鳥根縣在籍

妻 眞 明二六、三、五生、東京、山口爲一妹

女 美賀 大五、四生

春の詩「イスパノアメリカ名家詩集」瓜の蔓「世界の大家庫」南米ブラジル人國記「新南米大アマゾン」等の著書あり家族は尙二男良國(大五、五生)五女雅子(同九、九生)六女文子(生年月同上)三男良伯(同二、一生)七女美津子(同四、二生)八女美季(同二、七生)弟爲憲(明一四、一〇生)及其子女あり弟秋平(同二、二生)同實之助(同二、一生)同妻ふき(同三、二生)長野、村田三郎(三女)は各分家し二女海外(同三八、四生)は東京府人弘田眞澄の養子となり三女南美枝(同四四、三三)は同府人池邊清弟康福に嫁せり(在ブラジル國帝國大使館内)

野田六左衛門 滋賀縣多額納税者、野田酒造總代理、滋賀縣在籍

妻 ナツ 明三二、七生、滋賀、塚本金兵衛妹

野田六郎 野田屋監査役、大阪府在籍

妻 ミネ 明三三、七生、大阪、北義雄姉

野津高次郎 從四位勳三等、東京稅務監督局長、鳥根縣在籍

妻 眞 明二六、三、五生、東京、山口爲一妹

女 美賀 大五、四生

女 洛子 大八、五生

野中儀兵衛 保護院經營主、綿織物商、東京府在籍

妻 よね 明元、五生、東京、大林新養子

野中清 從三位勳二等、東興實業取締役、神奈川縣在籍

妻 ナミ 明三三、六生、東京、有村國明三女

男 久 明三五、六生

男 宏 明四一、五生

男 誠 大二、三生

帝國大學法科大學を卒業し文官高等試験に合格横濱税関事務官監視官兼稅關事務官大藏省事務官に歴任し...

野中季雄

正二位勳一等、工學博士、海軍造船中將、東京府在籍

妻 ツル 明三、二生、大阪、吉村長策

男 重 彌 明四、八生

當家は熊本縣本郡野村の豪家に於て代々郷土として苗字帯刀を許されたる家柄なり...

野中徹也

從五位、衆議院議員(埼玉縣選出)埼玉縣在籍

妻 貞 明三、一一生、埼玉、永瀬庄吉

男 是 一 六一、三三

君は埼玉縣野中廣助の長男にして明治二十六年一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す...

石川五五五

參照 永瀬庄吉の項

野中豐七

勳八等、山梨縣參事、山梨縣行務課長、山梨縣行務課長、山梨縣行務課長、山梨縣行務課長

妻 ひで 明二、三三、山梨、山梨縣在籍

男 健 大四、二生

女 郷子 明四、七生

君は山梨縣人先代豐七の長男にして明治十七年三月一日を以て生れ大正十二年家督を相續し...

野中春三

從五位勳六等、鐵道局參事、仙臺鐵道局庶務課長、福岡縣在籍

妻 愛 明三、一一生

男 是 一 六一、三三

君は福岡縣人にして明治二十九年三月を以て生れ大正十年東京帝國大學法學部法律學科を卒業す...

野々口政太郎

從七位勳六等、陸軍騎兵中尉、中丹銀行庶務課長、酒造業

妻 しづ 雄太郎六女

男 勝 大六、一一生

女 綾 大六、一一生

女 美子 大八、九生

君は兵庫縣人野々口喜太郎の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十四年祖父助之の後を承け...

野々原喜太郎

金藏業 大阪府在籍

妻 く 明一九、九生、大阪、加藤新左衛門

男 喜右衛門 明四、一〇生、同志社大學法學部出身

男 清次郎 大二、七生、大阪市立粉濱尋常小學校出身

女 芳子 大六、一一生、明澤高女出身

君は大阪府人野々原清三郎の長男にして明治十九年二月十六日を以て生れ大正六年家督を相續す...

野々村戒三

早稲田第一高等學院院長早稲田大學文學部教授、同高等師範部講師、立教大學講師、大分縣在籍

妻 壽子 明一九年生、岡山、阿部高太郎長女

野中萬次郎

醫學博士、大森病院長、醫師 東京府在籍

妻 榮子 明四、〇七生、東京、加藤三藏四女

男 延家 昭四、七生

男 榮子 八、五生、兄野中儀兵衛二女

君は東京府人野中儀兵衛の弟にして明治二十八年七月十日を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す...

野中利三郎

地主 大阪府在籍

妻 ヤエ 明一六、四生、大阪、榎本多太郎

男 治 一 明四〇、九生

男 秀次 明四二、九生

女 卷子 大三、三三

君は大阪府人中西庄吉の二男にして明治十二年八月十八日を以て生れ先代野中治兵衛の養子となり...

野長瀬忠男

帝國發條製造社長、特殊製鋼監査役、東京車輪製造所社長、各種スプリング及車輪製造業、東京府在籍

妻 信 惠 明一八、三三、和歌山、土、早川

女 百合子 明四三、一〇生、フレンド女學校出身

女 菊葉 大五、三三、東京女學館出身

君は和歌山縣人野長瀬清治郎の二男にして明治十一年三月十八日を以て生れ同十四年分れて一家を創立す...

野々村薫

地主 大阪府在籍

妻 亮 吉 明一六、一〇生、大阪、山野助四郎養子

男 亮 吉 明一六、一〇生、現戸主

女 文久元、一〇生、大阪、山野助四郎

女 文久元、一〇生、大阪、山野助四郎

君は大阪府人野々村楠太郎の三女にして明治十五年十月二十五日を以て生れ地主たり家族は尙長女明子(大正一〇、一一生)あり...

野々村吉松

印刷業 東京府在籍

妻 さん 明九、一〇生、大阪、西澤市治郎

男 市太郎 明三八、一一生

女 富志 明四二、四生、二男市太郎妻、東京、小諸久兵衛長女、府立第一高女出身

君は東京府人先代嘉助の長男にして明治四年七月十六日を以て生れ同十九年家督を相續す...

野々上薫

愛知電氣鐵道取締役兼秘書課長 碧海電氣鐵道、愛知縣在籍

妻 ゆきこ 明二九、二生、愛知、吉田ひさ私生子

男 勳 大七、六生

君は岡山縣人野々上善平の長男にして明治十五年十一月十四日を以て生れ同二十一年家督を相續す...

眞純觀に趣味を有す家族は尙五女みのり(六一、四、一)生あり二女マリヤ(大元、一〇)生、フレンド女學校出身...

野並龜治

正四位勳三等、專賣局長、製造部長、高知縣在籍

妻 夏 明一九、一〇生、高知、町田且龍

男 浩 藏 明四〇、九生

男 三男 大二、六生

君は高知縣人野並數吉の長男にして明治九年十月を以て生れ同三十五年東京帝國大學工學部機械科を卒業し...

野々上薫

愛知電氣鐵道取締役兼秘書課長 碧海電氣鐵道、愛知縣在籍

妻 ゆきこ 明二九、二生、愛知、吉田ひさ私生子

男 勳 大七、六生

君は岡山縣人野々上善平の長男にして明治十五年十一月十四日を以て生れ同二十一年家督を相續す...

野々村金五郎

開社社長 東京府在籍 明九、三、故貴族院議員秋月新太郎二女、學習院女學部出身...

野々村種藏

地主 大阪府在籍 萬延元、一〇生、大阪、加納次良一長女...

野々村亨

從四位勳四等、前内閣統計局書記官 東京府在籍 明元、五、現戶主...

野淵龜吉

京都商工會議所常議員、製糖業 京都府在籍 明九、一、生、京都、前川庄太郎長女...

野邊田重興

正五位勳二等、海軍少將、海軍艦政本部第六部長、東京府士族 明三、五、生、靜岡、野間忠一、一〇生...

野々山幸吉

地主 東京府在籍 明二七、八、生、亡長男忠吉妻、東京、柴田金五郎長女...

野橋作兵衛

野橋商店無限責任社員、吳服商 京都府在籍 明四、一〇、生、祖父作右衛門長女...

野間健三

日本生命保險總務課長 滋賀縣在籍 明五、二、生 明三、一、九、生、滋賀、宮路善久妹...

野間五造

著述家、鑛山業 岡山縣在籍 明三、一、生、長女由子夫、法學士 明四、一、二、生、養子新吉妻...

野間信照

愛媛縣多額納稅者、尾道運送、瀬戸内商船各社長、野間代表社長 天保一、二、生、愛媛、野間精三郎...

野原正兵衛

正八位、陸軍砲兵少尉、高正商店 材木商、大阪府在籍 明一八、一〇、生、現戶主...

野原大輔

横濱正金銀行神戸支店支配人 東京府在籍 明三〇、三、生、東京、澤野治妹、御茶の水高女出身...

野原幸秀

沖繩縣多額納稅者、農物商 沖繩縣在籍 明元、一、一、生、沖繩、伊藤盛苗四女...

野間清治

東京府多額納稅者、大日本雄辯會 講談社社長、報知新聞社社長、日本製紙取締役、中外印刷監査役、書籍雜誌出版業 東京府在籍 明一六、九、生、徳島、服部定吉長女...

野間眞綱

從四位勳四等、弘前高等學校教授 鹿兒島縣士族 明四、四、生、報知新聞社社員、劍道師...

野間、見、滿、宮、村

(※印は姻族関係)

ノ二〇

野間口兼雄 從二位勳一等功三級、海軍大將 東京府士族

野見山米吉 福生商店取締役 福生商店在籍

野宮定茂 從四位、子爵、東京帝國大學農學部講師、舊公卿家

野見山米吉 福生商店在籍 慶應三、八生、福岡、麻生太賀吉

野宮定茂 從四位、子爵、東京帝國大學農學部講師、舊公卿家

野村兼吉 翁堂本舖、菓子商 東京府在籍

野村嘉六 從四位勳三等、衆議院議員(富山縣選出) 富山縣在籍

野村勘左衛門 福井縣多額納稅者、農業 福井縣在籍

野村勘左衛門 福井縣多額納稅者、農業 福井縣在籍

野村久一郎 職久、繪具染料商 愛知縣在籍

野村金太郎 地主 東京府在籍

野村金之輔 家主 東京府在籍

野(村)

(※印は姻族関係)

ノ二一





君は東京府人倉橋市松の三男にして明治三十四年二月を以て生れ先代事太郎の養子となり昭和三年家督を相...

野村 太助 茨城縣多額納税者、常務銀行取役、砂糖商、茨城縣在籍...

野村 孝 關東水力電氣常務取締役、矢作水力取締役、福島縣士族...

野村 藤助 綿布商、東京府在籍、君は東京府人野村松五郎の三男にして明治十九年四月九日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す綿布商...

野村 爲吉 同族移住取役、大阪府在籍、君は岐阜縣人飯沼半山の二男にして元治元年九月を以て生れ先代吉藏の養子となり明治十七年家督を相續す...

野村 調太郎 從四位勳三等、朝鮮總督府判事、京城地方法院長、福井縣在籍、君は富山縣の出身にして明治十四年十二月二十二日を以て生れ同三十五年東京法學院を卒業し判事登用試験に及第...

野村

野村 藤助 綿布商、東京府在籍、君は東京府人野村松五郎の三男にして明治十九年四月九日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す綿布商...

野村

野村 徳七 勳三等、貴族院議員、野村東印産新大坂ハテル、海外興業各取締役、日華紡績、杉村倉庫、大阪信託各取締役、野村銀行、野村證券、野村生命保險各取締役、野村倉庫社長、大阪府在籍...

野村 直躬 正五位勳六等、日本製鐵總務官、二瀬出張所病院副院長、福岡縣在籍、君は福岡縣人野村碩山の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す同二年九州帝國大學醫科大學を卒業し同大學副手製鐵所技手を經て同十年...

野村 直邦 正五位勳三等、海軍大佐、海軍潜水學校校長、鹿児島縣在籍、君は鹿児島縣人にして明治十八年五月を以て生れ同四十二年海軍學校を卒業し翌年海軍少尉に任じ昭和三年海軍大佐に累進し獨逸大使館附武官羽黒加賀兩艦長を経て現職に補せらる(吳市海軍潜水學校内)...

野村 信孝 正五位勳四等、特許局事務官兼臨時産業管理局事務官、意匠商標部長、東京府士族、君は東京府士族野村信成の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す同二年文官高等試験に合格同四年東京帝國大學法科を卒業す爾來神奈川縣廳德島縣廳理事官法科局參事官帝都復興院書記官兼法制局參事官千葉縣本各縣書記官(各警察部長)等に歴任昭和三年特許局事務官に任ぜられ抗告審判官兼審判官たりしが同七年現職に補せられ意匠商標課長事務取扱にして臨時産業管理局事務官兼任たり又明治事修兩大學に於て憲法及行政法を擔任し「憲法大綱」行政法大綱等の著あり家族は尙三女あり(大一一、九生)ありA二三五(東京市澁谷區代々木山谷町一〇五電四谷四五〇)...

野村 初太郎 安田銀行澁津山支店長、大阪府在籍、君は東京府人にして明治二十四年五月を以て生れ同四...

野村 尚 正四位勳五等、廣島高等工業學校教授、岐阜縣在籍、君は大阪府人新井テルの私生子にして明治十九年八月を以て生れ先代彌三郎の養子となり大正四年家督を相續す明治三十七年安田銀行に入り漸次累進して現に同津山支店長たり家族は尙四男三女あり(大一一、一〇生)五男あり(同一一、一〇生)あり長女初子(明四一、八生)は大阪府人新井徳藏の死跡を相續せり(津山市田町一七)...

野村 博 從四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、理學部勸務、愛知縣在籍、君は愛知縣人安井鐵三郎の二男にして明治十九年九月を以て生れ先代宇助の養子となり大正四年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學理科大學純正化學科を卒業し大正三年東京帝國大學助教授に任じ同十五年教授に進み今日に至るに英米佛獨に留學し同八年理學博士の學位を授けらる(仙臺市花壇一)...

野村 文吉 從五位勳六等、判事、岡崎區裁判所判事、東京府在籍、君は東京府人にして明治二十四年五月を以て生れ同四...

十五年法政大學を卒業し大正五年辯護士試験に合格す...

野村 正彌

君は東京府人安藤清次郎の弟にして明治三十五年八月...

野村 雅夫

君は長崎縣人野村宗十郎の長男にして明治二十九年...

野村 益三

君は高知縣人野村健吉の長男にして明治二十二年...

野村 元五郎

野村銀行取締役、大阪信託、野村大阪府在籍

野村 素一

正四位勳四等功五級、男爵、陸軍歩兵中佐、山口縣華族

野村 素一

正四位勳四等功五級、男爵、陸軍歩兵中佐、山口縣華族

君は先代靖より顯る靖は舊山口藩士にして維新の際...

野村 益太郎

君は若手縣人野村龜治の長男にして明治十九年六月...

野村 茂久馬

君は故臺灣稅關長野村才二の二男にして明治二十九年...

野村 盛康

君は山口縣人野村恒造の長男にして明治十六年七月...

野村 保之輔

君は埼玉縣人野村周助の長男にして明治十九年一月...

野村 盛

正五位勳五等、陸軍工兵少尉、鐵道局技師、札幌鐵道局工務課長

木庄次郎(孫)は分家し四女美智子(大九、九生)は其養子となり弟房五郎(明三、七生)も亦分家し妹トミ(同二八、一一生)は埼玉縣人淺野芳三郎に同よね(同三一、二生)は同縣人高野勲に同よね(同三五、八生)は東京府人野本徳治に嫁せり(東京市神田區元岩井町三九)

野村 洋三  
君は岐阜縣人野村兵作の長男にして明治三年一月を以て生れ大正三年家督を相続す工芸美術品並家具商を營み傍ら前記諸會社の重役にして横濱商工會議所常議員たり長女富貴子(明三、二生)雙葉高女、米國ミスマスター・スチール出身は鹿兒島縣人西春彦に三女多賀子(同三七、八生)は三重縣人久米邦武に嫁し父兵作(弘化三、八生)繼母ひる(慶應元、一一生)岐阜、廣瀬繁右衛門三女(明二八、二生)同兵夫同三三、七生)を併に分家せりA一九三(横濱市中區本町一ノ五電本局九一五)

野村 義太郎  
君は大阪府人野村徳七の長男元五郎の甥にして明治三十八年九月を以て生れる現時前記銀行會社の重役たりA二八〇七(兵庫縣武庫郡住吉村小林一八〇二電御影二二一五)

野村 龍太郎  
君は大分縣人野依範治の長男にして明治二十六年一月二十日を以て生れ明治三十二年家督を相続す先是同十四年東京大學理學部土木工學科を卒業し東京府御用掛鐵道一等技師を経て同二十九年鐵道事業視察の爲歐米各國に派遣せられ同三十一年歸朝間もなく通信技師に任じ翌年工學博士の學位を受く同三十九年臨時鐵道國有準備局技師を兼ね同四十四年再び歐米に派遣せられ英國に於て開催の西伯利亞經由國際旅客交通會議に參列しつて歐米の鐵道事業を視察し大正二年鐵道院副總裁に任じ同年南滿洲鐵道會社總裁に轉じ三年退職後大漢興業會社社長となり同八年再び南滿洲鐵道會社社長となり同十年辭職す其他土木學會長帝國鐵道協會會長等に推

野村 善三郎  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野本 源次郎  
君は愛媛縣人野本中治の長男にして明治二十六年十月を以て生れ昭和五年家督を相続す大正九年嵯峨野と稱し料理仕出業を開業し今日に至る家族は尙長女富貴子(大一一、一〇生)二女和子(昭二、一一生)三女里江(同四、三生)四女福惠(同六、二生)六女幸子(同八、六生)及妹ハマ(明三六、七生)ありA二〇二B四三〇(東京市京橋區木挽町七ノ三ノ四電銀座一三三八)

野本 善三郎  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 克藏  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂 一雄  
君は兵庫縣人野呂邦之助の長男にして明治二十三年九月を以て生れ後家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直ちに專賣局書記となり爾來參事補副參事德島神戶大阪各支局專賣局長に歴任し昭和二年專賣局參事に任ぜられ高崎水戸各專賣局長總理部會計課長を経て同六年初職に轉じ今日に至る義に米國に出張す家族は尙長女初子(大一一、一一生)誠之女學院在學(同二四、六生)三男泰久(昭六、一〇生)あり姉千香(明一八、一一生)は山形縣人成田正第篤に嫁せり(東京市本郷區駒込曙町一〇電大塚五〇三六)

野呂(鳥) 能(勢、島)

(※印は姻族関係)

ノ三〇

勤務し同三十九年獨立して洋反物商を始め野呂克商店と稱し漸次發展して今日に至る家族は尙孫敬輔(昭二、四生、長男哲藏長男)同隆造(同四、三生、同二男)あり二男英藏明三、三生、野呂克商店出資社員)三男孝藏(同三九、一生)は分家し六男愛藏(大元、八生)は外祖母奥きくの養子となり長女喜久子(昭四、五生、樟蔭高女出身)は吉田鹿之助長男(昭一)に嫁せりA二四六三六大阪市東區備後町四ノ三七電本町二二八〇)參照ノ藤本伊八の項

野呂 静

三重モーターズ、東濃電化各種社長、濃飛電氣、名古屋新報各社取締役、中華企業、東美鐵道、伊那電力、鳳來寺鐵道各種監査役、岐阜縣在籍  
妻 明二、一、二、生、養父右衛門三男  
男 正 博 大元、八生  
女 養子癸巳次郎 山田一郎弟  
女 歌子 明三六、一、生、養子癸巳次郎妻  
女 和佳 昭四二、一、生  
男 正 三 昭三三、一、生  
女 たつ子 昭四五、一、生

野呂 駿三

勸四等、東美鐵道取締役、樺太工業監査役、岐阜縣在籍  
妻 きん 慶應元、一生  
君は岐阜縣人菅井九三の三男にして慶應元年六月を以て生れ先代房右衛門の養子となり大正四年家督を相続す現東濃電化會社社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙三男正男(大七、九生)五女春子(昭九、一、生)孫徳男(昭一五、九生)養子癸巳次郎長男(昭九、一、生)子(昭四〇、一生)は岐阜縣人林茂夫に嫁せりA一一四八(名古屋市中區東道八ノ三電本三三三)

縣人山田正吉に二女つね(昭二九、七生)は同縣人間四郎に嫁せり(岐阜縣見野郡御嵩町)參照ノ間四郎の項

野呂 彦太郎

近江屋寫眞用品總社長、立體寫眞出入商、東京府在籍  
妻 さだ 昭三、七生、東京、大塚文治長女  
男 幸 義 昭八、一、二、生  
女 幸 子 昭三三、一、生、東京、高山市平三

野呂 勇之助

從四位勳四等、地方技師、兵庫縣内務部耕地整理課長、三重縣在籍  
妻 まさ 昭二、一、八生、神奈川、平本峰松  
女 貞 子 昭四四、一〇、生  
女 節 子 昭三三、一、一、生  
君は三重縣人野呂貞一郎の長男にして明治十三年四月を以て生れ同三十七年家督を相続す同四一年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し福井神奈川各縣技師を経て地方技師に任ぜられ現時兵庫縣内務部耕地整理課長たり家族は尙二男貞(昭七、一〇、生)三男彰(昭九、一、二、生)妹(昭三三、七、生)あり弟(昭三一、一、五、八、生)は三重縣人小田文男に妹(昭三一、一、四、生)は同縣人野呂興之助に各養子となり弟(昭三一、一、七、一〇、生)は分家し妹(昭四二、二、生)は静岡縣人竹中貞一に嫁し弟(昭二二、二、生)は同縣人豊島たかの入夫となり(神戸市湊區野野町三ノ二二七)

能島 進

日本電報通信社取締役  
君は廣島縣人能島達三の長男にして明治十三年五月を以て生れ同三十八年祖父平左衛門の後を承けて家督を相続す同三十八年立命館大學を卒業し現時日本電報通信社取締役たり(大阪府北區中之島二ノ五七ノ二電本局六〇五〇)

能勢 喜久二

石九商店支配人  
妻 露 昭二、一、二、生、東京、岸保多郎  
男 槍 一 昭八一、二、生  
女 元 子 昭八一、九、生、樟蔭女子專門學校出身  
女 富 子 昭六五、七、生、神戸女學院出身  
女 福 子 昭六八、一、一、生、松蔭高女在學  
君は愛知縣土族能勢五郎の長男にして明治十年七月を以て生れ同三十二年家督を相続す現時石九商店支配人にして兼に神戸岡崎銀行兵庫支店長兼中央市場支店長たり家族は尙五女十子(昭一四、四、生)二男昭二(昭二、六、生)あり弟(昭一七、八、生)同妻(昭二六、一、一、生、東京、堀本太郎五女)は其二子を伴ひ分家し長女久子(昭四四、四、生)は岡田三三男靜雄に嫁せりA一〇七(神戸市東區神戶通三ノ一電本合二二七四)

能勢 省太郎

資産家  
妻 千代 昭二〇、七、生、京都、山崎藤左衛門三女  
男 幸 彦 昭四三、五、生  
女 眞須美 昭四五、六、生  
君は京都府人能勢規十郎の長男にして明治十六年二月を以て生れ先代長兵衛の養子となり同二十六年家督を相続す資産家たり長女マツ(昭四〇、一、一、生)は京都府人渡邊亮に嫁し二男(昭三三、四、一、〇、生)は分家せりA六四七(京都市上區小山大野町六七電本西陣四八〇二)

能勢 萬

正三位勳二等、辯護士  
妻 三美 昭四、一、生、岡山、士、國分三亥

男 克 男 昭二七、八、生、辯護士、法學士  
妻 慶 昭三三、八、生、長男克男、岡山  
君は岡山縣土族能勢道仙の長男にして文久三年十月を以て生れ明治十一年家督を相続す同十六年十月司法省法學校法學生徒となり同十八年判事補となる同二十年四月判事登用試験に及第して爾來名古屋地方裁判所判事官名古屋各控訴院判事岐阜仙臺福岡名古屋大阪各地方裁判所長官各控訴院判事岐阜仙臺福岡名古屋大阪各時辯護士を業とす家族は尙孫善樹(大九、一〇、生)長男克男(昭二七、八、生)同二、二、生、同三男(昭一三、一、三、生)同長女(昭二五、五、生)同三男(昭一四、四、八、生)同四男(昭一五、五、生)一、生、東京府人松岡辨二男義和に嫁し弟(昭一七、一、一、生、文學士)は同府人若杉くわの死跡を相続せりA四〇〇(名古屋市中區南區治屋町三ノ二五電中五〇六)參照ノ國分三亥、松岡辨の項

能見 新一郎

三菱商事會社社員  
妻 キク 昭一六、七、生、山口、士、河内山  
君は兵庫縣人能見愛太郎の長男にして明治四十三年八月二十一日を以て生れ昭和七年家督を相続す同九年慶應義塾大學を卒業し現時三菱商事會社社員たり先代愛太郎は東京帝國大學工科大学探検冶金科を卒業し三菱合資會社に入り炭坑長臨時北海道調査課長炭坑部理事兼技術課長を経て大正七年三菱鐵業會社成立と共に其職務取締役に擧げられ本邦業界の一方に重きをなしたる人なり兼に工學博士の學位を授けたる家族は尙弟福二郎(昭四五、六、生、慶大在學)妹(昭三三、三、生、女子學習院出身)同三男(昭一七、七、生、女子學習院在學)弟武三郎(昭一七、七、生、女子學習院在學)あり姉トヨ(昭三七、二、生、九段精華高女出身)は愛知縣人三井物産會社員大久保立一に同ナホ(昭四一、七、生、女子學習院出身)は福井縣人三井銀行員松本秀彦に嫁せり(東京市澁谷區青葉町一二電青山二二二)

能美 季一

正五位勳六等、農學博士、陸軍二等醫官、税關監督、東京府在籍  
妻 初枝 昭一、一、二、生、石川、士、萩春

妻 登代 昭二七、九、生、愛知、志田貞三三  
君は島根縣人能美順次郎の三男にして明治二十一年十二月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す同年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し更に大學院に學び爾來陸軍二等陸軍工長一等陸軍工長三等陸軍醫務官等職場技師兼農商務技師帝試試驗場技師兼農商務技師等に歴任し昭和二年陸軍二等醫官に任じ帝試試驗場技師兼獸疫調査所技師を経て現時前記の職に在り兼に歐米各國に留學を命ぜられ農學博士の學位を授けたる家族は尙長女(昭一一、一、一、生)二女(昭一一、一、二、九、生)あり(横濱市磯子區原町五官舎電本局一四五二)

能村 知二

從六位勳五等、二見浦旅客船會社取締役、兵庫縣在籍  
妻 智之 昭三三、一、一、生、佐賀、杉江常三  
女 園子 昭二七、一、二、生  
君は德島縣土族能村豐吉の三男同警夫の弟にして明治九年八月を以て生れ同十四年兄千男より分れて一家を創立す米國コネル大學を卒業し海軍技師を勤めし尙二男雅夫(昭五五、二、生)三男彰(昭一四、一、〇、生)あり(兵庫縣武庫郡神戶町打出字久保二電屋二五八三)參照ノ峯山謙郎の項

納村 章吉

前東洋工業社取締役  
妻 初枝 昭一、一、二、生、石川、士、萩春

男 章 一 昭三四、一、一、生、早大政治經濟學部出身  
妻 順 昭四三、九、生、長男章一妻、東京  
男 泰 二 昭四一、六、生、日本大學專門部齒科醫專出身  
君は石川縣人中黒六左衛門の六男にして明治四年五月を以て生れ先代長吉の養子となり同二十九年家督を相続す同年東京帝國大學工科大学探検冶金科を卒業し三菱合資會社鐵道部に入り横濱鐵道山崎長岡山長荒川尾去澤明延各鐵道長大阪東洋工業社に入り入社後現時同社理事兼大阪東洋工業社長たり(昭三三、七、八、生)は和歌山縣人中松盛雄長男法學士淵之助に四女友(昭四〇、七、生、山脇高女出身)は東京府人村瀬花之亮弟工學士忠に嫁せり(東京市杉並區阿佐ヶ谷五ノ三二電秋葉二六六五)參照ノ中松盛雄の項

信岡 實太

第一生命保險(五)大阪支部長  
妻 ミツ 昭二二、五、生、廣島、赤松常次郎  
女 養子 貞 昭四〇、四、生、長女俊子夫、東京  
君は廣島縣人信岡友三郎の長男にして明治十三年九月を以て生れ同四十年家督を相続す同三十九年農商務省に入り海外派遣を命ぜられ商工業の調査に従事し同四十二年歸朝後實業界に入り大正三年第一生命保險相互會社に入社し現時同社支店長たり家族は尙孫壯一郎(昭八、八、生、養子貞長男)あり弟昭一(昭一五、一、一、生)は廣島縣人橋高シゲの養子となり同與六(昭一九、二、生)同澤男(昭二五、九、生)は各分家し妹八重子(昭二八、一、一、生)は廣島縣人黒田靜一に嫁せりA一九八五(兵庫縣武庫郡御影町城ノ前一二二電御影四八六七)

信田 忠司

板硝子商、土地住宅經營  
妻 留吉 昭三、一〇、生、大阪、信田久兵衛三男

ノ之部 能(見、美、村)

納、信(岡、田)

(※印は姻族関係)

ノ三一

**繼母** や 系 明五、一生、大阪、毛利善助二女  
 妻 シヨ 明二五、五生、大阪、久保繁松三女  
 君は大阪府人信田留吉の長男にして明治十九年七月を以て生れ同二十三年家督を相続す板前子爵を替み傍ら土地住宅を経営す讀書登山を趣味とす家族は尙二男耕一(大四、一生、日本大學(商學部)在學)三男泰司(同六一、一生、明星商業學校在學)四男茂雄(同六一、一生)五男忠夫(昭二、六生)六男良雄(同五、一〇生)ありA九五二大阪府天王寺區藤山町二ノ六電大王寺一七八一)

**昇** 正五位勳三等、著述家  
 (直隸) 東京府在籍  
 妻 ふじ 明二一、一生、群馬、土、藤平新太郎妹、前橋共愛高女出身  
 男 隆一 明四五、一生、東京外語出身、露都留學  
 女 直子 大八、三生、鎌倉高女出身  
 多嘉子 大八、三生、平塚高女在學

君は鹿兒島縣人昇直幸志の二男にして明治十一年七月を以て生れ同十四年家督を相続す同三十六年日本正教會神學校を卒業し同校講師及早稻田大學講師を経て大正五年陸軍教授に任ぜられ陸軍士官學校教官に補せらる昭和七年官を辭し現時日本大學講師たり露國に遊ぶこと前後四回露語及露文學に造詣深く數多の翻譯並著作あり弟季雄は北海道旭川新聞編輯局長として在職二十年に及ぶ(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町稻村ヶ崎五二七)

**登石 善二** 從四位勳四等、前高知高等學校教授、大阪府在籍  
 妻 スミ 明二一、一生、山口、倉重半次郎二女  
 男 登 明三九、一生、濱松區裁判所檢察官  
 女 靜 明四〇、一〇生、長男登妻、兵庫  
 純 明四三、一生、川崎造船所飛行機部技師、工學士  
 健 三 大八、九生、大阪帝國大學部在學  
 百合 大八、二生にして明治九年四月を以て生れ同三十七年兄善三郎方より分れて一家を創立す同三十三年東京帝國大學理科學科を卒業し

山口縣岩國中學校教諭大阪高等工業學校教授海軍教授等を経て高知高等學校教授たりしも現時之を辭せり家族は尙四男浩士(大一一、一生)孫京(昭五、三生)長男登長男あり長女千代(明三七、八生)は山形縣人阿部市助弟市四郎に二女(同四一、一生)は福井縣人片岡良吉二男良二に嫁せりA一〇八(高知市大川筋一三)参照 案倉重理良の項

**法貴 六郎** 正五位勳三等功五級、陸軍軍醫監  
 第五師團軍醫部長、兵庫縣在籍  
 君は兵庫縣人にして明治十五年二月二日を以て生れる同十四年九州帝國大學醫學部卒業し二等軍醫に任じ昭和七年陸軍軍醫監に累進し現時第五師團軍醫部長にして兼て廣島衛戍病院院長を兼ね家族は妻ふみ長女信子(梅花女子專門校英文科出身)同夫六右衛門(熊本醫大助手、醫學士)あり(廣島市第五師團軍醫部内)

**則井 萬壽雄** 衆議院議員(岡山縣選出)  
 岡山縣在籍  
 妻 熊野 明二〇、五生、岡山、吉原庸造長女  
 男 一平 明四四、一生  
 女 民子 大二、一生  
 女 正 大四、一生  
 女 雪子 大六、二生

君は岡山縣人則井光右衛門の弟にして明治十二年十月を以て生れ後分れて一家を創立す先是同三十年判檢事登用試験に及第し同年高松地方裁判所詰となり同三十三年明治大學を卒業し同三十八年辯護士を開業す爾來岡山縣會議員に當選する事二回後縣會議長を経て昭和九年五月岡山縣より選ばれ衆議院議員に當選し現に立憲政友會に屬す家族は尙英子(大一一、五生)あり長女田鶴(明四三、四生)は岡山縣人杉大杉光造弟眞造に嫁せり(岡山縣上房郡高梁町)

**則元 卯太郎** 長崎日日新聞社取締役副社長  
 長崎縣在籍  
 母 勝 明七、三、九生、千原政民長女  
 男 男 大一一、二生

所屬して政界に重きをなせり君は其長男にして明治二十四年十一月を以て生れ後家督を相続す大正六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し辯護士を開業し現に長崎市會副議長長崎縣會議員にして長崎日日新聞社取締役副社長たり家族は尙長女喜美(六一、三生)二女由美(同二五、二生)の外妹ハナ(明四四、五生)あり弟菊次郎(同二六、一生)は分家し妹千代(同二九、七生)は長崎縣人鶴野海藏に嫁し弟俊三(同三二、七生)は京都府人則元涼雄の養子となれり(長崎市西山町一ノ三六八電一五九八)

**乘杉 嘉壽** 正四位勳三等、東京音樂學校校長、同慶會長、東京府在籍  
 妻 明二〇、一生、東京、櫻木谷讓遜長女  
 男 恒 明三九、二生、帝大在學  
 女 幸子 明三九、一生、東京府立第二高女出身

君は富山縣人乘杉嘉貞の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す同三十七年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し次で大學院に入る同四十二年第五高等學校教授となり大正二年文部省督學官に任じ同六年教育及教授法研究の爲め英米兩國に留學し時局教育狀況視察の爲め佛伊を巡遊し歸朝後文部省圖書官文部事務官同大臣秘書官に歴任し社會教育の創設に盡し文部省社會教育課長松江高等學校校長を経て昭和三年東京音樂學校校長に任ぜられ同慶會長を兼ね家族は尙三男喬(大五、二生)四男恂(同九、一生)あり(東京市豊島區巢鴨五ノ一一三〇電大塚六〇二)

**乘杉 研壽** 從五位、特許局事務官、總務部庶務課長、東京府在籍  
 妻 正 明三六、三生、女子英學堂出身  
 男 孟 昭二、四生

本店 臺北市榮町二丁目一番地  
 東京支店 東京市麴町區丸ノ内一丁目二番地ノ一  
 電話丸ノ内代表 三三三二二

株式臺灣銀行

支店出張所所在地

- |     |   |
|-----|---|
| 支店  | 基隆、新竹、台中、彰化、嘉義、台南、高雄、屏東、花蓮、澎湖、金門、馬祖                           |
| 出張所 | 台北、新竹、台中、彰化、嘉義、台南、高雄、屏東、花蓮、澎湖、金門、馬祖                           |
| 支店  | 上海、天津、漢口、廣州、香港、倫敦、紐約、舊金山、芝加哥、洛杉磯、三藩市、聖路易、新奧爾良、新加坡、檳榔嶼、泗水、巴達維亞 |

東京市麴町區有樂町貳丁目九番地  
**大正生命保險株式會社**  
**日本教育生命株式會社**  
 社長 金光庸夫  
 電話丸ノ内(23)  
 五五五五五  
 〇〇〇〇〇  
 九八七六五

應接室に、書齋に  
 品位ある絨氈・窓掛  
 卓子掛・壁紙を  
 東京・銀座一丁目  
**睦屋商店**  
 社長 富澤半四郎  
 電話 東京橋(56) 七九二九  
 七七二六



時裝銀優記  
身勝念  
計具器品



東京・銀座一丁目  
**山崎商店**  
株式會社  
電話 (56) 6161・6162・1287

本社 臺灣臺南州麻豆街四二九番地



# 明治製糖株式會社

社長 原 邦 造

本社事務所 東京市麴町區丸ノ内三丁目十番地

# 松竹キネマ株式會社

社長 白井松次郎

本社 東京市京橋區新富町三丁目五番地一  
電話京橋(56)自四一三一至四一三八

## ハ之部

### 士師 盛貞

正五位勳四等、朝鮮總督府平安北道知事、鹿兒島縣士族

妻 盛道 大一一、一〇生

君は鹿兒島縣士族土師莊八郎の二男にして明治二十一年四月を以て生れ同三十二年家督を相續す大正三年文官高等試験に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業す石川縣警部同警視和歌山縣日高郡長朝鮮總督府事務官同府道事務官全羅南道京畿道各警務部長朝鮮總督府選信局海軍課長同海員審判所長殖産局商工課長兼商工獎勵館長等に歴任し現時平安北道知事として名聲あり慶に大正十四年歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙二男政雄(大一一、九生)三男勇(昭三、三生)長女慶子(同五、六生)あり姉依惠(明一一、一一生)は鹿兒島縣人土師經幸に嫁せり(新義州府樓町知事官舎電六四三)

### 士生友次郎

ひさごの家 旅館業 大阪府在籍

妻 友次 明一七、七生、大阪、土生正泰養子 英二 明四一、四生、長女高峯夫、神戸商大出身  
女 高峯 明四三、一一生、養子英二妻、同志社女子專門部出身  
女 敏子 大元、八生、大阪市立扇町高女出身  
君は和歌山縣人森本長右衛門の二男にして明治十四年十一月三十日を以て生れ同四十二年先代かめの入夫となり家督を相續すひさごの家と稱し旅館業を營む家族は尙孫博子(昭九、三生、養子英二長女)ありA四四七B一三一(大阪府北區東梅田町三八電北一〇三四・一〇三五)

### 羽生 雅則

正五位勳四等、愛知縣書記官、内務部長、長野縣士族

養母 五ん 明一〇、八生、東京、荒木秀雄長妻 靜江 明三四、二生、東京、屋代芳吉姪

君は東京府人奥秋茂兵衛の五男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正十一年先代靜江の入夫となり家督を相續す同四年文官高等試験に合格し翌五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す同年臺灣總督府屬に任じ爾來同事務官帝都復興院事務官復興局事務官同書記官等に歴任し昭和五年東京府書記官に就任同七年勳任官となり次で同六年北海道拓殖部長に就任同七年勳任官を以て待遇せられ同九年愛知縣書記官に轉じ現に内務部長たり家族は尙一女寛子あり(名古屋市中區新榮町愛知縣廳内務部内) 參照II 茨山下谷次の項

### 羽尾 勘七

群馬縣額納稅者、羽尾商店番取 妻 勘七 明一八、三生、養父勘七長女  
女 四郎 明三五、四生、長女テイ夫、群馬大島戸一四男、同志社大學出身  
女 テイ 明四一、三生、養子四郎妻  
養子 吉明 女 士ト夫、東京、平田宗道弟、法大、六生、養子吉明妻、跡見女學校及ドレスメーカー女學院出身

羽尾家は代々呉服商を營み來れる舊家なり君は群馬縣人細野右左の三男にして明治十三年四月十八日を以て生れ先代勘七の養子となり大正十四年家督を相續し前名正三を改め七代目勘七を襲名す家業を繼承し呉服商を營み傍ら羽尾商店取締役に就任し縣下の多額納稅者たり讀書習字に趣味を有す二女セツ(明四二、一〇生)は外祖父細野右左の二女となり(群馬縣佐波郡伊勢崎町新町九七〇) 參照II 茨大島堅造 藤原英太郎の項

### 羽賀 清太郎

東京府在籍 妻 はつ 安政四、一一生、東京、齋藤傳藏  
母 つね 明二〇、一〇生、東京、青木ムメ  
男 清一郎 明四〇、一一生

婦 登久子 大四、六生、東京、小林彦藏四女  
女 文代 明四五、三生  
男 弘 大三、一一生

君は東京府人羽賀清藏の長男にして明治十五年一月十三日を以て生れ昭和八年家督を相續す家主たり家族は尙四女昭葉(昭二、二生)あり妹わか(明二九、五生)は一男を伴ひ分家せりA三八二(東京市豊島區西巢鴨二ノ二〇一八)

### 羽島 金三郎

從四位勳四等、東京石川島造船所 妻 賀滿 明一八、四生、東京、松平信安庶長女  
男 勉 明四〇、九生、鐵道省勤務、工學士  
男 博 大四、二生、日本齒科醫專在學  
女 ミドリ 大四、七生、札幌高女出身  
女 テイ 大七、八生、浦和高女在學

君は山形縣人羽島榮藏の長男にして明治十三年十一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し川崎造船所を經て同四十年帝國鐵道廳となり同四十二年鐵道院技師に任じ仙臺鐵道管理局盛岡工場長となり爾來鐵道局技師に任じ仙臺鐵道管理局盛岡工場長となり爾來鐵道局技師として勤任待遇となり昭和七年之を辭し現時東京石川島造船所顧問たり家族は尙女キヨ(大九、一一生)浦和高女在學六男榮治(同一一、八生)六女ハナ(同一一、七生)の外弟忠(明四二、一一生)あり長女操(明四二、三生)札幌高女出身は醫學士松尾秀男に嫁し弟午三(同二七、六生)同用五(同三二、五生)は分家し同修七(同三九、一一生)は福島縣人竹内一角の養子となり妹よし(同二九、一〇生)は山形縣人岩田貞次に同りん(同三七、四生)は同縣人藤澤六郎長男一に嫁せりA一三〇(浦和市神明臺) 參照II 茨子爵市橋虎雄の項

羽田小ハル

大阪府在籍 家主 養子 英三 郎三、一〇生、奈良、中田英太...

羽田重一郎

長野縣多額納税者、農業 男 吉太郎 大六、九生、養父完八長女...

羽田如雲

東京市議員、菊屋商店、食料品 男 八十子 明九、一〇生、子爵綾小路護叔母...

羽田精一

鹽水港製糖會社取締役、臺灣生 妻 マサ 女 明一三、九生、大阪、櫻井義起長...

羽田友二

三菱重工業會社取締役、旭硝子監 男 久任 大六、一〇生、東京府在籍...

羽野友二

三菱重工業會社取締役、旭硝子監 男 久任 大六、一〇生、東京府在籍...

羽鳥又次郎

從四位勳三等、北海道帝國大學豫 科教授、東京府在籍 男 勝春 明三八、一〇生、工學士...

羽仁吉一

婦人之友社長 東京府在籍 母 イヨ 女 萬延元、四生、山口、内藤茂平二...

羽田忠兵衛

第一商會取締役、噴泉浴場總相 大阪府在籍 男 博 大一二、一〇生、東京府在籍...

羽田亨

從四位勳三等、文學博士、京都帝 國大學教授、文學部長 男 道代 明四三、三〇生、京都、北尾彦太郎...

羽田彦太郎

大阪府在籍 男 幸子 大五、八生、東京府在籍...

羽田和輔

東京合同運送會社取締役兼飯田 町支店長、運送相互保證會取締役 男 榮雄 嘉永五、七生、長野、士、小平與...

羽田廉三

東京府在籍 男 三郎 大七、一〇生、東京府在籍...

羽田和

東京合同運送會社取締役兼飯田 町支店長、運送相互保證會取締役 男 榮雄 嘉永五、七生、長野、士、小平與...

羽田榮

東京府在籍 男 三郎 大七、一〇生、東京府在籍...

羽田和

東京合同運送會社取締役兼飯田 町支店長、運送相互保證會取締役 男 榮雄 嘉永五、七生、長野、士、小平與...

羽田榮

東京府在籍 男 三郎 大七、一〇生、東京府在籍...

羽田和

東京合同運送會社取締役兼飯田 町支店長、運送相互保證會取締役 男 榮雄 嘉永五、七生、長野、士、小平與...

羽間重三郎

大阪府在籍 母 ミネ 女 嘉永四、三〇生、先代左衛門二女...

羽間吉之助

大阪府在籍 妻 小定 明二〇、九生、岡山、馬場市郎姉...

羽間佐五郎

大阪府在籍 妻 フキ 女 明二六、四生、大阪、岡本秀吉長...

羽間右衛門

大阪府在籍 妻 さい 女 明二〇、六生、兵庫、西村正作三...

羽間市右衛門

大阪府在籍 妻 小定 明二〇、九生、岡山、馬場市郎姉...

羽間吉之助

大阪府在籍 妻 小定 明二〇、九生、岡山、馬場市郎姉...

羽間佐五郎

大阪府在籍 妻 フキ 女 明二六、四生、大阪、岡本秀吉長...

羽間重三郎

大阪府在籍 母 ミネ 女 嘉永四、三〇生、先代左衛門二女...

羽間吉之助

大阪府在籍 妻 小定 明二〇、九生、岡山、馬場市郎姉...

羽間佐五郎

大阪府在籍 妻 フキ 女 明二六、四生、大阪、岡本秀吉長...

君は大阪府人羽間實藏の長男にして明治十九年三月二十五日を以て生れ大正十年家を相續す現時地家主たりA九一(大阪府西淀川區海老江中三ノ二一電土佐堀二一八)

羽間 正三 地家主 大阪府在籍 妻 ヒサ 慶應二、二生、美祖父安兵衛長 妻 とみ 明三〇、二生、大阪、三木芳治郎 女 喜代子 大八、一〇生 女 愛子 大八、一〇生 君は大阪府人橋本爲三郎の四男にして明治二十三年七月七日を以て生れ同三十三年羽間菊松の養子となり大正七年家を相續す地家主たり家族は尙三女孝子(大正三、三生)四女照子(昭二、二生)ありA六六八(大阪府東淀川區豊崎東二ノ五四電北四六五六)

羽間 庄太郎 地家主 大阪府在籍 母 ヤク 明四、一、生、大阪、田中治助長女 父 利子 大元、八生、長男庄右衛門妻、大正、宮崎源次郎二女 君は大阪府人羽間實藏の長男にして明治二十年九月を以て生れ同四十二年羽間右衛門の養子を受け家を相續す同三十八年大阪商業学校を卒へ地家主たり家族は尙二男次郎(大九、八生)三男利男(同三、一、生)ありA三二〇〇(大阪府西淀川區海老江中三ノ一六電土佐堀三〇九六) 參照 松本辰義の項

羽間 スエ 地家主 大阪府在籍 君は大阪府人日下信太郎の三女にして明治三十三年四月二十五日を以て生れ大正九年羽間家の家籍に入り同十五年夫小一郎の家督を相續す地家主たりA七八七(大阪府東淀川區豊崎東通二ノ四電北四六五六)

妻 季子 明三六、一、生、大阪、乾義右衛門三女 男 收治 昭二、六生 君は大阪府人先代羽田龜五郎の長男にして明治三十二年二月十七日を以て生れ昭和二年家を相續す正八位に叙され現時前記大阪海老江郵便局長たり家族は尙妹ヒサ(昭一、一、生)二男毅(昭四、三、生)三男慧(同六、一、生)あり妹明子(大一一、一〇生)弟敬司(同五、八、生)は共に大阪府人濱ゾデの養子となりA八四六(大阪府西淀川區海老江上三ノ八八電土佐堀三〇六一)

羽間 文雄 地家主 大阪府在籍 祖母 カツ 安政六、一、生、大阪、石尾綱三 母 リウ 明一八、一、生、大阪、石尾綱三 君は大阪府人羽間龜三郎の長男にして明治四十一年五月十日を以て生れ昭和二年家を相續す現任早稲田大學を卒業し地家主たりA四六三(大阪府東淀川區豊崎東通二ノ五九)

羽間 都 地家主 大阪府在籍 父 吉之助 慶應二、七生、現戸主 君は大阪府人羽間吉之助の九女にして大正十四年十月十二日を以て生れ地家主たりA三八五(大阪府西淀川區海老江中三ノ一八)

羽村 協輔 電氣化学工業、黒田川電力、青海 水電各社取締役、東京府在籍 妻 ヤウ 明三〇、四、生、愛媛、法華津孝治 二女、三輪田高女出身 君は山口縣人羽村卯作の七男にして明治十六年十二月一日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し猪苗代水電會社に入り主事に進む後電氣化学工業會社に轉じ累進して現時其取締役を推され庶務課長たり務ら黒田川電力青海水電各社取締役たり釣魚俳句に興味を有す家族は尙長女怜子(昭七、四、生)ありA一八〇(東京市牛込區矢町一三電牛込六一五五)

參照 法華津孝治廣瀬實光の項 羽室龜太郎 大津市會議員、比叡山鐵道、鞍馬電氣鐵道各社長、木曾川電力常務取締役、愛宕山鐵道、奈良電氣鐵道、パグナル、京都中央市場倉庫各社取締役、太湖汽船、鞍馬自動車各社取締役、京都府在籍 男 安子 明三五、二、生、長男普妻、京都北小路後學館 男 光 明四四、二、生 君は京都府人羽室壽衛の三男にして文久元年十二月一日を以て生れ明治三十九年兄嘉右衛門方より分れて一家を創立す現時比叡山鐵道鞍馬電氣鐵道各社長の外前記各社の重役たり長女愛子(昭三九、三、生)は東京府人早稲田大學理工學部講師戸野琢磨に嫁せり(京都市上京區烏丸通上立賣上九柳園子町三三一電西三七七) 參照 波多野野林一の項

羽室庸之助 關西製鐵、日本水道衛生工事各社 監査役、羽室鑄鋼所出資社長、銀星女學院長、兵庫縣、森泉宗次二 男 マサ 明一、二、生、大阪、森泉宗次二 女 次郎 明四三、七、生、梅花高女出身 男 次郎 明四三、七、生、鳳鳴義塾出身 女 美津子 昭三、二、生、神戸女學院音樂部在學 君は兵庫縣土族羽室義行の長男にして明治元年九月を以て生れ同十九年家を相續す同二十三年東京高等工業學校機械科を卒業し私立中興鳳鳴義塾教師となり農商務省製鐵所に入り獨逸に留學す後住友製鐵所副支配人となり又衆議院議員に擧げらる現時前記會社の重役にして銀星女學院長たり長女初子(昭三九、一〇生)は兵庫縣人中川岩太郎に妹(同四、一、生)は同縣土平澤鈺之助(同八、一〇生)は兵庫縣人安原兵太郎に良に同(同八、一〇生)は兵庫縣人安原兵太郎弟衛藏に嫁し同(同二、一、七、生)は大阪府人橋本兵衛の養子なり弟耕平(同三、一〇生)は同妻長女(同二、七、生、和歌山、有井正三女)と共に分家せり

波多野岩吉 正五位勳三等、東京高等蠶絲學校 教授、東京府在籍 妻 さと 明二〇、二、生、東京、人見伸藏長 君は北海道人波多野三郎の弟にして明治十九年八月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し大正三年東京高等蠶絲學校教授に任じ今日に至る農に歐米各國に留學す(東京市澁野川區田端町二九六電小石川七一七)

波多野 海藏 松竹興業取締役、丸見屋商店 理 妻 とく 明一四、二、生、美父海藏長女 男 郁太郎 明三五、七、生 女 久榮 明四三、八、生、長男郁太郎妻、岩手、工藤富吉長女 女 文子 明四四、五、生 女 欽三 大二、一〇生 君は福井縣人廣瀬舟夫の弟にして明治十二年三月十八日を以て生れ先代海藏の養子なり同三十二年家を相續し前名千海を改め徳名なり現時松竹興業會社取締役たりして丸見屋商店理事たり義に歌舞伎座常務取締役たりしことあり家族は四男洋平(大五、二、生)ありA二五二(東京市下谷區二長町五一電下谷二三〇五)

波多野 三藏 船木町長、船木鐵道社長、活版 印刷業、山口縣土族 妻 アイ 明二三、一、生、山口、横後治長女 男 英三 明四四、五、生、山口高商出身 君は山口縣朝倉城主の後胤にして元禄十三年船木へ居を移し養父を波多野と改む君は八代藩波多野玄介の二男にして明治元年四月を以て生れ大正二年家を相續す現任杉山漢學を學び後京都専修學校を卒業し明治二十三年印刷會社社長たり漢詩讀書に興味あり家族は尙二女直子(昭三、八、生)あり長女ハル(昭三三、三、生)は山口縣人宇部セメント製造會社支配人永田豊策に嫁せり(山口縣厚狭郡船木町電三一)

波多野 二郎 正四位勳三等、子爵、海軍大佐 東京府華族 妻 ため 明三、一〇生、東京、土、矢野宣 女 かつ子 明二八、一、生、岡山、土、鳥村久 女 孝子 大三、一〇生、女子學醫院出身 女 須賀子 大八、四、生、女子學醫院在學 當家は先代敬直より家名を揚ぐ敬直は舊肥前國小城藩士にして明治十二年司法省に出仕し判事たり爾來司法省參事官京都府司法官大阪府司法官等を経て大正九年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ大正六年子爵に陞る君は敬直の二男にして明治十八年二月十五日を以て生れ大正十一年勳爵仰付けらるる風に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ果敢して海軍大佐に陞り利根艦長日進艦長横須賀鎮守府附に歴補し昭和五年豫備役に編入せらるる家族は尙四女貞子(大一一、八、生)弟敬三

波多野 貞夫 從四位勳二等功五級、海軍中將 東京府在籍 妻 アキ 義養六女 女 眞子 大元、一、二、生 君は東京府土族波多野敬の四男同精一の弟岩田達夫の兄にして明治十四年五月を以て生れ同四十五年兄精一方より分れて一家を創立す同三十三年海軍兵學校を卒業し同三十五年海軍少尉に任じ昭和二年海軍中將に累進す其間運送船監督官朝日分隊長として日露戰役に出征し功を樹て功五級勳章を賜ふ爾來佛國駐在獨逸駐在吳海軍工廠火藥試驗所長兼検査官遠征監督官海軍大學校教官海軍技術本部會議員海軍砲術學校教官海軍水雷學校教官海軍火藥研究所部長海軍火藥廠長海

(西宮市南郷四〇) 波江野吉太郎 臺灣製糖取締役、臺灣酸素會代 表社員、鹿兒島縣在籍 男 英一郎 明三〇、二、生 女 富美 大野幸一姉 男 信夫 明三五、一、二、生 女 美代 明四五、五、生 男 吉夫 明四五、五、生 君は鹿兒島縣人波江野善四郎の長男にして慶應三年二月二十日を以て生れ明治八年家を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙孫英男(昭元、二、生、長男英一郎長男)同文夫(同四、二、生、同二男)あり長女ヒデ(昭二九、一、生)は鳥取縣人矢田具寛に二女千代(同三、八、一〇生)は千葉縣人青木健一に嫁せりA九〇八B四九三(臺北州羅東街羅東)

波木井政太郎 神奈川縣參事會員、横濱市會議員 神奈川縣多額納稅者、地主、神奈川縣在籍 父 豐太郎 明元、八、生、現戸主 母 クニ 明三、五、生、東京、櫻井金次郎妹 妻 敏 治長女 男 久一郎 大九、五、生 君は神奈川縣人現戸主政太郎の長男にして明治二十九年九月十日を以て生れる地主として知られ直接國稅二千三百七十七圓を納め縣下の多額納稅者に列す推されて神奈川縣參事會員横濱市會議員たり家族は尙長女温子(大一一、五、生)二男三寅(同一一、一、生)弟六男(明三、七、生)妹掛子(同三三、九、生)叔父五三郎(同九、四、生)同妻セキ(同三二、一、生)神奈川、鳥塚竹次郎(長女)及其四子女あり叔父龜次郎(同九、五、生)同妻ヌマ(同二二、一、二、生)神奈川、柳田金次郎二女叔父松之助(同二二、一、二、生)同妻ヤエ(同二四、七、生)神奈川、高橋角藏二女は其二女を叔父四郎吉(同二六、一、二、生)同妻ワカ(同二〇、四、生)神奈川、土志田梅之助(長女)は其一子を伴ひ各分家し叔母トミ(同二七、六、生)は神奈川縣人中山彦左衛門に嫁せり(横濱市神奈川區鳥越町一電本局二四〇二)



(明三一、五生)同妻辰(同三七、三生、東京、士、中山瑞彦妹)あり妹ヒロ(同一九、九生)は新潟縣人文學士山内雄太郎に同直子(同四一、九生)は岡山縣人渡邊勝三郎長男經濟學士正夫に嫁し甥繁(大一、二、一生)弟敬三(長男)同敬人(同四、三生、同二男)同敬三(昭三、四生、同三男)同敬雄(同七、一生、同四男)あり(東京市四谷區右京町二電四谷三〇六〇)

參照II山内雄太郎、渡邊勝三郎男爵山内均の項

波多野重太郎

慶松堂書店代表取締役、書籍商  
東京府在籍

妻 明一六、二生、東京、渡邊要藏長女

男 明三一、二生、高文書局出身

女 明三九、一〇生、長男一妻、神奈川、松本謙三長女

君は靜岡縣人波多野重太郎の長男にして明治八年十月二十日を以て生れ同二十七年家督を相續す現に東京市同三十六年頃古本の小舖を神田に開き爾來發展して出版業を開始するに至る現時法律經濟に關する出版書肆として名あり大震後營業を株式組織に變更し現に慶松堂書店代表取締役たり古本珍籍の蒐集に趣味を有すA二四五(東京市神田區中猿樂町電九段四一三五)

波多野精一

從四位勳三等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部勤務

妻 明八、七生、長野、倉田俊行長女

養子 雄二郎 大二、八生、分家弟雄二男

君は東京府人波多野敬の二男同貞夫若田連夫の兄にして明治十年七月を以て生れ同三十二年家督を相續す同年東京帝國大學文學部哲學科を卒業し後獨逸に留學す同四十二年文學博士の學位を受け大正六年京都帝國大學教授に任ぜられ今日に至る現時岡山縣護士會會長に其一子を伴ひ分家し弟貞夫(同四、五生)も亦分家し養子な(同三二、二生、神奈川、稻村金八二女)は三重縣士族有田義養の養子となり(京都市上京區田中西浦町八〇電上三三九〇)

參照II若田連夫、波多野貞夫の項

波多野隆助

正五位勳五等、岡山縣護士會會長

妻 明三、五生、和歌山、高木、平山

君は兵庫縣人大城戸仁兵衛の三男にして明治十二年三月を以て生れ先代秀太郎の養子となり同十九年家督を相續す同三十三年關西大學を次で明治大學を卒業し同三十四年判事登用試験に合格司法官試験となり同三十六年檢事に任じ爾來和歌山縣井坂草宇都宮甲府前橋岡山各地方裁判所及大審院檢事に補せられ後退官し辯護士を開業し今日に至る現時岡山縣護士會會長に推される長女文子(明三八、一生、岡山高女出身)は金澤醫學士西村順藏を迎へ醫院を開業し弟泰藏(同三〇、一生)同妻たか(同三一、九生、兵庫、上月徳三郎長女)は其一男を伴ひ分家せりA三六一(岡山市中山下二電三六五〇)

重長男弘一に嫁し同妻義(同二七、四生)は分家せり(東京市豊島區池袋二ノ九七四)

波多野元武

三井物産社社員

妻 明七、八生、千葉、士、串戶忠長

母 明三八、一生、東京、瀨下清三

當家先代承五郎は靜岡縣士族波多野半藏の長男にして明治七年應義塾を卒業後同塾に教鞭を執り二十五歳を以て東京市會議員に擧げらる次で時事新報記者天津總領事外務書記官野新聞社長となり後實業界に轉じ三井銀行王子製紙北海道炭礦汽船玉川電氣鐵道各會社の重役に列し又選ばれて衆議院議員たりしことあり君は其二男にして明治三十一年六月を以て生れ昭和四年家督を相續す先是學智院高等科を経て東京帝國大學工學部化學科に學び大正十一年卒業す尋で三井物産會社に入り總務課より機械部に轉じ今日に至る家族は尙長女禮子(昭二、二生)二女智子(同六、四生)及叔母さく(文久二、二生)あり姉みね(明一七、四生)は東京府士族斎間時福二男あり姉みね(明一七、四生)は東京府双葉高女出身)は資源局事務官松井春生に同春(同三五、五生)は男爵富井政章四男法學士恒雄に養姉イエ(同一九、一生、奈良、松本榮三郎)は和歌山縣人田中忠二郎に同(同二一、三生、養姉イエ妹)は鳥取縣士族小原延徳長男幼少に嫁し弟秀雄(同三八、二生、慶大出身)は分家せりA一七六一(東京市麻布區筈町一七六電青山二七三)

波多野保二

從四位勳三等、船舶改善協會常務理事、新潟縣士族

妻 明二〇、八生、北海道、石館清太

君は新潟縣人山本常吉の四男にして明治十三年九月を以て生れ後衆議院議員波多野傳三郎の養子となる同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十二年文官高等試験に合格す爾來臺灣總督府稅務官拓殖局書記官選信局副事務官地方海員審判所理事官選信書記

波多野義彦

正四位勳二等功四級、陸軍中將

妻 明一七、一〇生、山口、品川

君は山口縣士族波多野義次郎の長男にして明治六年八月三日を以て生れ大正四年家督を相續す現に陸軍士官學校を卒業し明治二十七年陸軍大學校を卒業し爾來砲兵中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し爾來砲兵會議審查官野砲兵第五聯隊附中隊隊長陸軍砲工學校教官陸軍軍務局課員陸軍技術審査部課員野砲兵第二十三聯隊長第十三師團參謀長野砲兵第二旅團長陸軍野砲兵射擊學校校長同砲工學校校長陸軍砲兵監等に歷補し同十五年豫備編入仰付けらるる家族は尙四男義路(大七、二生)五男義治(同二一、一生)弟武彦(明二〇、四生)あり二女美枝(同四四、八生)は東京府人佐々布充

波多野義

山口縣在籍

妻 明三〇、四生、黃葉深造妹

君は山口縣士族波多野義の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正元年十月家督を相續す現時日本光學工業會社取締役兼支配人にして義に三菱造船會社社長時兵器製作所總務課長たり家族は尙二男重男(大一、二、五生)ありA七九二(東京市町町區富士見町二ノ五ノ二電九段二八五〇)

參照II黃葉深造西大條覺の項

波多野義

日本光學工業會社取締役兼支配人

妻 明三〇、四生、黃葉深造妹

君は山口縣士族波多野義の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正元年十月家督を相續す現時日本光學工業會社取締役兼支配人にして義に三菱造船會社社長時兵器製作所總務課長たり家族は尙二男重男(大一、二、五生)ありA七九二(東京市町町區富士見町二ノ五ノ二電九段二八五〇)

參照II黃葉深造西大條覺の項

波多野義彦

正四位勳二等功四級、陸軍中將

妻 明一七、一〇生、山口、品川

君は山口縣士族波多野義次郎の長男にして明治六年八月三日を以て生れ大正四年家督を相續す現に陸軍士官學校を卒業し明治二十七年陸軍大學校を卒業し爾來砲兵中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し爾來砲兵會議審查官野砲兵第五聯隊附中隊隊長陸軍砲工學校教官陸軍軍務局課員陸軍技術審査部課員野砲兵第二十三聯隊長第十三師團參謀長野砲兵第二旅團長陸軍野砲兵射擊學校校長同砲工學校校長陸軍砲兵監等に歷補し同十五年豫備編入仰付けらるる家族は尙四男義路(大七、二生)五男義治(同二一、一生)弟武彦(明二〇、四生)あり二女美枝(同四四、八生)は東京府人佐々布充

波多野保二

從四位勳三等、船舶改善協會常務理事、新潟縣士族

妻 明二〇、八生、北海道、石館清太

君は新潟縣人山本常吉の四男にして明治十三年九月を以て生れ後衆議院議員波多野傳三郎の養子となる同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十二年文官高等試験に合格す爾來臺灣總督府稅務官拓殖局書記官選信局副事務官地方海員審判所理事官選信書記

波多野保二

從四位勳三等、船舶改善協會常務理事、新潟縣士族

妻 明二〇、八生、北海道、石館清太

君は新潟縣人山本常吉の四男にして明治十三年九月を以て生れ後衆議院議員波多野傳三郎の養子となる同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十二年文官高等試験に合格す爾來臺灣總督府稅務官拓殖局書記官選信局副事務官地方海員審判所理事官選信書記

君は山口縣士族波多野義次郎の長男にして明治六年八月三日を以て生れ大正四年家督を相續す現に陸軍士官學校を卒業し明治二十七年陸軍大學校を卒業し爾來砲兵中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し爾來砲兵會議審查官野砲兵第五聯隊附中隊隊長陸軍砲工學校教官陸軍軍務局課員陸軍技術審査部課員野砲兵第二十三聯隊長第十三師團參謀長野砲兵第二旅團長陸軍野砲兵射擊學校校長同砲工學校校長陸軍砲兵監等に歷補し同十五年豫備編入仰付けらるる家族は尙四男義路(大七、二生)五男義治(同二一、一生)弟武彦(明二〇、四生)あり二女美枝(同四四、八生)は東京府人佐々布充

波多野隆助

正五位勳五等、岡山縣護士會會長

妻 明三、五生、和歌山、高木、平山

君は兵庫縣人大城戸仁兵衛の三男にして明治十二年三月を以て生れ先代秀太郎の養子となり同十九年家督を相續す同三十三年關西大學を次で明治大學を卒業し同三十四年判事登用試験に合格司法官試験となり同三十六年檢事に任じ爾來和歌山縣井坂草宇都宮甲府前橋岡山各地方裁判所及大審院檢事に補せられ後退官し辯護士を開業し今日に至る現時岡山縣護士會會長に推される長女文子(明三八、一生、岡山高女出身)は金澤醫學士西村順藏を迎へ醫院を開業し弟泰藏(同三〇、一生)同妻たか(同三一、九生、兵庫、上月徳三郎長女)は其一男を伴ひ分家せりA三六一(岡山市中山下二電三六五〇)

重長男弘一に嫁し同妻義(同二七、四生)は分家せり(東京市豊島區池袋二ノ九七四)

波多野林一

那志製絲總務取役、第三那志製絲總務取役、何鹿銀行監査役

妻 明二四、一〇生、京都、羽室嘉右衛門五女

君は京都府人山内三郎兵衛の二男にして明治十九年十二月十五日を以て生れ先代鶴吉の養子となり大正七年家督を相續す明治四十三年早稲田大學商科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男茂彌(大一、三、一生)あり(京都府何鹿郡綾部町本宮電七四)

參照II羽室嘉右衛門の項

波多野葉那

萬延元、二生、京都、波多野彌右衛門長女

妻 明二四、一〇生、京都、羽室嘉右衛門五女

男 初子 大七一、二生

女 初子 大七一、二生

君は京都府人山内三郎兵衛の二男にして明治十九年十二月十五日を以て生れ先代鶴吉の養子となり大正七年家督を相續す明治四十三年早稲田大學商科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男茂彌(大一、三、一生)あり(京都府何鹿郡綾部町本宮電七四)

參照II羽室嘉右衛門の項

芳我吉右衛門

從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中將、伊豫木村、橋津製絲、伊豫陶器、山梨製材各社取締役

妻 明二〇、九生、愛媛、芳我彌衛美

君は從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中將、伊豫木村、橋津製絲、伊豫陶器、山梨製材各社取締役

芳賀榮次郎

從三位勳二等功四級、醫學博士、陸軍醫官、東京府在籍

妻 明二六、八生、外科芳賀病院長、東京醫學專出身

君は愛媛縣人芳賀嘉三郎の長男にして明治十四年七月を以て生れ同十九年芳賀彌美方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役に於て内子銀行常務取締役たりしことあり家族は尙五女晴子(大一、二、四生)あり(愛媛縣喜多郡内子町電一一九)

芳賀健治

從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

妻 明二〇、二生、養父小傳治二女

君は從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

芳賀健治

從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

妻 明二〇、二生、養父小傳治二女

君は從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

芳賀健治

從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

妻 明二〇、二生、養父小傳治二女

君は從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

芳賀健治

從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

妻 明二〇、二生、養父小傳治二女

君は從五位勳五等、判事、靜岡區裁判所監督判事兼靜岡地方裁判所判事

從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中將、伊豫木村、橋津製絲、伊豫陶器、山梨製材各社取締役

妻 明二〇、九生、愛媛、芳我彌衛美

君は從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中將、伊豫木村、橋津製絲、伊豫陶器、山梨製材各社取締役

芳賀權四郎 從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、生  
 横濱商工會議所顧問、東京府士族  
 文久元、一一生、東京、士、成澤  
 知行妹

妻 明一四、四生、養父勝貞長女  
 男 秀雄 明三二、七生、慶大經濟學部出身  
 女 ヒサ 明三八、一一生、長男秀雄妻、枋  
 木、中村武妹

男 四郎 明四三、二生  
 男 五郎 明四三、二生

君は埼玉縣土族春名周輔の四男にして應慶三年四月十  
 九日を以て生れ明治三十年先代以上の養子となり家督  
 を相續す同二十五年東京帝國大學農學科大學農學科を卒  
 業し同二十七年秋田縣技師に任じ生絲検査所技師横濱  
 生絲検査所勤務農務技師農務局課長を経て現時  
 生絲検査所技師にして横濱生絲検査所長たる傍ら横濱  
 商工會議所顧問たり先是明治三十七年陸軍歩兵中尉に  
 任ぜらるる家族は尙五男七郎(大八、五生)六男八郎(生  
 年月同上)三女久美(同一五、四生)孫久雄(昭四八、八生、  
 長男秀雄長男)養母かつ(弘化二、二生)あり長女三  
 枝(明四〇、二生)は東京府人藤原俊文に養妹東(同二  
 八、九生)は埼玉縣人春名飯次郎弟喜喜に嫁せり(横濱  
 市中區月岡町一ノ一〇電長番町一四九五)

芳賀重之助

北洋産業、大阪毎日新聞社各監  
 査役、大阪堂米穀取引所取引員  
 大坂府在籍

妻 明三二、一一生、和歌山、若林芳三  
 郎長女

君は大阪府士族芳賀節の二男にして明治二十年三月を  
 以て生れ大正三年兄長補方より分れて一家を創立す明  
 治四十四年早稲田大學商科を卒業し大阪米穀取引所取  
 引員にして傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙長女悦  
 子(大二三、四生)二女佳子(同一五、四生)ありA三五  
 一六B八四八(大阪府北區堂島濱通一ノ八九電北五四  
 二)

芳賀文三 從五位勳六等、朝鮮總督府成興稅  
 務監督局長、京都府在籍

妻 明三三、三一生、埼玉、島根用三女

君は京都府人芳賀傳右衛門の三男にして明治二十六年  
 十一月を以て生れ大正七年東京帝國大學法科大學政治  
 學科を卒業し同九年文官高等試験に合格す爾來青島守  
 備軍民政務支隊支隊長兼同府道事務官忠清南道財務  
 部長等に歴任し全州大邱及京城各支隊支隊長兼北道  
 内務部長仁川稅關長を経て昭和九年現職に轉ずスポ  
 ツに興味を有し端艇は全學生時代を通じて選手に擧げ  
 られ柔道は二段の技あり家族は尙長女淳子(大九、一  
 〇生)二女澄子(昭七、一〇生)兄董(明一二、六生、現  
 戶主)同妻(同一四、三一生、京都、千阪嘉平治長女)  
 及其子女兄良吉妻ツキ(同一二、四一生、京都、岡駕  
 郎妹)及其子女兄吉妻ツキ(同一二、二一生)は京都府人  
 山根文十郎に嫁せり(同三九、八生、兄董長女)は同  
 府人山本武太郎に嫁せり(朝鮮成興稅務監督局内)

芳賀保彦

正五位勳五等、判事、八代區裁判  
 所監督判事兼本地方裁判所支部  
 長、福岡縣在籍

父 謙二 文永二、一一生、現戶主  
 母 ヲウ 文久元、四生、福岡、菊藤大超長  
 妻 ユキエ 明二六、一一生、福岡、林藤太郎  
 男 英彦 大二三、三一生  
 女 利子 大六、八一生

君は福岡縣人芳賀謙二の長男にして明治十四年七月を  
 以て生れる同三十六年東京法學院を卒業し裁判所書記と  
 なり同四十二年判事登用試験に合格司法官試補とな

君は滋賀縣人藤居吉の長男にして明治八年二月を  
 以て生れ葉加瀨岩吉の養子となり同四十四年家督を相  
 續す貿易商を営み現時教養會館倉庫會社取締役にして  
 教養商工會議所顧問に推され直接國稅六百六十三圓を  
 納め福井縣多額納稅者たり家族は尙孫健之祐(大九、  
 一〇生、養子了吉長男)同益二(同一二、一一生、同二男)  
 同昇三(同一四、一一生、同三男)同和子(昭二、三一生、同  
 長女)同明義(同四、七生、同四男)あり(福井縣教養  
 會館取引員六)

葉加瀨字三郎 教養商工會議所顧問、福井縣多額  
 納稅者、教養會館倉庫會社取締役、  
 福井縣在籍

妻 さと 明九、二生、福井、加藤捨吉三女  
 養子 了吉 昭二八、六生、長女ふさ夫、滋賀  
 藤居秀太郎弟

女 ふさ 明二九、七生、養子了吉妻

葉梨新五郎

從六位、衆議院議員(茨城縣選出)  
 茨城縣在籍

妻 鈴子 明三九、九生、長野、上條治雄二  
 女 信行 昭三、一一生

君は茨城縣人葉梨伴之助の四男にして明治三十四年二  
 月二十日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す明治  
 大學法科出身にして更に國士館高等學部に學び私立弘  
 學館副館長中央新聞記者日本電報通信記者三綱商會代  
 表社員及び關東長官秘書官等を歴任し昭和七年衆議院

議員に當選し現に立憲政友會に屬す家族は尙二男之義  
 (昭六、七生)三男孝之(同八、二生)あり(東京市澁谷  
 區原宿三ノ三〇七電青山三三)

葉満田芳兵衛 木屋芳兵衛商店、化粧品卸商  
 東京府在籍

妻 しげ 明一〇、二生、東京、芳田利助長女  
 男 貴芳 明二八、七生  
 女 芳 明三二、六生、長男貴芳妻、東京、  
 渡邊喜代吉三女

孫 貞子 大八、九生、長男貴芳長女  
 君は静岡縣人森新兵衛の三男にして應慶三年六月を以  
 て生れ明治二十六年先代芳兵衛の養子となり同家督を  
 を相續し其名代次郎を改め藝名す木屋芳兵衛商店と稱  
 し化粧品雜貨商を営みて知らるる明治四十四年日本橋區本  
 石町四丁目より現所に移るる家族は尙孫貴代子(大一一、  
 六生、長男貴芳二女)ありA四一四B一七八(東京市神  
 田區美倉町一七電神田二七三)

賀茂嚴雄の項

葉山萬次郎 從四位勳三等、大阪外國語學校長  
 東京府士族

妻 てい 衛門姉  
 女 和 大八、一〇生

君は東京府士族葉山左内の長男にして林常夫の兄なり  
 明治十年十一月を以て生れ同四十二年家督を相續す同  
 三十五年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し同  
 四十二年第一高等學校教授に任ぜられ大正十一年文部  
 省督學官となり山形高等學校校長を経て第七高等學校造  
 士館長に就任昭和八年大阪外國語學校長に轉任今日に  
 至るに大正十二年學校制度研究の爲め獨逸米各國に  
 出張す家族は尙三男典夫(大四、一一生)あり三女みほ  
 (同一二、二一生)は廣島縣人林武雄に妹トモ(明二四、七  
 生)は岐阜縣人後藤一郎に同マツ(同一二、八一生)は長  
 崎縣人和田水福三に嫁せり(大阪府天王寺區小宮  
 町四ノ一二甲號官舎電天王寺五一〇八)  
 参照||林常夫の項

葉梨新五郎 從六位、衆議院議員(茨城縣選出)  
 茨城縣在籍

妻 鈴子 明三九、九生、長野、上條治雄二  
 女 信行 昭三、一一生

君は茨城縣人葉梨伴之助の四男にして明治三十四年二  
 月二十日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す明治  
 大學法科出身にして更に國士館高等學部に學び私立弘  
 學館副館長中央新聞記者日本電報通信記者三綱商會代  
 表社員及び關東長官秘書官等を歴任し昭和七年衆議院

葉室直躬 正五位、伯爵、安田銀行員  
 舊公卿家

養父 長通 明九、一〇生、伯爵萬里小路芳房  
 二叔父、正三位勳五等  
 養母 春子 明二〇、三一生、先代長邦三女  
 妻 千鶴子 明三六、九生、養父長通長女、女  
 子學院出身

男 頼昭 昭二、一一生

當家は藤原鎌足の支流甘露寺參議爲房の二男權中納言  
 顯隆の後なり世々葉室氏を稱し二十七世を経て先々代  
 長邦に至り明治十七年伯爵を授けらるる君實は子爵萬里  
 直和の弟にして明治二十八年四月を以て生れ元虎の門  
 琴平神社々司陸軍騎兵大尉先代長通の養子となり昭和  
 八年七月先代隱居により親傳仰付らるる義に明治大學を  
 卒業し現時安田銀行本店に勤務す家族は尙長女百合子  
 (大一一、一一生)二女欣子(同一四、三一生)三女公子昭  
 四(三一生)二男頼言(同一四、九生)妹禮子(明四三、七生)  
 あり(東京市荏原區中延町一〇七三)  
 参照||伯爵萬里小路芳房、子爵萬里直和、伯爵阿部  
 正直、伯爵井伊直忠、伯爵堀田正恒、伯爵松平  
 松友光、伯爵織田長利、伯爵大久保敬尚、伯爵  
 松平乘文、伯爵三島通陽、伯爵河邊三郎、

馬場英之助 萬長、酒商  
 東京府在籍

祖母 さき 嘉永二、八生、東京、杉澤六兵衛姉  
 母 いく 明一三、一一生、亡祖父長兵衛長女

君は東京府人馬場長兵衛の長男にして明治三十三年十  
 一月二十八日を以て生れ同三十六年家督を相續す萬長  
 と稱し盛大に酒商を營む家族は尙妹千代(明三五、一  
 二生)叔母(明一六、一一生、母いく妹)あり姉き  
 く(同三〇、九生)は分家せりA八一八B三二二(東京  
 市牛込區省町六電牛込六六九)

馬場一衛 正五位勳四等、振東工業社社長  
 熊本縣在籍

妻 淑子 明二九、二生、文學博士服部字之  
 吉長女、學院院女學部出身

君は熊本縣人馬場勝三の長男にして明治十四年十二月  
 を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十四年東京帝  
 國大學法科大學政治科を卒業し同年文官高等試験に合  
 格す廣島縣同事務官補警視廳警視副井縣理事官群馬  
 縣警察部長同縣内務部長警視廳警務部長青森縣知事等  
 に歴任し次で門司市長に推されしも現時實業界に轉じ  
 振東工業社社長たり大正十三年歐米各國を視察す姉  
 ナジュ(明七、九生)は熊本縣人澁谷次吉に同キミ(同  
 一〇、四生)は同縣人小山文藏長男虎喜に妹ユキ(同二  
 〇、八生)は同縣人柴田儀太郎長男増雄に同タマ(同二  
 五、八生)は同縣人齋藤政平長男豊喜に嫁せり(東京市  
 淀橋區戸塚町三ノ九三七電牛込三九四五)  
 参照||服部字之吉の項

馬場修 齒科醫師  
 三重縣士族

養父 龜久生 文久元、七生、現戶主  
 養母 たき江 明三、九生、三重、横田覺左衛門  
 妻 敏子 明三一、七生、養父龜久生四女  
 男 敬 大九、八一生

君は三重縣人岡崎龜庵の二男にして明治二十四年七月  
 を以て生れ現戶主龜久生の養子となる齒科醫師たり家  
 族は尙長女幸子(大一一、二一生)三男敬(昭三、七

馬場一雄 實業家  
 東京府在籍

君は滋賀縣人藤居吉の長男にして明治八年二月を  
 以て生れ葉加瀨岩吉の養子となり同四十四年家督を相  
 續す貿易商を営み現時教養會館倉庫會社取締役にして  
 教養商工會議所顧問に推され直接國稅六百六十三圓を  
 納め福井縣多額納稅者たり家族は尙孫健之祐(大九、  
 一〇生、養子了吉長男)同益二(同一二、一一生、同二男)  
 同昇三(同一四、一一生、同三男)同和子(昭二、三一生、同  
 長女)同明義(同四、七生、同四男)あり(福井縣教養  
 會館取引員六)

馬場一雄 實業家  
 東京府在籍

君は滋賀縣人藤居吉の長男にして明治八年二月を  
 以て生れ葉加瀨岩吉の養子となり同四十四年家督を相  
 續す貿易商を営み現時教養會館倉庫會社取締役にして  
 教養商工會議所顧問に推され直接國稅六百六十三圓を  
 納め福井縣多額納稅者たり家族は尙孫健之祐(大九、  
 一〇生、養子了吉長男)同益二(同一二、一一生、同二男)  
 同昇三(同一四、一一生、同三男)同和子(昭二、三一生、同  
 長女)同明義(同四、七生、同四男)あり(福井縣教養  
 會館取引員六)

母 ケイ 明二三、七生、新潟、島田則正長女
君は東京府人先代由雄の長男にして大正九年八月八日
を以て生れ昭和九年家督を相續す資産家たり家族は向
姉由子(大六、六生、御茶の水高女在學)弟充實(同一
一、一生、學習院在學)ありA八九三兵庫縣武庫郡精
道村三條爲ノ前三四電膏屋三四八九)

馬場 喜一 帝國電線製造所監査役、染料商
大阪府在籍
妻 八重 明四、九生、大阪、吉岡福三郎
男 新三郎 大元、八生
女 千代子 明四〇、一生、養子誠妻
喜代子 明四三、二生

君は大阪府人先代直藏の長男にして明治十一年三月一
日を以て生れ大正元年家督を相續す染料商を營み傍ら
帝國電線製造所監査役たり家族は向庶子正(大七、一
生、生母、大阪、辻谷キクエ)あり妹精重(明二七、二
生)は大阪府人野米太郎に同姓(同三三、一生)は東
京府人西村繁二郎に各嫁し弟寛治(同三四、一〇生)は
分家せりA五三三B一〇〇(大阪府南区順慶町通一ノ
一二電船場二八二六)

馬場 喜兵衛 大阪府在籍
妻 エイ 明一九、八生、大阪、永田信次郎妹
男 修司 大一〇、三生
女 淑子 大二三、四生

君は大阪府人先代喜兵衛の長男にして明治十二年四月
十五日を以て生れ大正八年家督を相續し前名喜一郎を
改め襲名す地家主たり家族は向四男祥史(大一一、一
〇生)あり妹龍(明二七、三生)は分家せりA六二九(大
阪市東淀川區豐崎東通一ノ一一)

を以て生れ同三十四年家督を相續す現に日本石油會社
安治川油槽所員たり家族は向二男治助(大一一、二生)
三男隆三(同一三、一生)妹セキ(明二七、八生)あり
(大阪府住吉區帝塚山一七五二)
馬場 儀太郎 大正製糖會社常務取締役、進一神野
商店取締役、滋賀縣在籍
妻 八重 明元、五生、馬場常吉長女
男 義朗 明三一、七生、養父儀太郎二女
女 政子 大八、二生

君は滋賀縣人馬場貞造の二男にして明治二十八年一月
を以て生れ先代儀太郎の養子となり大正十五年家督を
相續し前名貞一郎を改め襲名す現時大正製糖會社常務
取締役たる外前記會社の重役を兼ね家族は向二女繁子
(大一一、八生)二男壽一(昭六、二生)三男貞三(同八
二生)あり養姉やす(明一九、八生)は滋賀縣八中村源
七弟庄治郎に嫁せり(滋賀縣犬上郡高宮町電七四)

馬場 久藏 岩瀬銀行取締役
富山縣在籍
妻 トヨ 明一〇、七生、富山、赤尾清忠長女
男 松太郎 明三〇、九生
女 佳代 明三七、二生、五男松次郎妻、富
山、谷野亮二長女

君は富山縣人先代久藏の長男にして安政四年三月を以
て生れ明治三十一年家督を相續し前名定次郎を改め襲
名す現時岩瀬銀行取締役に於て富山山本製糖所取締
役たりし事あり家族は向孫子(大一一、一〇生)五男
松次郎(明一五、五生)同女喜(同一三、三生)同女昭一(昭
二、一生)同女昭二(同一三、三生)同女昭三(同一三、昭
二、一生)同女昭四(同一三、三生)同女昭五(同一三、昭
二、一生)同女昭六(同一三、昭二、一生)同女昭七(同一三、昭
二、一生)同女昭八(同一三、昭二、一生)同女昭九(同一三、昭
二、一生)同女昭十(同一三、昭二、一生)同女昭十一(同一三、昭
二、一生)同女昭十二(同一三、昭二、一生)同女昭十三(同一三、昭
二、一生)同女昭十四(同一三、昭二、一生)同女昭十五(同一三、昭
二、一生)同女昭十六(同一三、昭二、一生)同女昭十七(同一三、昭
二、一生)同女昭十八(同一三、昭二、一生)同女昭十九(同一三、昭
二、一生)同女昭二十(同一三、昭二、一生)同女昭二十一(同一三、昭
二、一生)同女昭二十二(同一三、昭二、一生)同女昭二十三(同一三、昭
二、一生)同女昭二十四(同一三、昭二、一生)同女昭二十五(同一三、昭
二、一生)同女昭二十六(同一三、昭二、一生)同女昭二十七(同一三、昭
二、一生)同女昭二十八(同一三、昭二、一生)同女昭二十九(同一三、昭
二、一生)同女昭三十(同一三、昭二、一生)同女昭三十一(同一三、昭
二、一生)同女昭三十二(同一三、昭二、一生)同女昭三十三(同一三、昭
二、一生)同女昭三十四(同一三、昭二、一生)同女昭三十五(同一三、昭
二、一生)同女昭三十六(同一三、昭二、一生)同女昭三十七(同一三、昭
二、一生)同女昭三十八(同一三、昭二、一生)同女昭三十九(同一三、昭
二、一生)同女昭四十(同一三、昭二、一生)同女昭四十一(同一三、昭
二、一生)同女昭四十二(同一三、昭二、一生)同女昭四十三(同一三、昭
二、一生)同女昭四十四(同一三、昭二、一生)同女昭四十五(同一三、昭
二、一生)同女昭四十六(同一三、昭二、一生)同女昭四十七(同一三、昭
二、一生)同女昭四十八(同一三、昭二、一生)同女昭四十九(同一三、昭
二、一生)同女昭五十(同一三、昭二、一生)同女昭五十一(同一三、昭
二、一生)同女昭五十二(同一三、昭二、一生)同女昭五十三(同一三、昭
二、一生)同女昭五十四(同一三、昭二、一生)同女昭五十五(同一三、昭
二、一生)同女昭五十六(同一三、昭二、一生)同女昭五十七(同一三、昭
二、一生)同女昭五十八(同一三、昭二、一生)同女昭五十九(同一三、昭
二、一生)同女昭六十(同一三、昭二、一生)同女昭六十一(同一三、昭
二、一生)同女昭六十二(同一三、昭二、一生)同女昭六十三(同一三、昭
二、一生)同女昭六十四(同一三、昭二、一生)同女昭六十五(同一三、昭
二、一生)同女昭六十六(同一三、昭二、一生)同女昭六十七(同一三、昭
二、一生)同女昭六十八(同一三、昭二、一生)同女昭六十九(同一三、昭
二、一生)同女昭七十(同一三、昭二、一生)同女昭七十一(同一三、昭
二、一生)同女昭七十二(同一三、昭二、一生)同女昭七十三(同一三、昭
二、一生)同女昭七十四(同一三、昭二、一生)同女昭七十五(同一三、昭
二、一生)同女昭七十六(同一三、昭二、一生)同女昭七十七(同一三、昭
二、一生)同女昭七十八(同一三、昭二、一生)同女昭七十九(同一三、昭
二、一生)同女昭八十(同一三、昭二、一生)同女昭八十一(同一三、昭
二、一生)同女昭八十二(同一三、昭二、一生)同女昭八十三(同一三、昭
二、一生)同女昭八十四(同一三、昭二、一生)同女昭八十五(同一三、昭
二、一生)同女昭八十六(同一三、昭二、一生)同女昭八十七(同一三、昭
二、一生)同女昭八十八(同一三、昭二、一生)同女昭八十九(同一三、昭
二、一生)同女昭九十(同一三、昭二、一生)同女昭九十一(同一三、昭
二、一生)同女昭九十二(同一三、昭二、一生)同女昭九十三(同一三、昭
二、一生)同女昭九十四(同一三、昭二、一生)同女昭九十五(同一三、昭
二、一生)同女昭九十六(同一三、昭二、一生)同女昭九十七(同一三、昭
二、一生)同女昭九十八(同一三、昭二、一生)同女昭九十九(同一三、昭
二、一生)同女昭百(同一三、昭二、一生)

馬場 重太郎 美濃文、醫藥化學器械製作業
愛知縣在籍
妻 みつ 明二三、八生、愛知、今井鐵藏二女
女 絹子 明四五、五生
女 絹子 明四五、五生

君は愛知縣人先代重太郎の長男にして明治十八年六月
を以て生れ大正三年家督を相續し前名文助を改め襲名
す市立名古屋商業學校出身にして醫藥化學器械製作業
を營み商號を美濃文と稱す弟幸三(明二〇、三生)は分
家せりA四五四B二二(名古屋市中區京町四ノ二〇
電園東一六〇二)

馬場 信三 從五位勳五等、地方小作官、愛知
縣勤務、岐阜縣在籍
妻 信之 明二二、五生、岐阜、伊藤武文妹
女 悠紀子 大七、九生、縣立第一中女在學

君は濃尾の三大川木曾長良掛梨の分流事業に功勞あり
し岐阜縣人馬場伊左衛門の二男にして明治十二年五月
二十五日を以て生れ同三十年東京藥學校本科を卒業藥
劑師試験に合格し農商務省の肥料技術員養成所を了へ
同三十四年愛知縣技手に任じ爾來愛知縣屬同縣西加茂
同縣海部郡各郡長に歴任し大正十三年地方小作官に
任じ現時愛知縣勤務たり家族は向三女治子(昭五、四
生)あり(名古屋市中區徳川町六ノ二三電東七五六〇)
參照 伊藤武文伊藤武彦の項

馬場 保夫 大九、一生
君は福岡縣人先代馬場氏隆の長男にして明治二十三年
八月を以て生れ同三十七年家督を相續す大正五年京都
帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時三井台名會社
秘書課長代理たり家族は向姉小松(明二〇、一生)あり
弟謙(同二八、一生)は福岡縣小松シツの養子と
なり同謙(同三一、一生)同男(同三五、二生)叔父六
郎(安政六、一生)は各分家せりA一六一(東京市品
川區北品川六ノ三四四電高橋三九九五)

馬場 堅一 從四位勳四等、專賣局技師、大阪
地方專賣局京都工場長
鹿兒島縣在籍
妻 榮藏 嘉永六、一〇生、現戶主
繼母イヌケサ 健市姉
男 兼志 大一二、二生
女 茂子 大二三、六生

君は鹿兒島縣人馬場榮藏の長男にして明治十三年八
月を以て生れ同三十九年東京帝國大學農科大學農藝化
學科を卒業し爾來專賣局技師鹿橋支局製鹽課長特許局
技師專賣局鹿兒島支局製鹽課長等に歴任し大正九年歐
洲へ出張を命ぜられ歸朝後鹿橋支局長となり昭和七年
京都工場長に轉じ今日に至る家族は向妹イノ(明二一、
二生)鹿兒島縣女子師範出身)あり長女俊子(同四二、
八生)府立第五高女出身)は外祖父肥後幸盛の養子と
なり妹サイ(同一七、九生、實踐女學校出身)は鹿兒
島縣人上原平介に嫁し叔父喜之助妻フデ(同四、一
二生)鹿兒島、士、伊集院俊二妹)は其子女を伴ひ分
家せり(京都市上京區紫野柳町一四電西陣二四二)

馬場 愿治 正三位勳一等、法學博士、中央大
學法學部教授、辯護士、東京在籍
妻 成 明六、二生、東京、士、長沼ウ
夕長女
男 誠 明二二、二生
女 山口嘉三三女、東京女學館出身

君は福岡縣人馬場庄作の弟にして高延元年八月を以て
生れ明治三十七年分れて一家を創立す同十八年東京大
學法學部を卒業し東京横濱各始審裁判所判事横濱地方

一日を以て生れ昭和五年伯父源清の後を承け家督を相
續す家主たりA三八四(大阪府東淀川區豐崎西通二ノ
四一)
參照 馬場源政の項

馬場 生一 飴製造業
大阪府在籍
妻 イト 慶應元、一生、神奈川、武藤安兵
衛長女
母 しず 明二七、九生、愛知、鶴岡玉次郎
長女

君は大阪府人馬場常吉の長男にして大正五年七月九日
を以て生れ昭和六年先代常太郎の養子となり同七年家
督を相續す飴製造業を營むA七六六B九六(大阪府浪
速區河原町二ノ一四九一電四二九五)

馬場 善兵衛 丸玉商店監査役、山山正油堂代
表社員、酒味淋醸造業
千葉縣在籍
妻 あい 安政三、五生、祖父善良二女
男 治良 大五、二生

君は千葉縣人先代善兵衛の二男にして明治二十年八月
を以て生れ同四十五年家督を相續し前名長治郎を改め
襲名す酒味淋醸造業を營み山山正油合資會社代表社員
にして縣下の多額納税者に列す姉てい(同一六、七
生)は茨城縣土族大森市平長男誠太郎に妹しつ(同二六
七生)は茨城縣人茂在照に嫁しん(同九、二生)は千
葉縣人松本徳太郎に嫁し姉かつ(同九、九生)は其子女
を伴ひ其夫龜久壽(同七、三生、茨城、士、三好琢磨
二男)の家籍に入れり(千葉縣香取郡佐原町電一二七、
二七一)
參照 松本徳太郎の項

馬場 惣左衛門 靜岡縣多額納税者、靜岡銀行總取
締役兼支店長、靜岡市若宮銀行總取
締役、北村壽道保全會無任責任社
員、地主、靜岡縣在籍
妻 たね 明六、八生、靜岡、秋野橋太郎妹
男 惣一 明二七、六生
男 千 明三二、一生、長男惣一妻、靜岡
橋本保平三女
男 千二 明二八、一〇生

**馬場 照江** 明三六、一〇生、二男千二妻、靜岡、湯山一長女

**馬場 平造** 明三九、七生、三男平造妻、東京

**馬場 千鶴子** 實相寺貞彦三女

**馬場 理平** 明三三、八生

**馬場 つね** 明四三、一〇生、四男里平妻、靜岡、平野繁太郎妹

君は靜岡縣人馬場惣太郎の長男にして明治四年十一月を以て生れ同十七年家督を相続す同二十六年専修學校理財科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして靜岡縣多額納税者に列し直接國稅千三百二十六圓を納む家族は尙ほ孫子(六一五、三三、二男千二長女)同孫子(昭二、七生、同二女)同志奈子(同三、一〇生、同三女)あり長女(明三〇、六生)は滋賀縣土溪岡田信に二女ふみ、同三六、二生)は靜岡縣人氣賀和雄に妹りつ(同二〇、二生)は同縣人鈴木清七妻莊次郎に嫁せり(靜岡市下石町電七三八)

參照 岡田信、橋本保平、湯山一の項

**馬場 辰二** 醫師 東京府在籍

妻 英子 明三一、一〇生、埼玉、田口直藏姪

女 英子 大七、八生

君は鹿兒島縣人馬場良助の二男にして明治二十一年一月二十日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す醫師として知らる(東京市赤坂區新町三ノ一六電青山五四三六)

**馬場常治郎** 家主 大阪府在籍

妻 ハヤ 明一四、五生、奈良、沖田正一郎

男 勘治 明四二、九生

女 廣子 大五、一二生

女 榮子 大七、一二生

君は大阪府人今田幾三郎の弟にして明治十一年五月一日を以て生れ同三十六年馬場勘兵衛の養子となり大正三年家督を相続す家主たり家族は尙ほ四男泰雄(大九、三三)ありA四九六(大阪府天王寺區茶臼山町七五電天王寺一七五五)

**馬場 轍** 從四位勳三等功五級、宮内省御用掛、國民精神文化研究所員

妻 サタ 明二二、一〇生、宮城、菊地定治長女

女 房子 明四五、五生

女 郁子 明四五、五生

君は宮城縣人馬場千代太郎の弟にして明治十二年十二月を以て生れ同陸軍に入り日露戰役に従軍す後學醫院教授に任官し學生課長たり退官後昭和八年宮内省御用掛被仰付現時國民精神文化研究所員を兼ね家族は三男定光(大六、九生)兄千代太郎(明二、一〇生、現戶主)同妻みつ(同四、一〇生、宮城、齋藤貞衛二女)及其子女(同五、九生)妹はきの(同二、一八)九生)あり二男重光(大四、七生)は外祖父菊地定治の家督を相続し弟彰(明四二、三三)は宮城縣人馬場金治郎の養子となり姪泰子(同四〇、一〇生)は岡山縣人磯田薫一に嫁せり(東京市淀橋區下落合四ノ一六六三)

**馬場 秀明** 養子 兵庫縣在籍

妻 光 明二一、八生、工學博士吉田朋吉

女 三女、東京女學館出身

富家の先代故馬場珍藏は東京高等商業學校の出身にして夙に三井物産會社に入り在る事二十五年本店參事に進みし人其間内外各地に勤務し殊に馬來半島のゴム園經營の有利なる事を紹介し瀛洲トツプを初めて輸入し又南亞へ肥料の滿船輸出被地より羊毛の大量輸入を開拓する等我南方貿易に貢獻せし處ゆからず曾てシドニー商工會議所議員に當り羊毛付人組合員に選ばれし事あり後之を辭し三十八銀行常務取締役及常任監査役たりし事あり君は東京府人吉田鏡作の二男にして大正十年一月十六日を以て生れ富家に入り昭和七年家督を相続す養子たり母榮子は英佛各國語に通じ音樂を好み社交界に知らる茶室を好み宗秀と稱す(姫路市後町電四二九)

**馬場 博** 住友銀行藤岡山支店長 新潟縣在籍

妻 キン 明四、八生、新潟、士、山口壽造

女 三女

**馬場 誠** 從五位勳六等、長崎高等商業學校教授、新潟縣在籍

妻 チカ 明五、五生、新潟、士、澤茂友二

女 明三四、二生、長野、瀧澤又市二

女 明一四、三三

君は新潟縣人馬場岩吉の長男にして明治二十六年一月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正三年長崎高等商業學校を同七年東京高等商業學校専攻部を卒業し同九年二月長崎高等商業學校教授に任ぜられ同十一年來獨英に留學を命ぜられ同十三年歸朝す現時長崎高等商業學校教授たり家族は尙ほ長女孝子(六一〇、四生)二男曉(昭二、六生)妹ヤヒ(同四四、一〇生)弟博(大四、二生)あり(長崎市夫婦川町七五)

**馬場 又吉** 金業 東京府在籍

妻 秀子 明三三、一〇生、宮城、高橋直敷

女 長女

男 秀男 大三、一〇生

女 修子 明三八、六生、養子トシ夫、千葉

女 修子 明四〇、一〇生、養子修二妻、宮城

馬場常治郎二女

**馬場 久吉** 書林俱樂部事務取締役、大阪圖書出版業組合組長、成象堂、圖書出版業、大阪府在籍

妻 フク 明三三、八生

女 昭三 明三六、七生、大阪府立清水谷高女出身

女 シヅ 大三、七生、大阪府立高女出身

君は大阪府人馬場博多の孫にして明治三年二月を以て生れ同十四年家督を相続す第三高等學校に學び成象堂と稱し圖書出版業を営み傍ら前記會社の重役にして大阪圖書出版業組合組長たり讀書を好み考古的事物に興味を有すA四〇五B一三九(大阪府南區大寶寺町四之丁二二電南一七七)

**馬場 千代** 明四五、二生

女 テル 大五、七生

君は宮城縣人馬場列七の三男同庄平の叔父にして明治八年十二月を以て生れ後分れて一家を創立す夙に金融を以て業とし今日に至る家族は尙ほ三女悦子(大一一、一〇生)四女文子(昭三、一〇生)及孫正三(昭八、一〇生)養子修二(男)ありA八九九B二五六(東京市牛込區新小川町一ノ一五電牛込五六二七)

**馬場 吉信** 正五位勳六等、浦和高等學校教授 香川縣在籍

妻 末子 明二九、四生、香川、島田廣次二

男 忠朗 大六、五生

君は香川縣人馬場純治郎の四男にして明治二十二年一月を以て生れ大正二年東京帝國大學文部學科大學英文科を卒業し現時浦和高等學校教授たり昭和二年文部省より英國に留學を命ぜられ佛伊獨米各國を経て同四年歸朝す家族は尙ほ二男道雄(大九、九生)長女貞子(同四、一〇生)三子(兄振作妻(明二六、六生、香川、向井又一)叔母(幼達雄、同三九、九生、亡兄振作長男、現戶主)及其弟あり姉レン(同七、一〇生)は香川縣人木村榮吉に嫁せり(浦和市鹿島臺一九四九)

參照 木村榮吉の項

**馬場 義也** 從五位、平塚市長 岩手縣在籍

妻 義晴 昭二、七生

女 風子 大八、七生

君は岩手縣人にして明治二十一年十月二十二日を以て生れ大正五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格す爾來福井縣屬北海邊理事官同職支廳長帝都復興事務官復興局事務官地方事務官等に歴任し昭和二年山形縣書記官に任じ同縣警務局長岐阜縣警務部長北海道廳警務部長を経て官界を去り昭和八年九月平塚市長に擧げられ現時其任にあり家族は尙ほ二女洋子(大一一、一〇生)三女ばり子(同一一、一〇生)四女まり子(同一一、一〇生)二男義明(昭五、三三)あり(平塚市新宿電三五五)

**馬場 綠二** 第一銀行藤本所支店長 東京府在籍

妻 勝 明二三、一〇生、東京、篠部與七四

女 隆男 大一一、五生

女 登志子 明四五、三三、山陽高女出身

女 富美子 大三、二生、山陽高女出身

女 廣子 大五、一〇、山陽高女在學

女 芳子 大七、一〇生、頤榮高女在學

君は東京府土族岩崎恒心の四男にして明治十六年二月二十二日を以て生れ先代重造の養子となり大正三年家督を相続す現時第一銀行本所支店長たり家族は尙ほ二男榮治(大一一、一〇生)ありA一一五(東京市品川區大井町五九三電大森三九九)

**灰谷 藤治郎** 三菱銀行西長堀支店長 兵庫縣在籍

妻 ヤサ 明二四、一〇生、兵庫、武岡豐太

男 一夫 明四四、八生

女 文夫 大二、七生

君は兵庫縣人灰谷藤五郎の三男にして明治十五年十一月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治三十四年神戸商業學校を卒業し三菱銀行に入り累進して小樽支店副長を経て現時同西長堀支店長たり家族は尙ほ三男彬(大五、一一生)あり姉ため(明三三、一一生)は兵庫縣人美田作兵衛に嫁せりA四六二(神戸市須磨區離宮西一ノ六電須磨八〇四)

**灰谷 與助** 材木商 兵庫縣在籍

妻 ひて 明一〇、四生、養父莊治郎二女

女 泰平 明三六、八生

女 松枝 明四五、三三

女 幸子 明四五、三三

女 壽美子 大三、八生

君は兵庫縣人五味三郎の弟にして明治五年十一月を以て生れ灰谷莊治郎の養子となり大正十二年分れて一家を創立す材木商を営む養子に神戸木村興業會社監査役にして兵庫縣多額納税者たり長女花子(明四二、一一)

**萩 一郎** 從五位勳六等、營繕管財局技師 石川縣在籍

妻 ツネ 明元、八生、石川、三好直長女

女 國子 明二六、八生、石川、中山清一二

女 正勝 大六、一〇生

女 陸子 大三、一〇生

君は石川縣人萩六三郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學工科大学を卒業し大正六年群馬縣土木技師に任じ爾來同建築技師同縣技師大藏省大臣官房臨時建築課事務書記大藏技師臨時議院建築局技師等を経て同十四年營繕管財局技師に任ぜられ今日に至る家族は尙ほ

三郎(明二八、一〇生)同妻恒(同四〇、六生、石川、河...

萩尾 開造

君は福岡縣人萩尾政太郎の二男にして當主敬太郎の從...

萩岡 松韻 從四位勳五等、前東京官立學校勸...

萩野 末吉

君は岡山縣人萩野野野の二男にして萬延元年九月を...

萩野 武夫

君は兵庫縣人萩野野野の長男にして明治三十二年十...

萩原 鎌吉

君は東京府人萩原彌太郎の三男にして明治三十四年十...

萩原 清彦

君は東京府人萩原汎愛の長男にして明治十七年七月...

萩原 玄太郎

君は山梨縣人萩原竹良の四男にして明治七年一月を以...

萩原 幸平

君は佐賀縣人萩原秀門の長男にして明治十一年七月...

萩原 定太郎

君は廣島縣人萩原中野政藏の二男にして明治十七年二...

萩原 俊一

君は大阪府人萩原定太郎の長男にして明治三十六年十...

を相續す風に山勢松園家塾に琴曲を修業し同四十四年...

萩原 英一

正五位勳六等、東京音樂學校教授...

萩原 榮次郎 萩原商店代表取締役、紙商...

萩原 員振

君は香川縣人西山松治の男にして、明治九年五月四日...

萩原 員振

君は香川縣人西山松治の男にして、明治九年五月四日...

萩原 員振

君は香川縣人西山松治の男にして、明治九年五月四日...

萩原 員振

君は香川縣人西山松治の男にして、明治九年五月四日...

萩原 員振

**萩原 正平** 地主  
東京府在籍  
妻 マサ 明二、三、福島、百澤島興妹  
男 秀一 大六、七生

君は東京府人萩原芳太郎の長男にして明治十五年十一月を以て生れ同二十三年家督を相続す地主に家主たり二男中(昭三、二生)は弟純造の養子となり弟純造(明一九、四生)同妻たけ(同二五、一一生、千葉、金澤久八二女)は其子女を伴ひ分家せりA五二〇(東京市小石川區御膳町三四)

**萩原 昌二** 正五位勲六等、銚子醤油研究所  
長、愛知縣在籍  
妻 はつ 明二九、一一生、増田雄介女  
君は愛知縣人萩原平の二男にして明治十八年二月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同大學附屬農業教員養成所講師となり大正五年臺灣總督府研究所嘱託同七年同府中央研究所技師となり同十一年專賣局技師を兼任す大正十三年歐米各國(留學)十四年歸朝後官を辭し現時銚子醤油社研究所長たり(東京市世田谷區經堂町六三電世田谷二一九六)  
參照 中村慶藏三輪爲吉の項

**萩原 清五郎** 村中材木商事務取扱役、萩原材木  
店、材木商、長崎縣在籍  
母 ハツエ 女  
妻 かね 明三一、二生、兵庫、古田順治妹  
君は長崎縣人先代清五郎の長男にして明治二十八年一月を以て生れ大正十三年家督を相続し前名時一郎を改め姓名す萩原材木店と稱し材木商を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納税者たりし事あり養妹

**萩原 多兵衛** 地主  
東京府在籍  
妻 儀文 明二九、八生、東京、大關孝姉  
女 米 明四四、二生

君は東京府人先代多兵衛の長男同利右衛門の養弟にして明治十七年一月を以て生れ同四十五年家督を相続し前名源三を改め姓名す地主たりA二五九九(東京市本

**萩原 太郎次郎** 動七等、地主  
靜岡縣在籍  
妻 すみ 明二、五生、靜岡、野崎重兵衛長  
男 鶴次郎 明三〇、七生  
女 幸市 明三三、一〇生、二男鶴次郎妻、神奈川、河村勝次郎三女  
男 捷吉 明三九、一一生  
女 よし 明四五、五生

君は靜岡縣人萩原次郎の長男にして文久三年十一月二十三日を以て生れ明治十五年家督を相続す同二十二年以來植林事業を經營し引續き現在に及ぶ義に同二十八年より同四十四年に至る間靜岡實業銀行取締役たり又靜岡縣會議員靜岡市收入役同市參事會等に擧げらる同三十九年勲七等に叙せられ大正九年銀盃一組を賜ふ家族は尙孫子女(大一〇、三生、二男鶴次郎長女)同(同二五、八生、同長男)同(同二三、三〇、一一生)は靜岡縣人柳澤健に嫁し三男二女(同二三、八生)は靜岡縣人福島富藏に嫁し(同二七、一一生)は同縣人萩原縣人飯塚よきに同(同二〇、一一生)は同縣人萩原錦三に各養子となり四男與輔(同二八、三生)同妻さ(同三三、一一生、靜岡、黒田定七郎三女)は共に弟元次郎(同八、五生)は同妻かず(同三五、三生、靜岡、嶋田賢太郎也)及其子女を伴ひ各分家す弟元雄(同二一、九生)は同縣人安池やすの夫となり同與作(同二四、一一生)同妻み(同二五、一一生、靜岡、笠原權太郎長女)は共に同縣人萩原與右衛門の死跡を相続せりA四二〇(靜岡市土太夫町電八八三)  
參照 安池米雄の項

**萩原 隆夫** 醫師  
岡山縣在籍  
父 彌三郎 喜永五、一一生、岡山、津村爲吉二男、現戸主  
妻 サイ 明一四、一一生、山口、土、山縣  
男 昭夫 大五、八生  
女 正枝 大四、二生

君は岡山縣人萩原彌三郎の長男にして明治十年二月を以て生れ同四十年京都帝國大學醫學科大學を卒業し醫師たり家族は尙三男三女(大八、一一生)三女邦枝(同二一、九生)あり弟敬夫(明一三、四生)は廣島縣人赤木英章に同妻(同二九、八生)は岡山縣人伊達純一郎長男となり妹於登美(同七、五生)は同縣小寺純一郎長男全志に同妻(同二二、一一生)は同縣土族山田尚忠に同妻(同二九、三生)は同縣人秋山文治郎長男太に嫁し弟信夫(同二六、三生)は分家せりA四六六(大阪市天王寺區上本町七、五二六五電南二七六)  
參照 秋山文治郎の項

**萩原 近次** 栃木縣多額納税者、萩原代表表  
員、大黒屋、呉服商、栃木縣在籍  
妻 作子 明三四、二生、栃木、荒川藤吉長  
女 通正 大一一、一一生

君は先代近次の長男にして明治二十七年六月六日を以て生れ同三十六年當家十四世の家督を相続し前名市太郎を改め姓名す祖業を継ぎ大黒屋と號し吳服商を營み昭和九年六月新たに萩原合名會社を起し其の代表社員となり金銀を業とす縣下多額納税者にして直接間納税千五百圓を納む家族は尙二女(昭二、四生)三女知子(同八生)あり弟忠三(明三〇、九生、商大出身)は日本電報通信社員にして壽府會社に再度派遣せらるA七四五B二〇五(栃木縣河内郡上三川町電話一〇一)

**萩原 初太郎** 地主  
東京府在籍  
妻 シマ 明一九、二生、神奈川、内田清藏  
長女

**萩原 彦三** 正五位勲四等、朝鮮總督府成鐵南  
道知事、埼玉縣在籍  
妻 文子 明三六、六生、東京、岡野富士松  
女 英一 大一一、一〇生

君は埼玉縣人萩原英政の四男にして明治二十三年四月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す同四年文科高等試験に合格し翌年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し朝鮮總督府試補となり爾來同府參事官事務局學務課長殖産局水産課長官房文書課長殖産局土地改良課長等に歴任し現時成鐵南道知事の職に在り家族は尙二男和彦(昭三、二生)三男敬三(同五、三生)長女康子(同八、一一生)あり(成興府業民町官舎電八)

**萩原 平光** 山梨縣多額納税者、金融業  
山梨縣在籍  
妻 よう 明二七、四生、山梨、窪田金太郎  
女 智恵子 大四、一一生

君は山梨縣人萩原平左衛門の三男にして明治十七年一月を以て生れ先代源助の養子となり大正二年家督を相続す金融業を營み縣下の多額納税者に列し直接間納税一千五百六十八圓を納む義に山梨縣會議員勝沼町組合長たりし事あり家族は尙二男源之助(大八、一〇生)三男英男(同二〇、一〇生)四男久光(同四、八生)四女民子(昭二、二生)あり(山梨縣東山梨郡勝沼町)

**萩原 保太郎** 萩原保太郎商店、横濱取引所取引  
員、山梨縣在籍  
妻 フサ 明九、二生、神奈川、横山房吉女  
母 ヤサ 母

君は山梨縣人萩原藤兵衛の長男にして明治元年三月九日を以て生れ大正六年家督を相続す現時萩原保太郎商店と稱し横濱取引所取引員たり弟末松(明二六、一一生)は同妻愛子(同三六、七生、山梨、萩原佳一長女)及其一男を伴ひ養弟友友(同三七、四生、神奈川、上田弘作二男)は同妻ふみ子(神奈川、山内信次郎長女)と共に各分家せりA七四B一三三(横濱市中區南仲通三ノ三三電本局三二八、二五二〇)

**萩原 利右衛門** 東京府多額納税者、東京府會議員  
東京市本郷區會議員、萩原油店愛  
代表社員、笹屋、地主  
東京府在籍  
妻 イト 明三六、一〇生、東京、野田彦治  
弟 利一 大一一、一一生

君は東京府人先代利右衛門の二男にして萩原多兵衛の甥なり明治二十九年八月を以て生れ昭和四年家督を相続し前名英二を改め姓名す笹屋と稱し油類商を營みし

**萩原 茂兵衛** 地主  
東京府在籍  
妻 幾太郎 明一六、一〇生  
男 せき 明二五、四生、東京、高林金次郎  
女 眞藏 明二八、二生  
男 咲 明三八、三生

君は東京府人先代茂兵衛の長男にして安政四年十二月十日を以て生れ明治二十四年家督を相続す地主たりA三三三(東京市品川區大井森前町四五六)

**萩原 半藏** 地主  
東京府在籍  
妻 セキ 文久三、一〇生、東京、鈴木良孝  
男 方隆 明一三、七生、慶應義理理財科出  
身

君は東京府人萩原敬隆の長男にして萬延元年四月を以て生れ明治六年家督を相続す地主にして義に鶴八醤油會社監査役たり家族は尙孫康男(大四、四生、長男方隆長男)同(同九、一一生、同二男)同(同二一、一一生、同三男)同(同二二、九生、同四男)同(同二四、一一生、同五男)あり長女リカ(明一五、八生)は神奈川縣人加藤八郎右衛門四男雄八に嫁し弟右三郎(同元、四生)同妻テイ(同二一、一〇生、東京、内藤佐兵衛長女)は東京府人鈴木フミの養子となれりA三五五(東京府南多摩郡堺村)

**萩原 彌吉** 大倉金庫本店、金庫商  
東京府在籍  
妻 かね 嘉永二、五生、曾祖父重兵衛長女  
母 キミ 明五、九生、東京、萩原仙之助長  
女  
妻 コト 明三八、二生、東京、今井廣作長  
女 彌一郎 昭三、二生

君は東京府人萩原友吉の長男にして明治三十二年十一月を以て生れ大正九年先代彌吉の養子となり後家督を相続し前名一良を改む先代彌吉は夙に金庫商を營み大倉屋と稱し本邦新業の濠洲たり君は大正五年慶應義塾普通部を卒業し家業を營む家族は尙二男和夫(昭五、四生)弟三良(明四二、四生)あり姉喜代(同二七、一一生)は埼玉縣人倉林佐吉弟隆一郎を娶(分家せり)A三八六B一五二(東京市日本橋區本町二ノ七電日本橋八三二)

**萩原 彌吉** 大倉金庫本店、金庫商  
東京府在籍  
妻 かね 嘉永二、五生、曾祖父重兵衛長女  
母 キミ 明五、九生、東京、萩原仙之助長  
女  
妻 コト 明三八、二生、東京、今井廣作長  
女 彌一郎 昭三、二生

も後組織を合資会社に改め現に其代表社員にして又地主として知られ東京府多額納税者に列す推されて東京府會議員同市本郷區會議員たり家族は尙長女芳(大一一一、一、一生)三男徳三(昭五、二、一生)四男秀夫(同七、一〇、生)ありA五二五四(東京市本郷區弓町二ノ四電小石川三六五八)

萩原六三郎

東京府多額納税者、東京株式取引所取引員、東京府在籍  
妻 明二七、一〇、生、東京、安田淺次郎三女

萩原六三郎

君は東京府人萩原久五郎の長男にして明治十九年四月二十八日を以て生れ同三十年家を相続す現時東京株式取引所取引員にして東京府多額納税者たり弟甚太郎(明二八、八、生)は同妻サキ(同三五、九、生、神奈川、橋本新助妹)と共に一子を伴ひ分家せりA一九〇八B一四九三(東京市日本橋區兜町二東株ビル内電芝場町三三九〇)

萩山滿津

萩乃家、京都府物品販賣業  
妻 明三六、九、生、養子ふみ夫、大阪山口富次郎弟  
養子 明三七、四、生、養子敏治妻、滋賀藤井十太郎四女

白允和

正六位勳六等、朝鮮總督府京城覆審法院判事、京城府在籍  
君は京城府武橋町の出身にして明治二十六年五月を以て生れ大正四年京城專修學校を卒業し同年釜山地方法院判事支廳書記兼通譯生となり同七年釜山地方法院統判支廳判事に進み翌年京城地方法院水原支廳判事を經て京城地方法院判事に任じ昭和五年二月京城覆審法院判事に補せられ今日に至る(京城府京城覆審法院内)

萩島甚一郎

丸尾屋、酒造業  
妻 明一四、二、生、亡妻父甚次郎長女  
養子 明三三、一、二、生、二女トモ夫、福岡箱島三郎三男  
明三七、九、生、養子孝次郎妻  
明四三、一、一、生

箱島甚一郎

丸尾屋、酒造業  
妻 明一四、二、生、亡妻父甚次郎長女  
養子 明三三、一、二、生、二女トモ夫、福岡箱島三郎三男  
明三七、九、生、養子孝次郎妻  
明四三、一、一、生

白興基

正六位勳六等、前朝鮮總督府黃海道參事官、京城府在籍  
妻 明二二、四、生、京城、金善治女  
白金鉉 大七、五、生

白麟濟

從六位、京城醫學專門學校教授  
君は平安北道定州郡南陽洞の出身にして明治三十一年十二月を以て生れ大正十年京城醫學專門學校を卒業し同年總督府醫院副手となり後同醫院員たりしが同十五年京城帝國大學醫員を嘱託せられ昭和二年京城醫學專門學校講師を命ぜらるる同三年六月教授に進み今日に至る同五年三月在外研究員として歐美各國に留學せし事あり(京城府高倉洞一七電光門二二五)

箱島甚一郎

丸尾屋、酒造業  
妻 明一四、二、生、亡妻父甚次郎長女  
養子 明三三、一、二、生、二女トモ夫、福岡箱島三郎三男  
明三七、九、生、養子孝次郎妻  
明四三、一、一、生

間喜一郎

トイレットペーパー商  
妻 明四、七、生、兵庫、島中角藏長女  
明三三、一、二、生

間孔太郎

中津町長、岐阜縣會議員、中津川水産市場代表取締役、中津川電氣監査役、岐阜縣在籍  
妻 明三三、一、二、生、長野、久保田治郎八長女  
明三八、一、一、生、岐阜、土川宗左衛門四女

間四郎

養美電機商會取締役、三菱電機理事、養美電機商會在籍  
妻 明二九、七、生、岐阜、野呂昌三二男 達郎 大七、一二、生

間鶴助

中津川水産市場、中津電氣、中津製氷冷蔵各取締役、肥料商、中津縣在籍  
妻 明二一、四、生、長野、福澤逸長女  
明四五、三、生、昭和警事官

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

間千枝

君は岐阜縣人間奎右衛門の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同十四年東京高等商業學校を卒業し更に進んで大正二年同校専攻科を卒業す翌三年三菱合資会社に入り累進して三菱電機會社神戸製作所長となり現時同社營業部長にして養美電機商會取締役を兼ね家族は尙二女(大一一、三、四、生)ありA一七六(東京市荏原區中延町一〇七一電荏原四〇六四)

各特派員萬朝報社事務取締役兼筆主となり昭和三年及同七年石川縣より衆議院議員に當選す現に日本大學秘書として黨に同大學講師たりし事あり家族は尚二男三吉(大一、四、一、生)三男昭(昭二、一、生)あり(東京市小石川區西九町二一電大塚七二二)

橋口 兼清 東京農業大學評議員長、大日本農會理事、橋口農場主人、東京府土族、萬延元、一、生、子爵黒田文紀伯母、明三、二、五、生、鹿兒島、平田直一

君は舊鹿兒島藩士橋口文藏の長男にして伯曾孫山愛輔の再従弟なり明治十八年九月を以て生れ同三十六年家督を相続す同四十二年東京高等農學校を卒業し大日本農會理事に入り現時東京農會大學評議員長にして大日本農會理事を兼ね橋口農場主人を經營す家族は尚長女紀(大一、一、生)三女敦子(同三、七、生)四女米子(同五、一、生)五女喜久子(昭四、一〇、生)の外弟孝(昭二、一、生)日大出身、同妻ツル(同三、四、一、生)、鹿兒島、根元(ハルニ、二、女)及其子女あり姉(同三、六、九、生)は鹿兒島縣土族町田氏吉に嫁ユキ(同三、九、生)は同縣人北郷七次に同満(同三、二、一、生)は東京府土族松元泰正長男泰雄に叔母よね(文久元、九、生)は陸軍少將千田貞幹に同(慶應元、七、生)は故法學博士前田孝階に同(明元、一、生)は前四班牙公使荒川巳次に嫁(同二、七、七、生)は分家し弟孝三(同二、五、一、生)も亦同妻和子(同三、五、一、生)、神奈川、田沼恒雄姉(同三、五、一、生)を伴ひ分家し二女彌子(同三、四、一、生)は鹿兒島縣人平田エエの養子となり男文紀(同三、二、三、生)弟孝長男(同三、二、三、生)も亦同妻和子に嫁し養子となり後故子爵黒田清輝の死跡を相続し養子たね(明六、六、生)、金子傳兵衛三女(其家籍に入れり)東京市中野區文町一六電四谷五三三三) 參照||伯曾孫山愛輔、子爵黒田文紀、近藤藤治の項

橋口 行彦 正五位勳五等、鐵道技師、監督局技術課勤務、鹿兒島縣土族、文久元、一、二、生、鹿兒島、士、長次郎兵衛長女、進三七、四、生、神奈川、山鹿旗之

君は島取縣人藤田謙藏の二男にして東北帝國大學教授同敏彦の弟なり明治十五年三月十五日を以て生れ橋田家の養子となり大正十一年家督を相続す明治四十一年東京帝國大學醫學部を卒業し翌年同大學醫學部助手となり大正三年獨逸に留學し同七年歸朝東京帝國大學醫學部助教授に任ぜられ同九年醫學博士の學位を受け同十一年教授に進み今日に及び傍ら大日本生理學會常務幹事たり著書に「生理學要綱」(岩波集)の外岩波全集の内「生理學」あり養子シズ(明四〇、一、生)、鳥取、尾崎政吉長女)は千葉縣人江澤孝太郎長男醫學士積一郎に嫁せりA一六四(東京市杉並區荻窪一ノ一九電荻窪一一七八) 參照||藤田敏彦の項

橋爪 照武 資産家、東京府在籍、養母 登喜 明一、一、生、東京、橋爪小四郎、君は東京府人橋爪温の長男にして明治四十二年五月五日を以て生れ大正九年十月東京府人先代嗣の養子となり同十四年家督を相続す資産家たりA三五〇(東京市大森區新井宿三ノ一三三九)

橋爪 義雄 梁瀬自動車取締役、東京府在籍、養母 義一 大四、六、生、君は東京府人橋爪義一の三男にして明治二十年十月を以て生れ後前名教養を改め同十年分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尚二男義二(大六、一、生)三男義三(同二、六、生)四男益雄(同三、八、生)ありA一五六(東京市芝區金杉町三ノ一三三三三三五六) 參照||橋爪義一の項

君は兵庫縣人先代仲藏の長男にして文久元年十月十五日を以て生れ明治二十六年家督を相続す金融業を營む家族は尚長女文子(大一〇、八、生)ありA三三二六六一二六(神戸市灘區美土町五二電元町一四〇六)

橋爪 陽 正五位勳四等、地方技師、廣島縣高等工業學校講師、廣島縣土族、明一四、六、生、鳥根、嘉儀金一郎、妻 直 透 明四二、四、生、九州大學工科學部出身、男 芳子 明四一、三、生、廣島府立高女專攻科出身、女 郁子 大七、七、生、廣島縣立高女出身、君は青森縣土族橋爪實之介の長男にして明治九年二月を以て生れ同十九年家督を相続す同十五年東京高等工業學校應用化學科を卒業し稅務管理局技師となり廣島縣稅務管理局に勤務す爾來稅務監督局技師となり廣島縣工業技術師同縣工業試驗場技師等に歴任し大正十三年地方技師となり現時廣島縣立試驗場技師及廣島高等工業學校講師たり家族は尚三男三(大一

君は東京府人橋爪文三の弟にして同昌矣は其兄に當る明治十九年四月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す夙に學業を卒(實業界に入りたから商會社長として名ありしが現に之を退き大正十一年一月東京市目黒區下目黒にダパン時計販賣會社を設立し其大出資社員として之を主宰し業續大に揚る家族は尚庶子ヒロ子(大一二、八、生)、生母同上)あり(東京市目黒區下目黒二ノ四六九電高輪二四七五) 參照||橋爪昌矣の項

君は東京府人橋爪文三の弟にして同昌矣は其兄に當る明治十九年四月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す夙に學業を卒(實業界に入りたから商會社長として名ありしが現に之を退き大正十一年一月東京市目黒區下目黒にダパン時計販賣會社を設立し其大出資社員として之を主宰し業續大に揚る家族は尚庶子ヒロ子(大一二、八、生)、生母同上)あり(東京市目黒區下目黒二ノ四六九電高輪二四七五) 參照||橋爪昌矣の項

橋田 邦彦 正五位勳四等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、大日本生理學會常務幹事、東京府土族、萬延元、一〇、生、鳥取、中原勇造

君は長野縣人橋田十太郎の三男にして明治九年六月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す十字堂と稱し著書器商を營み昭和九年組織を改め株式会社十字堂器器店と稱し其社長となり今日に至る家族は尚孫利明(大一三、一、生)、養子利平長男(昭三、八、生)、同(二男)同美奈子(同五、五、生)、同長女(昭三、五、生)、同(三男)同昌子(同四、九、生)、養子昌次長女(昭四、五、九九三B一六六(東京市下谷區上野廣小路七電下谷二二二))

君は長野縣人橋田十太郎の三男にして明治九年六月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す十字堂と稱し著書器商を營み昭和九年組織を改め株式会社十字堂器器店と稱し其社長となり今日に至る家族は尚孫利明(大一三、一、生)、養子利平長男(昭三、八、生)、同(二男)同美奈子(同五、五、生)、同長女(昭三、五、生)、同(三男)同昌子(同四、九、生)、養子昌次長女(昭四、五、九九三B一六六(東京市下谷區上野廣小路七電下谷二二二))



以て生れ昭和四年家督を相續し、養育費は伊先是明治十四年慶應義塾大學理財科を卒業し更に早稲田大學政治經濟科に學ぶ。義に三妻會社に勤務す。昭和七年貴族院議員に互選せられ現に其任に在り。家族は尙二女(明一、一〇生)三女(明三、八生)あり。姉妹(明一、一〇生)は法學士木間淑子に嫁す。同二、四生)は工學士藤田貞三に嫁す。東京市世田谷區上馬町二ノ一三六四電田谷二七五七

參照北島多一、木間淑子三三〇

橋元昌矣

從四位勳四等、東京天文臺技師、東京府在籍

妻 明一、一〇生、東京、内田親友妹

男 啓太郎、明四、四生

橋本伊兵衛

京都府多額納稅者、繪師、伊尾、繪具毛筆師、京都府在籍

妻 明一、一〇生、滋賀、徳永三左衛門

男 眞藏、明三、三生、滋賀、磯山佐助二男

橋本郁太郎

勳七等、編譯銀行取締役、福岡縣在籍

妻 明一、一〇生、福岡、士、森進三女

男 銚一、明三、九生

橋本梅太郎

日本ウイクトリック社社長、淺野物産事務所取締役、東洋汽船内取締役、日本郵船、小倉鐵道各社取締役、淺野造船所、日本ドライアイス各社監査役、福岡縣土族

妻 明一、一〇生、福岡、島津四郎二女

男 夏雄、明六、六生、福岡、島津四郎二女

女 ハル、明五、二生

橋本嘉三郎

建築請負業、京都府在籍

妻 明一、一〇生、京都、高見忠兵衛

男 嘉作、明三、七、一〇生、二男嘉作妻

橋本嘉七

東亞企業代表社員、東京府在籍

妻 明一、一〇生、京都、服部藤吉長女

男 直子(昭三、九生、同長女)あり三男(昭三、八生、同妻トク(昭三、九、一〇生、京都、服部藤吉長女)は其に分家し長女千鶴子(昭四、二生)は京都府人奥田忠治に嫁せり。A六三四(京都市大宮通り御池下電西二二一九)

君は福岡縣人橋本茂七郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す。現時前記銀行の重役にして義に福岡縣會議員朝倉郡長兼義會社社長たりしことあり。又多年立石村長に擧げらる。家族は尙孫惟和(昭二、四生、長男、同妻美子(昭五、七生、同長女)同敬行(昭八、八生、同妻)あり長女ワカ(昭二、〇、四生)は福岡縣人奥村次平に二女三好(昭二、八、二生)は同縣人三原廣三男三女(昭三、〇、同三、〇、三、〇)は同縣人調友吉長男湯輔に四女壽子(昭三、八、一、二生)は佐賀縣人荒木廉次郎長男正人に五女登未子(昭四、二、一、一生)は福岡縣人八木猛雄長男正勝に嫁せり(福岡縣朝倉郡立石村)

橋本市太郎

龜山製糖社長、三重縣農工銀行重慶支店長

妻 明一、一〇生、三重、士、柏木秀

男 一彦、明三、七、六生、大倉高商出身

女 茂子、明四、五、五生、長男一彦妻、山口津田彌市郎四女

男 寛、明四、二、四生、明大法科出身

橋本逸男

名古屋株式取引所取引員、岐阜縣在籍

妻 明一、一〇生、岐阜、井上秀吉妹

女 千枝子、明三、二生

女 秀子、明五、一〇生

橋本覺次郎

橋本意出資社員、大阪府在籍

妻 明一、一〇生、大阪、住井兼吉

男 舜一、昭六、三生

橋本勝太郎

從三位勳二等功三級、陸軍中將、財團法人日本少年指導會會長、明治憲法記念會理事、東京府在籍

妻 明一、一〇生、東京、士、北原松太郎

男 政子、明四、〇、二生、男爵田中龍夫妹

橋本兼次郎

大阪府人先代兼次郎の弟にして明治三十四年十二月十七日を以て生れ大正八年家督を相續し翌年前名兼十郎を改め兼次郎とす。家族は尙四男(昭七、一〇生)兄兼一(昭二、七、三生)同妻カネ(昭二、九、一、二生、大阪、住井宗三)及其二男二女(昭二、九、七生)同妻トク(昭三、一、一、一生、京都、淺野雅三妻)あり亡兄兼次郎妻トク(昭一、一、一、一生、大阪、花岡文藏二女)は大阪府人花岡徳三郎の家に入り兄兼芳(昭二、四、一、一生)同妻トク(昭二、六、一、二生、静岡、若荷佐市郎妹)は其に其二女を伴ひ姉トク(昭二、一、八、一生)及亡兄兼次郎妻トク(昭二、一、一、一生、大阪、浦長卯一長女)は其一女を伴ひ各分家せり。A二二〇七(大阪市浪速區榮通一ノ九五電櫻川九四〇)

橋本兼藏

酒田商工會議所議員、鮎海電氣、島海電力各社取締役、酒田電燈、監査役、吳服太物師、山形縣在籍

妻 明一、一〇生、柴田才治長女

男 正太郎、明三、九、八生

男 欣子、明四、三、三生、長男正太郎妻、山形、小野太右衛門五女

女 マキ、明三、四、六生

女 敬治郎、明四、二、六生

男 光三、明四、四、一、一生

女 智恵、明三、二、二生

女 ユキ、明六、一、一生

橋本兼藏

君は山形縣人橋本兼藏の二男にして明治七年七月八日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す。伊先是太物師を營み傍ら島海電力酒田電燈會社の重役にして

酒田商工會議所議員たり家族は四女キヤ(大九、四生)孫孝一郎(昭五、二生、長男正太郎長男)あり(酒田米屋町二八電三四八)

橋本寛一

父 中央電氣鐵道、八王子市街自動車各務取締役、東京府土族  
母 慶應元、九生、現戶主  
妻 菊枝 昭二、九生、東京、川崎寬美二  
君は新潟縣土族橋本圭三郎の長男にして明治二十六年十月三十日を以て生れる大正八年京都帝國大學經濟科を卒業し現時鐵道興業會社社長たる外前記各會社の重役たり長男寛正(大一〇、二生)は男爵川崎寬名の子となり當主たり(四三三八)神奈川縣高座郡藤澤町辻堂六〇〇電辻堂六四

橋本關雪

邦畫家  
兵庫縣土族  
父 小六 嘉永五、七生  
母 ちよ 明八、三生、兵庫、阪妻右衛門七女  
妻 節 明三八、八生  
男 節 明四〇、七生、長男節哉妻、鹿兒島、田鶴子、池松時和二女  
女 正 昭二、二生、生母同上、孫婿(同四、一〇生、長男節哉長女)妹キ(明四〇、七生)あり二女妙子(同四三、一生)は岐阜縣人高柳隆一に妹ゾデ(同三五、一生)は愛媛縣人宮下志朗に同キ(同二八、六生)は京都府人原田隆に同キ(同三八、六生)は大府人上野馨に嫁せり(一九三三)京都市左京區淨土寺石橋町電上四六〇

橋本喜久雄

橋本汽船事務取締役、龍王汽船新興商船各務取締役、長崎縣在籍  
君は兵庫縣土族橋本小六の長男にして明治十六年十一月を以て生れる同二十四年家を相続す關雪と號し本邦日本畫壇有数の大家として知られ義に帝國美術院美術展覽會委員たりし事あり家族は尙慮子申(大九、二生、生母、兵庫、永田津子)同齊吉(同一三、九生、生母同上)同かづ子(昭二、二生、生母同上)孫婿(同四、一〇生、長男節哉長女)妹キ(明四〇、七生)あり二女妙子(同四三、一生)は岐阜縣人高柳隆一に妹ゾデ(同三五、一生)は愛媛縣人宮下志朗に同キ(同二八、六生)は京都府人原田隆に同キ(同三八、六生)は大府人上野馨に嫁せり(一九三三)京都市左京區淨土寺石橋町電上四六〇

橋本喜作

濱寺土地、大阪快速巡視船、大阪港土地各務、社長、大同種痘事務、取給役、阪和電氣、鐵道監査役、松竹興業、取締役、大阪府土族  
父 喜造 明五、一〇生、現戶主  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は長崎縣人橋本喜造の長男にして明治四十一年七月十一日を以て生れる神戸商業學校に學び後獨逸に留學し昭和七年歸朝後現に橋本汽船會社事務取締役たる他前記諸會社の重役たり讀書業道徳的に趣味を有す家族は尙男弘造(昭五、三生)あり(神戸市神戶區山本通四ノ五電臺合三五五六、東京市芝區二本横二ノ二五電高輪三〇七) 参照 岡本宗之、橋本喜造の項

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本吉次郎

廣島縣多額納稅者、肥料商  
廣島縣在籍  
妻 トヨ 明一八、七生、廣島、橋本龍一姉  
男 恭一郎 明四〇、九生  
女 浩子 明四四、三生  
君は廣島縣人先代吉次郎の長男にして明治十五年十一月を以て生れる同四十二年家を相続し前名繁太郎を改め號名す肥料商を營み直接國稅二千七百三十五圓を納め縣下の多額納稅者にして名望あり妹ヲク(明一、九、九生)は鳥取縣土族近藤喜兵衛長男壽一郎に嫁し弟邦三(同二四、二生)同妻アサヨ(同三一、二生、愛媛、木村山松四女)は其二子を伴ひ分家せり(尾道市十四日町電三三七)

橋本吉藏

神奈川縣在籍  
妻 カネ 慶應二、六生、曾祖父吉藏長女  
母 シン 明一八、八生、祖父吉藏長女  
妻 キク 明四一、一二生、神奈川、横山米  
男 謙 昭九、一生  
君は神奈川縣人先代吉藏の長男にして明治三十八年十月二十一日を以て生れる大正十年家を相続すと共に前名泰造を改め號名す現にわかなと稱し蒲燒商を營む家族は尙弟壯輔(明四三、九生)妹裕美子(大二、四生)同美代子(同四、九生)あり弟直平(明四一、一生)は分家せり(四五九、一二二)横濱市中區住吉町五ノ五七電長者町五七二

橋本久五郎

三好野、汁粉商  
東京府在籍  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

橋本喜助

岩手縣多額納稅者、花巻温泉取役、興隆太物商、岩手縣在籍  
父 喜造 明五、一〇生、東京、山口文悦長  
母 昭一 昭二、一生  
妻 昭一 昭二、一生  
君は先代久五郎の長男にして明治二十二年五月十四日を以て生れる昭和五年家を相続し前名新吉を改め號名す汁粉商として著名なる三好野の當主にして同店は明治十一年先代久五郎の創業に成り爾來今日及び家族は尙二男新治郎(大六、一〇生)二女スエ子(同一〇、一生)三女テ(同一三、一生)四女シヅ江(同一五、二生)三男雄雄(昭三、三生)五女幸枝(同七、一生)及弟平次郎(明三〇、四生)同妻なか(同三三、一生)千葉齊藤徳藏(二女)及其子女弟久次郎(同三九、二生)同妻美子(同四四、一生)東京、新井孫四郎(二女)及其子女あり(一三九一)七七(東京市下谷區上野廣小路七電下谷六一一五)

ハ之部 橋本

夫に妹嫁(同二〇、七生)は徳島縣人中谷爲吉に嫁せり
A四三〇(兵庫縣川邊郡伊丹町電伊丹七六)
參照||男爵近藤瀧彌公爵大久保利武伯爵上杉憲
章濱口擔の項

橋本 謙三

岸島合資會社員、家主
東京府在籍
妻 喜 彌 明一〇、九生、養祖父治郎右衛門
長女 明三〇、一二生、養父治兵衛長女
現戸主
男 喜一郎 大五、一〇生
君は東京府人岸島松太郎の弟にして明治二十四年五月
六日を以て生れ大正五年橋本たいの入夫となる家主に
して岸島合資會社員たり家族は尙二男次郎(大
九、七生)三男乾(同二、一、二生)長女昌子(同二、一、
三、三)女博子(同四、九生)四男暢夫(同八、九生)あり
A八一五(東京市下谷區龍泉寺町九八電淺草六三三四)

橋本 賢輔

正五位、九州帝國大學教授、工学
部勤務、東京府在籍
妻 ケイ 明三〇、一一生、東京、二宮邦次
明三二、府立第三高女、津田英學
各出身
男 賢 大、一四、一二生
君は熊本縣人橋本才八の三男にして同才輔の弟なり明
治二十年十一月一日を以て生れ後別れ一家を創立す
同四十四年東京帝國大學工學部造船學科を卒業し大
正元年海軍合衆國軍用飛行機の計畫建造に従事し大
正八年十月三年三月海軍砲術として渡歐同年十一月
歸朝海軍技術師に任ぜられ海軍艦政本部員兼海軍航空
機試驗所員兼海軍技術研究所員兼橫濱海軍工廠造
兵部検査官航空研究所員兼海軍航空本部技術部員
等に歴任し昭和九年九州帝國大學教授に轉じ今日及
ぶ昭和六年軍縮會議全權委員隨員を命ぜられ同年歸
朝才八族は尙長女惠美(大、一、一、三、二)女萬里(同
一、一、一、八、三)三女眞麻(同二、一、一、一、一、五〇
(福岡市地行町八〇電七八六)
參照||橋本才輔加地利夫の項

橋本 幸吉

美松監査役、古久屋、吳服商
東京府在籍

(※印は姻族關係)

母 てつ 文久三、三生、祖父甚兵衛三女
妻 フク 明二七、一生、東京、大澤忠七三
養子 久子 大、八生、東京、鈴木吉五郎五
女 大、八生、東京、鈴木吉五郎五
君は東京府人橋本勘助の長男にして明治十九年三月十
二日を以て生れ昭和三年家督を相続す古久屋と稱し吳
服商を営み傍ら美松百貨店の重役たり家族は尙弟良造
(明二、二、二)妹壽美(同二、六、五)同夫謙吉(同二
一、二、二)妻玉、柿崎謙藏弟及其一男二女同(同二
三、〇、一、二)同夫久平(同二、六、一、〇)妻玉、野村
房次郎三男)及其一男三女ありA八八五B八七(東京市
足立區千住町七二電淺草七〇五)

橋本 幸次郎

光月堂製パン所本店、菓子商
京都府在籍
妻 まつ 明一〇、一一生、京都、大木長三
明三三、四生、岐阜、伊藤彦八郎
男 直治 大、一二、一二生

橋本 左五郎

從三位勳三等、農學博士、北海道
帝國大學名譽教授、北海道在籍
妻 直也 明一六、二生、長女愛夫、岡山、
横山幹也弟、農學士
養子 直也 明二六、二生、養子直也妻
君は岡山縣人橋本芳太郎の二男にして慶應二年九月を
以て生れ大正六年家督を相続す明治十二年札幌農學
校を卒業し朝鮮總督府勸業模範場長水原農林專門學校
長東北帝國大學農學部勸業模範場長水原農林專門學校
教授等に歴任し現時北海道帝國大學名譽教授たり兼に
牧畜及畜産製造學研究の爲獨逸に留學す家族は尙孫清
局三三三四)

橋本 定喜

橋本定喜、東京府在籍、橋本、旅館
及刺京業、東京府在籍
妻 岩吉 明七、四生、現戸主
明六、一、一、養父善吉長女
明四三、一、一、東京、田丸多満吉
君は東京府人橋本岩吉の四男にして明治三十七年九月
を以て生れる橋本と稱し天麩羅の老舗として知られ又旅
館新橋館を兼營し橋本合資會社員たり叔父作太郎(明
九、一、一)は東京府人宮尾榮助の養子なり(東京市

芝區新橋一ノ三電銀座二七〇〇

橋本 實斐 從四位、伯爵、陸軍三等主計、内
務參事官、貴族院議員、舊公卿家
妻 敬子 明元、七生、子爵六條有直叔母
正子 明三三、二生、伯爵清水谷實英二
女、三輪田高女出身

當家は藤原鎌足の支裔大政大臣今出川公勝の四男參議
實俊の後なり世々家職として樂道を出る十五代を経て
先々代實業に至り戊辰の役東海道先鋒總督兼撫使とし
て桑名城を攻め後地方官元老院議員に歴補し明治十七
年伯爵を授けらる二男實顯其後を承け君に至る君は實
顯の長男にして明治二十四年三月五日を以て生れ昭和
四年家督を相続し慶應大學大正六年京都帝國大學法科大
學政治學科を卒(同七年更に同大學佛蘭西法律學科を
卒業し同九年文官高等試驗に合格同年農商務省となり
爾後特許局事務官農林事務官産業組合事務官兼農林事
務官等を経て昭和四年農林事務官兼内閣總理大臣秘書
官に轉ず同六年十一月貴族院議員に當選し同七年再選
す同九年岡田内閣の成立するや内務參事官に任ぜらる
家族は尙叔母竹子(明二、九生)あり伯母なを(慶應
三、二)生)は京都府人桑原長太郎に叔母秀子(明八、四
生)は伯爵清水谷實英に嫁し同教子(同二、一、三、五)生)は
子爵淺澤三の母たり(東京市牛込區市ヶ谷砂土原町
三ノ一九電牛込二八二九)
參照||伯爵清水谷實英、子爵淺澤三、子爵六條有
直、子爵中戸功男男爵阿蘇惟孝男爵藤
大路親美の項

橋本 三九郎

南古谷村長、醤油醸造業
埼玉縣在籍
妻 トミ 安政六、四生、埼玉、林治左衛門
女 二
母 明二七、七生、埼玉、富澤俊長女
君は埼玉縣人先代三九郎の二男にして明治二十一年五
月を以て生れ大正十四年家督を相続し前名基治郎を改
め號名す夙に實業界に入り日本玉練日本林業日本伸銅
等各會社の重役に就任し現時醤油醸造業を営み推され
て南古谷村長たり兼に橋本銀行頭取たりしことあり姉
マ(明一八、二)生)は埼玉縣人伊藤長三郎長男定吉に
叔母たり(安政六、三)生)は同縣人山田房吉に嫁し叔父

橋本 重隆

正五位勳五等、横濱高等工業學校
教授、神奈川縣在籍
君は高知縣人橋本彦彌の二男にして明治二十年十月を
以て生れ大正十年家督を再興す先是明治四十五年
東京帝國大學理科大學化學科を卒業し大正三年東京
高等工業學校助教授翌年同校教授に任ぜられ同十一年
英米獨に留學を命ぜらる歸朝に際し南米を周遊す昭和
三年横濱高等工業學校教授に任ぜられ今日に至る(横
濱市神奈川區平沼町平沼アパート一〇九號電長者町四
五一六)

橋本 重幸

住女生命保險、日本相互貯蓄銀行
兵庫大同信託各取締役
妻 ヒロ 長崎縣土族
明四、一、一、長崎、土、山口新一

橋本 治兵衛

平田屋、煉瓦商
愛知縣在籍
妻 さく 嘉永六、八生、愛知、服部與三治
長女
母 や 明一二、二、二、愛知、柴田孫助
養子

橋本 三郎

虎屋信託會社員、家主
大阪府在籍
妻 マス 慶應二、一、一、大阪、和田ツル長
女
母 マス 慶應二、一、一、大阪、和田ツル長
女
參照||伊藤長三郎の項

橋本 繁太郎

橋本土地興行代表取締役
大阪府在籍
妻 とく 明二九、一、一、大阪、久世善吉
長女
養子 正之助 明二六、一、一、養子福子夫、京都
久富長兵衛庶子
明三六、三、三、養子正之助妻、岡
山、下山榮治郎三女
庶子 綾子 明四一、二、二、生母、大阪、龜澤
トヲ

橋本 壽三郎

橋本店常務取締役、國光印刷
取締役、宮城縣在籍
妻 イチ 明三二、八、八、神奈川、箕輪半藏
二女

ハ之部 橋本

(※印は姻族關係)

ハ之部 橋本

(※印は姻族關係)

君は熊本縣人橋本忠次郎の二男にして同信次郎の弟なり...

橋本十五郎

日本生絲會事務取締役、日本製絲會取締役、島根縣在籍

妻 末枝 明三八、二生、神奈川、高木信太郎

男 洋一郎 大八、一〇生

君は島根縣人松本運兵衛の六男にして明治十九年五月を以て生れ...

橋本正治

從四位勳三等、札幌市長、福井縣在籍

妻 キヨ 明三一、一〇生、北海道、田中滋造三女

男 俊彦 明三九、一一生

女 靖彦 明四三、一一生

君は福井縣人松本傳七の二男にして小池堅治吉田寛一の兄なり...

五〇 參照小池堅治、吉田寛一の項

橋本庄藏

新興土地建物監査役、滋賀縣在籍

妻 なか 明二五、九生、京都、岡本まつ養子

男 弘 大五、二生

橋本庄之助

美好園、茶商、京都府在籍

父 治 正 慶應二、一一生

母 いせ 長五、一一生、京都、猪飼平四郎

妻 みき 明二七、一〇生、京都、安藤眞次郎長女

男 龍一 大五、六生

君は京都府人先代庄之助の長男にして明治二十四年一月十八日を以て生れ...

橋本信一

オリエンタルホテル監査役、大阪府在籍

妻 光 長三〇、二生、兵庫、石田寛三郎長女

男 達 大五、一一生

女 澄子 大五、一一生

君は大阪府人橋本壽一郎の二男にして現戸主吉彦の叔父なり...

宮三三三

日光鐵業代表取締役、橋本店、日光印刷各取締役、國際馬術協會、東京馬俱樂部各理事

妻 ノブ 明二二、二生、栃木、土屋惣次五女

男 信之助 明三五、一一生

女 啓子 大四、九生

橋本信次郎

日光鐵業代表取締役、橋本店、日光印刷各取締役、國際馬術協會、東京馬俱樂部各理事

妻 ノブ 明二二、二生、栃木、土屋惣次五女

男 信之助 明三五、一一生

女 啓子 大四、九生

君は熊本縣人橋本忠次郎の長男にして明治十二年四月を以て生れ...

橋本新助

從五位、鐵道技師、工作局車輛課勤務、神奈川縣在籍

妻 綾子 明三三、四生、東京、相馬久吉長女

男 寬 昭四、一〇生

君は神奈川縣人橋本治助の二男にして明治三十年七月十五日を以て生れ...

り現時車輛課勤務たり神奈川縣多額納税者に列し直接國稅千圓を納む...

橋本清吉

大阪府在籍、鳥料理業

妻 サキ 明九、九生、京都、福知コウ姉

男 清一 明三九、一一生

男 保吉 明四一、三生

男 晴夫 明四三、五生、法學士

男 桂三 明四五、七生

君は大阪府人橋本清八の長男にして明治三年八月九日を以て生れ...

橋本清吉

從五位、警視廳部長、刑事部長、三重縣在籍

妻 美彌子 明三七、二生

男 行也 昭七、二生

君は明治三十一年八月十四日を以て生る大正八年第一高等學校卒業...

橋本清太郎

東京府在籍

妻 みち 明二、一一生、東京、安藤春徳長女

男 米藏 明三六、一〇生

君は東京府人橋本清九郎の長男にして慶應元年十一月十五日を以て生れ...

橋本誠太郎

橋屋壽永、菓子商、大阪府在籍

妻 つう 明一、八生、養父宗美長女

男 宣太郎 大四、一一生

女 茂 明三九、二生

女 悦 明四一、三生

君は大阪府人橋本忠兵衛の二男にして明治十二年十一月二十二日を以て生れ...

橋本精次

正五勳五等、第七高等學校造士、館教授、東京府在籍

妻 好榮 明三〇、二生、滋賀、土、西村秀雄妹

男 俊雄 大四、五生

女 美代 大七、一一生

君は東京府人橋本目録の二男にして明治十四年六月を以て生れ...

橋本節齋

從五位勳五等、小石川病院長、醫師、東京府在籍

妻 トシ 明一五、七生、新潟、土、高田貞彌妹、東京女高師出身

男 龍雄 明三五、三生、醫學博士、小石川病院副院長

君は舊津藩士橋本一齋の長男にして明治元年十二月二十日を以て生れ...

橋本綾子

石川慶治長女、明三八、二生、二男龍雄妻、東京府在籍

男 義雄 明三七、一〇生、醫學博士、名古屋大醫學部講師、静岡市更生病院外科部長

男 治雄 明三九、九生、陸軍二等軍醫、千葉醫大出陣

女 雪枝 大五、一一生、御茶の水高女出身

君は舊津藩士橋本一齋の長男にして明治元年十二月二十日を以て生れ...

橋本仙太郎

地主、大阪府在籍

妻 スエ 明一三、四生、大阪、吉川淺次郎四女

男 一雄 明三六、九生

君は大阪府人先代彌兵衛の四男にして明治四年二月二日を以て生れ...

橋本善吉

新橋橋善善代表社員、東京府在籍

父 安次郎 明元、七生、現戸主

君は東京府人現戸主橋本安次郎の長男にして明治三十七年三月一日を以て生る現時新橋橋善善代表社員たり...

ハ之部 橋本

(※印は姻族關係)

四、一(生)同留吉(大七、六生)ありA五九二(東京市大森區田園調布三ノ六)電田園調布七六五

橋本惣五郎

大阪府在籍

妻 子 明二八、八生、奈良、木村長左衛門長女
妻 子 明三八、一〇生、東京商大出身
妻 子 篤三郎、一〇生、長男宗夫妻、兵庫
妻 子 篤三郎、二女
妻 子 篤三郎、一〇生、松山高女出身
妻 子 篤三郎、一〇生、夕陽丘高女出身
妻 子 篤三郎、一〇生、明浄高女出身
妻 子 篤三郎、一〇生、明浄高女出身
妻 子 篤三郎、一〇生、明浄高女出身

橋本惣七

大阪製粉監査役、澁粉調味料製

妻 ヤエ 女 明二六、九生、大阪、梶榮次郎長女
妻 子 公雄 大三、二生
君は大阪府人橋本惣五郎の五男にして明治二十三年一月を以て生れ大正七年兄惣五郎より分れて一家を創立す澁粉調味料製造業を営み傍ら大阪製粉會社監査役たり家族は尙三男三佐夫(大九、四生)長女民(同一、九生)ありA七三〇(大阪府南區瓦屋町三番丁八〇)電南九四四

橋本太次兵衛

和歌山縣多額納稅者、和歌山産業

妻 ヨシエ 女 明二四、一〇生、和歌山、津村徳兵衛三女
妻 子 順 明二四、一〇生、和歌山、久保田三郎二女
妻 子 太朗 大二、一〇生
君は和歌山縣人先代太次兵衛の長男にして明治二十三年

年十一月を以て生れ同三十九年家督を相続し姓名す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅二千七百十八圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙二男次郎(大九、九生)三男衛三(同七、三)生(生)一(同八、三)生、生母、和歌山、井岡(同)あり(和歌山縣日高郡湯川村電御坊一三〇)

橋本孝

慶應義塾大學教授兼普通部主任、文學部勸務、橋本縣在籍

妻 子 明三九、七生、山口、新井芳友妹
君は橋本縣人にして明治二十八年二月十四日を以て生る大正九年慶應義塾大學文學部卒業し直に同普通部教員となり傍ら文學部講師兼大學教員となり同十二年普通部教員を辭し文學部講師兼大學教員となり同十五年より昭和三年に至る間慶應大學留學生として獨逸(留學)歸朝後文學部助教授兼大學留學生員となる同六年文學部教授に進み同八年普通部主任を兼ね今日に至る家族は尙長女禮子(昭五、七生)あり(東京市芝區葦手町二六)

橋本竹次郎

資産家

君は東京府人橋本又兵衛の二男にして明治三年四月十日を以て生れ分れて一家を創立す資産家たりA四四一(東京市淺草區駒形町一七)

橋本辰雄

木曾屋、酒類問屋業

君は愛知縣人橋本鐵三郎の三男にして明治四十三年一月二日を以て生れ大正十三年兄鐵一の後を承け家督を相続す木曾屋と稱し酒類問屋業を営む兄保(明三三、七生)は北海道人服部源助の養子となり姉末子(同三九、六生)は分家ありA一三五五B四二(名古屋市中區大舟町一ノ三)電五六七六

橋本辰二郎

勸三等、貴族院議員、長崎縣多額

納稅者、南洋汽船、沙河汽船各社社長、橋本商會取締役、東京橋本代表社員、長崎縣在籍
妻 子 行 正 明二六、七生
君は大分縣人橋本健平の二男にして明治元年五月十一

日を以て生れ叔父故貴族院議員橋本雄造の養子となり後家督を相続す夙に専修學校に學び實業界に入り現に東京橋本合名會社代表社員たる他前記諸會社の重役にして直接國稅二千三百九十二圓を納め縣下の多額納稅者たり貴族院議員に互選せらるること三回現にその任にあり大正三、四年事件の功により勳三等に敘せらる明治四十二年以來十六年間引續き長崎商會議所會頭に擧げられ同市商工業の發展振興に貢献する處から今尙縣下の長老として縣民の信望厚く縣市百般の事業の指導啓蒙に俟たざるものなし(長崎市油屋町一電一八三九「別宅」東京市麹町區麹町一ノ一二電九段二九六五)

橋本種次郎

大阪府在籍

妻 子 明二五、七生、兵庫、沖代宇之助
妻 子 太良 大二、三生、浪速高女出身
妻 子 昌 良 大七、七生、東京帝大在學
妻 子 昌 良 大七、七生、浪速高女出身
妻 子 昌 良 大七、七生、浪速高女出身
妻 子 昌 良 大七、七生、浪速高女出身

橋本長兵衛

三河屋橋長商店、薪炭商

妻 あい 明三〇、一〇生、東京、古宮源右衛門三女
妻 子 吉之助 明三三、一〇生、養子喜多夫、京都、三田其三郎兄
妻 子 喜多 明三八、三三、養子吉之助妻、東京、永田次郎二女
君は東京府人先代長兵衛の長男にして明治四年六月を以て生れ同二十六年家督を相続し後前名辰藏を改む三河屋橋長商店と稱し薪炭商を営む妹ゆき(明七、一〇生)は東京府人舟津米次郎に嫁せりA二四二B三〇八(東京市神田區佐久間河原五電下谷六二〇)

橋本恒五郎

正五位勳五等、朝鮮總督府檢察事、

妻 文子 明三八、六生、廣島、桑原幹夫四女
妻 子 越 夫 昭六、一〇生
君は東京府人橋本源之助の三男にして明治二十三年一月十八日を以て生れ大正十二年兄恒次郎の後を承け家督を相続す同四年東京帝國大學法學部法學科を卒業し司法官試補となり同六年檢察事に任じ大阪地方裁判所檢察事同山縣同地方三次裁判所檢察事を経て臺灣總督府法院判官に轉じ臺北地方法院判官臺南地方法院判官となり次で朝鮮總督府檢察事に轉じ京城地方法院水原支廳公州地方法院清州支廳公州地方法院新義州地方法院平壤地方法院各檢察事に歴補し昭和九年清津地方法院檢察事に補せらるる家族は尙長女縁(昭五、七生)亡兄橋本妻(昭一、一〇生、佐賀、深江碩三郎妹)あり(朝鮮清津府高砂町清津地方法院官舎電一〇八)

橋本常次郎

資産家

妻 イチ 昭二、一五生、東京、岸安次郎三女
妻 子 秀子 大二、一〇生
君は東京府人先代金太郎の二男にして明治二十一年七月二十一日を以て生れ大正十二年家督を相続す資産家たり家族は尙二男金雄(大四、一〇生)五女富美子(同八、七)生(生)トミ(文久二、八生)あり二女テツ(明四三、二)生(生)は東京府人水谷得次二男幸太郎に妹たか(同三二)一(生)は東京府人光山吉吉に嫁せりA一一二〇(東京市中野區文園町五電中野三九九〇)

橋本鐵吉

銀行倉庫取締役會會長、郡山合同

妻 清乃 昭三〇、一〇生、現戶主
君は貴族院議員橋本萬右衛門の長男にして同萬之介の男なり明治二十五年六月を以て生る夙に銀行業研究の爲歐米に遊學し歸朝後郡山橋本銀行常務取締役となり現時郡山合同銀行取締役たる外前記諸會社の重役たり

橋本傳左衛門

從四位、農學博士、京都帝國大學

教授、農學部長、埼玉縣在籍
妻 子 仙 子 昭三二、一〇生、埼玉、尾城八十吉長女
君は埼玉縣人にして明治二十年七月十一日を以て生れ同四十三年東京帝國大學農學部農學科を卒業し直ちに日本勸業銀行に入り後之を辭して大正七年東京帝國大學農學部農學科となり同九年農學博士の學位を授けらるる同十一年獨逸米瑞西各國へ出張し同十三年歸朝す同年京都帝國大學教授に任ぜられ推されて同大學農學部長となる後一度學部長を辭したるも更に選ばれて今日に至る家族は尙長女喜美子(大九、一〇生)二女美津子(同四、三)三女和子(昭二、二)四女京子(同四、三)あり(京都市左區北白川小倉町電上三六〇)

橋本徳次郎

橋本製藥社長、白美化粧品研究

所長、那須野牧場主、橋本製藥所代表社員、東京府在籍
妻 子 晴 雄 大八、四生、濟生堂製藥所代表社員
君は東京府人橋本佐助の三男にして明治十八年五月一日を以て生れ後亡弟勝五郎の後を襲ひ家督を相続す橋本濟生堂製藥所と稱し製種商を営み傍ら橋本製藥會社社長にして白美化粧品研究所取締役濟生堂製藥所代表社員を兼ね又橋本縣那須野に於て競走馬生産育成の那須野牧場を經營す(東京市京橋區築地一ノ二四ノ二電京橋一〇一七)

橋本虎吉

橋本代表社員、金銀地金商

妻 子 昌 夫 大五、二生
君は東京府人橋本又兵衛の二男にして明治三年四月十日を以て生れ分れて一家を創立す資産家たりA四四一(東京市淺草區駒形町一七)

橋本虎之助

從四位勳二等功四級、陸軍中將、

陸軍次官、東京府在籍
妻 子 敬 子 大八、一〇生、櫻蔭高女出身
君は東京府人先代虎吉の長男にして明治十六年六月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十六年陸軍騎兵少尉に任じ昭和四年陸軍少將に同八年中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し露國駐在官騎兵第二十五聯隊長參謀本部課長東京警備參謀長關東憲兵隊長等を経て參謀本部總務部長に歴補し昭和九年同部内閣成立するや陸軍次官に任ぜられ今日に至る家族は尙三男正賢(大一〇、一〇生)四男正禮(昭二、三)五男正季(同三、一〇)生(生)弟清之助(明二五、一〇生)同妻マサ(同三、一〇)生(生)、長崎、青崎省三二女)及其二男二女あり(東京市四谷區三光町一電四谷三七三五)
参照 田内三吉の項

橋本直一

帽子卸商

妻 子 直 正 明二二、四生
君は東京府人橋本又兵衛の二男にして明治四年七月十日を以て生れ同三十五年兄仙太郎の後を承け家督を相続す家主たり家族は尙二女たき子(昭三、八生)あり姉セイ(明一九、二)生(生)弟信三郎(同二八、一〇)生(生)は各分家せりA一三八〇(大阪府北區松ヶ枝町二七電堀川一七二)

橋本直

東京府在籍

妻 子 直 正 明二二、四生
君は東京府人橋本又兵衛の二男にして明治四年七月十日を以て生れ同三十五年兄仙太郎の後を承け家督を相続す家主たり家族は尙二女たき子(昭三、八生)あり姉セイ(明一九、二)生(生)弟信三郎(同二八、一〇)生(生)は各分家せりA一三八〇(大阪府北區松ヶ枝町二七電堀川一七二)

養子 巖 明三〇、二生、二女正子夫、東京小島康利弟
女 直保 明三三、六生、養子巖妻
孫 直保 明三三、六生、養子巖妻

橋本 長俊

從三位勳五等、子爵、陸軍騎兵中尉、帝國桐華會社社長
妻 ツム 明二六、六生、東京、後藤續妹、東京女學館高等科出身
男 長久 大二三、二生
女 俊子 大四、六生

橋本八兵衛 大阪府多額納税者、日本企業監査大役員、橋本宅代表社員
母 なを 嘉永元、六生、大阪、小澤洋兵衛長女
男 政太郎 明三三、一〇生、長男政太郎妻喜代枝 大阪、菱川庄五郎妹

橋本 福藏

大阪堂島米穀取引所取引員
妻 ツル 明二六、一〇生、愛媛、種積頑隆
女 正子 大元、九生、小林聖心女子學院出身
君は大阪府人橋本茂造の二男にして明治二十年四月八日を以て生れ大正七年見吉方より分れて一家を創立す現時大阪堂島米穀取引所取引員として知らるA三六〇二B八九三(大阪府北區堂島濱通一ノ一〇四電北四〇四)

橋本 匡也

從五位勳六等、判事、横濱地方裁判所部長、青森縣在籍
妻 美代 明三六、一〇生、青森、澁谷安之助長女
男 雅光 大一一、一〇生
君は青森縣人橋本勇太郎の長男にして明治二十二年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同七年判事に任じ爾來旭川地方兼同區區長兼同地方兼同區各裁判所判事東京控訴院判事等に歷補し現時横濱地方裁判所部長たり家族は尙二男博光(昭三、一〇生)あり姉いと(明一九、九生)は神奈川縣人彼野國正に嫁せり(横濱地方裁判所内)

橋本 増吉

慶應義塾大學教授、文學部勤務
妻 清子 明二二、三〇生、東京、星野恒二女
女 美智子 大三四、二〇生、實踐女子專門學校文學科在籍

橋本萬右衛門

卒業し早稻田大學文學部史學科講師となり同四十二年慶應義塾大學教授を兼ね大正二年同大學文學部史學講師に轉じ更に同八年早大講師を辭し慶應義塾大學教授となり文學部に勤務し現在に至る此間支那に遊ぶこと二回回國に趣味を有す妹麗子(明一九、二生)は四村房太郎に嫁せり(東京市杉並區藤三ノ四)

橋本 巳之助

橋本宅社員
妻 ムメ 明二五、七生、大阪、古市清兵衛長女
君は大阪府人橋本八兵衛の四男にして明治十三年七月一日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す現時橋本合名會社社員たりA一五〇〇(大阪府住吉區濱口町四四二電住吉二八三九)

橋本 行正

橋本合名會社社長、長崎鐵工所、福洋汽船各社取締役、沙河汽船監査役、長崎縣在籍
妻 辰二郎 明元、五生、現戶主
女 和子 明三〇、一〇生、東京、東條一郎長女
君は長崎縣人橋本辰二郎の長男にして明治二十六年七月二十九日を以て生れ昭和九年前名秀雄を改む先是大正六年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現時橋本合名會社社長たる外前記各會社の重役に於て少壯手腕家を以て知らる(長崎市外浦町六八七)

橋本萬之介

東部電力、二本松電氣各社社長、東部證券取締役、東京共成電監査役、福島縣在籍
妻 貞 明二三、二生、兵庫、松島泰夫妹
男 榮一 大三、四生、成城高校在學

橋本 保平

静岡縣多額納税者、三十五銀行監取役、静岡貯蓄銀行監査役、静岡縣在籍
妻 ゆう 慶應元、一〇生、小澤久七六女
男 忠次郎 明一五、一〇生、長男忠次郎妻きやう 明四二、二生、長男忠次郎長女
孫 千代 明四二、二生、長男忠次郎長女
孫 梅子 明四四、二生、長男忠次郎二女、静岡高女及東京家政學院出身

橋本 與吉

三和商事代表取締役、大峰嶺山、妻 カツミ 明三四、六生
男 和子 明三七、一〇生、二男三妻、大君は山口縣人吉賀忠吉の四男にして明治六年四月を以て生れ先代イヨの養子となり同二十六年家督を相續す地主にして現時前記各會社重役たり家族は尙孫一(大一一、七生、二男三妻)同定雄(同一四、三三、同二男)同美代子(昭二、二生、同長女)あり三男(明三六、一〇生)は分家し五男(同四〇、九生)は其繼母



長谷川伊藏 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川猪三郎 正三位勳三等功四級、伯爵、陸軍少將、東京府華族

長谷川乙彦 從四位勳三等、東京府青山師範學校校長、東京府在籍

長谷川鑑示 前三井鐵山鐵道理事、東京府在籍

長谷川吉五郎 金屬彫刻家、東京府在籍

長谷川三三 京都府在籍、京都府在籍、島原利七、慶應三、一〇生、京都、島原利七

長谷川佳平 上海銀行頭取、長谷川商店主、兵庫縣在籍

長谷川菊太郎 從三位勳二等、前大審院檢事、愛知縣在籍

長谷川義市郎 大阪府在籍、大阪府在籍、行後藤三郎、三三、梅田高女出身

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川龜樂 神奈川縣多額納稅者、東洋製菓社社長、神奈川縣在籍

長谷川喜市 大阪府在籍、大阪府在籍、長谷川伊賀子、八長女

長谷川義市郎 大阪府在籍、大阪府在籍、行後藤三郎、三三、梅田高女出身

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍

長谷川吉三郎 愛知縣多額納稅者、長谷川毛織社社長、愛知縣在籍





長谷川公平

前肥前電氣鐵道社長
正五位勳六等、稅務監督局長兼稅務監督官
長、愛知縣在籍

長谷川孝治

正五位勳六等、稅務監督局長兼稅務監督官
長、愛知縣在籍

長谷川康一

長慶商會副社長
山口縣在籍

長谷川庚一

長慶商會副社長
山口縣在籍

長谷川耕一

長谷川商店取締役、長谷川同族
會役員、兵庫縣在籍

長谷川作次

北海道礦業取締役、三井物産
營業部長、石川縣在籍

長谷川貞成

臺灣銀行臺北頭取兼檢查課長
愛知縣在籍

長谷川四郎

從五位勳六等、水戸高等學校教授
東京府在籍

長谷川治郎兵衛

三重縣多額納稅者、綿布商、
三重縣在籍

長谷川俊一

岐阜縣參事會
岐阜縣在籍

長谷川如斯平

住文信託總務部長代理受託課長
新潟縣在籍

長谷川伸

文藝家
東京府在籍

長谷川眞之助

名古屋米穀取引所理事
愛知縣在籍

長谷川進

聯合機器常務取締役
愛知縣在籍

長谷川進次郎

九八運轉監査役
愛知縣在籍

長谷川新兵衛

從六位勳六等、兵部郵便局長、茨
城縣多額納稅者、水濱電車取締
役、茨城縣在籍

長谷川誠也

博文館取締役、早稻田大學文學
部講師、東京府在籍

長谷川清治

長谷川病院長、醫師
大阪府在籍

長谷川誠也

博文館取締役、早稻田大學文學
部講師、東京府在籍

**長谷川藻次郎** 大阪府主  
 養母 イサ 文久二、七生、長谷川義一郎母  
 妻 千代 明二、二生、養父藻次郎長女  
 養子 正二 明三、八生、長女千代母、大阪、  
 女 千勢 明四、二生、養子正二妻  
 女 光 明四、一、一生  
 君は大阪府人豊谷吉太郎の二男にして明治十六年四月  
 を以て生れ同十四年先代藻次郎の養子となり家督を  
 相続し昭和八年前名吉三郎を改め養名す地主たり家  
 族は尚孫英子(昭五、五生、養子正二長女)同キ(同  
 七、二生、同二女)あり養妹(明二、四生)は大阪  
 府人澤田長左衛門に三女ヨシエ(同二、七、四生)は同府  
 人三橋直三に嫁せりA五五三三(大阪府東成區橋南  
 之町三ノ二六四電天王寺二一〇)

**長谷川太郎吉**  
 大島製糖所専務部長、鴨津江製糖  
 専務部長、朝野自動車、球磨  
 川電氣、熊本電氣、朝鮮鐵道、日  
 本加工製糖、上毛土地森林各監査  
 役、東京府在籍  
 妻 ケイ 明一、四、八生、東京、松崎三三女  
 男 龍之助 明三、九、二生、明治學院高等學部  
 出身  
 女 信子 大、二、二生、養父高女出身  
 君は新潟縣人加藤寅太郎の三男にして明治六年一月を  
 以て生れ同十七年一歳長谷川三藏の絶家を相続す同二  
 十二年十七歳にして志を立て上京機械輸入商田島爲助  
 商店に入り同二十四年支配人に昇進せるも之を辭して  
 獨立機械商を營む同三十六年大川平三郎と共に九州製  
 糖會社を興し其事務取締役就任大正十五年糖業工業  
 會社に合併後引續き事務取締役たり昭和八年同社の  
 王子製紙と合併するや是を辭し現時前記各會社の重役  
 に列す書齋骨董に興味あり家族は尚孫英一(昭九、二  
 生、長男龍之助長男)ありA一三九〇(東京市小石川區  
 江戸川町一八電小石川三三〇〇)

**長谷川泰助** 名古屋乗合自動車、鳳來寺鐵道各  
 種取締役、愛知縣在籍  
 父 吉三郎 安政三、一、一生、現戶主  
 妻 滿壽恵 明三、六、一、一生、三重、平田佐矩妹  
 男 博三 大、三、二、二、一生、三男、平田佐矩弟  
 君は愛知縣人長谷川吉三郎の三男にして明治三十四年  
 八月を以て生れる現時名古屋乗合鳳來寺鐵道會社取締  
 たり兼に中京自動車會社平田製鋼會社重役たりしこと  
 あり家族は尚三男充男(大、一、五、一、二、生)長女知代(昭  
 四、七、七、一、一、一、一、七)名古屋市中區下長者町三ノ  
 二二電本局一〇三三)  
 參照長谷川吉三郎、平田佐矩、鈴木藤兵衛の項

**長谷川竹次郎** 長宜堂、書畫骨董商  
 妻 ヤサ 明二、一、二、一生、愛知、近藤つね  
 女 小 明二、七、一、一生  
 君は愛知縣人長谷川宗七の長男にして明治四年五月を  
 以て生れ同十四年分れて一家を創立す長宜堂と稱し  
 書畫骨董商を營む兼に愛知縣多額納税者たり家族は尚  
 養子龍太郎及其一子ありA五五七七(名古屋市中區住吉  
 町一ノ二七電中一九五九)

**長谷川辰之助** 警長、警商  
 東京府在籍  
 妻 ツル 明一、六、五、一生、新潟、四方長平妹  
 男 忠雄 明三、六、七、一生、二男忠雄妻、新潟、  
 女 レイ 關象平三女  
 女 みよ子 大、四、一、一生  
 君は新潟縣人長谷川徳右衛門の二男にして明治元年十  
 一月を以て生れ大正十五年兄辰之助方より分れて一家  
 を創立す警長と稱し警商を營み其名顯はる家族は尚孫  
 泰明(昭三、五、生、二男忠雄長男)同明江(同六、一、生、  
 同長女)あり長女たか(明三、八、三、生)は東京府人久保  
 田祐治に嫁し三男武雄(同四、五、二、生)は分家せりA三  
 〇一B一三九(東京市神田區須田町一ノ一電神田六四  
 〇)

**長谷川常太郎** 從四位勳三等、前大森院檢事  
 東京府在籍  
 妻 光代子 明二、八、四、一生、東京、土、小山松  
 女 道子 大、五、四、一生、府立第三高女出身  
 女 貞子 大、七、七、一生、東京女學館在學  
 君は東京府士族長谷川直輝の三男にして現戶主福平の  
 弟なり明治十七年五月を以て生れ同十四年京都帝國  
 大學法科大學を卒業し大正三年檢事に任じ爾來東京區  
 大阪區同山區同地方廣島區同地方東京區同地方千葉區  
 同地方甲府區同地方各裁判所檢事に歴補し同十三年東  
 京控訴院檢事に任じ昭和九年大森院檢事となり後退職  
 を命ぜらる趣味に登山弓術あり家族は尚三女信子(大  
 一、二、五、生)三男章夫(昭七、五、生)五女直子(同九、五  
 生)あり四女治子(大、一、四、三、生)は兄福平の養子とな  
 り(東京市澁谷區羽澤町三五電青山七二二五)

**長谷川鐵次郎** 正四位勳三等功五級、陸軍少將  
 石川縣在籍  
 妻 ムラ 明二、〇、一、〇、一生、眞田義啓長女  
 男 武文 明四、三、七、一生  
 君は石川縣人長谷川權藏の二男にして明治十二年四月  
 三日を以て生れ同十四年兄權作方より分れて一家を  
 創立す凡に陸軍士官學校を卒業し同三十三年陸軍砲兵  
 少尉に任じ昭和五年陸軍少將に累進す其間板橋火藥製  
 造所陸軍造兵廠技術部長同陸軍技術本部御  
 用掛陸軍造兵廠技術部長等に歴補し昭和六年八月陸軍  
 造兵廠火工廠長となり同八年四月豫備役に編入せられ  
 現時閑地にあり家族は尚四女英子(大、一、五、九、生)あり  
 長女貞子(明四、〇、八、生)は東京府人工學士横井太郎に  
 嫁せり(東京市板橋區練馬南町二ノ三六二九電練馬二  
 五七)

**長谷川藤三郎** 北海道多額納税者、長谷川宅代表  
 社員、金融業、東京府在籍  
 妻 サタ 明二、三、一、一生、北海道、松代覺  
 女 藤太郎 明三、七、一、一生  
 君は新潟縣人長谷川兵七の弟にして明治九年一月十三  
 日を以て生れ後先代藤三郎の養子となり同二十八年家  
 督相続と共に前名兵松を改め養名す金融業を營み前記  
 會社の代表社員にして北海道多額納税者に列し直接國  
 稅三千五百圓を納む家族は尚孫久子(昭三、一、生、長男  
 藤太郎長女)同清子(同四、七、生、同二女)あり(函館  
 市四川町六六電一八八三)

**長谷川鐵雄** 静岡縣多額納税者、三方原水力電  
 氣總代表取締役、辨天島土地移取  
 得同縣在籍  
 妻 ヤサ 明二、三、七、一生、山口、土、小澤富  
 男 幹雄 大、六、一、二、一生  
 女 博 明四、四、一、二、一生  
 女 豐子 大、二、九、一生  
 女 政子 大、八、一、一、一生  
 當家は代々静岡縣磐田郡掛塚に於ける神官職にして先  
 代貞雄勤王の志厚く維新後身を海軍に投じ海軍主計總  
 監に陞り第一次帝國議會の召集せらる、や直に官を辭  
 して貴族院議員に選ばれ爾後十有餘年議席に列したり

**長谷川鐵太郎** 大日電氣社長、横濱製鋼製鐵  
 取締役、日本伸銅監査役  
 東京府在籍  
 妻 弘長女 五、生、東京、長谷川勳太  
 郎長女  
 男 太 明二、三、一、二、一生、故貴族院議員、  
 和同維四、二、二、一生、女子學習院出身  
 男 次郎 明四、四、四、一生  
 君は子爵米田國臣の養弟にして明治七年一月十三日を  
 以て生れ長谷川きよの養子となり同十四年家督を相続  
 す凡に慶應義塾に學び後米田國臣のトクノチノヂ  
 及エール大學に學ぶ現時大日電氣會社社長たる外前掲  
 各會社の重役たり兼に米田及南洋諸島支那を視察す  
 「工場と職工」よしのづい「南」の初版等の著書あり  
 趣味として茶玩香あり家族は尚三男浩三郎(大、五、一  
 五七)

**長谷川藤太郎** 從五位勳六等、静岡縣濱松師範學  
 校校長、山口縣在籍  
 妻 アイ 明九、八、生、京都、井上淺次郎妹  
 養子 象三 明三、八、四、生、京都、伊藤伊兵衛  
 男 明四、三、五、生、養子象三妻、京都、  
 女 千代子 井上淺次郎姉  
 君は京都府人長谷川藤兵衛の二男にして明治八年二月  
 二十八日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す木  
 藤商店と稱し材木商を營む家族は尚孫照子(昭四、三  
 四三)

生、養子象三長女)ありA五六一六(京都市中京區千本三條下電本局一〇二二)

長谷川 透

從五位、社會局書記官、社會部職  
業課長、京都府在籍  
明三六年生、京都、大島卯之助女、  
妻 博子 京都府立第二高女出身

長谷川 徳次郎

大阪府在籍  
明二四、九二、長女クメ、群馬、  
養子 本司 明二八、七二、養子本司妻  
女 クメ 明二八、七二、養子本司妻  
君は大阪府人長谷川文治郎の三男にして明治元年一月  
十日を以て生れ同十四年家督を相続す家主たり家族  
は尙孫徳男(大八、三三、養子本司長男)同清一(昭四、  
九二、同二男)同哲三(同七、四二、同三男)あり二女  
ミヨエ(明三八、一一)は分家せりA三四三(大阪府  
東成區橋南之町三ノ二七四)

長谷川 寅吉

長谷川水室憲代表取締役  
東京府在籍  
要之助 安政元、九二、現戸主  
妻 し ま 明三、一五、東京、淺井幸三郎  
養子 清 衛 昭二、九二、東京、駒井高七男  
君は東京府人深谷金八の長男にして明治二十一年四月  
十六日を以て生れ大正七年長谷川要之助の養子となる  
現時長谷川水室會社代表取締役にして兼に東京製氷會  
社取締役たりことありA六六六(京都市品川區北品  
川二ノ九九)

長谷川 半兵衛

龍王湯本家、藥種商  
愛知縣在籍  
母 はる 明一七、五二、兵庫、毛呂作兵衛  
妻 澄代 明四二、三三、愛知、岡本徳松長  
君は愛知縣人先代半兵衛の長男にして明治三十四年八  
月九日を以て生れ昭和六年家督を相続し前名半一郎を  
改め龍王湯本家と稱し藥種商を營む家族は尙弟  
玲吉(大三、一〇)ありA三四七B二二(名古屋市中  
中區下茶屋町四一電南八七五)

長谷川 宏

正五位勳五等、朝鮮總督府判事、  
高等法院判事、朝鮮總督府野調  
査委員會委員、東京府在籍  
父 八二郎 安政五、二二、現戸主  
母 シケ 慶應元、一一、岡山、三浦信夫妹  
妻 仁 明三一、五二、京都、下村延太郎  
長女 明三、一五、京都、下村延太郎  
男 昭二、一五、四男進(同三、五二)弟昭三(明二六、五  
二)あり姉靜(同二二、五二)は長野縣人田中武造弟信  
助に妹節(同二八、三三)は青森縣人横山吉太郎弟延太郎  
に同龜(同三三、一一)は秋田縣人横内治重に同貴  
久(同三六、四二)は福島縣人紀國勝與三男靜に同愛(同  
三八、七二)は同縣人星一男弟準人に嫁せり(京城市西  
小門町高等法院内)

長谷川 浩

正五位勳五等、農學博士、專賣局  
技師、秦野試驗場長、静岡縣在籍  
祖父 庄八 天保一三、二二、現戸主  
父 雄吉 元治元、二二  
妻 節子 明三二、八二、東京、二見一策孫  
君は静岡縣人長谷川雄吉の長男にして明治二十一年十  
月を以て生れ大正四年東帝國大學農學化學科を卒業  
し同年專賣局技師となり同九年技師に進む宇都宮專賣

長谷川 直藏

日本高級塗料取締役社長、高砂  
工業、高砂製糖工場、京濱興業、  
九ノ内ホテル各取締役、東京倉  
庫、高砂セメント工業各監査役  
東京府在籍  
明一三、一〇、東京、松澤吉五  
妻 い 郎 明四〇、一一  
男 治 明二二、一一、聖心女學院高女及  
家政專門部出身  
女 秀子 大六、七二、聖心女學院高女在學  
君は兵庫縣人永野友吉の弟にして明治四年八月十一日  
を以て生れ先代直藏三郎の養子となり同十八年家督を相  
續す現時日本高級塗料會社取締役社長にして前掲各會  
社の重役を兼ね家族は尙五女梅子(大九、六二)四男五  
十雄(同二〇、九二)あり長女美枝子(明四一、九二)、  
聖心女學院高女出身)は神奈川縣商學士清水克隆に二  
女喜代子(同四四、三三)、聖心女學院高女、家政專門  
部出身)は東京府人加藤弘に嫁し妻安藏(同三六、一  
一)は分家せりA六八八(京都市品川區大井元芝町八九  
六電高輪一五九)

長谷川 直敏

正三位勳一等功四級、陸軍中將  
京都府在籍  
妻 こと 明一四、二二、茨城、八木下純長  
男 泰 敏 明三九、一〇、生、南滿洲鐵道會社  
員、青山學院高等學部出身  
女 照子 明三九、一〇、生、陸軍士官學校在學  
君は京都府人四村八右衛門の二男にして明治六年四月  
十四日を以て生れ先代直敏の養子となり同十一年家督  
を相続す同二十八年陸軍歩兵少尉に任じ大正十三年陸  
軍中將に昇進す其間歩兵第七旅團副官參謀本部員第  
十師團參謀步兵第六十五聯隊附仙臺聯隊司令官歩兵  
第二十聯隊第十師團參謀長陸軍中央幼年學校校長陸軍士  
官學校教務科及本部長陸軍省人事局長第十師團長近衛師  
團長東京警備司令官等に歴補し昭和六年一月豫備役卸  
付けらる家族は尙四男典敏(大五、九二)五男季敏(同  
九、二二)四女照子(同二二、一一)あり長女敏子(明  
三三、一〇)は東京府人藤原義男に二女光子(同三五、  
一一)は京都府人四手井彦四郎長男嗣正に三女達子  
(同四五、二二)は長崎縣人吉川政市に嫁せり(京都市世

長谷川 仲吉

白米商  
東京府在籍  
妻 し の 門三女 九二、九二、静岡、佐原吉右衛  
男 宮子 明四〇、五二  
女 大子 大二、五二  
君は東京府人岩橋平次郎の二男同鎌吉の弟にして明治  
十一年八月を以て生れ同二十一年先代とめの養子とな  
り家督を相続す明治三十四年以來白米商を營み其名を  
知らる家族は尙二女浩己(明四、一一)二男欽一(同八、  
九二)ありA四八一B二二七(京都市神田區西福田町二  
電神田七八六)

長谷川 如是閑

著述業  
東京府在籍  
君は東京府人小本金藏の二男にして明治八年十一月三  
十日を以て生れ同十八年長谷川家を相続す同三十一年  
東京法學院を卒業し同三十六年新聞「日本」の記者とな  
り同四十二年大阪朝日新聞社に入り大正七年同社を退  
き大山郁夫と共に政治經濟社會綜合雜誌「我」を起し  
後「批判」と改題し昭和九年二月廢刊す如是閑は社  
會法律經濟問題に於ける時事評論家を以て知られ論壇  
の雄たり「倫敦」報の男「現代國家批判」「現代社會批  
判」「犬、猫、人間」如是閑創作集」等の著書あり登山  
乘馬に趣味を有すA一〇六(京都市中野區上ノ原町六  
電四谷二二八四)

長谷川 半次郎

中外染工各監査役、  
中田商店、京都府在籍  
妻 や す 明二〇、五二、京都、中田與兵衛  
養子 康三郎 明三六、生、長女千代夫、經濟學  
女 千代 明四四、二二、京都府立第一高女  
君は京都府人唐木半七の兄にして明治十二年五月四日  
を以て生れ同三十七年先代やすの入夫となり家督を相  
續す綿布商を營み尙前記各會社の重役たり家族は尙  
孫浩(昭八年生、養子康三郎長男)ありA一〇一(京都市  
中京區高倉六角下丸和久屋町三五二電本局一九四五)

長谷川 平五郎

山形縣多額納稅者、高島鐵道運代  
表取締役、兩羽銀行取締役、長  
谷川名代表社員、山形縣在籍  
父 平内 嘉永六、九二、現戸主  
妻 き ち 慶應元、三三  
養子 弘 平 明三九、一〇、生、養父五三郎長男  
養子 靖 行 明三五、一一、生、長女まつ夫、山  
形、淺黃善吉二男  
女 まつ 明四〇、一一、生、養子靖行妻  
女 よし 明四三、二二、生、養子靖行妻  
女 大子 大二、八二、生、養子靖行妻  
君は山形縣人長谷川平内の三男同仁の弟にして明治十  
四年九月を以て生れ養父五三郎の養子となる現時前記  
諸會社の重役にして直接國稅千七百十圓を納め山形縣  
多額納稅者に列す家族は尙孫昭平(昭五、二二)養子靖  
行長男)あり(山形縣東置賜郡屋代村)

長谷川 平内

山形縣多額納稅者、東銀行頭取  
山形縣在籍  
妻 富江 明一八、七二、山形、白畑郎左衛  
門八  
養子 五三郎 慶應元、四二、山形、石黒七三郎  
叔父  
君は山形縣人長谷川信滿の長男にして嘉永六年九月を  
以て生れ明治十六年家督を相続す農業並吳服太物商を  
營み現時東銀行頭取にして山形縣多額納稅者に列し直  
接國稅二千七百四十三圓を納む茲に兩羽銀行頭取日本  
勸業銀行顧問に擧げらる家族は尙四男太郎(大一一、三  
三)三女とき(同一一、六二)五男誠一(同一一、九二)  
あり二男仁(明一一、一一)は分家し二女きみ(同一一、  
九二)は山形縣人島津權十郎長男魁助に嫁せり(山形縣  
東置賜郡屋代村)  
參照II石黒七三郎、長谷川平五郎の項

長谷川 孫兵衛

東京府參事會員、東京市赤坂區會  
議員、近江屋、櫻表商  
東京府在籍  
妻 保 の 明三二、八二、埼玉、柳田慶三郎  
二女

男 重造 六一〇、二生
君は東京府人野口龜藏の五男にして明治二十六年八月を以て生れ同四十五年先代孫兵衛の養子となり大正十五年家督を相続前名作藏を改め龜藏と先代の創業せる疊表商を継ぎ近江屋と稱す東京府會議員に選ばれ参事會員に列し同市赤坂區會議員を兼ね家族は尙長女銚子(大二三、四生)二女登子(同三一、〇生)二男憲司(昭二、二生)三男誠三(同四、一一生)及叔母あか(文久二、二生)先々代孫兵衛長女ありA三一九(東京市赤坂區田町四ノ六電青山六四三八)

長谷川又藏

東京府在籍
妻 ツヤ 明二七、五生、東京、大室貞藏三
男 喜代治 明四〇、八生
女 喜美 明四一、七生、長男喜代治妻、東京、關根四郎二女
男 金男 大二、〇生
君は東京府人星野七左衛門の三男にして明治十七年十二月二十日を以て生れ先代留次郎の養子となり大正八年家督を相続す現に實業を営む家族は尙三男登久男(大五、九生)四男留吉(同二〇、一一生)五男武(同三一、三生)六男貞七(同二五、三生)孫登(昭六、二生)長男喜代治長女(同八、四生、同二女)ありA七七八B二〇〇(東京市向島區田町三ノ五〇〇)

長谷川松太郎

正五位勳五等、判事、長崎地方裁判所部長、三重縣在籍
母 ミツ 明二四、二生、東京、駒田長太郎
妻 く に 明二四、二生、東京、駒田長太郎
君は三重縣人長谷川吉松の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任じ小樽區札幌地方兼岩内區釧路地方函館區同地方岐阜地方高岡區金澤地方名古屋區同地方各裁判所判事名古屋控訴院判事大分地方裁判所部長等に歴補し昭和五年現職に補せらる姉いし(明一五、九生)は静岡縣人勝田利兵衛に嫁せり(長崎地方裁判所内)

長谷川萬治 材木商
妻 ムメ 明二三、一、生、神奈川、中田勇司
女 八重 大五、五生
女 芳子 大八、五生
君は神奈川縣人長谷川甲子藏の二男にして明治二十四年十二月三日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す材木商を営むA一〇五三B一二七(東京市深川區富岡町二ノ七ノ七電本所四七六二)

長谷川三重

地主
妻 ふき 明一五、一、生、養父彌十郎二女
養子 直一 明三五、三、生、孫多美子夫、栃木、湯澤直助長男
孫 多美子 大二、一、生、亡養子雄藏長女
君は埼玉縣人田中三郎左衛門の二男にして同四一年の弟同彌兵衛の甥なり明治十一年一月三日を以て生れ先代彌十郎の養子となり同三十七年家督を相続す同三十二年日本大學法律科を卒業現に地主たり日本建物の重役にして又日本橋區會議員に擧げられし事あり家族は尙孫房雄(大四、二、生、亡養子雄藏長男)妹壽(明二六、六、生、亡養子雄藏妻)あり姉あかは(同二〇、一、生)は絶家中島家を再興し庶子重雄(明四三、一、生、生母、阿川ミサ)は分家せりA一六三八(東京市本郷區駒込四片町一〇電小石川六五七七)
参照 田中四一郎、田中彌兵衛家系結城の項

長谷川光

地主
妻 はつ 慶應元、一、二、生、長谷川光忠長女
母 たき 明二九、一、〇、生、兵庫、西邑岩三郎長女
君は東京府人長谷川實一郎の長男にして明治二十二年十月を以て生れ大正十一年家督を相続す地主を以て知らる家族は尙長女光子(大一一、二、生)あり弟章(明二四、一、生)は同妻ハルエ(同三三、一、生、香川、天野善太郎長女)と共に其子一子を伴ひ同俊雄(同三二、一〇生)は同妻ツネ(同三二、二、生、栃木、金子平三郎庶子)と共に其三女二男を伴ひ各分家し同忠雄(同三五、九生)も亦分家せりA二四六(東京市赤坂區新町三ノ四四)

長谷川彌一郎 地主
妻 ヨネ 明二四、七、生、大阪、北村菊次郎
男 彌壽男 大九、六、生
女 千代子 大七、六、生
君は大府人先代彌三郎の長男にして明治十八年十月七日を以て生れ大正八年家督を相続す地主たり家族は尙彌太郎(明三七、七、生)同太郎(同四四、九、生)あり繼母ヨ(同六、七、生、大阪、上林彌太郎)及弟彌夫(同二九、一〇、生)は分家せりA四五一(大阪市東成區鶴橋南之町二ノ三〇八電天王寺二六六八)
参照 北村菊次郎の項

長谷川彌三郎

長谷川製油工場主、製油業
妻 ツネ 明一五、七、生、大阪、中村彌平二女
女 とし江 大七、八、生
君は大府人長谷川彌三郎の長男にして明治十三年三月二十六日を以て生れ同四十二年家督を相続し同時に前名山三郎を改め彌太郎(現時長谷川製油工場主にして製油業を営む長男彌太郎(明三五、一、生)は妻時子(同三九、九、生、大阪、伊豆常七三女)と共に弟正太郎(同二一、一〇、生)は同妻アサエ(同二二、一、生、大阪、中村彌太郎)及其二子一子を伴ひ同良藏(同二二、一、二、生)は同妻さきは(同二四、七、生、兵庫、中井嘉一郎四女)と共に各分家し同米藏(同二八、一、二、生)は大府人彌川吉兵衛の養子となり長女千代(同三八、二、生)は大府人金澤萬助に嫁く(同二八、六、生)は同府人彌井伊助長男勝之助に嫁く(同三〇、四、生)は同府人四阿伊之助長男貞之助に嫁く(同三三、二、八、二、生)大阪府東區高麗橋詰町四二電東三三八二四

長谷川彌七郎

編屋、厚司綿布商
妻 なを 長化四、四、生、兵庫、角谷清兵衛
父 淺吉 明二、四、生、現戸主
母 あい 明二、九、生、大阪、松澤金助二女
妻 晴 明三八、一、二、生、大阪、室賀萬次郎長女
男 嘉一郎 昭六、一、生

長谷川安次郎 從五位、稅務監督局書記官、東京稅務監督局直稅部長、大阪府在籍
妻 富美子 明四〇、五、生、大阪、杉田宗助長女、大高清水谷高女出身
君は兵庫縣人長谷川熊太郎の二男にして明治三十二年三月を以て生れ昭和八年分れて一家を創立す大正十年文官高等試験に合格し同十一年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し大藏省稅務監督局事務官に任ぜられ東京稅務監督局直稅部長となり今日に至る家族は尙長女幸子(昭八、六、生)あり讀書旅行に趣味を有すA一三〇(東京市赤坂區青山北町六ノ四二電青山五〇〇三)
参照 杉田宗助家系杉田正三郎の項

長谷川

正五位勳五等、檢事、大阪地方裁判所次席檢事、神奈川縣在籍
妻 スエ 明二七、一、生、鹿兒島、松下勝左衛門三女
女 律子 大六、二、生
君は神奈川縣土族長谷川毅一の三男にして明治二十一年十二月を以て生れる大正四年東京帝國大學法學部法學科を卒業し同六年判事に任じ更に檢事に轉じ爾來甲府地方兼同區熊本區同地方福岡區同地方福岡區同地方同區鹿兒島地方兼同區各裁判所檢事長崎控訴院大阪控訴院各檢事等に歴補し現に大阪地方裁判所次席檢事たり家族は尙四男光一(大一一、一、生)五男直(同一一、七、生)六男正(昭四、一、生)兄剛(明一七、二、生、現戸主)同妻セン(同二〇、一〇、生、神奈川、伊田浦吉長女)及其子女あり(大阪府地方裁判所内)

長谷川

長谷川與四郎 稻毛屋、糸綿商
東京府在籍

長谷川與之助 資産家
妻 正 明一八、一〇、生、養父直太郎二女
養子 正 秋田庄二郎三男
女 はな 明三八、一、生
君は東京府人長谷川與四郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ同三十七年同府人長谷川直太郎の養子となり同三十八年家督を相続す稻毛屋と稱し糸綿商を営む家族は尙孫彌(昭三、九、生、養子正郎長男)同よし子(同五、九、生、同長女)同まき子(同八、四、生、同二女)あり妹義(明三〇、一、一、生)は東京府人建業太郎四男松太郎に嫁せりA四三四(東京市四谷區藤町三ノ三四電四谷四一〇八)

長谷川

長谷川要之助 朝日産糖井澤共同製氷各代表社員、長谷川製氷廠顧問、製氷及冷蔵業、大日本東京府在籍
妻 實吉 明二一、四、生、東京、深谷金八長男
養子 實吉 明三一(一、生、養子實吉妻、東京、淺井幸三郎二女)
君は東京府人岡村龜太郎の弟にして安政元年九月十日を以て生れ先代由兵衛の養子となり明治十五年家督を相続す製氷及冷蔵業を営み現に朝日合名會社社長井澤共同製氷會社各代表社員たる外前掲會社の相談役顧問たり家族は尙孫清衛(明二、九、生、養子實吉養子、東京、駒井高七男)ありA二〇四八(東京市品川區北品川二ノ九六電高輪九二)

長谷川

長谷川淑夫 函館新聞社長兼主筆
東京府在籍

長谷川義郎 大阪商工會議所常議員、長谷川商店、昭和通明紙各社長、貿易商
妻 つね 明一〇、五、生、三重、湯澤源藏二女
男 好 邦 大元、一、生
君は三重縣人士族青木準平の三男にして明治八年八月を以て生れ後先代嘉平の養子となり同三十一年家督を相続す貿易商を営み現に長谷川商店昭和通明紙各會社社長にして推されて大阪商工會議所常議員たり二女女子(明三七、一、生)は分家し三女麗子(同四一、四、生)は兵庫縣人岡野榮之助長男武彦に嫁せりA六七五(兵庫縣武庫郡御影町但馬口電御影二四三七)

長谷川

長谷川米一 地主
妻 ハツ 明一〇、一、生、奈良、和田禮藏長女
君は大府人先代米藏の二男にして大正五年四月二十九日を以て生れ昭和六年家督を相続す地主たり家族は尙姉ヒナ子(明四四、二、生)同リヲ(大一一、六、生)ありA三五六(大阪市天王寺區勝山通一ノ一〇一電天王寺一六一)

長谷川

長谷川米藏 從五位勳六等、盛岡高等農林學校教授、山形縣在籍
妻 タマ 明二九、五、生、岩手、宮善次郎妹
男 勉 大五、一、生
君は山形縣人長谷川長吉の長男にして明治二十四年三月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す同四年東

京都帝國大學農藝化學科を卒業し翌年農商務省農事試験場技手となり同十年盛岡高等農林學校教授に任ぜられ今日に至る昭和三年獨伊米に留學を命ぜられたる長女美都(大一〇、三三)二女慶子(同一三、一三)あり(盛岡市加賀生志家末廣町)

長谷川米太郎

地主 大阪府在籍 門二二、五生、大阪、幸田市右衛門二女、府立清水谷高女出身 門二五、一五、同志社大學在學 門三五、五五、府立生野高女出身 君は大阪府人先代治三郎の長男にして明治二十二年九月八日を以て生れ大正十四年家督を相続す地主として知らるる家族は尙二男實(大一一、八八)ありA四五八(大阪府東成區鶴橋南之町三ノ二六八電天王寺二七二四)

長谷川利三郎

白米商、家主 大阪府在籍 明一八、六生、大阪、柏谷留吉 妻 利一 明三九、五生 君は大阪府人長谷川利兵衛の長男にして明治十四年四月十二日を以て生れ大正十五年家督を相続す白米商を營み家主たり家族は尙二男重利(大五、八八)長女利子(同一〇、二二)二女千代子(同一四、五五)ありA八〇〇B二七(大阪府天王寺區勝山通一ノ一〇三電天王寺四五四一五七九)

長谷川理三郎

呉服商 京都府在籍 明二一、四生、京都、植田榮次郎 妻 フサ 明四三、五生 君は京都府人先代要助の五男にして明治十八年一月二十四日を以て生れ大正九年家督を相続す呉服商たりA六〇〇B二七(京都市東山区東山通松原上ル電藤園三六三)

長谷川良輔

下曾我村長、神奈川縣會議員、曾我祖産代表取締役 神奈川縣在籍

長谷部新藏

和泉屋、菓子商 東京府在籍 明一〇、一〇生、埼玉、石川鐵吉 妻 奈美 明二四、一〇生、長女好夫、埼玉 養子 彦三郎 明二七、二二生、養子彦三郎妻 孫 志 好 明二七、二二生、養子彦三郎長女 君は埼玉縣人長谷部松五郎の三男にして明治六年四月を以て生れ後兄彦三郎より分れて一家を創立す和泉家と稱し菓子商を營む義に麻布區會議員に列し千代田製粉入間川砂利各會社の重役たりし事あり家族は尙孫信治(大一一、六六)養子彦三郎長男(同一二、一一)同二男(同一三、一一)同三男(同一四、一一)同四男(同一五、一一)同五男(同一六、一一)ありA六三九B二二七(京都市麻布區霞町一電青山四四五二)

長谷部仁作

家主 大阪府在籍 安政六、一〇生、福井、山内駒吉 妻 ユキ 明一九、一二生 長女金藏妻、大阪、リウ 明二一、一〇生、長男金藏長男 孫 正雄 明四一、三三、長男金藏二男 孫 富美子 大七、九生、長男金藏長女 君は福井縣人長谷部孫右衛門の二男にして安政元年十月三日を以て生れ明治十三年分れて一家を創立す家主たり家族は尙孫隆(大一一、〇〇)生、長男金藏(同一四、一四)同二女(同一五、一五)同三男(同一六、一六)同四男(同一七、一七)ありA一〇五二(大阪府西成區松原町三ノ二二)

秦逸三

帝國人造絹絲專務取締役 廣島縣在籍 明二七、一〇生、岐阜、田中讓養子 妻 レイ 明四三、一一生 君は廣島縣人秦彦助の三男にして明治十三年十二月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し現時帝國人造絹絲會社專務取締役たり家族は尙三男英雄(大一一、〇〇)三女和子(同一四、一一)三女知子(同一五、一一)あり長女幾子(大一一、七生)は京都帝大出身醫學士村山治

明一八、九生、神奈川、坂本莊太郎二女 明三六、九生 明四二、六生、長男實妻、神奈川 小宮隆長女 明三八、一一生 明四二、一〇生 明四四、九生 三枝子 大七、一一生 美知子 大七、一一生 君は神奈川縣人長谷川豐吉の長男にして明治十年十二月を以て生れ大正十二年家督を相続す現時前記會社の重役にして下曾我村長に擧げらるる又推されて神奈川縣會議員たり家族は尙四男登(大九、一一)弟純一(明一八、五五)あり同純一(明二四、一〇)は東京府人廣瀨與兵衛の養子となり親名して當主となり長女富江(同四〇、九生)は神奈川縣人相田磯吉二男二子に嫁し六女ルリ子(大一一、三三)は東京府人近藤孝道長男太郎の養子となり(神奈川縣足柄下郡下曾我村)

長谷部鏡吉

住友實業技師、建築課長 靜岡縣在籍 安政三、六生、大阪、土、渡邊資 妻 かね 明三〇、一〇生、東京、土、内海 喜代子 明三〇、一〇生、三輪田高女出身 男 連吉 大八、七生 女 小枝 大五、六生 君は故貴族院議員長谷部辰連の三男にして明治十八年十月を以て生れる同四十二年東京帝國大學工科大学建築科を卒業し同年住友實業會社に入り大正十四年技師長に就任し今日に至る家族は尙二女千枝(大一一、〇〇)一男(二男俊吉(同一二、三三)兄小(同一二、二二)生、現戸主)同妻とみ(同一六、二二)生、東京、高橋友藏(同一四、一六)兵庫縣川邊郡小濱村米安電燈三三三

長谷部金藏

家主 大阪府在籍 安政元、一〇生、現戸主 妻 リウ 明二一、一〇生、大阪、樋口嘉平長

長谷部金藏

父 仁作 安政元、一〇生、現戸主 妻 リウ 明二一、一〇生、大阪、樋口嘉平長

秦銀兵衛

養子 門二二、三三、大阪、田中助左衛門に嫁せり(廣島市古田町字高須三一五電二六四六) 君は兵庫縣人清水高助の孫にして明治八年一月を以て生れ同二十五年先代銀兵衛の養子となり家督を相続し前名重藏を改め養子彦三郎(文久三、一〇)生、養子彦三郎(明二五、五五)は各分家せりA八八二(神戸市神戶區下山手通五、九五、三電元町二〇一〇)

秦佐八郎

從五位勳三等、醫學博士、帝國大學醫學院教授、北里研究所所長、中央衛生會委員、保健衛生調査會委員長、日本私立衛生會理事、日本結核病防協理事、島根縣在籍 妻 藤 明四一、四生、二女美代夫 養子 藤 明四一、四生、養子藤妻 女 八千代 大五、一〇生 君は島根縣人山根道恭の八男にして明治六年三月二十三日を以て生れ先代徳太の養子となり同二十五年家督を相続す同二十八年第三高等學校醫學部を卒業し同四十五年醫學博士の學位を授けらるる先是明治三十年陸軍三等軍醫に任じ同三十一年北里博士の門に入り同三十二年傳染病研究所助手次で臨時檢査局技師臨時檢査事務官血液病研究所部長等を歴任し同四十二年獨逸に留學し大正二年英國同十年バタビヤ同十二年米國昭和二年英領印度同三年獨逸へ各出張し現時慶應義塾大學教授にして帝國醫學士院會員たる外前記の職に在り多數學術上の業績中最も世に知らるるは獨逸國エールツヒ博士と共にサルグルサンを發明せる事なり家族は尙四女さち(大一一、〇〇)生、あり長女キヨ(明三六、九生)は醫學博士近藤忠雄に嫁せりA三六七(東京市目黒區中目黒一ノ七四五電高輪五一〇六)

秦信一

安田銀行八幡支店長 東京府在籍 明二八、九生、京都、平井理三郎 妻 きく 長女

秦仙吉

家主 大阪府在籍 元治元、九生、大阪、山野長右衛門長女 妻 エイ 明二三、一一生 長男三三、京 男 爲三 明二九、一一生、長男爲三妻、京 女 シノブ 明二九、一一生、長男爲三妻、京 君は大阪府人秦ソヨの私生子にして明治二年四月十二日を以て生れ同十七年先代ソヨの後を承け家督を相続す家主たり家族は尙孫三千男(大六、一〇)生、長男爲

正雄 明四一、三三 富美子 大七、九生 君は福井縣人長谷部仁作の二男にして明治十九年十二月四日を以て生る家主たり家族は尙四男隆(大一一、〇〇)生、二女美代子(同一四、六六)五男博(昭三、一三)六男茂(同六、二二)ありA四九三(大阪府西成區松原町三ノ二二)

長谷部小連

伊東胡蝶園技師長 東京府在籍 明三〇、一〇生、東京、柴崎たつ私 妻 ツル 生子 道彦 大一一、〇〇生 大八、二二生 君は東京府人長谷部伸彦の二男にして明治十七年二月二十四日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す現時伊東胡蝶園技師長たり家族は尙二男徳彦(大一一、三三)時伊東胡蝶園技師長(同一四、五五)三男義彦(昭二、七三)四男智彦(同五、九生)ありA二六八(東京市大森區山王町二ノ二〇九八電大森二八)

長谷部言人

正四位勳三等、醫學博士、東北帝國大學教授、醫學部勤務 東京府在籍 明二七、一〇生、鹿兒島、嵯山管二 妻 富 大二、一〇生 男 信彦 大二、一〇生 女 淑君 明四四、七生 女 眞君 大五、六生 君は東京府人長谷部伸彦の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治三十九年東京帝國大學醫學科を卒業し京都帝國大學醫學科大學助教授新潟醫學專門學校教授を経て大正五年東北帝國大學醫學科大學助教授に任じ現に同校教授たり義に清津南洋シヤル群島カリオン群島マリアナ諸島に出張せしことあり同三年醫學博士の學位を授けらるる「自然人類學概論」「先史研究」等の著あり家族は尙二男富彦(大七、二二)三女温君(同九、一一)四女貞君(同一二、九生)四男樂樹(昭三、一三)五男朋香(同五、二二)妹喜年(明二〇、一一)生、あり(仙臺市北六番丁一二三電一七六八)

秦眞次

正四位勳二等功五級、陸軍中將、第二師團團長、福岡縣士族 內藏輔三女 明二一、六生、和歌山、士、野村 妻 眞 明四二、九生 君は福岡縣人秦眞吾の長男にして明治十二年四月を以て生れ同二十二年家督を相続す現に陸軍歩兵少尉に任じ昭和六年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し大隊副官中隊長第一軍兵隊副官參謀本部附團長大使館附武官補佐官關國大使館附武官陸軍省新聞班長歩兵第二十一聯隊長第三師團參謀長東京警備參謀長歩兵第十五旅團長陸軍大學校教官關東軍司令部附第九師團司令部附第十四師團司令部附憲兵司令官等に歴補し昭和九年第二師團團長に補せらるる姉ハル(明一〇、一〇)生、福岡縣人秦久吉の相續人となり姉シモ(同一八、五五)は更に其相續人となり同アキ(同一六、五五)は福岡縣人長田孫次郎養子加一に嫁せり(仙臺市新坂通官舎電三四九甲)

秦敏郎

大九、四生 君は京都府人秦銀三郎の二男にして明治二十年十一月十七日を以て生れ先代敏の養子となり大正十年家督を相続す中學校卒業後安田銀行習生となり第三銀行大垣共立銀行京都銀行等に勤務の後安田銀行に轉じ姉江伏見補町四陣各支店長を経て現時同行八幡支店長たり家族は尙三女幸子(大一一、三三)七生、二男及(昭二、一〇)生、四女京子(同五、六六)あり養父(安政三、一一)生、養母こい(明七、七生)京都、木村太郎(昭二、一一)生、養父(大三、一一)生、を伴ひ分家し長女光子(同四、一一)生、は京都府人小西次郎の養子となり(八幡市尾倉安田銀行支店内)

秦眞次

正四位勳二等功五級、陸軍中將、第二師團團長、福岡縣士族 內藏輔三女 明二一、六生、和歌山、士、野村 妻 眞 明四二、九生 君は福岡縣人秦眞吾の長男にして明治十二年四月を以て生れ同二十二年家督を相続す現に陸軍歩兵少尉に任じ昭和六年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し大隊副官中隊長第一軍兵隊副官參謀本部附團長大使館附武官補佐官關國大使館附武官陸軍省新聞班長歩兵第二十一聯隊長第三師團參謀長東京警備參謀長歩兵第十五旅團長陸軍大學校教官關東軍司令部附第九師團司令部附第十四師團司令部附憲兵司令官等に歴補し昭和九年第二師團團長に補せらるる姉ハル(明一〇、一〇)生、福岡縣人秦久吉の相續人となり姉シモ(同一八、五五)は更に其相續人となり同アキ(同一六、五五)は福岡縣人長田孫次郎養子加一に嫁せり(仙臺市新坂通官舎電三四九甲)

秦仙吉

家主 大阪府在籍 元治元、九生、大阪、山野長右衛門長女 妻 エイ 明二三、一一生 長男三三、京 男 爲三 明二九、一一生、長男爲三妻、京 女 シノブ 明二九、一一生、長男爲三妻、京 君は大阪府人秦ソヨの私生子にして明治二年四月十二日を以て生れ同十七年先代ソヨの後を承け家督を相続す家主たり家族は尙孫三千男(大六、一〇)生、長男爲

ハ之部 秦、崎、旗、畑

(秦印は姻族關係)

ハ五〇

三長男(同卓也)同八、三生、同二男(同良平)同三、三生、同三男(同正子)同二、六生、同長女(同靖子)同二、四生、同二女(同五九八)大阪府市吉富區帝塚山西五ノ六二電住吉二八五七)

秦 專章 從四位勳四等、前京都高等實業學校教授、福島縣在籍 妻 明一六、一〇生、茨城、士、清宮 彬美姉

男 將親 明四一、一〇生 女 祥子 明四四、三〇生 男 將親 明四四、三〇生 女 祥子 明四四、三〇生

君は福島縣人秦元次郎の三男にして明治十五年十二月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立し前直三を改む同四十二年東京帝國大學農藝化學科を卒業し實業講習所講師を経て大正三年京都高等實業學校教授に任ぜられ同七年文部省研究員として歐米諸國に留學同十年歸朝後退官し現時閑地に在り家族は尙四女眞津子(大一一、四生)あり長女壯子(明四二、一〇生)は福島縣人京都高等實業學校教授仲野周太郎に嫁せり(京都市上京區北野白梅町三四)

秦 豐吉 東京實業劇場支配人、著述業 父 專治 萬延元、四生、現戶主 母 ヤス 明三、二生、東京、林、ス、長女 妻 八代 明三三、一〇生、東京、永富雄吉 長女

君は東京府人秦專治の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し三菱合資社に入り後三菱商會社に轉じ伯林支店勤務より本店詰となりしが昭和八年小林三三の東京實業劇場を開設するや招かれて其支配人となり勤務の傍ら文筆に携はり本名により獨乙文學の紹介に努め又丸木砂土の名に隠れて中間文學社に筆を揮ふ茲に「西部飛騨異狀なし」の譯著を刊行するや其名譯は爲に洛陽の紙價を高めしと傳へたる著書頗る多く最近のものとて「伯林一東京」(僕、彌次喜多)等あり家族は尙弟修(明四四、七生)同大(三、二生)あり妹ハナ(明二六、五生)は千葉縣人澤田德重郎第三子に同ハル(同三三、八生)は岡山縣人横原柳太郎二男に嫁し弟女

君は山口縣人秦生嘉郎の長男にして明治二年八月を以て生れ同十五年繼父誠一郎の後を襲ひ家督を相続す現時日本高級運輸會社取締役にして前記諸會社の重役を兼ね男一(明二六、一〇生、山口、淺野仁五郎四男)は同妻千代(同三六、四生、山口、淺谷長輔妹)を伴ひ分家せり(京都市大森區新井一ノ二〇三〇五電高輪二一八)

幡生 彈治郎 日本高級運輸會社取締役、東京三菱商會、日本農各農各監査役 妻 サチ 明一〇、六生、静岡、士、中川喜重長女 男 正男 大二、二〇生 女 正女 大二、二〇生

君は京都府人畑佐七の長男にして河原林權一郎の從兄なり明治四年四月を以て生れ同二十六年家督を相続す同二十一年電信學校を卒業し通信省電信局に奉職し同三十三年電信局技師に任ぜられ同三十五年米白南國の電話事業を觀察し次いで横濱電氣製造會社技師とな

同四十四年日本電氣會社に入り工場長兼販賣部長を経て取締役に就任せし後之を辭し現時閑地に在り茲に畑合資會社代表社員たり二女文子(明三三、六生、東京女子學館出身)は東京府人工學博士小澤武に嫁し三女芳子(同四一、七生、日本女大家政科出身)は同夫圭三(同三三、三生、法學士)と共に分家し姉ヨ(慶應元、一〇生)も亦分家せり(京都市赤坂區丹波町八八電青山五五三〇)

畑 喜代次 安田銀行總務部宮支店長 妻 しず 女、縣立福井高女出身

君は福井縣人伊藤喜代吉の二男にして明治三十年三月二十日を以て生れ大正七年畑の養子となり家督を相続す關西大學法學部に學び凡に百三十銀行に入り大正十二年同行合併成るに及び安田銀行に引繼爾來同行員として勤務し累進して昭和五年深川支店長に擧げられ更に同六年宇都宮支店長となり今日に至る家族は尙二男丞治(大一一、一〇生)長女みや子(同四一、八生)二女惠美子(昭三、二生)あり(宇都宮市寺町二六一電二一五〇)

畑 七右衛門 勳七等功七級、衆議院議員(兵庫縣選出)、農業、兵庫縣在籍 妻 婦美子 明三九、一二生 男 種雄 明三九、一二生 女 しの 明四四、八生、長男種雄妻、和歌山、小川龍太郎長女

君は京都府人長澤又三郎の六男にして明治十六年一月六日を以て生れ先代七右衛門の養子となり大正五年家督を相続し前名留治郎を改め號名を先是柏原中學校を卒業し明治三十七年戦役に従軍し勳七等功七級を授けらるる後農商務省に於て産業組合及林野講習を受け郷里春日部村に在りて收入役村長たりし事永くその間兵庫縣會議員に當選する事同回郡會議議長兵庫縣會議長に兵庫縣農會特別議員に選ばれ多利信用購買組合長春日部村信用組合長春日部村農會會長並銀行爲野銀行各取締役等に擧げらる昭和七年兵庫縣より推され衆

議院議員に當選し現に立憲政友會所屬たり家族は尙四女あきの(大一一、一〇生)孫五十鈴(昭七、一〇生、長男種雄長女)同和宏(同八、九生、同長男)あり(神戸市港區日乃町二電濠川一四四)

畑 俊六 正四位勳二等功五級、陸軍中將、第十四師團團長、東京府在籍 妻 チヨ 明二六、八生、長崎、池邊小六妹 男 俊七 明二六、八生 女 俊八 明二六、八生

君は北海道士族畑能實の二男にして故陸軍大將畑英太郎の弟なり明治十二年七月を以て生れる同三十四年陸軍砲兵少尉に任じ爾來累進して昭和六年陸軍中將に陞る其間參謀本部課長兼海軍軍令部參謀野戰重砲兵第四旅團長參謀本部第四部長第一部長等に歴補し昭和八年現職に轉ず家族は尙三男三郎(大一一、九生)五男五郎(昭二、四生)あり姉タネ(明三三、一〇生)は北海道人牛島辰次郎弟實常に嫁せり(宇都宮市西原町電四一四)

畑 善三 材木商在籍 妻 イサ 明一二、一二生、京都、松田春吉 男 喜一郎 明三五、九生 女 ヨシ子 明三八、九生、長男喜一郎妻、京都、寺田清三郎妹 男 三郎 明三九、三〇生 女 虎治郎 大三、二生

君は京都府人畑喜太郎の二男にして明治九年十月二十六日を以て生れ先代喜太郎の養子となり大正十一年家督を相続す材木商を營む家族は尙孫一(昭五、九生)、長男喜一郎(同久子)同七、五生、同二女)あり二男健次(明三六、一〇生)は其妻花子(同四五、一〇生、京都、安達初治妹)と共に分家し長女婦美(同四〇、六生)は福井縣人堀口泰雄に嫁せり(京都市大森區新井一ノ二〇三〇五電高輪二一八)

畑 治夫 藥種商 妻 ハル 明六、二生、大阪、宮本富藏姉

君は福島縣士族畑善治の長男にして明治十年四月を以て生れ同三十九年家督を相続す凡に早稻田大學法政科を卒業し農を業とし現に高田村長にして三池貯蓄銀行取締役三池銀行監査役たり福島縣多額納税者に列し直接國稅八百三十三圓を納む家族は尙七男誠助(大七、一〇生、三池農學校在籍)二女良子(同二、五生)あり五男覺平(同三、一〇生)は福島縣人野田竹次郎の養子となり六男賢吉(同五、六生、佐賀高級在籍)は同縣人永江家を繼ぎ長女スミ(明三七、一〇生)は同縣人醫學博士加藤守吉(に妹トモ(同二七、三〇生)は同縣人平田竹三郎に嫁せり(福島縣三池郡高田村)

畑 英三郎 從六位勳六等、前日本電氣會社取締役、東京府在籍 妻 淳 明三三、一〇生、京都、士、岡本誠 男 莊太郎 明三三、一〇生、長男莊太郎妻、經濟學士 女 千代 明四〇、一〇生、井行員 池田鐵男妹、東京、三井銀行員 池田鐵男妹 男 結次 明三七、一〇生、三井物産會社員、經濟學士 女 さと 明四三、八生、二男精次妻、東京、文學博士大類伸長女 男 薫 明三九、二生、滿洲國國道局官吏 女 幾久子 大元、一〇生、三男薫妻、海軍少將本田親民四女 男 茂 明四〇、五生、日本電氣會社員、經濟學士

君は京都府人畑作の長男にして明治二十九年七月十日を以て生れ同三十八年家督を相続す富岡中學校を卒業し農を業に従事し群馬縣會議員に擧げらるること二回にして副議長に選ばれる後植民政策研究の爲南米ブラジル亞爾然丁及歐米各國を視察す昭和七年群馬縣より推され衆議院議員に當選し現に立憲政友會所屬たり家族は養子正(昭二、一〇生、養弟次郎長女)甥實(同四、二生、同長男)あり妹いと(明三一、一〇生)は同夫敬次郎(同二九、九生、群馬、關かつ私生子)と共に群馬縣人關龜太郎の家籍に入れり(京都市芝區神谷町一八電芝二七七)

畑 良太郎 正三位勳一等、錦鶏間祿儀、長野縣在籍 妻 良一 明三六、三〇生、横濱正金銀行員 男 克己 明四一、六生、經濟學士 女 明四一、六生、經濟學士

君は長野縣人故海軍大軍醫畑成國の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治二十五年家督を相続す同二十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し公使館三等書記官同二等書記官一等書記官外務書記官獨逸大使館參事官等に歴任し次で特命全權公使として伯利亞爾瑞典に駐割し大正十四年二月歸朝間選候補仰付弟治郎(明四、三生)は分家し妹たまき(同七、一〇生、學習院女學部出身)は東京府士族飯田久恒に嫁せり(京都市大森區久ヶ原町四八電池上三四)

畑 新喜司 正四位勳三等、東北帝國大學教授 妻 しん 明一五、五生、東京、渡邊滋妹 男 明三八、五生

ハ之部 畑(井)

(秦印は姻族關係)

ハ五一

**小虎 明四二、七生**  
君は青森縣士族畑井澄の弟にして明治九年三月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す凡に東北學院理科を卒業し同三十三年九月北米シカゴ大學に入り同三十六年動物學及神經學の兩科に就いてドクター・オブ・フィロソフィーの學位を得北米ペンシルバニア州大學附屬ウキスター研究所講師同教授となり動物學研究の爲米英獨佛各國に留學を命ぜられ歸朝後大正十年東北帝國大學理學部教授に任ぜられ財團法人齊藤報恩會學術研究部長を兼ね今日に至る尙淺出臨海實驗所長たり大正十二年動物生理學研究會帝國代表としてカナダへ出張を命ぜらる又白鼠の研究により學士院賞を受く釣魚に趣味あり家族は尙三男直樹(大四、八生)あり二女マサ(明四四、四生)は東京府人安田岩次郎弟周三郎に嫁せり(仙臺市勾當臺通り一七電二七八四)  
參照 安田岩次郎、渡邊滋の項

**畑田寅之助**  
製油業、兵庫縣在籍  
母 安政元、一一生、兵庫、松井龍雲  
妻 かつ 明三三、五生、兵庫、三枝益藏妹  
男 元 治 明三八、一〇生  
女 美 子 大元、八生、長男元治妻、兵庫、山本榮太郎五女  
男 修 造 大三、一一生

**畑野伊三良**  
長野縣多額納稅者、魚商  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**畑野長四郎**  
土木建築請負業、家主  
妻 花 子 明四五、三三  
女 玉 次 郎 明四五、三三

**畑谷兵助**  
仙臺商工會議所議員、仙臺魚市場  
父 六 助 嘉永五、一一生、現戸主  
母 美 子 三女  
妻 美 子 明一五、八生、宮城、氏家つる私生子

**畠山 敏行**  
正四位勳三等、臺灣電力理事  
妻 敏 夫 明四四、三三  
男 正 夫 明四四、三三  
女 敏 子 明四四、三三

**八馬 兼介**  
兵庫縣多額納稅者、西宮銀行  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八馬安二良**  
桐花興業監査役、多開、寶梅園  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八田 吉平**  
從四位勳三等、朝鮮總督府水原高等農林學校教授  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八馬 兼介**  
兵庫縣多額納稅者、西宮銀行  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八條 隆正**  
從三位勳三等、子爵  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八田 三郎**  
從三位勳二等、理學博士、北海道  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八馬 兼介**  
兵庫縣多額納稅者、西宮銀行  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八馬 兼介**  
兵庫縣多額納稅者、西宮銀行  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生

**八馬 兼介**  
兵庫縣多額納稅者、西宮銀行  
妻 眞 明三三、一一生、長野、松田末治  
妻 眞 明三四、三三、長女松枝夫、長野、關野藤松養子  
女 松 枝 明四一、三三、養子常吉妻  
女 伊 佐 次 大二、一〇生









ハ之部 服部

(※印は姻族関係)

**服部正一郎** 家主  
愛知縣在籍  
君は愛知縣人服部正一郎の長男にして大正五年十一月十九日を以て生れ昭和二年家督を相続す家主たり家族は尚姉愛子(大正、九生)弟静彦(同七、一〇生)同典之(同二、一〇生)同清之(同三、一〇生)妹三子(同二、一〇生)ありA二八(名古屋市中區南新町三ノ一電中二三八)

**服部武彦** 從四位勳四等、臺灣總督府中央研究所技師、工業部無機工業化學科長兼電氣化學科長、愛知縣土佐郡野田町三ノ一(東京市品川區北品川二ノ一)

**服部武三郎** 服部時計店員  
東京府在籍  
君は故貴族院議員服部金太郎の三男同女三の弟にして明治三十六年四月を以て生れ昭和二年慶應義塾大學高等部を卒業し現時服部時計店員たりA九八七(東京市芝區白金三光町四九八電高輪三〇四)

**服部省三** 三井鐵山參事  
東京府土佐郡  
君は愛知縣人服部省三の長男にして明治九年一月八日を以て生れ昭和十四年家督を相続す現時三井鐵山會社參事たり家族は尚弟秀彦(明二六、六生)同妻菊枝(同三六、八生)山口、振眞道妹(明二六、六生)ありA一二八(東京市中野區桃岡町九電中野三九七五)

**服部眞次** 三菱重工製機所機體部設計課長、愛知縣在籍  
君は愛知縣人服部眞次の長男にして明治二十六年十一月八日を以て生れ昭和二年家督を相続す大正七年東京帝國大學工學部機械工學科を卒業し現時三菱重工製機所機體部設計課長たり家族は尚長女優文(大、一四、四生)ありA四二四(名古屋市中區熱田東三ノ井一四電南一九)

**服部新兵衛** 宮崎縣多額納稅者、漁業並材木商  
宮崎縣在籍  
君は宮崎縣人服部新兵衛の長男にして安政三年十二月月を以て生れ明治十一年家督を相続す漁業並材木商を營み直接國稅千六百五十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尚孫新佐(大、一八、八生)長男新兵衛(同道子(同二、一〇生)同好子(同二、一〇生)同好子(同二、一〇生)同好子(同二、一〇生)同好子(同二、一〇生)ありA三〇三(東京市品川區品川二ノ一)

**服部眞嚴** 三好野、菓子商  
東京府在籍  
君は東京府人服部眞嚴の長男にして明治二十八年四月二十九日を以て生れ昭和十一年家督を相続す三好野と稱し菓子商を營む家族は尚弟國久(明四〇、一〇生)同妻アキ(同四四、一〇生)福島、本田今朝吉二女(同三、一〇生)ありA三〇三(東京市品川區品川二ノ一)

**服部進** 熱田病院、醫師  
熱田病院在籍  
君は愛知縣人服部進の二男にして明治二十六年十二月十九日を以て生れ大正三年家督を相続す醫師にして熱田病院を經營す家族は尚弟(明二四、一〇生)弟善一(同二八、一〇生)同妻保(同三三、一〇生)千葉、堀越市太郎長女(同二八、一〇生)同妻保(同三三、一〇生)同妻千代子(同三八、一〇生)同妻保(同三三、一〇生)同妻千代子(同三八、一〇生)同妻保(同三三、一〇生)同妻千代子(同三八、一〇生)ありA四四八(名古屋市中區熱田東町五ノ井五三ノ一電南四八五)

**服部清介** 尾張屋、提灯裝飾業  
東京府在籍  
君は東京府人服部清介の長男にして明治五年五月を以て生れ昭和七年先代服部たねの夫となり同二十八年家督を相続す尾張屋と稱し提灯裝飾業を營む家族は尚孫照子(昭四、一〇生)長男清治長女(同四、一〇生)同二女(同二、一〇生)ありA六三〇B七〇(東京市芝區新橋町二電新橋二二二)

**服部直吉** 查役、商事調停委員、愛知縣在籍  
東京府在籍  
君は愛知縣人服部直吉の長男にして明治十七年八月一日を以て生れ昭和十一年分れてを以て生れ昭和十一年早稲田大學專門部政治經濟科を卒業し實業界に入り現時前記諸會社の重役に列せたり家族は尚二男武夫(大、一〇、三生)ありA一七六(名古屋市中區見附町一三〇電東四五四三)

**服部半兵衛** 大阪府在籍  
君は大阪府人服部半兵衛の長男にして明治三十四年九月を以て生れ大正八年家督を相続す家主たり家族は尚弟太郎(明四二、八生)同博(同四四、一〇生)あり叔母ヨネ(同二、九生)は大阪府人服部半兵衛に同ミツ(同三、四生)は同府人服部若次郎に嫁せりA一六三(兵庫縣武庫郡精道村青屋毛賀電寶屋三五六七)参照大矢幸二の項

ハ之部 服部

(※印は姻族関係)

**服部武彦** 從四位勳四等、臺灣總督府中央研究所技師、工業部無機工業化學科長兼電氣化學科長、愛知縣土佐郡野田町三ノ一(東京市品川區北品川二ノ一)

**服部眞嚴** 三好野、菓子商  
東京府在籍  
君は東京府人服部眞嚴の長男にして明治二十八年四月二十九日を以て生れ昭和十一年家督を相続す三好野と稱し菓子商を營む家族は尚弟國久(明四〇、一〇生)同妻アキ(同四四、一〇生)福島、本田今朝吉二女(同三、一〇生)ありA三〇三(東京市品川區品川二ノ一)

**服部英明** 麻布獸醫專門學校理事兼教授、麻布獸醫專門學校理事兼教授、東京府在籍  
君は愛知縣下の素封家服部家の分れなり即ち當主増次郎の二男にして明治十三年三月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士を開業し又辯護士にして現時麻布獸醫專門學校同畜産學校理事兼教授にして東京瓦斯會社社外會社の法律顧問たり第一東京辯護士會評議員に擧げらるる三回衆議院議員に當選すること二回立憲民政黨所屬たり又中外製紙日本化學纖維中外製

業起重機製造大日本生絲工業各社重役たりし事あり  
家族は尙四男正(大)一、四生(長女)明子(同一四、八  
生)二女(次子)昭二、五生(あり)(東京市麹町區車町七電  
九段七五八)

参照 與倉東隆の項

服部 英男

正四位勳二等、陸軍中將  
東京府在籍  
妻 明二〇、二生、山口、士、井上省  
男 英 廣 明三九、八生  
男 正 廣 明四五、一生

君は岐阜縣人服部次右衛門の三男にして明治十一年十  
一月を以て生れ大正九年兄久治郎方より分れて一家を  
創立す明治三十二年陸軍士官學校を卒業し陸軍中將  
少尉に任じ同四十四年陸軍士官學校を卒業し昭和四年陸  
軍中將に昇進し同年陸軍大臣に任じ其間陸軍士官學校陸  
軍騎兵學校陸軍大學校各教官參謀本部各員陸軍省臨時  
軍事調査委員陸軍監部各員陸軍技術會議各員陸軍省  
第四大隊長陸軍監部各員に歴補す大正六年九月より同七  
年三月に至る間歐米各國を視察す長女(明四一、  
七生)は兵庫縣土旅手塚家に嫁せりA一九二(東京市世  
田谷區上北澤三ノ八七七)  
参照 近藤民雄 岡田實 津本綾夫 渡部太郎の  
項

服部 廣太郎

正五位勳五等、理學博士、宮内省  
御用掛、徳川生物學研究所長  
愛知縣土旅  
妻 しづこ 明一六、二生、愛知、士、中川鏡  
次郎長女  
男 親 宏 明三三、六生  
男 親 愛 明四三、二生  
男 親 行 明四五、一生

君は愛知縣土旅服部親の長男にして明治八年五月を  
以て生れ大正五年家督を相続す先是明治三十二年東京  
帝國大學理科大學植物學科を卒業し後理學部教授に任  
じ次で東京帝國大學帝國大學理學部講師等に歴任  
し現に宮内省御用掛徳川生物學研究所長たり大正五年  
理學博士の學位を授けらるA六二五(東京市神田區駿  
河臺二ノ三ノ八電神田四〇五二)

服部 由松

大阪府在籍  
大阪府在籍  
妻 ナミ子 明三五、四生、大阪、小曾治孝太  
郎妹  
男 良 雄 明四三、八生  
女 笑 子 大七、一生

服部 良一

服部商店監査役  
愛知縣在籍  
母 まさ 明一、一生、愛知、林英太郎  
妻 文 子 大三、六生、岐阜、松原純一長女  
君は愛知縣人服部兼三郎の二男にして明治三十四年九  
月二十四日を以て生れ大正九年家督を相続す現時服部  
商店監査役たりA六七二(名古屋市中區矢場町一ノ  
切三一電中五六三)

服部 良輔

愛知縣在籍  
妻 むめ 明五、一生、三重、羽田伴助養  
子 明三四、一〇生、三重、服部米吉  
君は三重縣人服部定右衛門の二男にして明治五年四月

服部 文四郎

經濟學博士、早稻田大學教授、同  
部政治經濟科、専修、上智、  
明治大學、東京府市場協會理事  
東京府在籍  
妻 蕨 惠 明二四、四生、岡山、大江松太郎  
長女  
男 香 大一二、一〇生  
女 澄 子 大六、一生

服部 平兵衛

岡山縣多額納稅者、邑久農事、朝  
鮮土地、旭東鹽業各務監査役  
岡山縣在籍  
妻 類 文 久 元、四生、岡山、則武與四郎  
長女  
男 調 二 明一五、五生  
君は岡山縣人近藤有年の二男にして文久元年六月を以  
て生れ先代平九郎の養子となり明治十二年家督を相続  
し前記調三郎を改む昭和七年十月隱居し家督を一子調  
二に譲る現時前記各會社の重役にして岡山縣多額納稅  
者に列し直接國稅二千四百二十二圓を納む長女(布新  
明三三、三三)同夫一雄(同二七、四生、兵庫、高岡  
説弟)は其一子を伴ひ分家せり(岡山縣邑久郡牛窓町電  
牛窓五八)

服部 正次

服部時計店取締役  
東京府在籍  
妻 智 子 明四四、一生、東京、鹽原又策三  
郎長女  
男 一郎 昭七、二生  
君は東京府人服部金太郎の二男にして明治三十三年五

服部 良太郎

イソダダタル工場社長  
妻 多可 明一七、二生、千葉、能勢見一  
郎長女  
男 謙 治 大二、四生  
君は千葉縣人服部於見三郎の長男にして明治十一年十  
二月を以て生れる同三十七年慶應義塾大學理財科を卒業  
し米國に遊學す歸朝後實業界に入り現時イソダダタル  
工場社長にして兼同社取締役並千葉瓦斯工業會社  
長日東油會社取締役等に擧げらるる家族は尙妹(ま  
明一八、二生)あり弟(次郎)同(一五、三三)は千葉  
縣人山越秀太郎に同(三三)同(一〇、一〇)は同縣人馬  
立ふみに同(二四、八生)は東京府人宮田定七に  
同(久雄)同(三〇、一〇)は千葉縣人大村文平に各養子  
となり妹(ま)同(二一、七生)は同縣人玉井光胤長男八  
十彦に養子(同四〇、二生、長野、上條治長女)  
は東京府人柴田信に長女(同四一、二生)は千葉  
縣人上田次郎に嫁せりA三六〇(東京市豊島區東鴨六  
ノ一五二電大塚六八六)

鳩山 一郎

正三位勳一等、前文部大臣、衆議  
院議員(東京府選出)、辯護士  
東京府在籍  
妻 春 文 久 元、三三、長野、士、多賀敬  
妹、共立女子職業學校長  
男 威 一郎 大七、一生  
女 節 子 大五、一生  
君は故衆議院議長法學博士鳩山和夫の長男にして同秀  
夫の兄なり明治十六年一月日を以て生れ同四十四年  
家督を相続す先是同四十年東京帝國大學法科大學英法  
科を卒業し辯護士たり衆議院議員に當選すること七回  
現に立憲政友會に屬す兼に立憲政友會幹事東京市會

月二十八日を以て生れ昭和九年兄三男より分れて一  
家を創立す先是大正十三年慶應義塾大學經濟學部を卒  
業し現時服部時計店取締役たり家族は尙長女由美子  
(昭九、五生)あり(東京市豊谷區永住町四九電豐山六  
三七七)

服部 増藏

愛知縣多額納稅者、萬增、荒物問  
屋業、愛知縣在籍  
妻 もと 明二六、一生、愛知、中野佐七長  
女  
男 益 夫 大三、一生、名古屋高商出身  
長女はま子夫、愛知、川口兵三二  
養子 省 三 男 明四四、八生、養子省三妻  
女 はま子 明四四、八生、養子省三妻

服部 保太郎

明治食料、中央亭、鎌倉海濱ホテ  
ル各取締役、明治屋監査役、東京府在籍  
妻 しも 明二二、一生、東京、栗田義雄妹  
女 久 明四三、一生  
男 久 明四三、一生  
女 愛 大二、一生  
女 歌 大八、六生  
君は東京府人服部文五郎の孫にして明治九年七月を以  
て生れ同十五年家督を相続す現時前記諸會社の重役た  
り家族は尙三男正(大)二、一(生)四女(同一一、  
一生)あり庶子正男(明四五、七生)同(長女)大(三、八生)  
は共に其生母神奈川縣人榎木つやの養子となりA三  
七〇(東京市芝區白金今里町九六電高輪三三九)

服部 與吉

名古屋綿絲布取引所取引員、信興  
商店、綿布問屋業、愛知縣在籍

鳩山 秀夫

正四位勳三等、法學博士、衆議院  
議員(千葉縣選出)、東京帝國大學  
經濟學部講師、辯護士  
東京府在籍  
妻 千代子 明二三、一〇生、故男爵菊地大麓  
長女  
男 道 夫 明四四、三三、理化學研究所勤務  
理學士  
女 玲 子 大元、八生、長男道夫妻、東京、  
士、鳩山一郎二女  
君は故法學博士鳩山和夫の二男にして同一郎の弟なり  
明治十七年二月を以て生れ同四十四年分れて一家を創  
立す同四十四年東京帝國大學法科大學を卒業し同大學  
講師を嘱託せらる同四十四年同大學法科大學助教授に  
任ぜられ同四十四年民法研究の爲獨佛各國に留學歸朝  
後同教授に進み大正六年法學博士の學位を授けらる同  
十五年官を辭して辯護士となり今日に及ぶ昭和七年千  
葉縣より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬  
す兼に甲陽土地新高製糖各會社の重役に擧げられ又瑞  
西ジエネーヴに於ける國際聯盟總會に出席の帝國代表  
者隨員及大正十一年ゼノア經濟會議に參列の全權委員  
を命ぜらる「日本民法總論」「日本債權法總論」其他數種  
の著書ありA三六九六(東京市小石川區小日向電町三  
ノ八九電牛込八九)

花井又太郎

正七位、名古屋市土木部長
愛知縣在籍
父久三、一一生、愛知、大林惣七
母 文久三、一一生、愛知、大林惣七
妻 明二五、四生、愛知、精谷藤一
男 雄三、大生、七生
女 明二五、四生、愛知、精谷藤一

花岡治郎丸

愛知縣在籍
父 明一八、三生、愛知、花岡清藏三
妻 明一八、三生、愛知、花岡清藏三
男 平藏、大五、七生
女 明一八、三生、愛知、花岡清藏三

花岡敏夫

法學博士、第二東京辯護士會會長
東京府在籍
父 明二七、八生、埼玉、龜井五郎長
妻 明二七、八生、埼玉、龜井五郎長
女 明二七、八生、埼玉、龜井五郎長

花岡俊夫

信濃電氣、長野電燈各社常務取締役
長野縣在籍
父 明三三、八生、養父次郎二
妻 明三三、八生、養父次郎二
男 明三三、八生、養父次郎二
女 明三三、八生、養父次郎二

花岡三二郎

兵庫縣多額納稅者、富久製鐵造元
兵庫縣在籍
父 明二五、一一生、養父甚右衛門長
妻 明二五、一一生、養父甚右衛門長
女 明二五、一一生、養父甚右衛門長

花岡政春

正五位勳五等、專賣局事務長
總務府專賣局事務長、收納部收納課長
鹿兒島縣在籍
父 明三三、八生、養父甚右衛門長
妻 明三三、八生、養父甚右衛門長
女 明三三、八生、養父甚右衛門長

花谷彌三右衛門

藥種商
大阪府在籍
父 明二二、五生、養父卯兵衛長女
妻 明二二、五生、養父卯兵衛長女
男 明二二、五生、養父卯兵衛長女
女 明二二、五生、養父卯兵衛長女

花房孝太郎

從五位、子爵、奉天造兵廠總務長
出張所員、岡山縣華族
父 明二二、五生、養父卯兵衛長女
妻 明二二、五生、養父卯兵衛長女
男 明二二、五生、養父卯兵衛長女
女 明二二、五生、養父卯兵衛長女

花園公榮

正五位、子爵
舊公卿家
父 明八、一一生、茨城、土、本多治
妻 明八、一一生、茨城、土、本多治
男 明八、一一生、茨城、土、本多治
女 明八、一一生、茨城、土、本多治

花田大五郎

正五位、和歌山高等商業學校長
大阪府在籍
父 明一四、六生、兵庫、雨夜孝太郎
妻 明一四、六生、兵庫、雨夜孝太郎
男 明一四、六生、兵庫、雨夜孝太郎
女 明一四、六生、兵庫、雨夜孝太郎

花井又太郎

一家を創立す同三十四年東京帝國大學法科大學英
法科を卒業し更に大学院に入り商法を研究し後故郷地
武夫事務所に入り辯護士となり大正七年法學博士會の
推薦を以て法學博士の學位を受け翌八年比律律師士
會より名譽會員に推される又第二東京辯護士會長の任に
あり好著書多しA一〇三五(事務所)東京市京橋區銀
座西一貫業ビル五階電報六〇八六(自宅)中野區沼袋
南一ノ一六一(電話四四三三〇)

花岡俊夫

信濃電氣、長野電燈各社常務取締役
長野縣在籍
父 明三三、八生、養父次郎二
妻 明三三、八生、養父次郎二
男 明三三、八生、養父次郎二
女 明三三、八生、養父次郎二

花岡三二郎

兵庫縣多額納稅者、富久製鐵造元
兵庫縣在籍
父 明二五、一一生、養父甚右衛門長
妻 明二五、一一生、養父甚右衛門長
女 明二五、一一生、養父甚右衛門長

花岡政春

正五位勳五等、專賣局事務長
總務府專賣局事務長、收納部收納課長
鹿兒島縣在籍
父 明三三、八生、養父甚右衛門長
妻 明三三、八生、養父甚右衛門長
女 明三三、八生、養父甚右衛門長

花谷彌三右衛門

藥種商
大阪府在籍
父 明二二、五生、養父卯兵衛長女
妻 明二二、五生、養父卯兵衛長女
男 明二二、五生、養父卯兵衛長女
女 明二二、五生、養父卯兵衛長女

花房孝太郎

從五位、子爵、奉天造兵廠總務長
出張所員、岡山縣華族
父 明二二、五生、養父卯兵衛長女
妻 明二二、五生、養父卯兵衛長女
男 明二二、五生、養父卯兵衛長女
女 明二二、五生、養父卯兵衛長女

花井又太郎

を以て生れ花木たかの養子となり大正四年養父甚右衛
門の後を承け家督を相続す酒造業を営み花木本家商店
と稱す富久製鐵造元を以て知られ現時縣下の多額納稅
者たり家族は尙二男孝雄(大七、一一生)三男寛(同
一〇、七生)四男正臣(同一二、三生)六男利夫(昭三、一
一生)ありA二八八二B四〇七八(神戸市灘區新在家
宮西三〇三電番合九九七)

花岡三二郎

君は愛知縣人花井菊藏の長男にして明治十九年七月を
以て生る大正二年東京帝國大學工科大学土木工學科を
卒業し朝鮮總督府技師大阪工科大学工科大学工學科を
卒業し今日に至るまで大正十五年歐米各國に出張視察
せり園藝スポーツに興味を有す家族は尙二女治子(大
九、一一生)三女泰子(同一三、一一生)三男和夫(昭二、
一一生)四女綾子(同八、二生)の外弟啓次(同二四、一
一生)同妻セキ(同三四、一一生)あり妹と(同二二、一
一生)は愛知縣人牧野兵助弟喜助に同(同二八、一
〇生)は同縣人鈴木彌作二男喜代藏に同(同三一、一
〇生)は和歌山縣人武内卓に叔母とめ(元治元、九生)は
愛知縣人米津新十郎重太郎に同(明五、二生)は同
縣人中森植太郎に同(同一、四生)は同縣人吉見
新次に嫁せりA一七五(名古屋市東區主税町三ノ一五
電番七三三〇)

花岡敏夫

君は愛知縣人日下部與兵衛の八男にして同與一の弟な
り明治八年十月二日を以て生れ先代花岡清藏の養子と
なり昭和三年家督を相続す紙商を營むA四九一(名古
屋市南區神戸町四〇電番六九一)
參照日下部與一の項

花岡俊夫

君は長野縣人坂本半三郎の二男にして明治二十六年三
月十四日を以て生れ故郷法政學堂花岡次郎の養子とな
り大正十年家督を相続す同六年慶應義塾理財科を卒業
し王子製紙會社に入り以後之を辭し現時前記諸會社
の重役たり家族は尙三男昭三(昭四、七生)あり妹ふ
み(明三〇、八生)は外務書記官木村村に嫁し叔父四郎
(同一、一一生)同妻とし(同一八、一一生、長野、小田切
辰之助三女)は其子女を伴ひ分家し叔父六郎(同一八、
二生)は長野縣人越前三郎の養子となり(長野市縣町
二五電番一七七)
參照木村村、小坂順造、桑今井文平坂本重雄桑
關根善作桑田中三深井英五桑美濃部達吉
の項

花岡三二郎

君は鹿兒島縣人花田滿之助の二男にして明治二十五
年三月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正六年東京
帝國大學法科大學法學科を卒業し同年文官高等考試
に合格す專賣局書記となり專賣局事務長に補任す事古
屋大阪各地方專賣局事務長を歴任し專賣局事務に任
ぜられ七年前記の職に轉じ今日に至るまで命により
歐洲西比利亞經由にて米國に出張せり家族は尙二男政
國(大九、一〇生)の外弟政明(明三三、二生)同妻榮
(同三九、四生、東京、松本藩妹及其一子女弟政武(同
四一、九生)あり同政國(同三五、六生)は分家せり(東
京市麻布區本村町一四電番八二〇五)
參照成田正峰の項

花谷彌三右衛門

君は兵庫縣人橋本治三郎の二男にして明治十七年八
月一日を以て生れ同四十二年先代ツルの養子となり大
正八年家督を相続す同九年前名源次郎を編三右衛門と
改む藥種商を營む家族は尙三女鶴子(大一一、一一生)
ありA五四九(大阪市浪速區元町四ノ二三九ノ一電番
二五五五)

花房孝太郎

君は大阪府人和田長平の三男にして明治二十五年一月
二十七日を以て生れ大正七年花畑タネに入夫す家主た
り家族は尙二男圭一(大二三、一一生)三男方久(同一
五、一一生)四男惠三(昭七、二生)養妹和子(明三八、
九生)ありA四一六(堺市巖野町東三ノ一九電番二〇
四)

花房

健 神戸市會議員、家屋税調査委員
妻 きみよ 明二、一生、天理外語在學
男 義明 大六、三生、山手高女出身
女 千恵子 大六、三生、山手高女出身

花村

美樹 正五位勳四等、京城帝國大學教授
法文學部勤務、長野縣在籍
元治元、三生、長野、津野常太郎
母 もん 妹
父 芳子 明三、二生、東京、梅田篤之助
妻 芳子 明三、二生、東京、梅田篤之助

花柳章太郎

新派俳優
(青山章太郎)
東京府在籍
君は明治二十七年五月二十八日を以て生る同四十二年一月喜多村録郎の門に入り本舞座の「雪子夫人」に小僧雪松を勤め初舞臺を踏む大正六年二月歌舞伎座に於て「生さぬ仲」の女優衣笠三保子を演じ幹部に昇進す娘お酌養者等を得意とし新派の女形として第一人者を以て選せらる當り役には久保田万太郎作「雨空」のお末泉鏡

華、英、埴

花作「日本橋」の稻家お千世瀬戸英一作「夜の鳥」の辭枝中内蝶二作「大尉の娘」の露子其他あり俳句觀劇を趣味とす(東京市赤坂區丹後町四三電番山二一九七)

華園眞淳

正四位、男爵、眞宗眞正派管長
眞正寺住職、僧家
男 茂 大五、七生、生母、平井國
女 咲子 大五、七生、生母、平井國

英健也

正五位勳三等功五級、陸軍少將
富子屋債券取扱社社長、大阪府
東京府在籍
妻 カヲ 明一、四生、東京、松澤琴次郎
女 二女
男 保男 明四、一、八生
男 幸男 明四、一、八生
男 幸男 明四、一、八生

喜一郎

從八位、笠間稻荷神社掌
笠間印刷社社長、茨城縣土族
男 瑞比古 明一、四生、茨城、住谷教授女
女 治代 明三、三生、長男瑞比古妻、千
男 豐比古 明三、九生、東北帝大法文學部
女 嘉比古 明四、五生、土浦高女出身

埴三郎

土木建築請負業
(土木建築請負業)
東京府在籍
妻 てい 明一、八生、東京、島田一太郎姉
女 三子
君は千葉縣人埴定吉の四男にして明治二十五年三月二十五日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す土木建築請負業を營むA一七〇B一二六(東京市荒川區三折長男兩郎に嫁せり(茨城縣西茨城郡笠間町笠原三八電笠間一)

埴繁彌太

醫學博士、埴醫院長、醫師
東京府在籍
妻 シン 明二〇、九生、東京、佐野渡二女
男 重太 明四、一、一生
男 周次 明四、一、一生
男 良三 大二、四生

埴原正直

正三位勳一等、元特命全權大使
山梨縣在籍
妻 ミツ 明二、四生、東京、土、飯田龍
君は山梨縣人埴原辨一郎の長男にして明治九年七月二十九日を以て生れ同三十五年家督を相続す同三十年東京專門學校英語政治科を卒業し同三十一年外交官及領事官試験に合格す領事官補として廈門に外交官補として韓國及米國に在勤し公使館三等書記官大使官二等書記官一等書記官外務書記官總領事官通商局長等職務局長外務次官に歴任大正十一年特命全權大使に任ぜられ米國駐劄特命全權委員として同會議に参列せり家族は尙妹桑喜代(明一、八生、洋畫家)あり弟弓次郎(同二、六、一生)同妻千代(同二、九、一生、山梨、大久保正策長女)は其子女を伴ひ分家せりA四六四(東京市麻布區櫻田町一〇電番山五六七八)

濱卯之助

家主
大阪府在籍
父 平吉 安政四、六生
妻 マサ 明一、八、一生、大阪、島田庄吉
男 平太郎 明四、二、一〇生

濱信次郎

大正、五生
女 千枝子 大正、一、二生
君は大阪府人濱平吉の二男にして明治十九年一月一日を以て生れ大正十四年家督を相続す家主たり家族は尙三男昇三郎(大八、六生)あり妹マキ(明二、七、三生)は同夫外(同二、二、一生、京都、高島忠次弟)と共に其二男二女を伴ひ分家せりA四九九(大阪市東淀川區十三南町)

濱壽太郎

和歌山縣會議員、古座銀行、濱恒商店各取締役、和歌山在籍
妻 しを 安政四、一、二生、和歌山、高尾平
女 三郎三女
男 廉士 明三、八、二生
男 富子 明四、五、三生
女 富子 大正、一、〇生

濱周謙

從五位勳六等、獸疫調査所技師
青島總領事館附、長野縣在籍
妻 ちよう 明元、一〇生、長野、鈴木茂七郎
女 三女
男 廣江 明三、〇、七生、長野、鈴木正勝二
男 清 大六、一、二生

濱恒次郎

大阪商工會議所議員、大阪木村材市場社長、材木商、大阪府在籍
妻 と 明二、〇、一生、和歌山、濱壽太
女 好子 明四、二、一〇生
女 好子 大正、三生
女 好子 大正、三生

濱平右衛門

茨城縣多額納稅者、茨城電氣、常南電氣鐵道、鹿島參宮鐵道各取締役、常盤銀行、太田製紙各取締役、養油鐵道、茨城縣在籍
妻 と 明一、六、一生、千葉、木内喜右衛門
女 彌太郎 明三、八、六生
女 志津子 大五、五生





**濱口 直** 明二、一、一生、長男廣衛妻、高知、竹村貞次郎長女

**濱口 明二** 九、九、九、長女益夫、高知、西山實洋、工學士

**濱口 明三** 〇、七、七、養子巖妻

**濱口 明四** 五、二、二、法學士

**濱口 明五** 三、三、三、二男守三妻、高知、西山實洋長女

**濱口 明六** 四、一、〇、生、長男廣衛長男、拓大出身

**濱口 喜久江** 大、二、五、生、長男廣衛長女、樟蔭女子專門家政科出身

君は高知縣人濱口榮三郎の二男にして同明三吉の兄なり安政五年二月を以て生れ後分れて一家を創立す風航海運業に志し現に前記會社の重役たり家族は尙孫喜美(大九、八、八、生、長男廣衛二女)同美都(同一三、七、生、養子巖長女)ありA八二六(大阪府西區西長堀北通二ノ一六電新町一〇五)

參照 竹村貞次郎の項

**濱口 四郎** ヤマサ醤油取締役、和歌山縣在籍

妻 明三、四、生、東京、廣岡助五郎

君は千葉縣土族濱口儀兵衛の弟同擔の甥岡本男五の兄にして明治十二年八月七日を以て生れ後分れて一家を創立す同三十四年東京高等商業學校を卒業し基隆炭鐵及三井礦山會社に入り現時ヤマサ醤油會社取締役たりA四二一(東京市麻布區新藤土町六電青山四七五)

參照 岡本男五、濱口儀兵衛、濱口實三郎、廣岡助五郎、濱口實久世秀雄濱口勉太泰森岡平右衛門の項

**濱口 正一** 廣屋商店取締役、東京植林會監査役、東京府在籍

妻 明三、四、生、千葉、末田彌門二

女 玉子 大七、五、生

君は東京府人濱口吉右衛門の養弟にして同廣衛の養兄同吉兵衛同録之助木村平右衛門遠山市郎兵衛の養甥なり明治二十二年十一月十八日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す現時廣島商店取締役にして東京植林會

**濱口 勉太** ヤマサ醤油取締役、千葉縣土族

父 儀兵衛 明七、四、生、現戶主

妻 房子 明四、五、一、生、貴族院議員太田清藏三女

君は千葉縣土族實業家濱口儀兵衛の長男にして明治三十六年五月一日を以て生れ昭和三年東京帝國大學經濟學部を卒業後直ちに日清製粉會社に勤務したるも後之を辭しヤマサ醤油會社に轉じて現に取締役たり(東京市赤坂區青山南町一ノ四九電青山四三五)

參照 男爵東久世秀雄、太田清藏、濱口儀兵衛、濱口實久世秀雄、太田新吉、太田新次郎、濱口實三郎の項

**濱口 守三** 家主、大阪府在籍

父 駒次郎 安政五、二、生、現戶主

妻 房子 明四、五、二、生、高知、西山實洋二女

君は大阪府人濱口駒次郎の二男にして明治三十五年九月十七日を以て生れ家主たりA五七五(大阪府西區西長堀北通二ノ一六電新町一〇五)

**濱口 麟藏** 從七位、銚子時油専務取締役、元屋商店監査役、千葉縣在籍

妻 吉兵衛 明一、七、生、現戶主

養父 光三 明三、一、生、養父吉兵衛長女

妻 俊平 明四、六、生

女 章子 大六、五、生

女 順子 大八、一、二、生

君は東京府人濱口吉右衛門の弟にして同正一の養弟同録之助同吉兵衛遠山市郎兵衛木村平右衛門の甥に當り明治二十五年四月を以て生れ濱口吉兵衛の養子に當り大正三年早稲田大學商科を卒業し現時銚子時油會社専務取締役たる外前記會社の重役を兼ねA一八五(東京

**濱口 健吉** 濱崎商店社長、京阪電氣鐵道、東大阪電氣鐵道各取締役、豊國火災保險、京阪電氣鐵道、湘南電氣鐵道各監査役、大阪府在籍

妻 貫のぶ 明一〇、三、生、兵庫、阪口吉藏妹

男 明三、四、四、生

女 山、島村安次郎妹

女 多賀 大三、四、生

君は濱崎商店社長、京阪電氣鐵道、東大阪電氣鐵道、湘南電氣鐵道各取締役、豊國火災保險、京阪電氣鐵道、湘南電氣鐵道各監査役、大阪府在籍

**濱口 菅六郎** 從四位勳四等、辯護士

妻 熊明一、六、生、養父輔長々女

君は宮城縣土族桑原如宜の二男にして明治五年十月を以て生れ先代輔長の養子となり同四十年家督を相続す同三十年如佛法律學校を卒業し判事任用試験に合格同三十五年判事に任じ同四十四年判事に轉じ同松岡上田區濱區久留米區大分區同區四日市區安濃津區地方四日市支那廣島區同地方三次區廣島地方三次支那各裁判所檢察大洲區裁判所檢察兼松山地方裁判所大洲支那檢察等に歷補せしも後之を辭し現に辯護士たり(愛媛縣喜多郡大洲町電八三)

**濱口 擔** ヤマサ醤油取締役、豐崎酒造監査役、和歌山縣在籍

妻 八重子 明一八、八、生、男爵近藤滋彌妹

男 明四、八、八、生、富士瓦斯紡績會社

女 美代子 野利愛妹

君は和歌山縣人濱口格隆の男にして當主儀兵衛濱口四郎岡本男五の叔父に當る明治五年六月二日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同二十四年慶應義塾本學科同二十七年早稲田大學英語政治科を卒業し同三十五年英國劍橋大學經濟科を卒業し歸朝後同三十六年和歌山縣より衆議院議員に擧げらる後豐國銀行設立に關り文書部長となり同四十五年濱田代水電氣會社の設立せらるるや庶務營業各課長に歷任し大正九年監査役に擧げられ同十二年東京電燈會社に合併せらるるに當り其職を辭し同十二年東京電燈會社監査役となり現時ヤマサ醤油會社取締役を兼ね二女篤子(明四〇、五、生、雙葉高女出身)は東京府土族白仁武長男三菱商會社員

**濱口 太助** 大阪株式取引所取引員

妻 明一〇、二、生、大阪、福市伊助長

女 太助 明二九、七、生

女 マス 明三五、一〇、生、二男太助妻、大阪、中尾竹次郎六女

女 美代子 明四一、二、生

女 晴子 明四五、七、生

女 伊佐子 大八、一〇、生、二男太助二女

君は和歌山縣人濱口安太郎の叔父にして明治四年十二月十二日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す大阪株式取引員たり家族は尙孫精一(大九、七、生、二男太助長男)ありA一五六八B四九六(大阪府東區北濱一ノ一六電本局六三三〇)

**濱口 富三郎** 濱口鳳梨會社代表取締役、丸安濱口會社代表社員、マルヤス、食料品雜貨商、京都府在籍

妻 明一、八、生、京都、遠藤新兵衛

女 明三、四、一、二、生、京都、吉川榮次郎二女

君は京都府人先代富三郎の長男にして明治三十一年五月を以て生れ大正十年家督を相続し前名富太郎を改め養子マルヤスと稱し食料品雜貨商を營み傍ら濱口鳳梨會社代表取締役にして丸安濱口會社代表社員たり(濱口鳳梨會社社長たりし事あり家族は尙長女方(大一一〇、一〇、生)ありA四二六(京都市下京區東九條山王町九〇電下六三三)

**濱口 廣** 大阪府在籍

母 里櫻 明元、一〇、生、高知、高橋悅妹

君は大阪府人濱口卯之吉の三女にして明治三十五年十二月三日を以て生れ昭和五年家督を相続す濱口商店と稱し煉瓦商を營むA三四〇(大阪府西區北堀江六ノ一)

**濱口 勉太** ヤマサ醤油取締役、千葉縣土族

父 儀兵衛 明七、四、生、現戶主

妻 房子 明四、五、一、生、貴族院議員太田清藏三女

君は千葉縣土族實業家濱口儀兵衛の長男にして明治三十六年五月一日を以て生れ昭和三年東京帝國大學經濟學部を卒業後直ちに日清製粉會社に勤務したるも後之を辭しヤマサ醤油會社に轉じて現に取締役たり(東京市赤坂區青山南町一ノ四九電青山四三五)

參照 男爵東久世秀雄、太田清藏、濱口儀兵衛、濱口實久世秀雄、太田新吉、太田新次郎、濱口實三郎の項

**濱口 守三** 家主、大阪府在籍

父 駒次郎 安政五、二、生、現戶主

妻 房子 明四、五、二、生、高知、西山實洋二女

君は大阪府人濱口駒次郎の二男にして明治三十五年九月十七日を以て生れ家主たりA五七五(大阪府西區西長堀北通二ノ一六電新町一〇五)

**濱口 麟藏** 從七位、銚子時油専務取締役、元屋商店監査役、千葉縣在籍

妻 吉兵衛 明一、七、生、現戶主

養父 光三 明三、一、生、養父吉兵衛長女

妻 俊平 明四、六、生

女 章子 大六、五、生

女 順子 大八、一、二、生

君は東京府人濱口吉右衛門の弟にして同正一の養弟同録之助同吉兵衛遠山市郎兵衛木村平右衛門の甥に當り明治二十五年四月を以て生れ濱口吉兵衛の養子に當り大正三年早稲田大學商科を卒業し現時銚子時油會社専務取締役たる外前記會社の重役を兼ねA一八五(東京

**濱口 健吉** 濱崎商店社長、京阪電氣鐵道、東大阪電氣鐵道各取締役、豊國火災保險、京阪電氣鐵道、湘南電氣鐵道各監査役、大阪府在籍

妻 貫のぶ 明一〇、三、生、兵庫、阪口吉藏妹

男 明三、四、四、生

女 山、島村安次郎妹

女 多賀 大三、四、生

君は濱崎商店社長、京阪電氣鐵道、東大阪電氣鐵道、湘南電氣鐵道各取締役、豊國火災保險、京阪電氣鐵道、湘南電氣鐵道各監査役、大阪府在籍

**濱口 菅六郎** 從四位勳四等、辯護士

妻 熊明一、六、生、養父輔長々女

君は宮城縣土族桑原如宜の二男にして明治五年十月を以て生れ先代輔長の養子となり同四十年家督を相続す同三十年如佛法律學校を卒業し判事任用試験に合格同三十五年判事に任じ同四十四年判事に轉じ同松岡上田區濱區久留米區大分區同區四日市區安濃津區地方四日市支那廣島區同地方三次區廣島地方三次支那各裁判所檢察大洲區裁判所檢察兼松山地方裁判所大洲支那檢察等に歷補せしも後之を辭し現に辯護士たり(愛媛縣喜多郡大洲町電八三)

**濱口 擔** ヤマサ醤油取締役、豐崎酒造監査役、和歌山縣在籍

妻 八重子 明一八、八、生、男爵近藤滋彌妹

男 明四、八、八、生、富士瓦斯紡績會社

女 美代子 野利愛妹

君は和歌山縣人濱口格隆の男にして當主儀兵衛濱口四郎岡本男五の叔父に當る明治五年六月二日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同二十四年慶應義塾本學科同二十七年早稲田大學英語政治科を卒業し同三十五年英國劍橋大學經濟科を卒業し歸朝後同三十六年和歌山縣より衆議院議員に擧げらる後豐國銀行設立に關り文書部長となり同四十五年濱田代水電氣會社の設立せらるるや庶務營業各課長に歷任し大正九年監査役に擧げられ同十二年東京電燈會社に合併せらるるに當り其職を辭し同十二年東京電燈會社監査役となり現時ヤマサ醤油會社取締役を兼ね二女篤子(明四〇、五、生、雙葉高女出身)は東京府土族白仁武長男三菱商會社員

**濱口 太助** 大阪株式取引所取引員

妻 明一〇、二、生、大阪、福市伊助長

女 太助 明二九、七、生

女 マス 明三五、一〇、生、二男太助妻、大阪、中尾竹次郎六女

女 美代子 明四一、二、生

女 晴子 明四五、七、生

女 伊佐子 大八、一〇、生、二男太助二女

君は和歌山縣人濱口安太郎の叔父にして明治四年十二月十二日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す大阪株式取引員たり家族は尙孫精一(大九、七、生、二男太助長男)ありA一五六八B四九六(大阪府東區北濱一ノ一六電本局六三三〇)

**濱口 富三郎** 濱口鳳梨會社代表取締役、丸安濱口會社代表社員、マルヤス、食料品雜貨商、京都府在籍

妻 明一、八、生、京都、遠藤新兵衛

女 明三、四、一、二、生、京都、吉川榮次郎二女

君は京都府人先代富三郎の長男にして明治三十一年五月を以て生れ大正十年家督を相続し前名富太郎を改め養子マルヤスと稱し食料品雜貨商を營み傍ら濱口鳳梨會社代表取締役にして丸安濱口會社代表社員たり(濱口鳳梨會社社長たりし事あり家族は尙長女方(大一一〇、一〇、生)ありA四二六(京都市下京區東九條山王町九〇電下六三三)



濱田甚兵衛

大阪府多額納税者、住吉土地、大和川土地各代表社員、米穀問屋、大阪府在籍

妻 セイ 明二、七生、大阪、成子善太郎

君は大阪府人先代甚兵衛の三男にして明治十六年三月を以て生れ同十三年家督を相続と共に前名熊三郎を改め襲名す米穀問屋業を営み大阪府多額納税者にして前記会社の重役たり義に耕種養蚕を賜ふ家族は尙長女登代(大九、三三)二男多助(同二、五五)三男吉彦(同三、八八)庶子精三(同六、二二)生母、奈良、中島由幾(同文吾)同七、九生、生母同上(同生造)同二〇二生、生母同上(同通夫)同二二、二生、生母同上(同A三五九二)大阪府西區北堀江三番町電新町九一九参照 成子善太郎の項

濱田健男

醫學博士、醫師、大阪府在籍

父 毅 郎 慶應二、一〇生、現戸主

君は大阪府人濱田毅郎の長男にして明治二十五年四月二十一日を以て生れる醫師にして義に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙庶子幸子(大一一、八八)生母、大阪、政非(ハナ)同敬男(同四、一四)生、生母同上(同綾子大昭二、二生、生母同上)あり姉孝子(明三四、二生)は大阪府人濱田野菊菜の家族に入れりA五四〇(大阪府東區唐物町二ノ三電船場三〇六五)

濱田種次郎

蓄後園植樹場取締役、家主、大阪府在籍

母 トメ 嘉永六、三三、大阪、北元傳七二女

君は大阪府人先代伊助の長男にして明治二十二年三月三日を以て生れ大正二年家督を相続す家主にして前記会社の重役たり家族は尙二男正太郎(大七、八八)四男四郎(同二〇、一一)生、五男美智夫(同三、三三)二女澄子(昭二、四生)六男義(同五、三三)あり弟伊一郎(明二五、一三)は分家せりA一七一九(大阪府此花區玉川町三ノ二〇六電土佐堀七五一一)

濱田端

東京府多額納税者、地主、東京府在籍

妻 きみ 明一五、一〇生、東京、佐野哲次

君は東京府人濱田安吉の長男にして明治三年五月を以て生れ明治十一年家督を相続す地主にして直接國稅五千六百九十一圓を納め東京府多額納税者に列す家族は尙孫直松(大一一〇、一〇)生、養子保一(長男)同京子(大一一三、三三)同長女(同昭二、四生、同二男)ありA三四八八(東京府神田區松平町三二電濱花二六〇六)

濱田東稻

室蘭埠頭倉庫、北海水力電氣、龍電電力各取締役、王子製紙取締役、東京府在籍

男 伸 一 明四一、六生

君は愛媛縣土族濱田武則の長男にして明治十二年一月を以て生れ同十三年家督を相続す同三十六年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し現時前記諸会社の重役にして義に大淀川水力電氣取締役兼建設事務長たり家族は尙四男收(大一一〇、四生)あり二男稔(同二、一三)は絶家岡林家を再興し三男豊夫(同七、七生)は高知縣人小松榮枝に弟正盛(明一九、九生)は愛媛縣土族小松スカに各養子となり長女恭子(同四三、六生)は大阪府人村田秀太郎直治に嫁し弟四郎(同二二、九生)は分家せりA二一九五(東京府淀橋區百人町三ノ二七二電四谷二二〇四)

濱田初次郎

濱田印刷機械製造所主、東京ギヤ製造所主、機械製作業、東京府在籍

妻 ナツ 明二四、七生、東京、梅山義賢長女

君は東京府人河島伊與の長男にして明治九年五月二十五日を以て生れ同三十四年先代きんの入夫となり家督を相続す現時濱田印刷機械製造所及東京ギヤ製造所

濱田眞名二

從七位、駒澤大學教授、美濃郡製本所製社長、兵庫縣在籍

妻 さと 明一一、一〇生、兵庫、菅仁蔵妹

君は兵庫縣人今岡新一の弟にして明治八年二月二十一日を以て生れ先代官之輔の養子となり同二十三年家督を相続す東京高等師範學校を中途退學し二十二年間中等教育に携はり後中等教科書出版業東京開成館に入社八年間編輯事務に與り又鐵道省囑託として三年間旅行案内書編輯に従事し昭和四年歐米を視察す現に駒澤大學教授にして美濃郡製本所社長たり家族は尙四男正男(大七、三三)ありA五七四(東京府小石川區小日向臺町三ノ二四)

濱田正夫

大阪府南區會議員、印刷業、大阪府在籍

妻 ヲカ 安政五、一〇生、大阪、石西金兵衛長女

君は奈良縣人安浪甚七の二男にして明治九年六月七日を以て生れ先代正夫の養子となり大正十二年家督を相続し前名正治を改め襲名す印刷業を営み推されて大阪府南區會議員大阪印刷業同業組合長たり長女富美子(明三四、一三)日本女大出身は東京府人岡見千吉郎(長男)多に二女菊千代(同三七、八八)相愛高女出身は京都府人黒田友之助(同三三、三三)三女郁子(同四〇、七生)夕陽丘高女出身は大阪府人松井市三郎に嫁せりA七八六B二六八(大阪府南區安堂寺橋通一ノ一電船場三三九〇)

濱田萬次郎

酒樽製造業、山邑酒造會社員、兵庫縣在籍

妻 やま 明二一、一二生、兵庫、鷺尾善介

君は兵庫縣人濱田鶴松の長男にして明治十六年六月十日

濱田彪

從六位勳六等、日本製鐵廠在籍、三菱重工製鐵顧問、東京府在籍

養子 顯吉郎 明二二、一〇生、長女シヅメ夫、兵庫、飯田駒太郎二男、三菱製鐵會社員、法學士

君は長崎縣土族一ノ瀬信造の二男にして明治三年十一月二十三日を以て生れ先代サヨの養子となり同二十八年家督を相続す同二十四年東京高等工業學校機械科を卒業し三菱造船會社長崎造船所機械工場支配人同電氣主任技師同副社長三菱造船會社長事務取締役同取締役會長等に歴任す造船業及電氣事業視察、爲歐米に出張する事二回現時前記諸会社の重役並に顧問たり家族は尙孫博(大一一、一三)養子顯吉郎(長男)同百合子(同二、一三)同三女同福(同二五、一三)同二男(同二男)同泰(昭二、一三)同三男(昭三、一三)ありA三〇〇三(東京府麹町區富士見町二ノ三九電九段八二七)参照 濱田顯吉郎の項

濱田平兵衛

名倉屋本店、旅館業、東京府在籍

母 壽 明一四、六生、東京、中村彌平長女

君は埼玉縣秩父郡名倉の田なり始祖平兵衛江戸に於て商業を営み三代目平兵衛酒商生業實業に轉じ漸次家名を揚ぐるに至り後旅館業を始め遂に今日の盛大を見るに至る君は先代平兵衛の二男にして明治四十年十月を以て生れ大正七年家督を相続し前名敏次郎を改め襲名す旅館名倉屋本店として知らるる家族は尙弟誠(明四四、一一)同彰(大二三、二生)あり姉ユキ(明三三、七生)は東京府人福田榮助に同ツタ(同三四、一三)は祖母濱田てる養子仙次郎に同ツタ(同三六、七生)東京府人濱田花子(長女)に同ツタ(同三六、七生)東京府人濱田太郎(長男)に嫁せり(東京府日本橋區至町三ノ一五電日本橋二二七)参照 金子増輝の項

濱田光太郎

南海自轉車製造代表社員、中谷商店代表社員、兵庫縣在籍

父 三郎 嘉永五、六生

君は兵庫縣人太三郎の長男にして明治十八年十月一日を以て生れ大正十二年家督を相続す南海自轉車製造會社代表社員中谷合名會社代表社員たり家族は尙二女昌子(大一一、三三)二男次郎(同二一、一〇)ありA一三六八(兵庫縣武庫郡精道村芦屋新田四六六ノ一電濱屋二二二六)

濱田靖夫

古着商、大阪府在籍

妻 五つ 明一七、一〇生、大阪、濱田治兵衛長女

君は大阪府人先々代靖夫の長男にして明治四十年二月十三日を以て生れ大正十五年兄靖夫の後を承けて家督を相続し前名淳を改め襲名す古着商を営む家族は尙弟賢造(明四二、八生)妹富久(同四五、四生)弟豊藏(大六、八生)ありA五一六(大阪府南區大寶町仲之町九電南六〇九〇)

濱田勇三

安田銀行常務取締役、安田信託監査役、東京府在籍

妻 ハツ 明一九、三三、新潟、齋藤吉作長女

君は大阪府人濱田治兵衛の叔父にして明治二十五年十月

男 祐輔 大二、一二生
女 祐子 大四、六生
君は東京府土族吉川貞度の五男にして明治十四年三月十日を以て生れ先代ふきの養子となり同二十八年家督を相続す...

濱武 元次 正五位勳四等、陸軍歩兵少尉、臺北第一師範學校校長、秋田縣在籍
妻 アヅマ 明三四、五生、熊本、水上浩然長女
女 敏子 大六、一、生

濱地藤太郎 大阪府桃隈病院院長、醫師
大阪府土族
妻 富美子 太四、六生、東京、士、松本郡
女 和子 大九、六生

濱野 せゝ おきな、料理業
兵庫縣在籍
夫 茂兵衛 昭三、八生、京橋南右衛門長男
妻 明二、三、一、二生
女 浮田長義長女

濱野 利次 家主
大阪府在籍
妻 一雄 昭九、八生
女 恒子 大七、四生

濱野 初五郎 不動貯金銀行營業課長
東京府在籍
妻 眞一 大七、一、〇生
女 仁枝 大七、七生

濱野 元矩 地主
東京府在籍
妻 明二、〇、七生、東京、鈴木茂吉庶子
女 大元、〇、一、生、長男元繼妻、山梨

濱野 徹太郎 衆議院議員(兵庫縣選出)、辯護士
兵庫縣在籍
父 精一 文久三、一二生

濱中憲之助 山口縣多額納稅者、濱吉、旅館業
山口縣在籍
妻 山崎 明元、七生、廣島、黒部庄次郎二女
女 一子 明二、四、五生、福岡、鈴江三郎姉

濱野 英次郎 正四位勳二等、海軍中將
岡山縣在籍
妻 秀雄 大三、一、生、東大工科在學
女 山崎 明二、七、八生、岡山、星島文吉二女

濱野 銈太郎 東京府在籍
妻 伊久 明七、八生、東京、中村金藏養子
女 久江 明三、六、二、生、東京、松本秀太郎

濱野 壽太郎 神戸製鋼所常務取締役
神戸縣在籍
妻 悦 大八、五生
女 博 大八、五生

濱野 新太郎 兵庫縣在籍
父 太吉 明四、七生
妻 明一、五、四生、兵庫、河西徳松二女
女 明三、六、三、生、兵庫、竹本文助三女

濱野 安次郎 家主
大阪府在籍
妻 文久元、五生、大阪、濱野清次郎
女 安一 明二、九、六生

濱野 與右衛門 愛知縣多額納稅者、鯛屋、疊表船具商、愛知縣在籍
妻 弘化四、七生、愛知、小澤彌七孫
女 明三、一、一、生

濱野 妙子 大二、一、〇生
女 經子 大八、一、二生
君は東京府人濱野元吉の長男にして明治十二年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す...

濱野 茂 濱野商會代表社員
東京府在籍
妻 明二、八、八生、千葉、荻野甲太郎
女 一子 大六、一、一、生

濱野 元次 正五位勳四等、陸軍歩兵少尉、臺北第一師範學校校長、秋田縣在籍
妻 アヅマ 明三四、五生、熊本、水上浩然長女
女 敏子 大六、一、生

濱野 利次 家主
大阪府在籍
妻 一雄 昭九、八生
女 恒子 大七、四生

濱野 初五郎 不動貯金銀行營業課長
東京府在籍
妻 眞一 大七、一、〇生
女 仁枝 大七、七生

濱野 元矩 地主
東京府在籍
妻 明二、〇、七生、東京、鈴木茂吉庶子
女 大元、〇、一、生、長男元繼妻、山梨

濱野 徹太郎 衆議院議員(兵庫縣選出)、辯護士
兵庫縣在籍
父 精一 文久三、一二生

濱部源次郎

正四位勲二等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部部長、航空研究所長、阪神鐵工所技師顧問、京都府士族

濱松與八郎

富山縣多額納稅者、荻生銀行經理、濱松市、富山、竹内彌三右衛門長女

濱湊繁一

兵庫縣在籍、養父 政治郎 嘉永六、二生、繼母 さと 明五、一〇生、兵庫、平野謙吉姉

早尾丑鷹

正五位勲五等、農林技術師兼内務技師、山林局勤務、東京府在籍、師 芳 明三、一〇生、三宅次平長女

早川億利

早川ビルプロパー取締役、建築士、東京府在籍、母 久江 明三、一〇生、植村和吉妹

早川久右衛門

同商工會議所副頭、愛知縣多額納稅者、三州貯蓄銀行、各縣取寄、味噌造業、味噌造業

早川雪洲

東京府在籍、君は明治十九年六月を以て千葉縣安房の舊家に生れ、海城中學校を卒業す

早川三之助

千代田火災保險業務部長代理、東京府在籍、母 千代 明二、九生、長野、落合角藏二女

早川兼揚

三菱海上火災保險社代理業、東京府在籍、妻 トメ 明二、二生、鹿兒島、稅所試之介長女

早川三郎

正五位勲四等、三重縣知事、神奈川縣在籍、妻 トシ 明三、一〇生、宮崎、竹内勇雄二女

早川二朗

自動車附屬品商、東京府在籍、妻 さと 明二、一〇生、山梨、山田歡二女

早川茂一

廣瀬商工會議所議員、神奈川縣在籍、妻 三子代 明三、一〇生、神奈川、霜島正太郎長女

早川雪洲

東京府在籍、君は明治十九年六月を以て千葉縣安房の舊家に生れ、海城中學校を卒業す

早川三之助

千代田火災保險業務部長代理、東京府在籍、母 千代 明二、九生、長野、落合角藏二女

早川兼揚

三菱海上火災保險社代理業、東京府在籍、妻 トメ 明二、二生、鹿兒島、稅所試之介長女

早川三郎

正五位勲四等、三重縣知事、神奈川縣在籍、妻 トシ 明三、一〇生、宮崎、竹内勇雄二女

早川二朗

自動車附屬品商、東京府在籍、妻 さと 明二、一〇生、山梨、山田歡二女

早川茂一

廣瀬商工會議所議員、神奈川縣在籍、妻 三子代 明三、一〇生、神奈川、霜島正太郎長女

**女** 子 大正、一生  
 公 子 大正、一〇生  
 君は神奈川縣人早川耕造の長男にして同三郎の兄なり  
 明治十六年一月を以て生れ同十九年家督を相続す同三  
 十九年早稲田大學政治經濟科を卒業し現時神奈川縣農  
 工銀行取締役支配人にして推されて横濱商工會議所議  
 員たり家族は尙三女綾子(大九、五生)四女春子(同  
 三、三生)及弟寛(明三〇、三生)あり弟理三(同二九、  
 五生)は分家す(平塚市新宿一五四三電平塚二五六)  
 參照 早川三郎の項

**早川 茂三** 東京商工會議所議員、三菱商事  
 代表取締役、東京府士族  
 父 光之助 安政二、一〇生  
 母 正好 大正、一〇生  
 君は東京府士族早川光之助の長男にして明治十五年四  
 月を以て生れ大正十四年家督を相続す明治十四年東京  
 帝國大學法政科大學政治學科を卒業し三菱商事に入  
 り門司支店香港支店船務部を経て現職に進み  
 傍ら東京商工會議所議員たり家族は尙二女好子(大九、  
 二生)三女光子(同二九、一〇生)二男茂光(昭四、四生)  
 あり姉ちす(明一七、一〇生)は東京府人菊池盛太郎に  
 嫁し同(同二二、六生)は同府人奥洞元次郎の養子  
 となれりA一三〇一(東京市豊島區藤崎町七ノ一  
 一三三電大塚三七六四)

**早川 庄太郎** 東京市議員、丸龜回漕店取締役  
 役、八丁堀演藝館、活動常設館  
 警、早川亭、料理業、東京府在籍  
 養子 宗太郎 加藤善一郎二男  
 女 久子 明二五、一〇生、養子宗太郎妻  
 養子 萬吉 明三三、一〇生、庶子久子次子夫、愛  
 知、高原藤松男  
 庶子 久喜子 明四〇、七生、養子萬吉妻、生母  
 東京、北川キヌ  
 君は愛知縣人小川竹治郎の弟にして慶應三年三月五日  
 を以て生れ明治二十五年先代寅吉の養子となり同十四  
 五年家督を相続す早川亭と稱し料理業を営み又八丁堀  
 演藝館及活動常設館の經營者にして傍ら前記會社の重  
 役及東京市會議員たり家族は尙孫米子(昭七、三三、養  
 子)

**早川 信成** 鐵細工業  
 東京府在籍  
 母 かし 明七、一〇生、千葉、大健徳太郎長女  
 妻 祥一郎 昭五、二〇生  
 君は東京府人早川祥松の二男にして明治三十二年一月  
 二日を以て生れ昭和三年家督を相続す鐵細工業を營  
 む家族は尙長女洋子(昭六、九生)弟正吉(大三、四生)  
 あり姉勢起(明三四、一〇生)は東京府人島鏡太郎弟鏡  
 吉に同慶登(同四二、六生)は同府人石橋榮太郎長男徳  
 太郎に嫁し弟榮盛(同三九、七生)は分家せりA七四一  
 (東京市淺草区森田一七電淺草二九〇九)

**早川 直瀨** 正五位勳五等、農學博士、上田置  
 縣專門學校教授、群馬縣士族  
 母 きん 萬延元、四生、群馬、士、松原房  
 妻 むめ 明一六、一〇生、山形、士、伊佐早  
 女 龍雄 大九、八生  
 女 綾子 大六、六生  
 君は群馬縣士族早川瀨太郎の長男にして明治十八年十  
 一月を以て生れ昭和三年家督を相続す明治四十五年東  
 北帝國大學農科大學農學科を卒業し大正五年上田置  
 專門學校教授に任じ同年英米佛伊各國に留學し歸朝後  
 引續き同校教授として現在に至る同十一年農學博士の  
 學位を受く製絲經濟論其他著書多し家族は尙姉かひ  
 (明一三、八生)弟清美(同三一、七生)同妻米子(同三  
 九、五生)大分、太田富多長女及其一子の外弟豊水(同  
 三三、三生)あり姉は(同二五、二生)は徳島縣人廣瀬  
 文六に妹なみ(同二四、二生)は長野縣人小山善四郎に  
 同(同二六、七生)は東京府人新倉重勝に同(同  
 二九、一〇生)は群馬縣人有馬三郎に同(同二九、一〇生)  
 (同二九、一〇生)は長野縣人井上宗太に嫁し弟廣清(同二  
 三、九生)は分家し叔父保之廣(同五、五生)は同縣士族伊  
 藤かめの入夫となれり(上田市七軒町)  
 參照 伊佐早信の項

**早川 鐵治** 從四位勳四等、廣瀬製鐵製造  
 役員、東京府在籍  
 男 鐵男 明四〇、一〇生、立大經濟學部出  
 君は岡山縣士族早川正直の二男にして慶應元年五月を  
 以て生れ明治二十七年分れて一家を創立す同十七年札  
 幌農學校を卒業し米國に學びバスターグ法律學校に學  
 び歸朝後安藝官試補として米獨兩國に在勤し轉じて  
 農商務大臣秘書官同省參事官より辨理公使に陞任し次  
 て外務省政局局長に榮進せしも時勢に鑑みん實業に  
 赴き實業界に入り事業の成立及外資の輸入に實業  
 倉庫日寶石油等各會社の重役にして現時廣瀬製鐵造

**早川 德次** 東京地下鐵道事務長、早稲  
 田大學推員、山梨縣在籍  
 養母 つね 明六、一〇生、山梨、古屋彦太郎妹  
 妻 朝母子 明一七、五生、山梨、望月清美妹  
 君は山梨縣人早川常富の四男にして明治十四年十月十  
 五日を以て生れ先代常富の養子となり大正十三年家督  
 を相続す明治四十四年早稲田大學法學科を卒業し直に  
 南滿洲鐵道會社に入り秘書課に勤務し後高野登山鐵道  
 會社支配人を経て大正三年交通並に港灣調査の爲歐  
 米を視察して以來日夜地下鐵道の研究に没頭し忍苦多  
 年遂に克く敷設に成功し其擴張普及に努力しつゝあり  
 本邦地下鐵道事業の先導者として知らる趣味旅行運動  
 A一五九七(東京市中野區住吉五八電中野三二五七)  
 參照 後藤元治、田中治之助、平井茂八、矢部又吉  
 の項

**早川 直瀨** 正五位勳五等、農學博士、上田置  
 縣專門學校教授、群馬縣士族  
 母 きん 萬延元、四生、群馬、士、松原房  
 妻 むめ 明一六、一〇生、山形、士、伊佐早  
 女 龍雄 大九、八生  
 女 綾子 大六、六生  
 君は群馬縣士族早川瀨太郎の長男にして明治十八年十  
 一月を以て生れ昭和三年家督を相続す明治四十五年東  
 北帝國大學農科大學農學科を卒業し大正五年上田置  
 專門學校教授に任じ同年英米佛伊各國に留學し歸朝後  
 引續き同校教授として現在に至る同十一年農學博士の  
 學位を受く製絲經濟論其他著書多し家族は尙姉かひ  
 (明一三、八生)弟清美(同三一、七生)同妻米子(同三  
 九、五生)大分、太田富多長女及其一子の外弟豊水(同  
 三三、三生)あり姉は(同二五、二生)は徳島縣人廣瀬  
 文六に妹なみ(同二四、二生)は長野縣人小山善四郎に  
 同(同二六、七生)は東京府人新倉重勝に同(同  
 二九、一〇生)は群馬縣人有馬三郎に同(同二九、一〇生)  
 (同二九、一〇生)は長野縣人井上宗太に嫁し弟廣清(同二  
 三、九生)は分家し叔父保之廣(同五、五生)は同縣士族伊  
 藤かめの入夫となれり(上田市七軒町)  
 參照 伊佐早信の項

**早川 萬一** 宮城縣農工銀行取締役、東洋  
 物産會社取締役、東北印刷監査  
 役員、宮城縣士族  
 妻 ちやう 安政六、三三、生、岐阜、士、戸田鏡  
 之助妹  
 男 智雄 明三三、八生、兵庫、二宮秀叔母  
 女 智子 大三、八生、長男智雄妻、新潟、  
 蕪木元資妹  
 君は山口縣士族早川萬一にして明治八年三月一  
 日を以て生れ故仙臺市長先代智寛の養子となり大正七  
 年家督を相続す明治三十四年東北帝國大學農學科大學畜  
 産科を卒業し早川牧場を経営し現時宮城縣農工銀行東  
 洋物産會社東北印刷會社等の重役たり長女いち(明三  
 八、一〇生)は東京府人竹添辰信に次女あり(同四一、一  
 〇生)は廣島縣人片山三三に養子つる(同二二、九生)  
 は熊本縣人安田昌治弟等に嫁し養父清治(嘉永三、一  
 〇生)養弟退蔵(明二六、六生)同(同三〇、六生)  
 は各分家し實兄福原榮太郎榎谷三三同榎木勘八郎は各  
 實業に従事し實妹すは時學博士早川長兵衛に妻妹菊  
 は同川上漸に嫁せり(仙臺市花壇一電五七四)  
 參照 榎木勘八郎、戸田鏡之助、榎谷三三、桂井三  
 ※戸田直温、戸田良直、早野龍三、盛田久左  
 衛門の項

**早川 德次郎** 早川德次郎本店代表社員、金物  
 商、大阪府在籍  
 妻 つね 明一〇、一〇生、大阪、田中宇之  
 松養母  
 男 藤太郎 明四一、四生  
 女 明四一、四生、二男藤太郎妻、宇  
 谷重兵衛長女  
 君は大府人早川半兵衛の長男にして慶應二年十一月  
 十四日を以て生れ明治九年家督を相続す金物商を營み  
 早川德次郎本店代表社員たり家族は尙孫徳弘(二男藤  
 太郎長男)同徳重(昭九、一〇生、同二男)あり養子鹿之  
 輔(明二五、二生、下村庄重郎三男)は同妻養子君枝  
 (同二九、二生、植木治郎兵衛二女)と共に其一女を伴  
 ひ分家せりA九八二(大阪市安堂寺橋通二ノ二八電船  
 場七〇四)  
 參照 植木治郎兵衛の項

**早川 正利** 川崎銀行總務部支店長  
 茨城縣士族  
 妻 ちやう 明一七、一二生、茨城、大部隆姉  
 男 巖 明四四、九生  
 女 ふみ 明四二、五生  
 女 いと 大正、八生  
 君は茨城縣士族早川利信の長男にして明治十四年六月  
 二十五日を以て生れ大正十一年家督を相続す現時川崎  
 銀行總務部支店長にして義に青山支店長たり家族は  
 尙二男潤(大六、四生)三男管(同二一、七生)あり父利  
 信(萬延元、六生)は分家し妹す(明二三、三三)は東  
 京府人戸賀鐵太郎に嫁せり(東京市牛込區市ヶ谷谷町  
 六八)

**早川 彌五郎** 若原屋、地主  
 東京府在籍  
 祖父 德次郎 安政二、五生  
 祖母 たけ 安政二、五生  
 母 明一五、六生、埼玉、白根吉太郎妹  
 君は東京府人早川貞助の長男にして大正四年六月二十

一日を以て生れ大正十年家督を相續す若荷屋と稱し地  
主たり家族は尚姉きし子(明四四、三三)同夫重吉(同  
四一、九生、婿玉、思田利太郎二男ありA三三五(東  
京市牛込區山伏町二九〇電牛込一五一六)

早川芳太郎

日本郵政局長、横濱生命保險、  
早川ビルプロローカ、多摩川砂利  
木材鐵道各社取締役、大東證券、  
エル・レイボ、商會各社役員  
取材所理事、東京府在籍  
明四五、二生  
男 和子 大六、一〇生  
女 治子 大八、五生

君は元江戸の刀劍商苗村金治の長男にして明治十六年  
十月を以て生れ東京府人早川徳利先代松之助の養子と  
なり大正七年分れて一家を創立す夙に慶應義塾を卒業  
し東海銀行に入り付録長に累進せしが大正七年早川  
ビルプロローカ銀行を創立して自らその取締役となり  
現在に至り傍ら前記各會社の重役にして東京米穀商會  
取引所理事長に就任す兼に開運ビルディング監査役及  
東京株式取引所商議員たりしことありA五四三二(東  
京市牛込區市ヶ谷船河原町一電牛込一六三三)  
參照 早川徳利の項

早坂一郎

正五位勳六等、理學博士、臺北帝  
國大學教授、理農學部勤務  
宮城縣在籍  
父 哲郎 慶應元、九生、現戸主  
母 明三、七生、宮城、菊地寛治妹  
妻 てる 明三一、三三、宮城、伊藤正妹、  
宮城縣第一高女出身  
男 泰次郎 大八、三三  
女 秀子 大八、三三

君は宮城縣人早坂哲郎の長男にして明治二十四年十二  
月を以て生れ大正四年東北帝國大學理學部地質學科  
を卒業(恩賜賞を受領)し同大學講師を経て同九年助教  
教授に任せられ同年理學博士の學位を授けらるる等、臺  
灣總督府高等農林學校教授兼東北帝國大學助教となり  
り獨逸英米各國に留學し昭和三年臺北帝國大學教授に  
任じ理農學部に勤務す家族は尚二女道子(大一一、七  
生)三男祥三(昭三、一一生)三女惠子(同五、一〇生)

第二郎(明三〇、九生、法學士)同妻小市(同三六、二  
生、岡山、雲岡常藏三女)と其子弟三郎(同三三、一  
生、商學士)同四郎(同三六、一一生、經濟學士)同妻あ  
き(同三九、九生、宮城、追信太郎姉)弟設置(大一一、  
〇生)あり姉のぶ(明二二、九生)は宮城縣人法學士辯  
護士平山六之助に妹よし(同二七、一一生)は福岡縣人  
野田信之に同仁子(同三九、一一生)は岩手縣人法學士大  
内文雄に叔母かつる(同四、二生)は宮城縣人及川今四  
郎に同かつよ(同一一、五生)は同縣人高橋丈之助に嫁  
せり(臺北帝國大學理農學部内)

早坂金次郎

昭和銀行出納係長  
東京府在籍  
妻 キク 明二、一〇生、東京、森久三郎妹  
男 啓 大九、一一生

君は東京府人早坂清治の長男にして明治十七年五月を  
以て生れ同十年家督を相續す夙に私塾高晉會に學  
び英漢數學を修め明治四十一年豊國銀行に入り吉野町  
支店長に進む後同行の合併せらるるや昭和銀行吉野町  
支店長に就任し現時出納係長たり家族は尚二男博之  
(大一一、三三)二女周子(同一二、七生)三男順夫(昭  
四、六生)あり(東京市小石川區音羽町五ノ一七)  
參照 磯野銀策の項

早崎

正五位勳五等、陸軍歩兵中尉、松  
山高等學校教授、高知縣士族  
妻 玉 明一五、八生、高知、濱田正之長女  
男 勇 明三四、三三

早瀬

右近衛軍務專務取給役、日本海上  
保險監査役、福井縣士族  
妻 花江 明二、一〇生、福井、宮永學而妹  
男 道雄 大二、一〇生

多敷子 明四二、一一生  
女 朝子 明四四、七生  
女 松子 大七、一一生

早瀬太郎三郎

大阪府多額納稅者、桐花興業、木  
津川土地運河、大神中央土地各  
取給役、八馬汽船、富山紡績、早  
瀬商店各社役員、今木屋、資  
地業、大阪府在籍  
父 文二 二一、一〇生、大阪、深澤宗吉  
母 キキ 二女  
妻 喜美 明二五、一〇生、兵庫、八馬兼介姉  
男 正郎 大七、一〇生

早田

正五位勳五等、朝鮮總督府  
京城地方法院檢察官、長崎縣在籍  
妻 福藏 明二六、三三、長崎、日高利吉孫  
男 毅夫 大一一、三三  
女 糸子 大八、三三

君は長崎縣人早田淺松の二男にして明治二十三年九月  
を以て生れ大正九年家督を相續す同六年東京帝國大學

法科大學獨法科を卒業し朝鮮總督府司法官試補に任じ  
爾來同判事平壤京城清津各地方法院檢察官大邱審判法  
院檢察官に歷し全州地方法院檢察官を経て現時京城地方  
法院檢察官たり家族は尚三女美津子(大一一、一一生)二女  
綾子(同二〇、一一生)四女不二子(昭四、七生)あり  
(京城府西小門町京城地方法院内)

早野 二郎

兵庫縣在籍  
祖母 子 嘉永六、七生、大阪、鹿野藤助四女  
君は大阪府人先代早野榮三郎の二男にして明治三十一年  
二月十一日を以て生れ大正四年大阪商業學校を卒業  
す現時住宅經營を營み家主たりA八七六(兵庫縣武庫  
郡精道村芦屋辰新田六八一ノ一電青屋三二六九)

早野 龍三

從四位勳三等、醫學博士、京城帝  
國大學教授、醫學部勤務  
岐山縣在籍  
妻 たを 明二〇、八生、岐阜、土、戸田鏡  
之助五女  
男 二郎 大八、五生  
女 エリサ 大四、一〇生

君は岐阜縣人早野龍左衛門の長男にして明治十四年五  
月十日を以て生れ同二十五年家督を相續す同十四年東  
京帝國大學醫學部眼科を卒業し同大學副手同助手を  
經て同四十五年獨逸に留學し眼科を専攻し歐洲各國を  
視察し大正二年歸朝後朝鮮總督府醫院醫官に任じ眼科  
長となり京城醫學專門學校教授を兼任し現時京城帝國  
大學教授にして瀛に同附屬醫院長たり大正九年より同  
十年迄再度の歐洲留學を爲し同十年醫學博士の學位を  
受く家族は尚三男三郎(大一一、三三)あり長女日出  
(明四三、一一生)は東京三井生命保險會社員尾通に嫁  
せり(京城府西大門一丁目官舎八號)  
參照 戸田鏡之助、戸田直直、戸田良直、盛田久左  
衛門、早川萬一の項

早房 長徳

王子製紙能率課長  
東京府在籍  
妻 こと 明二、一〇生、静岡、中村九十郎  
四女、縣立沼津高女出身  
男 長義 明四一、一〇生、北海、水電氣會  
社社員、中大出身

君は埼玉縣人先代藤林の長男にして明治十四年十二月  
十九日を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十年  
東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大正九年新澤縣  
村松中學校教諭に任せられ同縣立中學校を経て同十年  
小千谷中學校長となり長岡高等工業學校教授を経て昭  
和五年新潟縣立大學學生課長に任じ現在に至る家族は  
尚四男春洋(大八、二生)長女文代(同一一、一一生)五  
女信夫(同一一、一一生)二女アイ子(昭四、一〇生)弟龜  
雄(明二三、四生)同妻とし(同三三、八生、埼玉、三上  
重徳二女)及其一男三女あり三男俊三(大六、一一生)  
は東京府人内海梅三郎の養子となれり(新潟市旭町通  
一番町新潟醫科大學内)

早船 慧雲

正五位勳六等、新潟醫科大學學生  
課長、埼玉縣在籍  
妻 なを 嘉永六、二生、埼玉、宇田川藤七妹  
男 正通 明二八、五生、茨城、塚田藤美三女  
女 正 大二、一〇生

早船 彦三

尾屋、刺業  
東京府在籍  
妻 梅子 明三六、二生、東京、大橋駒吉養子  
男 正彦 大七、一〇生

君は東京府人早船高太郎の長男にして明治二十四年八  
月十二日を以て生れ大正十五年家督を相續す尾屋と稱

早山 與三郎

新潟縣多額納稅者、新潟興業貯蓄  
銀行、石油共同賣所各社役員  
日米油運代基社員、石油採掘業  
新潟縣在籍  
妻 ヨミ 明二、一〇生、新潟、山崎治三  
明二六、五生  
男 洪二郎 明三六、一〇生、長男洪二郎妻、  
東京、今北策之助二女





ハ之部 林

二年歸朝愛知醫科大學教授に任ぜらる昭和四年勲任官を以て特選せられ同六年名古屋醫科大學教授に轉任同八年千葉醫科大學教授となり現在に至る家族は尙二男爲實(大九、八生、東京府立一中在學)二女千枝子(大一一、九生)あり(千葉縣千葉郡都村千葉醫科大學内)參照川藤和太郎の項

林 郁彦 從三位勳二等、醫學博士、前長崎醫科大學長兼教授、山口縣土族 妻 明九、一〇生、故大阪府立第一高等女學校出身 女 明四、五生

君は山口縣土族岩本小五郎の三男にして明治十二年三月を以て生れ福林家を繼ぐ同三十八年京都帝國大學醫學部醫學科を卒業し長崎醫學專門學校教授となり病理學研究の爲め獨逸に留學す大正五年醫學博士の學位を受け同十二年長崎醫科大學教授兼附屬醫學專門部教授同學生監に任ぜられ同十四年長崎醫科大學長兼教授に任ぜらる昭和九年これを辭し現時同地に在り家族は尙三男三郎(大八、一〇生)三女千世子(同一、一〇生)四女佐智子(同一、四、八生)あり(長崎市新中川町三八電三三〇)

林 幾太郎 大倉火災海上保險總社長、留學鐵道總務課長、共起起業監査役 妻 明三、三三、三三、大坂、木村成太郎 女 明三、三三、三三、大坂、木村成太郎

君は大分縣人石井賢平の二男にして慶應二年五月を以て生れ先代俊久の養子となり明治四十五年家督を相繼ぐ同二十三年東京高等商業學業を卒業し鐵道局總務課に奉職し後日本海陸保險會社支配人となり同十二年より三十四年迄代理店監督として倫敦に駐在す同社解散後日本火災保險會社支配人に就任同十二年聘せられて大倉組保險部長となり滿洲本溪湖煉鐵公司理事兼會社常務取締役を経て昭和二年大倉火災海上保險會社社長に轉じ今日に至る傍ら前記諸會社の重役を兼ひ兼に北緯石油奉天電車各會社取締役たりし事ありA一八八九(東京市牛込區市谷加賀町二ノ一八電牛)

林 榮三 橋本電機社長、活版機械製 妻 明二、五、一〇生、東京、加藤百三 女 明三、三三、三三、大坂、木村成太郎

君は北海道人木藤良吉の長男にして明治十六年七月二十三日を以て生れ長崎商業出身にして同二十四年先代編兵衛の養子となり大正十四年家督を相繼ぐ林榮三と稱し活版機械製造業を營む外前記會社の社員たり家族は尙二女貞子(大一一、〇、八生)ありA三八〇(東京市芝區西久保城山町電芝一〇六八)

林 音吉 京都府在籍 妻 明二、七、六生、愛知、磯村實治郎 女 明三、二、五生

君は京都府人林竹治郎の長男にして明治八年一月四日を以て生れ同十六年家督を相繼ぐ吳服商を營む家族は尙孫善治(大四、一、二生、長男房)長男同千鶴子(昭二、七生、同長女)同喜代子(同六、一、二生、同二女)あり長女ミネ(明三三、一〇生)は京都府人葛野正信の養子となり二女由枝(同三五、八生)は同府人山中喜三郎に四女光(同三九、二生)は同府人荒木達三郎に嫁せりA八八〇(京都市小石原ノ木町一電西陣三〇〇一)

林 嘉作 醫學博士、醫師 妻 明三、五、五生 女 明三、五、五生

ハ之部 林

君は分縣士族林家八の七男にして同徳司の弟に當る明治十五年三月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す風に實業界に入り現時名古屋均一タクシー會社社長たる外大成無盡名古屋酸素各會社の重役たり兼に三重合同電氣會社名古屋支店長たりし事ありA四〇七(名古屋市東區撞木町一ノ三電東一六三)參照川藤和太郎の項

林 市藏 從四位勳三等、關西土地、熊本電氣各會社取締役、大阪電氣軌道、參 妻 明二、一〇生、靜岡、市河三三 女 明三、七、九生

君は熊本縣士族林慎蔵の長男にして明治三年十一月を以て生れ同七年家督を相繼ぐ同二十九年帝國大學法政大學政治科を卒業し警務監獄學校教授兼内務省參事官廣島新潟各縣内務部長三重山口大阪各縣知事等に歴任し兼に大阪商業會議所議員に推され東洋拓殖會社理事日本信託銀行頭取大阪堂島米穀取引所理事となる現時前記諸會社の重役たり象と稱し俳句を能す家族は尙五男壽郎(大四、八、八生)六男謙郎(同八、一、一〇生)あり長女喜惠(明三五、六、六生)は大分縣人重光榮に嫁せりA二八八八(兵庫縣武庫郡本山村同木一〇六電御影三六一〇)參照川藤和太郎の項

林 員良 小間物商 妻 明一、七、一〇生、香川、林多平三女 女 明四、一、五生

君は千葉縣人先代良吉の長男にして明治九年十月二十九日を以て生れ同三十一年家督を相繼ぐ醫學博士にして醫師たり家族は尙三男卓(大一一、〇、一〇生)二女珍(同一、二、四生)三女葉(同一、五、一〇生)弟喜作(明一四、三、一〇生)及其五子あり長女環枝(同三七、九、九生)は千葉縣人小林順一に嫁せりA一三〇三(京都市中區區敷屋町押小路下ル電本局五二八〇)

林 角吉 從四位勳四等、前千葉醫科大學助 妻 明六、一、二生、千葉、桐谷千代三 女 明三、三、三、大坂、木村成太郎

君は千葉縣人林利左衛門の二男にして慶應二年十一月を以て生れ大正三年兄利吉方より分れて一家を創立す明治二十八年第一高等學校醫學部を卒業し同四十四年千葉縣技師となり大正十三年千葉醫科大學助教授に任ぜられしが後之を辭し現時閑地にあり(千葉市本町)

林 要 大阪府在籍 妻 明元、一、一〇生、大阪、川島カネ長女 女 明二、一、一〇生、大阪、川島カネ長女

君は大阪府人林武治郎の長男にして明治二十七年三月二十一日を以て生れ大正二年家督を相繼ぐ家主たり家族は尙妹和子(明三三、九、九生)ありA一五六〇(大阪府天王寺區區悲田院町三八二五電天王寺一五二〇)

林 鎌次郎 從五位、山形縣女子師範學校校長兼 妻 明三、五、五生 女 明三、五、五生

ハ之部 林

君は東京府人林八の長男にして明治四十五年七月十一日を以て生れ大正十二年家督を相繼ぐ昭和五年錦城商業學校を卒業す現時林商店合資會社代表社員たり家族は尙叔父民憲(明二六、一、二生、先代八四男)同妻コマ(同三五、一、一〇生、東京、家田萬吉妹)從弟(大一一、二、二生、民憲長男)ありA四五六(京都市本所區石原町二ノ四電龜田一三八)

林 卯吉 林商店代表社員 妻 明一、八、二生、埼玉、熊倉新之助 女 明一、八、二生、埼玉、熊倉新之助

君は和歌山縣人鈴木泰蔵の三男にして明治十年十月四日を以て生れ先代即藏の養子となり大正五年家督を相繼ぐ前名八彌を改め眞名洋倉掛御商を營む長女鶴子(明四五、二、二生)は大坂に分家し三女壽賀子(大六、六、六生)は大坂府人桑田三郎に養子せりA三七九三(大阪府東區唐物町四ノ一二電船場一五九八)

林 榮作 從四位勳四等、逓信省嘱託 妻 明二、五、五生、山口、士、長井市 女 明二、五、五生、山口、士、長井市

君は山口縣士族林茂登の長男にして明治五年三月を以て生れ同二十年家督を相繼ぐ同二十六年逓信省嘱託となり同三十年日本法律學校を卒業す現時逓信省事務官經理

林 寛 金銀業 妻 明一、六、一〇生、岐阜、後藤利彦 女 明一、六、一〇生、岐阜、後藤利彦

君は大阪府人林寛の長男にして明治四十二年十二月二十四日を以て生れ昭和七年家督を相繼ぐ前名太郎を改め眞名す現時金銀業を營む家族は尙二男健二(昭八、七、七生)弟大郎(大元、九、九生)妹規代(同五、一〇、一〇生)ありA二八八六B四九二(大阪府南區谷町筋六ノ八電東三九六二)

林 紀一郎 東京府多額納稅者、地主 妻 明三、八、九生、東京、土、松坂三女 女 明三、八、九生、東京、土、松坂三女

君は祖父舊幕臣林欽次は元大阪の人利殖の途に明にして幕末土地を購入し以て當家の基を起す先代謙三は其男にして辯護士となり嘗て衆議院議員に擧げらる君は謙三の長男にして明治三十三年一月一日を以て生れ同四十四年家督を相繼ぐ地主にして直接國稅四千四百五十七圓を納め東京府多額納稅者に列す家族は尙弟達次郎(明三九、五、五生)妹季子(同四二、四、四生)あり姉園子(同三〇、二、二生、東京、女子師範出身)は長野縣人伊藤信愛に同枝子(同三一、一〇生、出身校同上)は岐阜縣人堀川寛正に妹博子(同三五、八、八生、聖心女子學院出身)は愛知縣人加藤貞頭に同桂子(同三八、三、三生、出身校同)

ハ之部 林

(※印は姻族關係)



を以て生る現に推されて倉敷商工會議所議員たる他林源十郎商店倉敷紡績會社取締役(大正三、五)は外祖父桂彌一の養子となり(兵庫縣武庫郡住吉村觀音林電報四四八六)

林 健 大分縣士族 妻 エヒ 明六、九生、長崎、菊池伯英長女 男 協 明三五、七生、三井銀行員、慶大 婦 藤子 大元、九生、四男協妻、男爵田篤 男 藤 明四一、一〇生、三井信託社員、 大八、八生、五男藤妻、樋口秀雄 女 三女

君は大分縣士族林大八の長男にして同徳司同様の兄なり文久三年十月を以て生れ明治十六年家督を相続す夙に舊中津藩より選拔せられて東都に遊學し明治二十二年帝國大學法科大學を卒業し後神戶長崎等に於て探検界に活動し同二十九年三井銀行に入る翌年下關支店支店長となり三井吳服店監査役を兼ね同四十年銀行組織及金融事業調査の爲め歐米に派遣せられ歸朝後三井家の組織變更と共に三井銀行取締役三井物産會社監査役東神倉庫會社取締役三井合名會社重役王子製紙會社取締役等に就任し現時同地に在り長女(明二六、一〇生)は醫學博士九大教授同病院院長小野寺直助(二女嘉美(明三四、四生、東京女學校出身)は那須アルミニウム製造會社社長那須敏之に三女(明四四、四生、精華高女出身)は山口八左右二男三郎に嫁し弟徳司同様に各分家せりA六一〇〇(東京市麹町區三番町一電九段四一六)

男 博次 大六、五生 女 ウツタ 明四四、三生 君は三重縣人佐野精一の弟にして明治十七年十二月十二日を以て生れ先代歌次郎の養子となり同四十年家督を相続す同三十七年陸軍砲兵少尉に任じ昭和八年同少將に昇進す其間造兵廠大阪丁廠鐵材製造所長同彈丸製造所長陸軍省兵器局銃砲課長等に歴補し昭和八年現職に轉ず(東京市淀橋區上落合一ノ五一七電大塚三九四七) 參照 佐野精一の項

林 源十郎 山縣多額納稅者、林源十郎商店 妻 浦 明五、三生、岡山、山川鐵藏長女 男 彪太郎 明三三、一〇生、香川、鈴木幾次郎 女 幹子 明三三、五生、香川、鈴木幾次郎 男 平三郎 明三六、一〇生 女 育 明四〇、三生、三男平三郎妻、山口、廣津藤吉三女 男 欣四郎 明三八、一〇生 女 幸 明三四、九生、四男欣四郎妻、滋賀、米澤尚三三女 男 清五郎 明四二、一〇生 女 孝子 大八、八生、岡山、水河序平長女 男 六郎 明四五、四生 君は岡山縣人林秋平の從兄にして慶應元年二月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す夙に實業界に入り諸會社の重役に擧げられし事を創立し林源十郎商店に就任し直接國稅五百三十九圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫直一(昭四、五生、三男平三郎長男)同全一(同三、二生、四男欣四郎長男)同基二(生年月日同上、同二男)あり長女あき(明二三、九生)は廣島縣人宮野容吉に二女富貴(同三三、四生)は京都府人井上隆一に養子愛一(同二四、一〇生、岡山、佐々木新米二女)は岡山縣人馬場源に嫁せりA七一二(倉敷市本町電六)

林 狷之介 正五位勳三等、陸軍少將、造兵廠 妻 美母 明二一、一〇生、東京、林金之助 女 明二一、一〇生、東京、林金之助 女 明二一、一〇生、東京、林金之助

林 源三郎 林源、顔料製造業 妻 ハナ 明二三、三生、奈良、松山、嘉次郎二女 女 養子 市太郎 明二五、一〇生、京都、松岡清兵衛五男 女 李 明二八、五生、養子市太郎妻、奈良、柳生彦藏妹 君は京都府人林新兵衛の長男にして安政六年十一月八日を以て生れ明治二十六年陸軍林氏を再興す林源と稱す 參照 林慶吉の項

林 小兵衛 林宅代表社員、地主 妻 トリ 慶應二、六生、東京、倉本巳之助妹 女 京子 明二六、一〇生、東京、川口宗七 君は東京府人先代小兵衛の長男にして明治十八年六月十三日を以て生れ大正六年家督を相続し號名して前名小三郎を改む先代小兵衛は元大阪府下の農家藤田辰造の三男にして夙に大阪に出で藥種商林氏に奉公し其一族小兵衛の死跡を相続し前名小三郎を改む後東京に出で米穀仲買商の一店員より身を起し株式界に縱横の機あり(滋賀縣飯田郡長濱町)

林 五作 林五商店代表取締役、靴商 君は大坂府士族林治作の兄にして明治八年三月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す靴商を營み林五商店代表取締役にして大坂府多額納稅者に列すA九〇五B一四四一(大坂市東區北久太郎町四ノ四五電南二一〇)

林 幸三郎 岡谷倉庫、岡谷製絲、山共製絲各 妻 市十 嘉永三、一〇生 女 重一 明一七、一〇生、長野、小原民吉 男 一之 明四一、一〇生 女 春枝 大八、五生 君は長野縣人林市十の長男にして明治十年十二月を以て生れ大正十年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙五男四郎(大四、一〇生)三女ひで(同二、一〇生)六男寛(同二五、四生)あり三男治壽(明四一、三生)は分家し長女愛子(同三五、一〇生)は長野縣人黒河内優三に姉きく(同七、八生)は同縣人宮坂幸一郎に嫁せり(長野縣飯田郡平野村)

林 耕造 正五位勳四等、地方海員審判所審 妻 美穂 明二六、一〇生、福井、須田亮三 女 茂 大八、五生、福井、林軍三三男 君は福井縣人林昇平の三男にして明治十二年十月を以て生れ昭和四年兄昇平より分れて一家を創立す明治三十六年商船學校航海科を卒業し日本郵船會社に入り北見丸丸相機丸松山丸阿波丸丸因幡丸等の各船長を経て大正十年通信局長兼地方海員審判所審判官となり昭和六年現官に轉じ現時門司地方海員審判官並に熊本通信局長に勤務す(熊本市大久保町一五六七電四三八)

林 幸作 從五位勳五等、判事、長濱區裁判 妻 シツ 明二六、一〇生、千葉、鈴木一夫姉 男 秀夫 大八、三生、縣立彦根中在學 女 ヒサ 大五、一〇生 君は千葉縣人にして明治二十年一月十五日を以て生る大正二年東京帝國大學獨法科を卒業して同三年二月司法官試験に任じ翌四年十月判事に任官す爾來神戸區高知地方田邊區大津地方大坂區奈良區各裁判所判事を歴任し現時長濱區裁判所判事たり讀書散步等に趣味を有す家族は尙二女ミツ(六一〇、六生、縣立長濱高女在學)

林 幸平 三城運常取締役、本店仕入部長 妻 ヨシ 明二四、七生、群馬、原勢鏡之助 君は大坂府人にして明治十三年二月五日を以て生る同三十七年陸軍士官學校を卒業し砲兵少尉に任じ昭和三年同大佐に同七年陸軍少將に累進す其間深山重砲兵聯隊長野重砲兵聯隊長野重砲兵第二聯隊長基隆要塞司令官等に歴補し現時野重砲兵第三旅團長たり(千葉県葛飾郡市川村野重砲兵第三旅團内) 參照 北岸嘉三郎の項

林 權助 從二位勳一等、男爵、樞密顧問官 妻 コタケ 明六、三生、青森、土、關場不二彦妹 男 安 明二七、二生、正五位、法學士、公使館二等書記官、中華民國在勤 女 大 明三〇、七生、長男安妻、伯爵上杉憲章妹 男 警人 明三二、五生 男 不二雄 明三五、六生、三井物産勤務、法學士 君は舊會津藩士林權助の孫にして萬延元年三月を以て

生れ幼にして孤となり具に辛苦を嘗む明治二十年帝國大學法科大學政治科を卒業して外交界に入り公使館一等書記官通商局長駐韓駐清各特命全權公使に歴任し同四十年華族に列し男爵を授けらる後特命全權大使に任じ伊太利に駐在し大正五年特命全權公使を兼任して支那駐劄仰付けらる次で關東長官となり更に全權大使として久しく英國に駐劄せしが特命となり後式部長官に任ぜられしが昭和九年七月樞密顧問官に親任今日に至るに當り家族は尙孫安之(大一、三、五、長男安長男)同安容(同一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)

林 左治兵衛 フタバ商店、美術雜貨商 東京府在籍  
 妻 忠 慶應三、二生、養父左治衛養女  
 男 二 郎 明二八、九生  
 女 政 明三四、一、二生、京都、堀井萬次郎三女

君は兵庫縣人林龜之介の二男にして明治三十六年三月十七日を以て生れ大正十三年家督を相続す林油店主たり家族は尙長女鈴子(明四、四生)二女秀子(同七、五生)ありA三五四(神戸市須磨區須磨浦四)一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)

林 作太郎 家主 大阪府在籍  
 繼母 ヤエ 明一五、一〇生、大阪、小野村道三郎長女  
 妻 九 明三四、九生、滋賀、有川市郎兵衛長女  
 君は大阪府人林半造の二男にして明治十八年十二月二十八日を以て生れ大正六年家督を相続す家主たり家族は尙二女伊登榮(大一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)

林 貞治郎 家主 東京府在籍  
 妻 隆 明四、四生、埼玉、林清吉長女  
 男 隆 明三八、七生  
 女 隆 明二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)

林 茂樹 正四位勳三等、朝鮮殖産銀行經理 廣島縣在籍  
 繼母 チタ 安政六、二生、廣島、宮野春之助  
 妻 壽 明二七、一、長崎、國分建見孫  
 男 新太郎 大五、七生

林 茂藏 林屋、人形商 東京府在籍  
 繼母 フミ 明二八、八生、神奈川、林田千代松三女  
 君は東京府人先代茂藏の二男にして大正三年一月十七日を以て生れ昭和八年家督を相続す前名茂助を改め名ナ林屋と稱し人形商を營む家族は尙弟英作(大一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)

林 繁吉 北海金融、昭和開拓各務事務取締 役、海島島漁業拓殖取締役 新潟縣在籍  
 妻 トモ 明一二、三、養祖母チイ孫  
 男 一 雄 明三一、一、生  
 女 鶴 明三八、九、長男一雄妻、北海新道、眞鍋宇三郎孫

林 茂清 正五位勳三等功四級、陸軍少將、豊橋陸軍教導學校長  
 妻 春千代 明二一、二、長崎、上、陸軍少將中村無一二女、遊藝縣立大津高女出身

林 茂増 正五位勳六等、陸軍教授、陸軍士官學校教授、東京府七族  
 妻 タニ 明二〇、九、熊本、士、匡康男姉  
 男 太郎 大七、一〇、生、府立一中在學  
 女 梅 大五、三、生、實踐高女出身

林 繁治 地主 京都府在籍  
 妻 さだ 明二三、八、東京、青池芳次郎二女  
 男 茂 雄 大二三、三、生







長壽三女)及其三子弟和夫(明三七、八生)同妻(大正二、一一生、岐阜、清水金一郎)あり(東京市麹町區車町一官舎電九段三二六)

林 博太郎 正三位勳二等、伯爵、文學博士、貴族院議員、文政審議會委員、南滿洲鐵道總裁、東京府華族

母 志津 正也長女 妻 友春 大正、二生、埼玉、土、田島

當家は先代友幸より顯る友幸は舊山口藩士にして維新の際國事に盡せし後元老院議員貴族院議員宮中顧問官

林 春雄 正三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府在籍

妻 越路 明三、四生、東京、土田新太郎

林 房次郎 近江屋、蚊帳蒲團類卸商 東京府在籍

母 房次郎 明一、八生、岐阜、田中善次郎

君は東京府人林房次郎の長男にして明治四十三年三月を以て生れ昭和五年家督を相続前名誠一を改め誠名す

林 文左衛門 河文、刺業 愛知縣在籍

男 文之助 明二、八、五生 妻 文之助 明三、六、一〇生、長男文之助妻、

君は愛知縣人先代文左衛門の長男にして文久元年九月を以て生れ明治九年家督を相続前名河文と稱し刺業

林 文太郎 旭電氣社社長 山口縣在籍

妻 トミ 萬延元、一一生、山口、土、永津餘

君は山口縣人林平右衛門の長男にして文久元年十月を以て生れ山口漢學塾に學を修むること多年明治三年

林 平四郎 勳三等、貴族院議員、下關商工會議所所長、山口縣多額納稅者、下關瓦斯社長、山口縣電氣軌道社長、

妻 佳介 明四、二、一〇生、養子佳介妻、亡長

君は山口縣人林平四郎の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正十五年家督を相続前名一美を改め誠名

林 平造 大和索道、福宜鐵業、大和酒造、凍豆腐各社社長、奈良信託監査

妻 平造 明二、五、七生、兵庫、末井藤子長

君は奈良縣人先代平造の長男にして大正五年家督を相続し前名徳太郎を改め誠名代々鐵山業を營む現時大和

林 秋 明四、二、一〇生、三井鐵山會社書記、經濟學士

女 孝子 明四、一、四生、帝大醫學部在學

君は愛知縣士族二宮殿の二男にして明治十年二月を以て生れ先代茂雄の養子となり大正八年家督を相続す

林 半助 廣島縣多額納稅者、額納稅者社長 廣島縣在籍

妻 保之 大正、九生、木村專之助三男

君は廣島縣人先代半助の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正十五年家督を相続前名一美を改め誠名

林 彦一 正四位勳二等功四級、陸軍中將 山口縣士族

妻 チヨ 明一、五、九生、山口、栗屋幹二

君は山口縣人彦一の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正十五年家督を相続前名一美を改め誠名

林 平太 東亞印刷取締役、南國護謨監査役、鹿兒島縣士族

妻 素枝 明四、四、八生

君は鹿兒島縣士族和南素人の三男にして明治六年三月を以て生れ先代佐七郎の養子となり同十一年家督を相続す現時東亞印刷取締役たる外前記會社の重役たり

林 平造 大和索道、福宜鐵業、大和酒造、凍豆腐各社社長、奈良信託監査

妻 平造 明二、五、七生、兵庫、末井藤子長

君は奈良縣人先代平造の長男にして大正五年家督を相続し前名徳太郎を改め誠名代々鐵山業を營む現時大和

林 政武 北國新聞社長 石川縣士族

妻 八重 明三、二、六生、石川、土、神保八

君は前北國新聞社長林政通の孫なり政通は松本藩士林政美の二男にして明治十九年信濃中館を創設し館長となり

林 平馬 勳四等、衆議院議員(福島縣選出) 福島縣在籍

妻 邦 明二、七、一〇生、東京、武藏野右衛門長女

君は福島縣人林平馬の四男にして明治十六年十一月を以て生れ後分れて一家を創立す凡に日本大學及び日本

林 壽夫 從四位勳三等、南洋廳長官 岡山縣在籍

妻 ひさ 明一、七、七生、神奈川、北見常次郎

君は岡山縣人林源一の弟にして明治十四年五月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學法律科を卒業し同年文官高等試験に合格翌年愛

林 壽雄 野澤組支那人 東京府在籍

妻 満壽雄 明四、四、五生、成城高校在學

君は鳥取縣人林壽雄の二男同修己の弟にして明治十二年十二月二十九日を以て生れ後分れて一家を創立す野澤組が往時豊橋市に於て温美屋と稱したる時代に入店し勤業今日及び其の間倫敦支店長内地各支店長を経て現時野澤組支那人たり家族は向四女智子(大一一、二生)あり長女壽滿(明四三、五生、聖心女子學院出身)

林 壽雄 野澤組支那人 東京府在籍

妻 満壽雄 明四、四、五生、成城高校在學

君は鳥取縣人林壽雄の二男同修己の弟にして明治十二年十二月二十九日を以て生れ後分れて一家を創立す野澤組が往時豊橋市に於て温美屋と稱したる時代に入店し勤業今日及び其の間倫敦支店長内地各支店長を経て現時野澤組支那人たり家族は向四女智子(大一一、二生)あり長女壽滿(明四三、五生、聖心女子學院出身)

林 壽雄 野澤組支那人 東京府在籍

妻 満壽雄 明四、四、五生、成城高校在學

君は鳥取縣人林壽雄の二男同修己の弟にして明治十二年十二月二十九日を以て生れ後分れて一家を創立す野澤組が往時豊橋市に於て温美屋と稱したる時代に入店し勤業今日及び其の間倫敦支店長内地各支店長を経て現時野澤組支那人たり家族は向四女智子(大一一、二生)あり長女壽滿(明四三、五生、聖心女子學院出身)

林 壽雄 野澤組支那人 東京府在籍

妻 満壽雄 明四、四、五生、成城高校在學

君は鳥取縣人林壽雄の二男同修己の弟にして明治十二年十二月二十九日を以て生れ後分れて一家を創立す野澤組が往時豊橋市に於て温美屋と稱したる時代に入店し勤業今日及び其の間倫敦支店長内地各支店長を経て現時野澤組支那人たり家族は向四女智子(大一一、二生)あり長女壽滿(明四三、五生、聖心女子學院出身)

林 壽雄 野澤組支那人 東京府在籍

妻 満壽雄 明四、四、五生、成城高校在學

君は鳥取縣人林壽雄の二男同修己の弟にして明治十二年十二月二十九日を以て生れ後分れて一家を創立す野澤組が往時豊橋市に於て温美屋と稱したる時代に入店し勤業今日及び其の間倫敦支店長内地各支店長を経て現時野澤組支那人たり家族は向四女智子(大一一、二生)あり長女壽滿(明四三、五生、聖心女子學院出身)

林 壽雄 野澤組支那人 東京府在籍

妻 満壽雄 明四、四、五生、成城高校在學

君は鳥取縣人林壽雄の二男同修己の弟にして明治十二年十二月二十九日を以て生れ後分れて一家を創立す野澤組が往時豊橋市に於て温美屋と稱したる時代に入店し勤業今日及び其の間倫敦支店長内地各支店長を経て現時野澤組支那人たり家族は向四女智子(大一一、二生)あり長女壽滿(明四三、五生、聖心女子學院出身)



ハ之部 林

ハ之部 林

を経て同八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

林 將 治 長良川電化取締役

君は長野縣人林八彌の四男にして明治十七年十一月を...

林 雅之助 三位、伯爵、東洋織布社長

當家は先代重より家名を揚ぐ置は佐倉藩佐藤泰然の三...

林 彌三吉 從三位等功四級、陸軍中將

君は石川縣人林三三の長男にして明治九年四月を以て...

林 安 繁

君は石川縣人林文二郎の長男にして明治九年二月を...

次郎に叔母さよ(同元、三生)は同府人團師民務に再従...

林 路 一 衆議院議員(北海道選出)、旭川市

君は北海道人林福藏の長男にして明治二十三年八月一...

林 守 一 從四位勳三等、第八高等學校教授

君は福井縣人大井九郎の三男にして明治十八年五月...

林 盛 治 五位勳四等、判事、小樽區裁判

以て生れ同四十五年先代祖父安敬の後を受け家督を相...

林 安次郎 帝國製鐵、炭電機商會、炭坑水士

君は山口縣人林直七郎の長男にして慶應三年十二月十...

林 靖 三 正五位勳五等、專賣局技師、名古屋

君は東京府土族故陸軍少將林紀三の三男にして明治...

君は長野縣人林丈之助の二男にして明治九年六月十二...

林 八百吉 東京府在籍

君は鹿兒島縣人林唯右衛門の三男にして明治十九年十...

林 彌一郎 從五位勳三等、宮崎、長倉彌門長

君は宮崎縣人林芳太郎の長男にして明治十八年五月十...

林 雄 助 内外土地鑑定役、三林乾燥機製

君は徳島縣人遠坂平次郎の二男にして同佐七同幸衛の...

林 要 五 林染工場、染織業

君は徳島縣人林廣藏の四男にして明治五年二月十日を...

林 義 三 從五位勳六等、農事試験場技師

君は徳島縣人林廣藏の四男にして明治五年二月十日を...

ハ之部 林

ハ之部 林

大阪商工會議所議員、宇治川電氣、

近江鐵道各社社長、新興土地建物、

倉火災海上保險、阪和電氣鐵道、大

浅野雨澤炭礦、豊田商事、大阪電

機工務所、大阪商船、豊田商事、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

阪和電氣鐵道、阪和電氣鐵道、大

**林 典男** 昭三、一、一生  
君は富山縣士林高友の二男にして明治二十六年十二月三十日を以て生れ昭和二年家督を相続す大正八年東京帝國大學農學部農藝化學科を卒業し農事試験場技手となり同十年技師に進み現に其の職に在り昭和五年支那英領印度及歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙長女登美(大、三、三、三)二女ふく子(同一五、八)の外弟禮明三〇、二生、慈惠齋大出身(同妻富子(同四〇、一生、富山、高田虎太郎二女、富山高女出身)及其子女弟信(同四二、一生、東京美術學校出身)あり(東京市豊島區高田本町二丁目)

**林 嘉雄** 從三位勳二等、前製鐵所技師  
熊本縣士族  
安政三、三、生、熊本、士、丹勢貞  
母 嘉久 範長女  
妻 エイ 明一四、七、生、福岡、熊谷太次郎妹  
男 孝 大六、二、生  
女 秀子 明四三、一〇生  
女 澄子 大元、一〇生  
女 幸子 大三、一、生

君は熊本縣士林高門の長男にして明治九年一月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十四年東京帝國大學工學科大學を卒業し製鐵所技師に任じ同四十二年出張に差遣され大正八年同十四年の二回に互に支那に出張を命ぜらるる家族は尙長女(同一、一〇生)あり弟留雄(同一五、三)は分家し同妻(同一七、八)生)同妻セツ(同一六、二)生、熊本、士、中島忠雄妹)も亦其に其二子を伴ひ分家し長女照子(同四一、四)生)は長野縣人赤澤温に妹津津(同一二、四)生)は熊本縣人山田一衛に同ワカは同縣人平山繁多に嫁せり(福岡市新大工町電二八三)

**林 頼三郎** 從三位勳二等、法學博士、檢察、  
檢察總長、埼玉縣在籍  
妻 有章 安政五、三、生、現戸主  
妻 さだ 明一、二、生、現戸主  
妻 晃彦 大三、六、生、埼玉、三田幸司甥  
君は茨城州忍藩の儒者三輪禮三の四男にして同智の弟

なり明治十一年九月を以て生れ同三十七年林有章の養子となる同三十九年東京法學院法律科を卒業し判事任用試験に合格し同三十二年判事に任じ東京區同地方各裁判所判事東京地方裁判所部長官城控訴院判事仙臺地方裁判所部長官城控訴院判事大審院判事司法省刑務局長司法官懲戒裁判所職和二年檢察事に補せられ大審院部長を経て現時檢察總長たり養妹ふみ(明一四、一)生)は埼玉縣人三田清太郎二男昌治に同みち(同一七、一)生)は同縣人三輪智に同俊(同一〇、七)生)は同縣人中村成一郎に養姉つる(文久二、七)生、埼玉、林久五郎長女)は同縣人水村龜三郎に嫁し養妹八重(同一四、一)生)は分家せり(東京市牛込區南町一三電四谷一〇三三)

**林 利平** 吳商會議所副會頭、廣島縣多額納稅者、廣島縣合自動車、別府遊覽電車、廣島縣在籍  
妻 文久二、三、生、林九右衛門長女  
妻 サツキ 明一六、五、生、亡養父良平長女  
妻 好人 明三三、三、生  
妻 善 明二九、二、生、長男好人妻、廣島  
妻 惠 永井幾太郎妹  
妻 良 明四一、一〇生  
妻 松枝 明七一、一、生

君は廣島縣人高橋利吉の弟にして明治十八年二月を以て生れ先代良平の養子となり昭和五年家督を相続す現時前記諸會社の重役にして直接納稅九百六十五圓を納め同縣多額納稅者に列し推されて吳商會議所副會頭に擧げらるる養子(同一、一)生)孫長子(同一五、一)生、長男好人長女)あり長女シヅ(明三九、八)生)は廣島縣人永井三三雄に二女澄江(大元、一)生)は同縣人宮田正明に養妹タマノ(明二二、二)生)は同縣人中野梅吉二男寛一に同ツノ(同二四、一)生)は大府府人下常三郎長男龜太郎に同ツヨ(同二七、一)生)は廣島縣人林一人に養妹キキ(同一、一)生)は同縣人中津茂吉に嫁せり(吳市藏本通り七、二電三八)

**林 龍太郎** 辯護士  
兵庫縣士族  
明五、七、生、大阪、大三輪義一叔  
妻 龍 明四三、六、生  
女 比那 明三〇、五、生

君は和歌山縣士林周郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ大正十三年家督を相続す先是明治二十五年東京帝國大學法學部法科を卒業し辯護士を開設す又司法省の囑託に依り司法制度調査の爲め歐洲諸國を視察す二女智恵子(明三三、七)生)は和歌山縣人入江眞太郎に三女美代子(同三四、九)生)は佐賀縣人吉原政義に嫁し弟樂三郎(同七、二)生)同妻ツル(同一四、一)生、和歌山、堀江虎太郎長女)は其子女を伴ひ分家せり(兵庫縣川邊郡西谷村切畑尾山池田二二〇五)  
參照 入江眞太郎水取左内の項

**林 良吉** 兵庫縣多額納稅者、地主  
兵庫縣在籍  
妻 ちよ 安政六、五、生、兵庫、林利平長女  
妻 治 明二七、三、生、兵庫、栗山彌兵衛  
妻 一 大五、四、生  
妻 あさ 大五、四、生

君は兵庫縣人林良助の二男にして明治十六年二月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十二年神戸高等商業學校を卒業し地主にして直接納稅三千八百三十六圓を納め同縣多額納稅者たり家族は尙二男良平(大八、三)生)二女やす(同一〇、一)生)三男久三(同一二、一〇)生)あり(神戸市神戶區北長狭通四ノ外一電三三五四)

**林 六兵衛** 大阪合同事務取役  
大阪府在籍  
妻 ヨネ 明四二、七、生  
妻 道一 明三七、一〇生、長女松子夫、和歌山、栗原文右衛門四男  
妻 松子 明四〇、三、生

**林田 榮次郎** 熊本縣多額納稅者、北天草軌道  
取締役、農業、熊本縣在籍  
明一九、一、生、熊本縣多額納稅者  
妻 トヨ 明二三、二、生、長男榮妻、熊本、中島嘉平次三女  
妻 榮 大八、一〇生、長男榮妻二女  
妻 百世 大八、一〇生、長男榮妻二女  
君は熊本縣人吉井長平の二男にして安政四年九月を以て生れ先代忠平の養子となり明治十一年家督を相続す農業を營み直接納稅千五百四十八圓を納め同縣多額納稅者に列し前記會社の重役たり家族は尙孫百調江(大一一、一〇)生、長男榮妻(同四四、一)生、同七女)あり同文字(明四〇、三)生、同長女)は熊本縣人前田十次郎二男幸介に嫁せり(熊本縣菊池郡限府町)

**林田 千太郎** 村木商  
兵庫縣在籍  
妻 眞雄 明一三、五、生、岡山、田淵熊男姉  
妻 重五郎 明四四、一、二生

**林田 七五三二** 長崎縣多額納稅者、洋傘商  
長崎縣在籍  
妻 トシヤ 明五一、一、生、長崎、澁川勝松長女  
妻 俊孝 明七一、四、生  
君は長崎縣人澁川勝松の弟にして明治二十五年二月十四日を以て生れ大正三年先代俊三の養子となり昭和四年家督を相続す洋傘商を營み直接納稅千二百九十八圓を納め同縣多額納稅者に列す家族は尙二男俊輝(大一一、一)生)三男俊康(同一五、二)生)あり(長崎市東濱町電四六六〇)

**林田 精一** 日滿倉庫、撫順炭販賣各務監査役  
南滿洲鐵道理事、東京支社總經理  
課長、長崎縣在籍  
妻 しづ 明二八、八、生、鹿兒島、伊集院茂  
妻 正明 大二、八、生、東京農大在學

君は長崎縣人にして明治二十一年三月二十八日を以て生れ同四十四年東京高等商業學校を卒業す同年九月東洋折殖會社に入りし大正七年南滿洲鐵道會社に轉じ監察役理事監理部監査主任職務を歴し昭和七年十二月東京支社監理課長となり現前記會社の重役を兼ね今日に至る家族は尙正俊(大一一、一〇)生、麻布中在學)同正弘(明四四、六)生)同正英(同八、七)生)あり(東京市麻布區飯倉町三ノ一二電赤坂一四〇七)

**林田 隆壽** 福岡縣多額納稅者、農業  
福岡縣在籍  
妻 ナカ 明一〇、一、生、福岡、村上殿三郎姉  
妻 トヨ 明一六、六、生、大分、千原藤一郎長女

君は福岡縣人林田守隆の長男にして明治十二年十一月十三日を以て生れ大正十五年家督を相続す農業を營み直接納稅二千二百二十四圓を納め同縣多額納稅者たり養子正保(明三三、二)生、福岡、高橋吉澄弟)同妻セツ子(同四一、九)生、福岡、林田峯次三女)は分家せり(福岡縣浮羽郡田丸主町)

**林田 武太郎** 元東京海上火災保險會社員  
東京府在籍  
妻 ふく 明一〇、一、生、東京、遠山房吉妹

**林田 寅次郎** 正五位勳四等、陸軍二等獸醫正、  
種馬所技師、福島縣種馬所長  
東京府士族  
妻 靖 明二二、五、生、滋賀、士、佐藤彦人長女  
妻 重幸 明四五、二、生、山形高校在學  
妻 綾子 大三、二、生、熊本高女出身

君は滋賀縣士林林田勘次の二男にして明治十一年五月を以て生れ同二十年家督を相続す同四十二年東京帝國大學農學部農藝化學科を卒業同四十二年陸軍二等獸醫に任じ爾來果進して大正十二年二等獸醫正に陞る其間青森秋田各種馬所長に歴補し同年三月勅令第百十四號官制廢止廢官と共に豫備役となり農林省所管種馬所技師に任じ秋田熊本種馬所長を経て現時福島縣種馬所長たり養子大正十五年歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙二男重隆(大五、一〇)生)三女静子(同一〇、九)生)四女敏子(同一四、四)生)あり(福島縣西白河郡西郷村種馬所官舎電白河四一六)  
參照 寺垣猪三の項

**林田 春次郎** 福岡縣會議長、福岡縣多額納稅者  
福岡縣在籍  
妻 エイ 長女  
君は福岡縣會議長、福岡縣多額納稅者  
林田朝野農事改良代表取締役  
福岡縣在籍  
安政四、一、生、福岡、長谷川宇造

ハ之部 (林田、原、屋)

(※印は姻族關係)

八一〇六

妻 明二、六生、福岡、熊谷平藏長
男 政 幸 明三、九生
男 種 夫 明四〇、三三
女 政 大、八生
女 ウメ 大八、四生
君は福岡縣人林田清三郎の長男にして明治八年十一月十一日を以て生れ同三十一年家を相続す...

林田 正治

從五位、前京都府書記官
熊本縣士族
妻 正 恒 大八、二生
君は熊本縣士族林田彦彌太の三男にして同直恒の叔父なり...

林田 操

衆議院議員(福岡縣選出)、伊勢丹
代表取締役、富士電力、三福各
縣取締役、福岡縣在籍

妻 明二〇、一二生、三重、山田收長
君は岡山縣人大原一二三の二男にして明治十三年十二月二十八日を以て生れ同二十四年林川藩民の養子となり...

林原 兼賢

三井銀行東京支店長
島根縣士族
父 省 三 弘化四、七生
妻 雪 明二八、一一生、横山嘉雄二女
君は島根縣士族林原省三の二男にして明治十六年十月を以て生れ大正六年家を相続す...

林田 檜次郎

高島屋取締役兼理事
妻 フミエ 明二三、八生、大阪、宗形公男姉
君は奈良縣人林田喜平治の三男にして明治十四年五月を以て生れ同二十二年家を相続す...

林原 信太郎

化粧品卸商
大阪府士族
妻 行 江 明二二、三三、岡山、高見景昇妹
女 壽満子 大、二生
君は大阪府士族原市衛の長男にして明治十八年十二月九日を以て生れ大正六年家を相続す...

林屋 新兵衛

林屋製茶社代表社員
京都府在籍

妻 明一七、四生、福井、河野源四郎
母 嘉永六、九生、石川、佐島嘉平長女
妻 明一七、四生、福井、河野源四郎
男 新一郎 明四一、八生
男 恒次郎 明四二、一〇生
女 芳子 大元、九生
女 晴子 大元、九生
君は石川縣人先代新兵衛の三男にして林屋友貴の男なり...

原 明治郎

從五位勲六等、大使館商務官書記
官兼領事、シムラ在勤、東京府在籍
妻 明二〇、七生、東京、小山太一郎
養母 養子 啓次郎 大元、三三、東京、小山太一郎弟
君は愛媛縣人原武一郎の八男にして明治二十四年八月十九日を以て生れ大正十四年兄眞十郎方より分れて一家を創立す...

原 逸郎

京都府在勤
妻 妙 明一八、八生、愛知、佐藤啓行長女
男 俊郎 明四三、九生
君は群馬縣人原源太郎の二男にして明治十三年一月を以て生れ後分れて一家を創立す...

原 嘉道

正三位勲二等、法學博士、樞密顧問官、法務院副院長、中央大
學々長、長野縣士族
妻 光 明九、五生、東京、岡村義昌五女
男 清 輝 明二八、三三
男 寬 明四四、一一生、理學士
君は舊信州須坂藩士原耕作の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治二十七年家を相続す...

原 吉郎

正七位勲四等功五級、陸軍歩兵大
尉、衆議院議員(新潟縣選出)、酒
造業、新潟縣在籍
妻 トミ 明一七、一一生、新潟、元大審院判
官、元大審院判
官
君は約百二十年前より酒造業を営み先代吉左衛門に
至る君は其孫にして明治七年九月を以て生れ同二十
一年家を相続す...

原 清明

大阪機械工作所、保熱板製造各務
社長、鋼金山、取締役、佐賀縣士族
妻 フミ 明二四、一〇生、福島、士、渡邊
節妹
女 久 雄 大、一〇、六生
女 八 重 大、二、二生
女 敏 大、四、八生
女 ハマ 大、五、九生
君は佐賀縣人金崎忠造の二男にして明治十五年十月を以て生れ先代清左衛門の養子となり改名し同三十六年家を相続す...

原 錦吾

日本共立火災保險取締役會長兼
專務取締役、東京府在籍

原 九造

廣島縣多額納稅者、酒造業
廣島縣在籍
妻 ユキ 明三、七生、廣島、水野金之助四女
養子 テウ 明四二、九生、廣島、原精一長女
養子 幸 夫 明四二、九生、廣島、源田春七三男
女 金子 大、二、七生、縣立廣島高女出身
君は廣島縣人水野金之助の三男にして明治十五年十一月を以て生れ先代百太郎の養子となり大正四年家を相続す...

ハ之部 原

(※印は姻族關係)

八一〇七

